久留米市文化財調査報告書 第406集

高三潴遺跡（たかみずま）

― 第６～８次発掘調査報告 ―

平成31（2019）年３月

久留米市教育委員会

高三潴遺跡

— 第６～８次発掘調査報告 —

平成31（2019）年３月

久留米市教育委員会

序

筑紫平野の中央部に位置する久留米市は、九州一の河川である筑後川と耳納連山の山並みに代表される水と緑が豊かな都市です。一方で、少子高齢化や高度情報化などの社会環境の変化に対応するために、本市では市民と行政がパートナーシップの理念の基に協働し、質の高い生活中心の街づくりを推進しております。また、豊富な水と緑を活かした、歴史を活かしたまちづくりを実現するため、歴史風土の継承に尽力しているところです。

この恵まれた環境と立地は、今日を生きる私たちだけでなく、先人の生活や社会・文化にも多大な影響を与えてきました。先人の足跡は、市内各所に存在する文化財として現代に残されています。私ども教育委員会では、開発によって失われる、先人の残した貴重な文化財を後世に伝えて行くために、現状保存、あるいは発掘調査を行い、記録保存の措置を講じています。

今回、本書で報告する高三潴遺跡は三潴町に位置し、平成28～29年度に国費・県費による補助を受けて発掘調査を実施しました。古くから弥生時代後期の標式遺跡として知られる高三潴遺跡から、久留米の弥生時代を語るうえで重要な資料を得ることができました。本書が地域史や考古学の研究、学習の一資料として、また文化財保護行政に対する理解とその普及の一助として役立つことができれば幸いに存じます。

末文となりますが、発掘調査に際して多大なご協力とご理解をいただきました土地所有者や周辺住民の方々をはじめ、関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成31年３月31日

久留米市教育委員会
教育長　大津　秀明

例　　言

１．本書は、平成28年度から平成29年度に久留米市市民文化部文化財保護課が国・県の補助を受けて実施した、高三潴遺跡第６～８次調査の発掘調査報告書である。

２．発掘調査は久留米市教育委員会が主体となり、市民文化部文化財保護課の江頭俊介と小川原励が担当した。

３．本書に掲載した遺構の測量は、江頭と小川原、発掘調査臨時職員の塚本明美、中村麻衣、舟越朝菜、森啓恵、山口誠也が行った。測量は、主にトータルステーションで三次元データを取得し、CUBIC製遺構実測ソフト「遺構くんcubic」にて編集・保存した。ただし、土層と遺物出土状況は糸切りメッシュ法で記録した。製図作業は、江頭と小川原、専任非常勤職員の今村理恵と宮﨑彩香、米澤美詠子、整理作業臨時職員の丸山裕見子、山元博子が行い、一部は「遺構くんcubic」と米アドビシステムズ製の「Adobe Illustrator」を用いて製図した。

４．遺物実測は江頭と小川原、小澤太郎、長谷川桃子、米澤、丸山が行い、製図作業は江頭と宮﨑、米澤、整理作業臨時職員の中野美代子、丸山が行った。拓本作成は、今村と宮﨑が行った。遺物観察表は江頭と小川原が作成し、一部の入力作業を米澤と整理作業臨時職員の椛島かおりが補助した。

５．遺構写真はマミヤRB67（江頭）とマミヤRZ67（小川原）を用いて撮影した。フィルムは６×７判で、モノクロフィルムは富士フィルム「ネオパン100ACROS」、カラーリバーサルは富士フィルム「プロヴィア100」を用いた。なお、第８次調査の空中写真のみ、有限会社空中写真企画に委託して撮影した。

６．遺物写真は江頭、小川原がニコンＤ700とCANON EOS6Ｄで撮影し、一部を有限会社システム・レコに委託し、久留米市埋蔵文化財センターにおいてデジタルカメラで撮影した。

７．本書に使用した遺構図は国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を基に作成した。図版の方位は全て座標北を示す。なお、平成28年の熊本地震に伴うパラメータ補正は行っていない。

８．本書に使用した遺構標記は下記の略号による。遺構番号は、調査次数ごとに付した。

ＳＤ……溝　　ＳＩ……竪穴建物　　ＳＫ……土坑

ＳＰ……柱穴、ピット　　ＳＸ……その他の遺構

９．遺物実測図の凡例は以下のとおりである。

・　遺物の断面黒塗りは須恵器、表裏面の網掛けは黒色部や丹塗り、使用面、赤色顔料、被熱の範囲を示す。

10．遺物観察表の凡例は以下のとおりである。

・　法量の単位はcmである。（ ）は復元値、残存値を、－ は欠損または該当する部位が無いことを示す。
・　色調は『新版 標準土色帖』（日本研事業株式会社、 平成９年）に拠った。
・　胎土は、0.5mm未満の砂粒を「微砂粒」、１mm未満を「細砂粒」、１mm以上を「砂粒」とした。
・　登録番号は、久留米市市民文化部文化財保護課が定める出土遺物の登録番号である。

（例）２０１６１４　－　０００００１
調査番号　　登録番号

11．各遺跡の調査番号と遺跡略記号は、本文目次と第１表を参照されたい。

12．本書に収録した遺物及び調査に係わる記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管され、活用される。

13．本書の執筆にあたり、韓神大学校の李亨源氏と小郡市文化財課の山崎頼人氏に助言をいただいた。

14．本書の執筆は江頭と小川原が行い、編集は小川原が行った。

本 文 目 次

Ⅰ. はじめに…… 1
Ⅱ. 位置と環境……（小川原） 2
Ⅲ. 第６次調査（201614/ＴＭＺ－６）……（江頭） 6
Ⅳ. 第７次調査（201704/ＴＭＺ－７）……（小川原） 22
Ⅴ. 第８次調査（201715/ＴＭＺ－８）……（小川原） 61
Ⅵ. 総括……（小川原）114
抄録…… 巻末

挿 図 目 次

Ⅱ. 位置と環境

第１図　調査地点と周辺の遺跡分布図（1/25,000）…… 4
第２図　調査地点の位置と周辺地形図（1/2,500）…… 5

Ⅲ. 第６次調査

第３図　遺構配置図（1/200）…… 7
第４図　ＳＤ１土層断面図（1/40）…… 8
第５図　ＳＰ５実測図（1/20）…… 8
第６図　遺物実測図①（1/2、1/4）…… 9
第７図　遺物実測図②（1/2、1/4）……10
第８図　遺物実測図③（1/2、1/4）……11
第９図　西区近景（南から）……15
第10図　東区近景（南西から）……15
第11図　ＳＤ１土層断面（東から）……16
第12図　ＳＤ１完掘状況（南東から）……16
第13図　ＳＤ６土層断面（東から）……16
第14図　ＳＤ３獣骨出土状況（南から）……16
第15図　ＳＰ４柱根検出状況（北東から）……16
第16図　ＳＰ４・ＳＰ５掘削状況（南西から）……16
第17図　ＳＰ５柱根検出状況（南西から）……16
第18図　ＳＰ５掘削状況（南西から）……16
第19図　出土遺物写真①……17
第20図　出土遺物写真②……18
第21図　出土遺物写真③……19
第22図　出土遺物写真④……20
第23図　出土遺物写真⑤……21

Ⅳ. 第７次調査

第24図　遺構配置図、遺構番号図（1/100）……23
第25図　ＳＩ500実測図（1/60）……24
第26図　ＳＩ220、ＳＤ149・150土層断面図（1/30）……25
第27図　ＳＤ510土層断面図（1/20）……26
第28図　ＳＫ10・40・50・52・53実測図(1/20)……27
第29図　ＳＫ100・103・108・110実測図（1/20、1/30）……28
第30図　ＳＫ112・115・116・120・145・160実測図（1/20、1/30）…30
第31図　ＳＫ189・230・530・543・545・549・550・553実測図（1/30）…31
第32図　ＳＸ４実測図（1/10）……32
第33図　ＳＸ30実測図（1/１0）……33
第34図　ＳＩ220・500、ＳＤ149出土遺物実測図（1/4）……35
第35図　ＳＤ150出土遺物実測図①（1/2、1/4）……36
第36図　ＳＤ150出土遺物実測図②（1/4）……37
第37図　ＳＤ510、ＳＫ10・40・50・52・53・100出土遺物実測図（1/4）…38
第38図　ＳＫ103・110・112・115・120・145・160・189・230・530・545・550、ＳＸ30出土遺物実測図（1/4）……40
第39図　その他遺構出土遺物実測図（1/2、1/4）……41
第40図　出土石製品実測図①（1/2）……43

第41図　出土石製品実測図②（1/2）……44
第42図　出土石製品実測図③（1/2）……46
第43図　出土石製品実測図④（1/4）……46
第44図　出土石製品実測図⑤（1/2、1/4）……47
第45図　北区全景と塚崎御廟塚貝塚（北上空から）……52
第46図　北区全景（北東上空から）……52
第47図　北区東部完掘状況（東から）……53
第48図　北区西部完掘状況（西から）……53
第49図　南区全景（東上空から）……54
第50図　ＳＩ220（南東から）……54
第51図　ＳＩ500完掘状況（北東から）……54
第52図　ＳＤ149・150土層（南東から）……54
第53図　ＳＤ150土層図（北西から）……54
第54図　ＳＩ220、ＳＤ150土層（北西から）……55
第55図　ＳＤ150東部掘削状況（南東から）……55
第56図　ＳＤ150西部掘削状況（北西から）……55
第57図　ＳＤ150貝検出状況（北西から）……55
第58図　ＳＤ150貝検出状況（北西から）……55
第59図　ＳＤ150遺物出土状況（北から）……55
第60図　ＳＤ510土層（北から）……55
第61図　ＳＤ510完掘状況（北から）……55
第62図　ＳＫ10完掘状況（西から）……56
第63図　ＳＫ40土層（南から）……56
第64図　ＳＸ４動物骨検出状況①（南から）……56
第65図　ＳＸ４動物骨検出状況②（東から）……56
第66図　ＳＸ30馬骨検出状況①（東から）……56
第67図　ＳＸ30馬骨検出状況②（西から）……56
第68図　調査区東壁噴砂検出状況（西から）……56
第69図　調査区南部噴砂検出状況（西から）……56
第70図　出土遺物写真①……57
第71図　出土遺物写真②……58
第72図　出土遺物写真③……59
第73図　出土遺物写真④……60

Ⅴ．第８次調査

第74図　調査区配置図遺構配置図（1/150）……62
第75図　ＳＤ80・110土層図、ＳＫ１・３・30・34・35土層図遺構実測図（1/40）……64
第76図　ＳＫ40・45実測図（1/30、1/40）……65
第77図　ＳＫ50実測図（1/40）……66
第78図　ＳＫ55・60・65・100・102・120実測図、ＳＫ105・120土層図（1/20、1/30）……68
第79図　ＳＫ143・145・151・155実測図（1/20）……69
第80図　ＳＫ160・161・164・170実測図（1/20、1/30）……71
第81図　ＳＫ180・181・199・200・210実測図（1/30）……72
第82図　ＳＩ130・215・230出土遺物実測図（1/4）……74
第83図　ＳＤ80・110出土遺物実測図（1/4）……75
第84図　ＳＫ１・３・30・34・35・40・45・50出土遺物実測図（1/4）……76
第85図　ＳＫ50出土遺物実測図②（1/4）……78
第86図　ＳＫ50出土遺物実測図③（1/4）……79
第87図　ＳＫ50出土遺物実測図④（1/4）……80
第88図　ＳＫ50出土遺物実測図⑤（1/4）……81
第89図　ＳＫ50出土遺物実測図⑥（1/4）……83
第90図　ＳＫ50・55・60出土遺物実測図（1/4）……84
第91図　ＳＫ60・65・100・105出土遺物実測図（1/4）……85
第92図　ＳＫ105・143・145出土遺物実測図（1/4）……87
第93図　ＳＫ151・155出土遺物実測図（1/4）……88
第94図　ＳＫ160出土遺物実測図（1/4）……89
第95図　ＳＫ160・161・164・170出土遺物実測図（1/4）……90
第96図　ＳＫ170出土遺物実測図（1/4）……91
第97図　ＳＫ170・180・181・200出土遺物実測図（1/4）……92
第98図　ＳＫ210・その他遺構出土遺物実測図（1/2、1/4）……93
第99図　石製品実測図①（1/2、1/4）……94
第100図　石製品実測図②（1/2、1/4）……95
第101図　石製品実測図③（1/4）……96
第102図　北区全景（北上空から）……102
第103図　北区西部掘削状況（北上空から）……102
第104図　北区東部掘削状況（北上空から）……103
第105図　調査区全景（北上空から）……103
第106図　調査地から塚崎御廟塚を望む（南東上空から）……104
第107図　ＳＩ130、ＳＫ155、160掘削状況……104
第108図　ＳＩ140検出状況　（北東から）……104
第109図　ＳＩ215掘削状況（北から）……104
第110図　ＳＩ215、230、ＳＸ250（南東から）……104
第111図　ＳＤ80掘削状況（北東から）……104
第112図　ＳＤ80土層堆積状況（南西から）……104
第113図　ＳＤ110土層（南西から）……104
第114図　ＳＫ１完掘状況（南東から）……105

第115図　ＳＫ３完掘状況（北西から）……105
第116図　ＳＫ40完掘状況（南西から）……105
第117図　ＳＫ45完掘状況（南東から）……105
第118図　ＳＫ50掘削状況①（西から）……105
第119図　ＳＫ50掘削状況②（南から）……105
第120図　ＳＫ50掘削状況③（東から）……105
第121図　ＳＫ50東部土層（北東から）……105
第122図　ＳＫ50西部土層（北東から）……106
第123図　ＳＫ55掘削状況（北西から）……106
第124図　ＳＫ65掘削状況（北東から）……106
第125図　ＳＫ105掘削状況（北東から）……106
第126図　ＳＫ155・160遺物出土状況（北から）……106
第127図　ＳＫ170遺物出土状況（北西から）……106
第128図　ＳＫ210完掘状況（南西から）……106
第129図　ＳＸ255検出状況（南西から）……106
第130図　出土遺物写真①……107
第131図　出土遺物写真②……108
第132図　出土遺物写真③……109
第133図　出土遺物写真④……110
第134図　出土遺物写真⑤……111
第135図　出土遺物写真⑥……112
第136図　出土遺物写真⑦……113

Ⅵ. 総括

第137図　６ＳＤ１・６、７ＳＤ150模式図（1/1,000）……114

表　目　次

Ⅰ. はじめに

第１表　発掘調査体制……　1

Ⅲ. 第６次調査

第２表　出土遺物観察表①……12
第３表　出土遺物観察表②……13

Ⅳ. 第７次調査

第４表　出土遺物観察表①……48
第５表　出土遺物観察表②……49
第６表　出土遺物観察表③……50
第７表　出土遺物観察表④……51

Ⅳ. 第８次調査

第８表　出土遺物観察表①……97
第９表　出土遺物観察表②……98
第10表　出土遺物観察表③……99
第11表　出土遺物観察表④……100
第12表　出土遺物観察表⑤……101

Ⅰ．はじめに

１．高三潴遺跡の調査概要

久留米市では、平成５年度より市内遺跡発掘調査等国費・県費補助事業によって発掘調査を実施した遺跡について、『久留米市内遺跡群』として成果を取りまとめ、報告書を毎年刊行している。

本書は、平成28年度から平成29年度の市内遺跡発掘調査等補助事業による発掘調査のうち、宅地造成と専用住宅建設に先立ち久留米市三潴町高三潴で実施した高三潴遺跡第６～８次調査の報告を一括して収録した。各調査の調査期間と調査原因などは、下記の第１表を参照されたい。なお、整理作業と報告書作成は、平成31年（2019）３月31日まで、西町発掘調査整理事務所で行った。

２．調査の体制

高三潴遺跡第６～８次調査の発掘調査と整理作業、報告書作成の調査体制は第１表のとおりである。

第１表　発掘調査体制

調査主体	調査総括			文化財保護課							
久留米市教育委員会	久留米市市民文化部										
教育長	部長	文化芸術担当部長	次長	課長	課長補佐（兼主査）	主査	事務主査	庶務担当	事前確認調整担当	発掘調査担当	整理担当
堤　正則	野田　秀樹	甲斐田　忠之	竹村　正高	馬場　博文	山﨑　万里子 白木　守	水原　道範	豊福　早苗	豊福　早苗	塚本　映子 本田　岳秋 神保　公久	江頭　俊介 （第6次）	古賀　和子
大津　秀明	野田　秀樹	甲斐田　忠之	西村　信二	馬場　博文	山﨑　万里子 白木　守	水原　道範	塚本　映子	豊福　早苗	塚本　映子 神保　公久 大隈　彩未 橋之口　雅子	小川原　励 （第7・8次）	米澤　美詠子 岩坪　純子 宮﨑　彩香
大津　秀明	野田　秀樹	宮原　義治	西村　信二	水島　秀雄	久保田　由美 白木　守 丸林　禎彦	水原　道範	塚本　映子	市村　久美子 古賀　文子	塚本　映子 小澤　太郎 橋之口　雅子		米澤　美詠子 今村　理恵 岩坪　純子 宮﨑　彩香
発掘調査作業員（平成28～29年度）											
青木佐智子・井上　知義・石橋　康子・上葉　友記・江藤　光男・居石　寿智・鐘江　清・久保田　英嗣・佐田　農夫男・高尾　春代・田中　樹子・塚本　明美 津留崎　順子、中村　万喜雄・中村　麻衣・原口　貞子・原　学・日吉　政勝・平田　広之・福田　猛・藤木　幸子・舟越　朝菜・御手洗久直・山口　誠也・由布　幸子 森　啓恵・丸山　幸・渡辺　しげ子・渡辺　やつ子											
出土品整理作業臨時職員（平成30年度）											
丸山裕見子・湯川琴美											

Ⅱ．位置と環境

久留米市三潴町は筑後川の下流域の左岸に面し、久留米市西部に位置する。九州を代表する大河である筑後川は、熊本県阿蘇外輪山を水源として夜明地峡部を経て有明海へ注ぐ全長約143㎞の一級河川である。その中・下流域の両岸には沖積作用によって形成された筑紫平野が広がる。三潴町は筑紫平野のほぼ中心部に位置する。三潴町の東部から北西部にかけては八女丘陵から低位段丘が延びるが、大部分は標高５ｍ以下の沖積平野が占める。北部の広川と南部の山ノ井川が筑後川に合流し、豊かな土壌と、発達したクリークを利用し、福岡県内でも有数の穀倉地帯が広がる。

縄文時代以前の遺物はこれまで三潴町内では確認されていないが、道手牟田遺跡では落とし穴を検出しており、これが縄文時代の遺構である可能性もある。

弥生時代の遺跡は三潴町で複数確認されており、特に高三潴遺跡は北部九州の後期初頭の標識土器である「高三潴式土器」の名称の由来として学史に残る。発掘調査はあまり行われていなかったが、平成25年度から平成29年度にかけて計８度の発掘調査が実施された。玉満松木ソノ遺跡では直径４ｍ以上の弥生時代後期の大型井戸や竪穴建物、弥生時代終末から古墳時代にかけての竪穴建物が出土し、環濠の可能性のある溝や土塁なども検出している。城島町久保遺跡は現在の筑後川から約500ｍの地点に位置し、弥生時代前期末から中世にかけての遺物、遺構を確認している。弥生時代前期末から中期初頭にかけての擬朝鮮系無文土器の黒色磨研土器が多数出土したことや、朝鮮半島に類例がみられる木製剣把が出土していることから、有明海、筑後川を通じて渡来人との何らかの関係性が想定される。大川市に位置する下林西田遺跡からも久保遺跡と同様、黒色磨研土器が出土している。二次被熱を受け赤く変色し、白い付着物がついた弥生時代中期前半の甕が出土しており、これは製塩を行った際の煎傲(せんごう)過程に使用したものと考えられている。

弥生時代の筑紫平野は海岸線が現在より内陸に入り込んでいたと考えられ、筑後川下流域では弥生時代の貝塚が多数ある。筑後川左岸では久留米市三潴町の塚崎御廟塚貝塚、同城島町の能保里貝塚、大川市酒見貝塚などがある。能保里貝塚、酒見貝塚では近辺に大きな平石があることから支石墓があった可能性が指摘されている（伊崎1998）。酒見貝塚は発掘調査が実施され、井戸や土坑など弥生時代中期以降を中心とした遺構を確認している。貝塚は主にカキ殻が占めており、酒見貝塚や能保里貝塚に近接する下林西田遺跡、塚崎御廟塚遺跡に近接する塚崎東畑遺跡からは動物遺存体が多数出土している。特に酒見貝塚と塚崎東畑遺跡からは弥生時代の資料としては貴重なニワトリの骨が出土している。広川の右岸には集落跡が確認された道蔵遺跡、碇遺跡が所在する。

筑後川右岸では左岸よりも多くの貝塚がある。佐賀市詫田西分遺跡では鐸形土製品、鳥形木製品、木剣、木戈などの祭祀具が出土したほか甕棺墓や土壙墓から人骨が出土している。人骨の中には渡来系の形質をもつものが含まれる。同高志神社貝塚からは銅剣や鐸形土製品が出土している。みやき町本分貝塚では墳墓や土坑が確認されている。

古墳時代には、三潴町においても八女丘陵沿いに多くの古墳が造営されたといわれているが、現在、残存する古墳は少なく２基のみが知られる。高三潴遺跡周辺では裏畑古墳が存在し、消滅した五十町さん古墳の石室の石材が、三潴町高三潴に石碑として建てられている。玉満向エ野古墳群では、墳墓は消滅していたが周溝の一部や馬具などが確認されている。これらの古墳群の存在から高三潴遺跡群の南側では古墳の造築が行われていたことがわかる。

中世には、三潴庄高三潴村に地頭職として赴任した、横溝氏の居館や高三潴氏の居館の推定地が高三潴遺跡南部に所在する。高三潴遺跡の調査で中世の遺構が検出され、土地開発が行われていたことが分かる。

これまで高三潴遺跡群の発掘調査は本報告に掲載した高三潴遺跡第８次まで含め計11回実施されている。最初に発掘調査が行われたのは、遺跡群を東西に分断する県道710号宮本・大川線の拡幅前に福岡県が実施した塚崎東畑遺跡である。塚崎東畑遺跡では弥生時代前期から中期の竪穴建物や木棺墓、甕棺墓、土坑墓の墓群などを検出している。遺跡群の東部に位置する高三潴北小路遺跡では、甕棺墓が２基検出されている。遺跡群の西部妙覚院内では弥生時代前期の溝や土坑などが検出されている。平成25年以降は遺跡群内の遺跡を高三潴遺跡と総称している。高三潴遺跡第１次調査では中世の遺構、遺物が中心に確認されている。第２次調査では弥生時代中期から古墳時代の遺物が出土した自然流路を検出している。第３次調査では弥生時代中期の溜池状遺構や後期以降の掘立柱建物が確認され、第４次調査では上面幅４ｍ以上の溝から多量の土器、木器と共に小銅鐸が出土し、第５次調査では中期から後期にかけての墳墓群が検出されている。高三潴遺跡の性格が少しずつ明らかになってきている。周囲にも弥生時代の遺跡が多く存在し、高三潴遺跡の北端に位置する烏帽子塚付近からは銅剣が２点出土し、自然堤防の最高位付近に位置する御廟塚貝塚は、矢野一貞が『筑後将士軍談』の中で墳墓の存在を示し、箱式石棺と考えられる棺外に銅剣が２点副葬されていたと紹介している。また、現在でもカキ殻などが散乱する貝塚でもある。

高三潴遺跡は三潴町高三潴に位置し、これまでの調査で低位段丘上を中心に広い範囲に広がっていることが確認されている。最も標高が高い地点で約８ｍ程度を測り、周囲とは３ｍ程度の比高がある。これまで弥生時代から中世にかけての遺構や遺物が確認されている。

今回報告する高三潴遺跡第６～８次調査は遺跡の西部に位置し、第７・８次調査地点は遺跡の中でも最も標高が高い地点付近にあたり、標高約７ｍを測る。第６次調査地点は第８次調査地点の東隣で、本来は東へ向かって緩やかに標高が下る地形であったと考えられるが、掘削され標高は約５ｍを測る。

〈参考文献〉

伊崎俊秋 1998 『下林西田遺跡　県道大川大木線関係埋蔵文化財調査報告１』福岡県文化財調査報告書第132集 福岡県教育委員会

下山正一 1996 「有明海北岸低平地の成因と海岸線の変遷」『文明のクロスロード　MUSEUM　KYUSHU』52　博物館等建設推進会議九州

第１図　周辺遺跡分布図（1/25,000）

第２図　調査地点の位置と周辺地形図（1/3, 000）

Ⅲ．第６次調査

１．調査に至る経緯

本調査は平成28年８月10日付で、土地所有者より久留米市三潴町高三潴63における、宅地分譲に伴う「埋蔵文化財包蔵の有無について」の照会が提出されたことに端を発する。調査地は周知の遺跡である高三潴遺跡の範囲内に含まれ、調査地を含む周辺は弥生時代の遺構が展開していると考えられた。そのため、土地所有者との協議の結果、道路建設予定地のうち、100㎡について調査の対象とし、平成28年10月24日より調査に入る運びとなった。なお、調査区狭小のため、確認調査として実施した。

２．調査の記録

（１）調査の経過

平成28年10月24日、調査区の縄張り及び表土剥ぎを実施した。水田の耕作土である表土は20㎝程度であり、その直下に黄褐色粘土の地山を検出した。過去に水田にするために相当量削平されているとみられ、後に第８次調査が実施された西側隣地とは２ｍ程の比高差が確認できる。調査区は試掘の結果から溝が存在する部分に限られており、西区と東区に分かれている。

西区、東区ともに遺構の掘削及び記録作成を進め、11月２日に全体写真を撮影した。同日から埋戻しを行い、11月４日に機材を撤収し、調査を終了した。遺構の測量データは株式会社CUBIC社製ソフト「遺構くんcubic」にて編集・保存している。また記録写真は６×７判で撮影した。

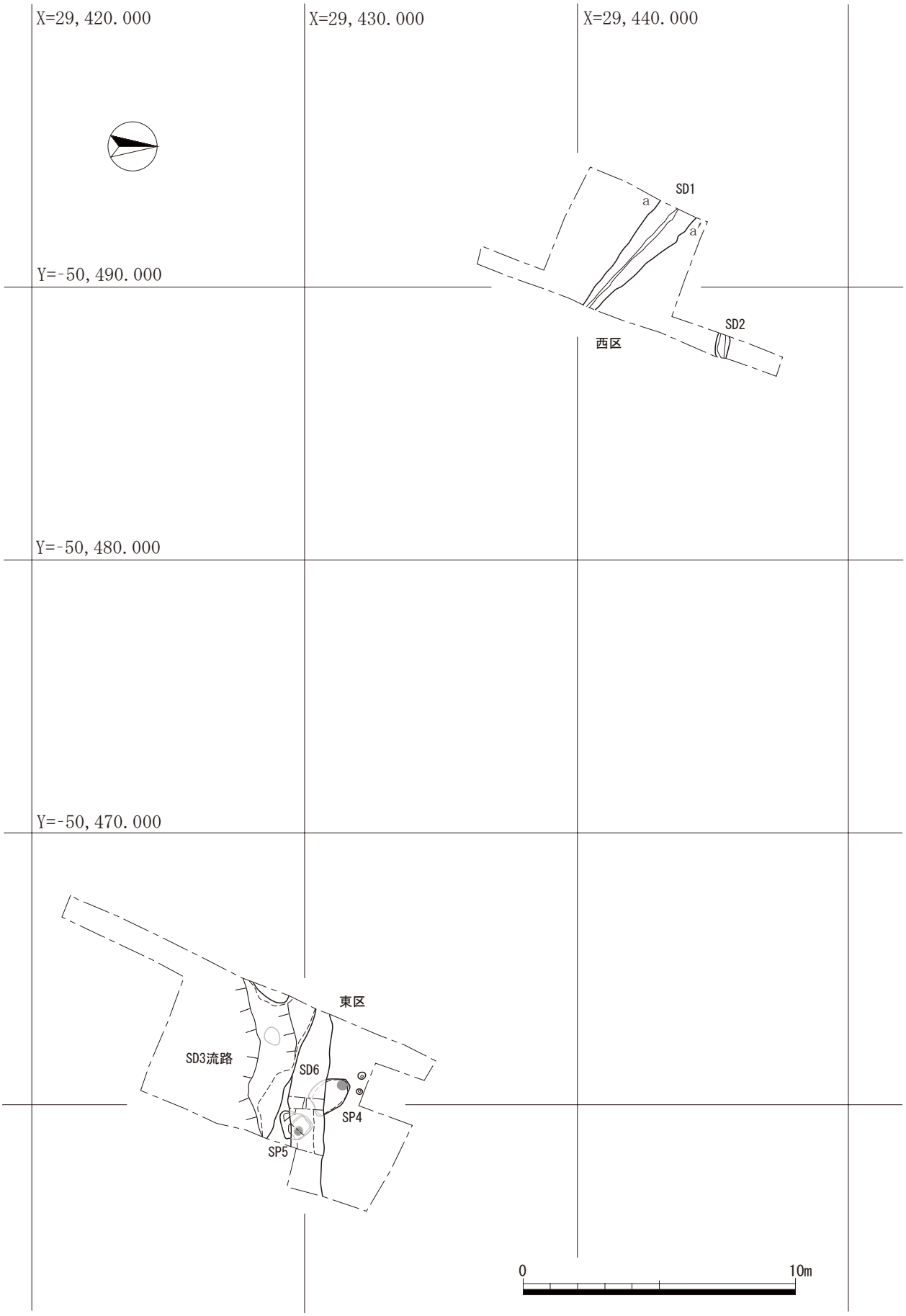
（２）検出遺構

今回の調査では、溝２条、流路１条、柱穴２基が検出された。削平のために大部分の遺構が既に消滅している可能性が高い。

溝

ＳＤ１（第３・４・11・12図）

西区中央で検出された長さ4.8ｍ以上、上端の最大幅1.4ｍ、深さ0.7ｍの溝である。平面形は直線的な形状を呈し、断面形は逆三角形を呈する。軸はＮ－132°－Ｅを測る。埋土は１層～４層までは暗褐色土を主体とするが、５層以下は地山由来と見られる黄褐色粘土が主体をなす。遺物は弥生前期の土器、紡錘車、石器などが出土している。調査地は西に隣接する高三潴遺跡第８次調査地点から２ｍ程度低く、おそらく水田にする際に削平されていると考えられる。この遺構の上部も同様に２ｍ程度削平されている可能性が高い。他の遺構との切り合いはない。



第３図　遺構配置図（1/200）

ＳＤ２（第３図）

西区北側で検出された溝である。調査区狭小のため詳細は不明である。遺物は弥生土器が出土している。

ＳＤ６（第３・13図）

東区北側で検出された長さ6.9m以上、幅1.2m、深さ0.6mの溝である。平面形は直線的な形状、断面形は逆三角形を呈する。軸はＮ－90°－Ｅを測る。埋土は暗褐色土が主体をなす。遺物は弥生中期の土器、石器などが出土している。断面形状や埋土、遺物の時期を鑑みると、ＳＤ１とは同一遺構である可能性がある。ＳＤ３に先出し、ＳＰ４とＳＰ５に後出する。

流路

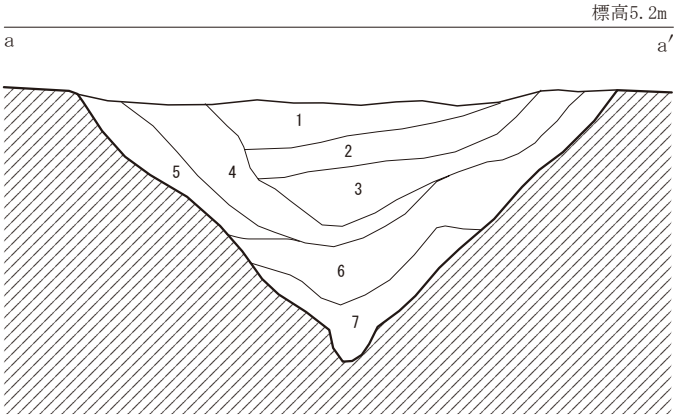
ＳＤ３（第３・14図）

東区南側で検出された長さ6.1m以上、幅3.9m以上の溝である。肩は北辺しか検出されておらず、南側に深くなっていく。確認調査のため北辺付近しか掘削しておらず、南側の深さは不明である。埋土は、北辺付近は暗褐色粘質土、南側上面には灰色の砂層が堆積している。遺物は前期～中期の土器、石器などが出土している。ＳＤ６に後出する。

柱穴

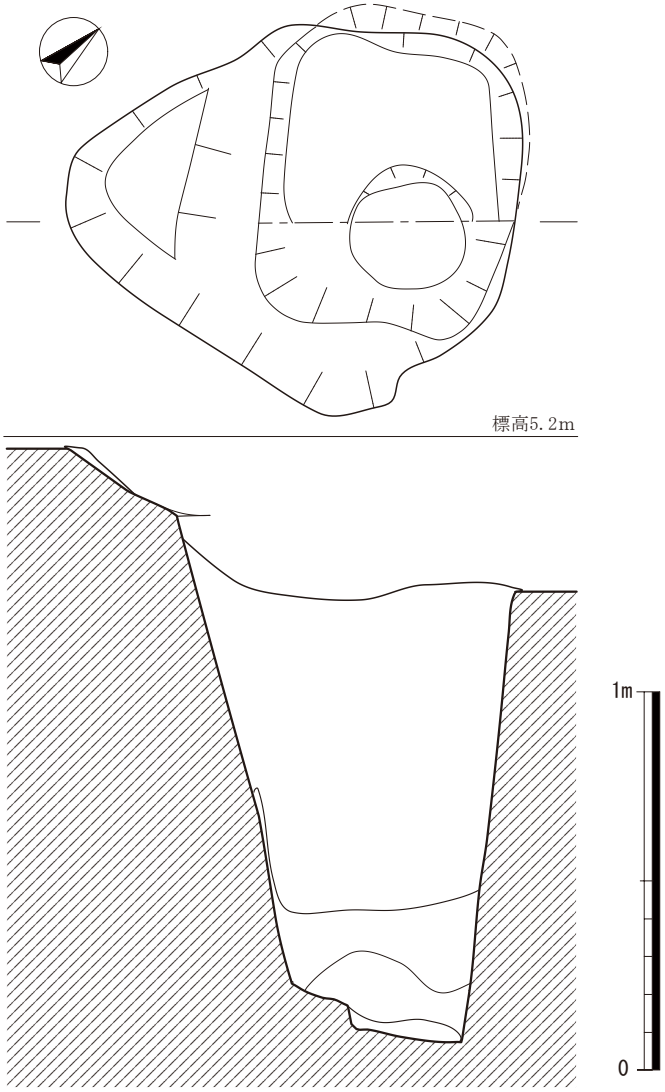
ＳＰ４（第３・15・16図）

東区北側で検出された長辺1.4m、短辺1.1m、深さ１m以上の柱穴である。平面形は楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。検出面から５cmほど下位から柱根が検出された。柱根の周囲には裏込めとみられる砂と粘土の互層が確認できる。遺物は弥生前期の遺物主体をなす。ＳＤ６に先出する。

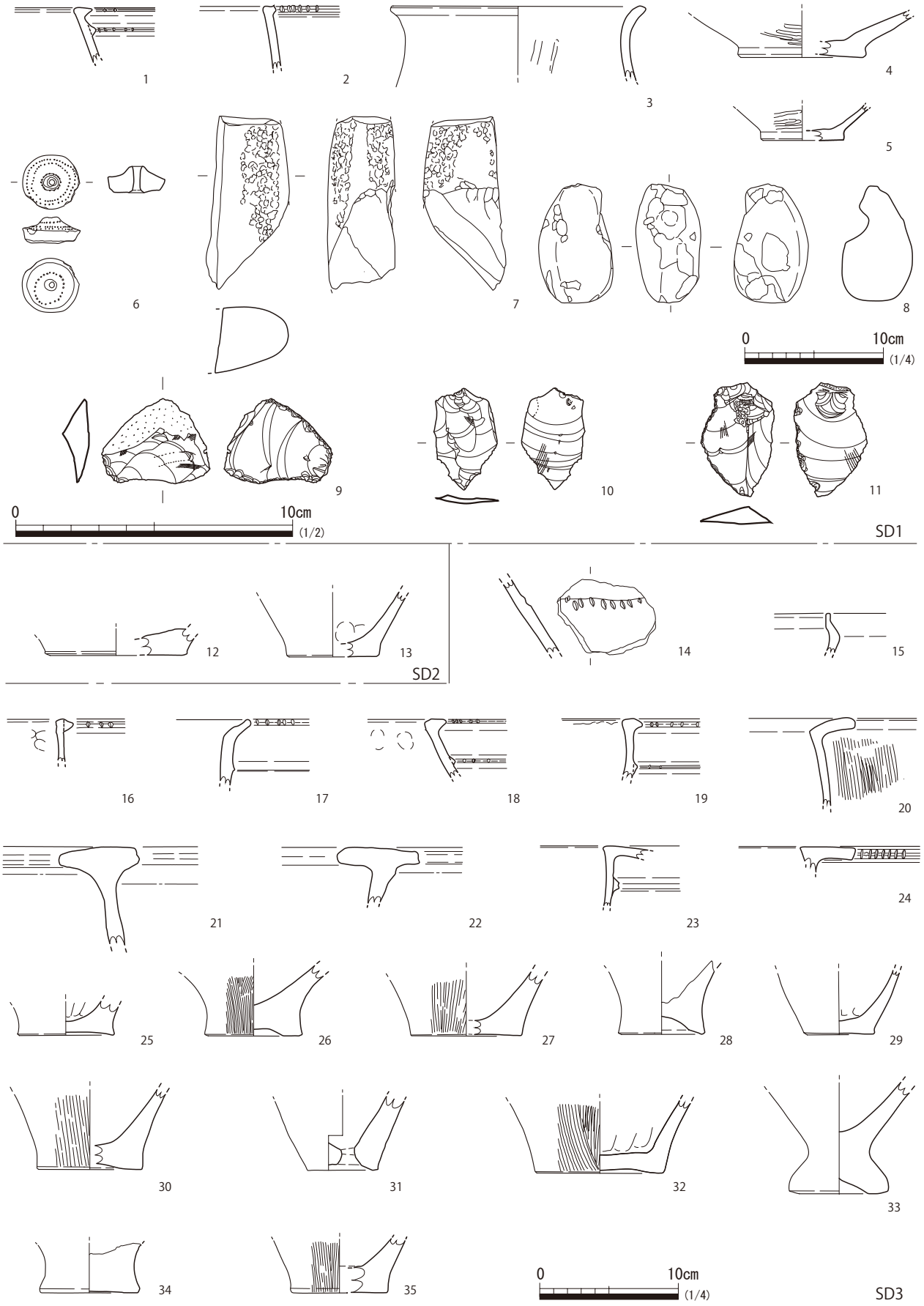


1:暗褐色粘質土
2:暗褐色粘質土+黄褐色砂
3:暗褐色粘質土+黄褐色砂、炭含む
4:黄褐色砂
5:黄褐色砂+暗褐色粘質土少量含む
6:灰黄褐色砂+暗褐色粘土ブロック少量含む
7:灰黄褐色砂

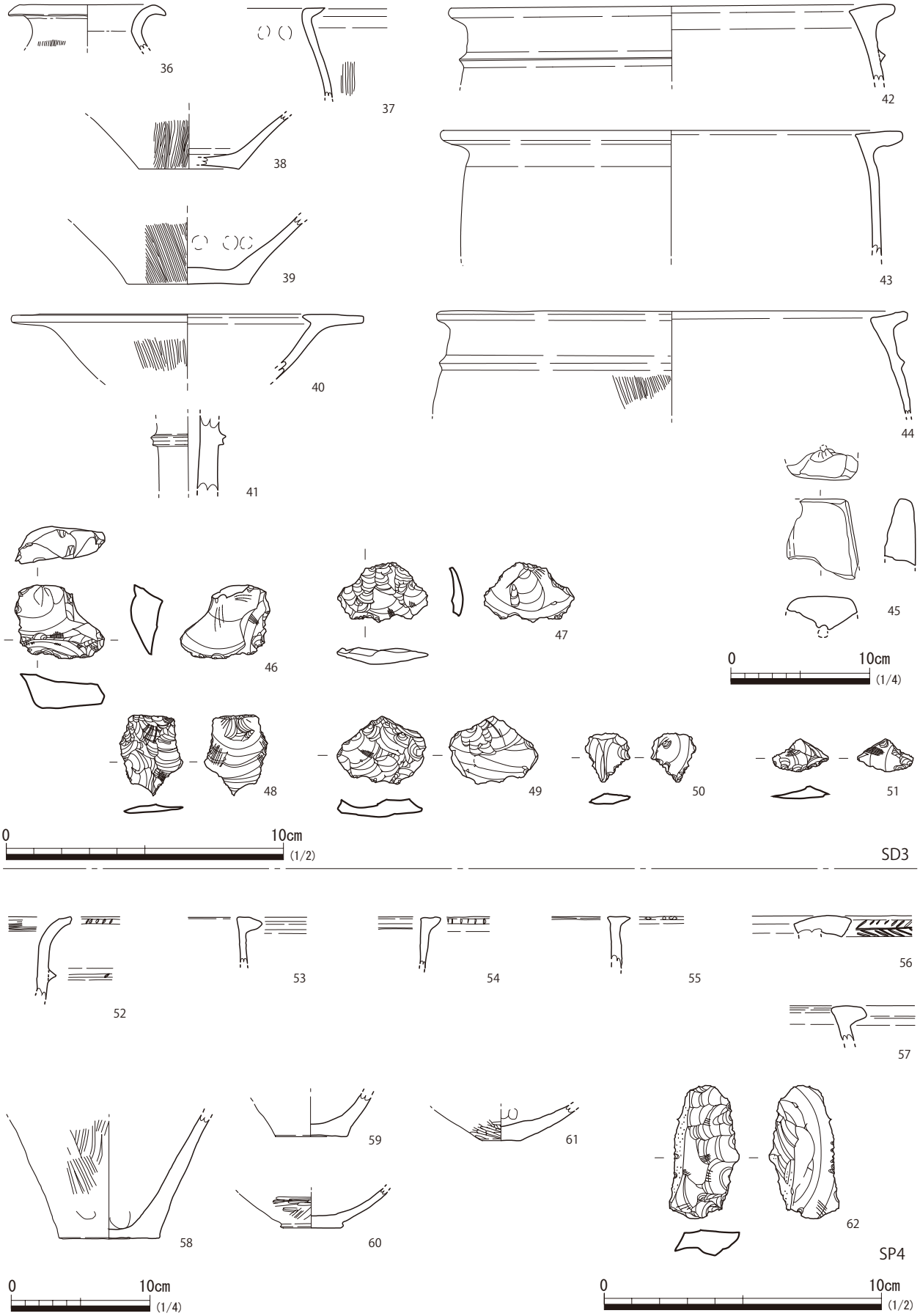
第４図　ＳＤ１土層断面図(1/40)



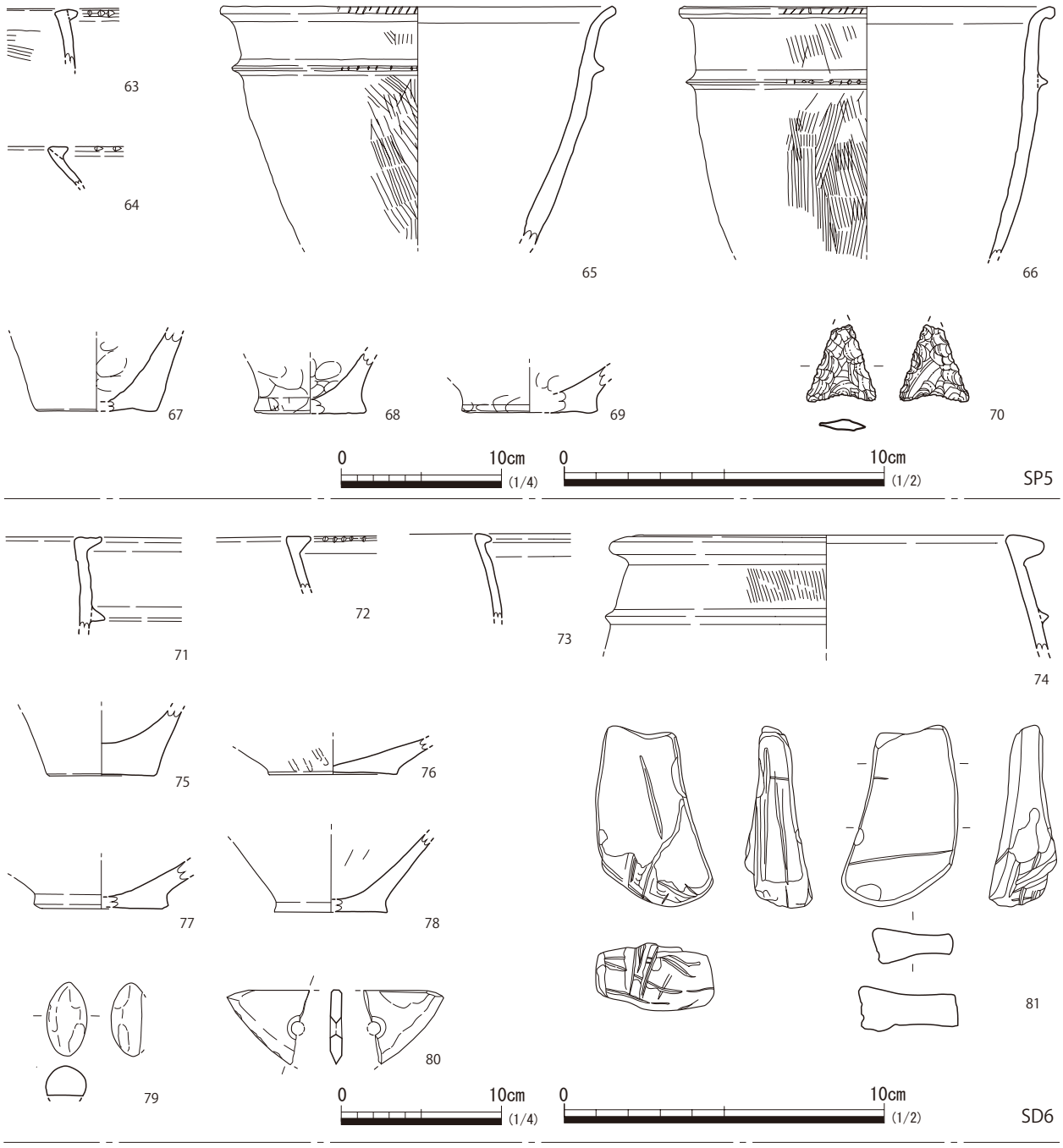
第５図　ＳＰ５実測図(1/20)



第６図　遺物実測図①(1/2、1/4)



第７図　遺物実測図②(1/2、1/4)



第８図　遺物実測図③(1/2、1/4)

ＳＰ５（第３・５・17・18図）

東区北側で検出された長辺1.1m、短辺1.0m、深さ1.6mの柱穴である。平面形は隅丸方形、断面形は逆台形を呈する。検出面から５cmほど下位から柱根が検出された。柱根の周囲には暗褐色の粘質土の埋土が確認できる。遺物は弥生前期の土器、石器が出土している。ＳＤ６に切られる。

（３）出土遺物

今回の調査では弥生土器、石器、獣骨などパンコンテナー６箱分の遺物が出土した。まずＳＤ１

第２表　出土遺物観察表①

遺物番号	図番号	出土遺構	材質	器種	法量			色調		調整（文様）			胎土	備考	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	外面	内面	外面	内面	底面高台内印銘等			
1	第４図	SD1	弥生土器	甕	－	－	4.0	にぶい黄橙	褐灰	ナデ	工具ナデ	－	ごく細かい角閃石を多く含む		201614 000073
2	第４図	SD1	弥生土器	甕	－	－	4.5	にぶい橙	浅黄橙	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	－	細かい角閃石を多く含む		201614 000074
3	第４図	SD1	弥生土器	壷	(17.4)	－	5.0	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ、工具ナデ	－	１mm程度の砂粒を多く含む		201614 000075
4	第４図	SD1	弥生土器	壷	－	(8.8)	3.3	にぶい橙	灰白	ミガキ、工具ナデ	－	工具ナデ	１～２mmの砂粒を多く含む		201614 000076
5	第４図	SD1	弥生土器	壷	－	(5.8)	2.5	にぶい褐	にぶい黄橙	ミガキ、工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	１mmの砂粒を少量含む		201614 000077
6	第４図	SD1	土製品	紡錘車	4.1	－	1.9	にぶい橙	－	－	－	－			201614 000078
7	第４図	SD1	石製品	石斧	12.5	5.4	4.6	灰		－	－	－	４１６ｇ		201614 000080
8	第４図	SD1	軽石製品	不明品	8.6	5.3	4.6	褐灰		－	－	－			201614 000079
9	第４図	SD1	石製品	スクレイパー	3.8	3.0	0.6	黒		－	－	－	7.7g 黒曜石		201614 000087
10	第４図	SD1	石製品	スクレイパー	3.1	2.2	0.3	黒		－	－	－	2.5g 黒曜石		201614 000086
11	第４図	SD1	石製品	スクレイパー	4.1	2.5	0.7	黒		－	－	－	6.8g 黒曜石		201614 000088
12	第４図	SD2	弥生土器	壷	－	(9.5)	1.9	灰白	灰白	ナデ	－	ナデ	１mmの砂粒を少量含む、石英、角閃石		201614 000092
13	第４図	SD2	弥生土器	甕	－	(6.3)	4.7	にぶい橙	灰褐	工具ナデ	ナデ、ユビオサエ	工具ナデ	１mmの砂粒を少量含む、金雲母		201614 000091
14	第４図	SD3	弥生土器	壷	－	－	5.3	灰褐	にぶい橙	工具ナデ	工具ナデ	－	１mmの砂粒を多く含む、赤色粒子		201614 000089
15	第４図	SD3	縄文土器	浅鉢	－	－	2.8	灰～にぶい黄橙	灰	ナデ	ナデ	－	１mmの砂粒を少量含む、金雲母		201614 000090
16	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	－	(3.0)	にぶい橙、褐灰	にぶい褐、褐灰	ナデ	ナデ、ユビオサエ	－	白色粒、雲母を含む、細かい		201614 000027
17	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	－	4.7	灰褐	浅黄橙	ナデ	ナデ、工具ナデ	－	黒色粒子、角閃石、赤色粒子を含む		201614 000008
18	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	－	4.3	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ、ユビオサエ、工具ナデ	－	１～２mmの砂粒を多く含む、角閃石		201614 000009
19	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	－	4.3	灰褐	にぶい橙	ナデ	ナデ	－	１mm以下の砂粒を多く含む、角閃石		201614 000010
20	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	－	6.3	橙	橙	ナデ、ハケメ	工具ナデ	－	１mm以下の砂粒と角閃石を多く含む		201614 000011
21	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕棺	(20.5)	－	(7.0)	にぶい黄橙、橙、黒	にぶい橙、褐灰	ナデ	ナデ	－	白色砂粒、赤色粒、雲母を多く含む、粗い		201614 000029
22	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕棺	(8.5)	－	(4.0)	橙	橙、にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	－	白色粒、赤色粒、角閃石、雲母を多く含む、細かい		201614 000030
23	第４図	SD3　2層	弥生土器	丹塗甕	－	－	4.3	明赤褐	明赤褐	ナデ	ナデ、工具ナデ	－	１mm以下の砂粒、角閃石		201614 000001
24	第４図	SD3　2層	弥生土器	丹塗甕	－	－	1.9	明赤褐	明赤褐	－	－	－	精良、角閃石を少量含む		201614 000002
25	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	(6.8)	2.4	にぶい橙	黄灰	ナデ	ユビオサエ	工具ナデ	１～２mmの砂粒をやや多く含む		201614 000013
26	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	(7.0)	5.1	浅黄橙	灰褐	ハケメ	ナデ	ナデ	１mmの砂粒を多量に含む、角閃石、赤色粒子		201614 000014
27	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	(7.8)	4.7	にぶい橙	褐灰	ハケメ	ナデ	ナデ	１mmの砂粒を多量に含む、角閃石		201614 000015
28	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	(5.6)	5.3	明褐灰	褐灰	－	－	－	１mmの砂粒を多量に含む		201614 000016
29	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	4.8	4.6	灰褐	褐灰	工具ナデ	工具ナデ、ユビオサエ	工具ナデ	１mmの砂粒を多量に含む		201614 000017
30	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	(7.5)	5.8	にぶい黄橙	灰白	ハケメ	工具ナデ	－	１mm以下の砂粒と角閃石を多く含む		201614 000018
31	第４図	SD3　2層	弥生土器	甑	－	5.1	5.4	にぶい橙	灰褐	工具ナデ	工具ナデ	ナデ	１～２mmの砂粒を多く含む、角閃石、赤色粒子		201614 000020
32	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	9.0	5.2	にぶい褐	にぶい橙	ハケメ	ナデ	ナデ	多量の角閃石を含む、赤色粒子、石英		201614 000023
33	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	(7.1)	8.0	橙	にぶい橙	－	ナデ	－	１mmの砂粒を多量に含む、角閃石		201614 000019
34	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	(6.9)	3.9	にぶい橙	にぶい橙	ハケメ	ナデ	ナデ	細かい角閃石を多く含む		201614 000021
35	第４図	SD3　2層	弥生土器	甕	－	7.0	3.6	にぶい橙	褐灰	－	－	ナデ	１～２mmの砂粒を多く含む		201614 000022
36	第５図	SD3　2層	弥生土器	壷	[11.3]	－	(3.0)	にぶい黄橙、橙	橙、にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	－	白色砂粒、雲母、角閃石を含む、細かい		201614 000028
37	第５図	SD3　2層	弥生土器	壷	－	－	6.4	橙	浅黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ、ユビオサエ、工具ナデ	－	多量の角閃石		201614 000003
38	第５図	SD3　2層	弥生土器	丹塗壷	－	(7.2)	3.9	明赤褐	灰白	ミガキ	工具ナデ、ナデ	工具ナデ	赤色粒子、角閃石、ごく細かい砂粒		201614 000005
39	第５図	SD3　2層	弥生土器	壷	－	(8.8)	4.8	橙	にぶい黄橙	ハケメ	ユビオサエ、ナデ	工具ナデ	角閃石、赤色粒子、微砂粒		201614 000004
40	第５図	SD3　2層	弥生土器	丹塗高杯	(25.2)	－	4.6	浅黄橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	－	１mm以下の角閃石を多量に含む		201614 000006
41	第５図	SD3　2層	土師器	器台	－	－	5.4	橙	灰黄褐	－	ナデ	－	微砂粒、角閃石		201614 000025
42	第５図	SD3　2層	弥生土器	甕	(31.8)	－	5.5	橙	にぶい橙	ナデ	ナデ、工具ナデ	－	１mmの砂粒を少量含む、金雲母		201614 000012
43	第５図	SD3　2層	弥生土器	甕	(33.0)	－	9.0	浅黄橙	浅黄橙	－	－	－	１mm程度の砂粒と金雲母を多く含む		201614 000007
44	第５図	SD3　2層	弥生土器	甕	[32.4]	－	(7.3)	浅黄橙	にぶい橙	工具ナデ、ハケメ	ナデ	－	白色粒、雲母を含む、細かい		201614 000026
45	第５図	SD3　2層	土師器	支脚	5.8	5.0	2.3	橙	－	ナデ	－	－			201614 000024
46	第５図	SD3　2層	石製品	剥片	3.3	2.6	1.0	黒		－	－	－	9.3g 黒曜石		201614 000041
47	第５図	SD3　2層	石製品	スクレイパー	2.1	3.1	0.5	黒		－	－	－	3.5g 黒曜石		201614 000037
48	第５図	SD3　2層	石製品	スクレイパー	2.7	2.1	0.4	黒		－	－	－	2.6g 黒曜石		201614 000040
49	第５図	SD3　2層	石製品	スクレイパー	2.3	3.0	0.5	黒		－	－	－	4.7g 黒曜石		201614 000038
50	第５図	SD3　2層	石製品	石錐	1.8	1.5	0.4	黒		－	－	－	1.0g 黒曜石		201614 000042

第３表　出土遺物観察表②

遺物番号	図番号	出土遺構	材質	器種	法量			色調		調整（文様）			胎土	備考	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	外面	内面	外面	内面	底面高台内印銘等			
51	第 7 図	SD3　2層	石製品	スクレイパー	1.2	2.0	0.4	黒		－	－	－	0.9g黒曜石		201614 000039
52	第 7 図	SP4	弥生土器	甕	－	－	(5.7)	にぶい橙、灰褐	にぶい橙	ナデ	ハケメ、ナデ	－	白色砂粒、雲母を多く、赤色粒、角閃石を含む、粗い		201614 000043
53	第 7 図	SP4	弥生土器	甕	－	－	(3.3)	にぶい褐	にぶい橙	ナデ	ナデ	－	細かい、白色粒、角閃石、雲母を含む		201614 000044
54	第 7 図	SP4	弥生土器	甕	－	－	(3.7)	褐灰	褐灰	ナデ	ナデ	－	白色粒、角閃石、雲母を含む、細かい		201614 000045
55	第 7 図	SP4	弥生土器	甕	－	－	(3.7)	にぶい橙	橙	ナデ	ナデ	－	白色砂粒、赤色粒、黒色粒、雲母を含む、細かい		201614 000046
56	第 7 図	SP4	弥生土器	壷	－	－	(1.5)	にぶい橙、赤	にぶい橙	ナデ	ナデ	－	白色砂粒、雲母を含む、細かい		201614 000047
57	第 7 図	SP4	弥生土器	甕	－	－	(2.5)	にぶい橙	灰褐	ナデ	工具ナデ	－	白色粒、赤色粒、雲母を多く含む、粗い		201614 000048
58	第 7 図	SP4	弥生土器	甕	－	[7.2]	(8.6)	にぶい橙、橙、黒	灰褐	ハケメ、工具ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	ナデ	白色粒、雲母を含む、細かい		201614 000050
59	第 7 図	SP4	弥生土器	甕	－	7.1	(2.8)	灰褐、にぶい橙、赤	黒	ナデ	ナデ	ナデ	白色粒子、角閃石、雲母を含む、細かい		201614 000049
60	第 7 図	SP4	弥生土器	壷	－	4.4	(2.6)	にぶい褐、にぶい橙	にぶい褐	ミガキ	ナデ	ナデ	赤色粒、黒色粒、角閃石、雲母を含む、細かい		201614 000051
61	第 7 図	SP4	弥生土器	壷	－	2.8	(2.2)	褐灰、にぶい黄橙	浅黄橙	ナデ、ミガキ	ユビオサエ	ナデ	角閃石、雲母を含む、細かい		201614 000052
62	第 7 図	SP4	石製品	スクレイパー	4.8	2.3	0.9	黒		－	－	－	8.0g　黒曜石		201614 000053
63	第 8 図	SP5	弥生土器	甕	－	－	(3.6)	にぶい橙	褐灰	ナデ	ハケメ	－	白色粒、黒色粒、角閃石、雲母を含む、細かい		201614 000056
64	第 8 図	SP5	弥生土器	甕	－	－	(2.2)	にぶい橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	－	白色砂粒、金雲母を含む、粗い		201614 000057
65	第 8 図	SP5	弥生土器	甕	[24.3]	－	(14.7)	灰褐、にぶい橙	にぶい橙	ハケメ	ナデ	－	白色砂粒、赤色砂粒、黒色粒、雲母を含む、粗い		201614 000055
66	第 8 図	SP5	弥生土器	甕	[22.8]	－	(15.4)	橙、灰褐	にぶい橙、橙	ハケメ	ナデ	－	白色砂粒、黒色粒、赤色粒、雲母を含む、粗い		201614 000054
67	第 8 図	SP5	弥生土器	甕	(4.7)	[6.7]	－	橙、褐灰	灰褐、橙	ナデ	ユビオサエ	ナデ	白色砂粒、赤白粒、雲母を含む、白色石粒有、粗い		201614 000058
68	第 8 図	SP5	弥生土器	甕	－	[6.9]	(3.2)	にぶい褐、にぶい橙	橙、にぶい橙	ユビオサエ、ハケメ	ユビオサエ	ユビオサエ	白色砂粒、赤色粒、雲母、粗い		201614 000059
69	第 8 図	SP5	弥生土器	甕	－	[8.4]	(1.8)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ	ナデ	白色砂粒を多く含む、細かい		201614 000060
70	第 8 図	SP5	石製品	鏃	(2.1)	0.9	0.3	黒褐色		－	－	－	1.6g 安山岩		201614 000061
71	第 8 図	SD6	弥生土器	甕	－	－	5.6	にぶい橙	灰褐	－	－	－	１～２ｍｍの砂粒を少量含む、角閃石		201614 000063
72	第 8 図	SD6	弥生土器	甕	－	－	3.2	橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	－	赤色粒子、石英をやや多く含む		201614 000064
73	第 8 図	SD6	弥生土器	甕	－	－	5.5	灰褐	にぶい橙	－	－	－	１～２ｍｍの砂粒を多量に含む		201614 000065
74	第 8 図	SD6	弥生土器	甕	(22.8)	－	7.1	灰褐	灰褐	ナデ、ハケメ	ナデ、工具ナデ	－	１ｍｍの砂粒を多く含む、角閃石、赤色粒子		201614 000062
75	第 8 図	SD6	弥生土器	甕	－	(6.5)	4.1	にぶい橙	灰褐	－	ナデ、ユビオサエ	ナデ	２ｍｍ程度の砂粒と細かい角閃石を多く含む		201614 000066
76	第 8 図	SD6	弥生土器	甕	－	(8.0)	2.2	灰黄褐	灰白	ミガキ	－	工具ナデ	１～３ｍｍの砂粒を少量含む		201614 000067
77	第 8 図	SD6	弥生土器	壷	－	(7.6)	3.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	－	ナデ	３ｍｍの砂粒をやや多く含む		201614 000068
78	第 8 図	SD6	弥生土器	甕	－	(7.0)	4.9	灰白	灰白	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	角閃石を少量含む		201614 000069
79	第 8 図	SD6	土製品	投弾	4.6	2.5	1.8	灰黄褐	－	ナデ	－	－	２０ｇ		201614 000070
80	第 8 図	SD6	石製品	石包丁	5.1	4.7	0.7	灰白		－	－	－	１８ｇ堆積岩系		201614 000072
81	第 9 図	SD6	石製品	砥石	11.3	7.3	2.8	にぶい橙		－	－	－	２６６ｇ		201614 000071
82	第 23 図	SD3 2層	動物遺存体 シカ	角	(5.8)	－	1.1	－	－	－	－	－	遠位端		201614 000031
83	第 23 図	SD3 2層	動物遺存体 イノシシ	右下顎第2大臼歯	2.3	1.1	(1.3)	－	－	－	－	－	歯冠のみ残存 咬耗率低い		201614 000032
84	第 23 図	SD3 2層	動物遺存体	上腕骨？	(2.4)	2.5	1.5	－	－	－	－	－	近位端破片		201614 000033
85	第 23 図	SD3 2層	動物遺存体	末節骨	2.4	1.9	1.5	－	－	－	－	－	完形		201614 000034
86	第 23 図	SD3 2層	動物遺存体	中手骨	(2.3)	3.8	1.6	－	－	－	－	－	近位端破片		201614 000035
87	第 23 図	SD3 2層	動物遺存体	椎骨	(2.7)	(3.0)	0.9	－	－	－	－	－	破片		201614 000036
88	第 23 図	SD1	動物遺存体 シカ？	左上顎骨	(4.2)	(2.2)	(1.6)	－	－	－	－	－	歯根部破片		201614 000081
89	第 23 図	SD1	動物遺存体 シカ	角	(3.8)	(2.8)	1.8	－	－	－	－	－	切断痕		201614 000082
90	第 23 図	SD1	動物遺存体 シカ	角	(4.5)	(2.7)	1.7	－	－	－	－	－	切断痕		201614 000083
91	第 23 図	SD1	動物遺存体	頭蓋骨	(2.8)	－	(2.0)	－	－	－	－	－	近位端破片		201614 000084
92	第 23 図	SD1	動物遺存体	四肢骨	(4.4)	(1.4)	(1.1)	－	－	－	－	－	被熱白変		201614 000085
93	第 23 図	SD2	動物遺存体 イノシシ	大臼歯	(1.5)	(1.5)	2.0	－	－	－	－	－	破片		201614 000093
94	第 23 図	SD3	動物遺存体	四肢骨	(5.4)	(1.7)	(0.9)	－	－	－	－	－	破片		201614 000094
95	第 23 図	SD3	動物遺存体	四肢骨	(5.5)	(1.6)	(1.6)	－	－	－	－	－	破片		201614 000095
96	第 19 図	SD3	動物遺存体	四肢骨	(4.2)	(1.7)	(0.8)	－	－	－	－	－	破片		201614 000096
97	第 23 図	SD3	動物遺存体	四肢骨	(3.0	(2.0)	(0.7)	－	－	－	－	－	破片		201614 000097
98	第 23 図	SD3	動物遺存体	頭蓋骨	(5.7)	(2.7)	(2.0)	－	－	－	－	－	破片		201614 000098
99	第 23 図	SD3	動物遺存体	頭蓋骨	(3.7)	(2.0)	(1.7)	－	－	－	－	－	破片		201614 000099
100	第 23 図	SD3	動物遺存体 イノシシ	頭蓋骨	(5.0)	(4.8)	(2.2)	－	－	－	－	－	近位端破片		201614 000100
101	第 23 図	SD3	動物遺存体 イノシシ	頭蓋骨	(6.0)	(4.8)	(2.0)	－	－	－	－	－	近位端破片		201614 000101
102	第 23 図	SP5	木質	柱根	(81.0)	(37.0)	(35.0)	－	－	－	－	－	加工痕あり		201614 000102

の出土遺物について述べる。１、２は甕である。弥生前期末頃とみられる。１、２ともに口縁上部が平坦であり内傾する。３は壷の口縁、４、５は底部である。４、５は外面にミガキが施されている。６は土製紡錘車と考えられる。上下両面に針等による刺突文が施されている。上面内輪に24、中輪に40個、外輪に48個、下面に24個の刺突文が並んでいる。7は磨製石斧である。安山岩系の火成岩とみられる。８は軽石である。側面が円形に抉られている。９～11は黒曜石製のスクレイパーである。ＳＤ２からの出土遺物について述べる。12、13は甕の底部である。ＳＤ３の出土遺物について述べる。14は列点文のある土器片である。15は夜臼式の浅鉢の口縁部である。16～24は甕の口縁である。16は口唇部に刻目突帯が施される。突帯は貼り付けであり断面三角形を呈する。17は如意形口縁を呈し口唇に刻目を施す。18は口縁が内傾し、二重の刻目突帯を有する。19は二重の刻目突帯を有する。20は口縁がくの字形に屈曲する。21～24は中期の鋤形口縁の甕である。24は口唇部の刻目を有する。25～35は甕の底部である。31は焼成後に穿孔されている。33は上げ底でくびれるため中期の傾向を示す。36は前期の壷の口縁である。中期の短頸壷である。38、39は壷の底部である。40、41高坏である。42～44は中期の甕の口縁である。42と44は胴部の突帯を有する。45は土製支脚である。断面四角形を呈し、中心部は焼成前に穿孔されている。46～51は黒曜石製の石器である。46は剥片、47～49、51はスクレイパーである。50は石錐である。ＳＰ４の遺物について述べる。52～57は甕の口縁である。52は如意形口縁、52は断面三角形の突帯を有する。52と54、55は刻目を有する。56、57は中期の甕の口縁である。58、59は甕の底部である。60、61は壷の底部であり、ともに外面にミガキが施されている。62は黒曜石製のスクレイパーである。ＳＰ５の出土遺物について述べる。63～66は前期の甕の口縁である。いずれも口唇に刻目突帯を有し、65、66は胴部にも刻目突帯を有する。67～69は甕の底部である。70は安山岩製の石鏃である。先端が欠損している。ＳＤ６の出土遺物について述べる。71～74は甕の口縁である。72は前期、他は中期の様相を呈する。75は甕の底部、76～78は壷の底部である。79は土弾である。80は石包丁である。石材は堆積岩系とみられる。81は砥石である。断面Ｕ字の溝が多く残っており、玉を磨いた可能性がある。石材は砂岩とみられる。

４．小　結

出土遺物から、ＳＤ１は弥生時代前期の所産と考えられる。断面はＶ字を呈し、検出面から上位が２ｍ程削平されていることを鑑みれば、集落の環濠である可能性が考えられる。ＳＤ２は遺物が少なく、時期決定には至らない。ＳＤ３は前期の遺物も混じるが、中期が主体を占める。北西に隣接する第２次調査では、地形から同一遺構とみられる２ＳＤ１から弥生時代中期及び古墳時代前期の土器が出土している。ＳＤ６は弥生時代前期から機能し、中期には埋没したとみられる。ＳＰ４はわずかに中期の遺物が混じるがＳＤ６からの混入と考えられ、ＳＰ４、ＳＰ５ともに弥生時代前期の所産と考える。また、ＳＤ１・３から動物遺存体（イノシシ、シカ）が一定量出土していることも興味深い。

（江頭）

第９図　西区近景（南から）

第10図　東区近景（南西から）

第11図　ＳＤ１土層断面（東から）

第12図　ＳＤ１完掘状況（南東から）

第13図　ＳＤ６土層断面（東から）

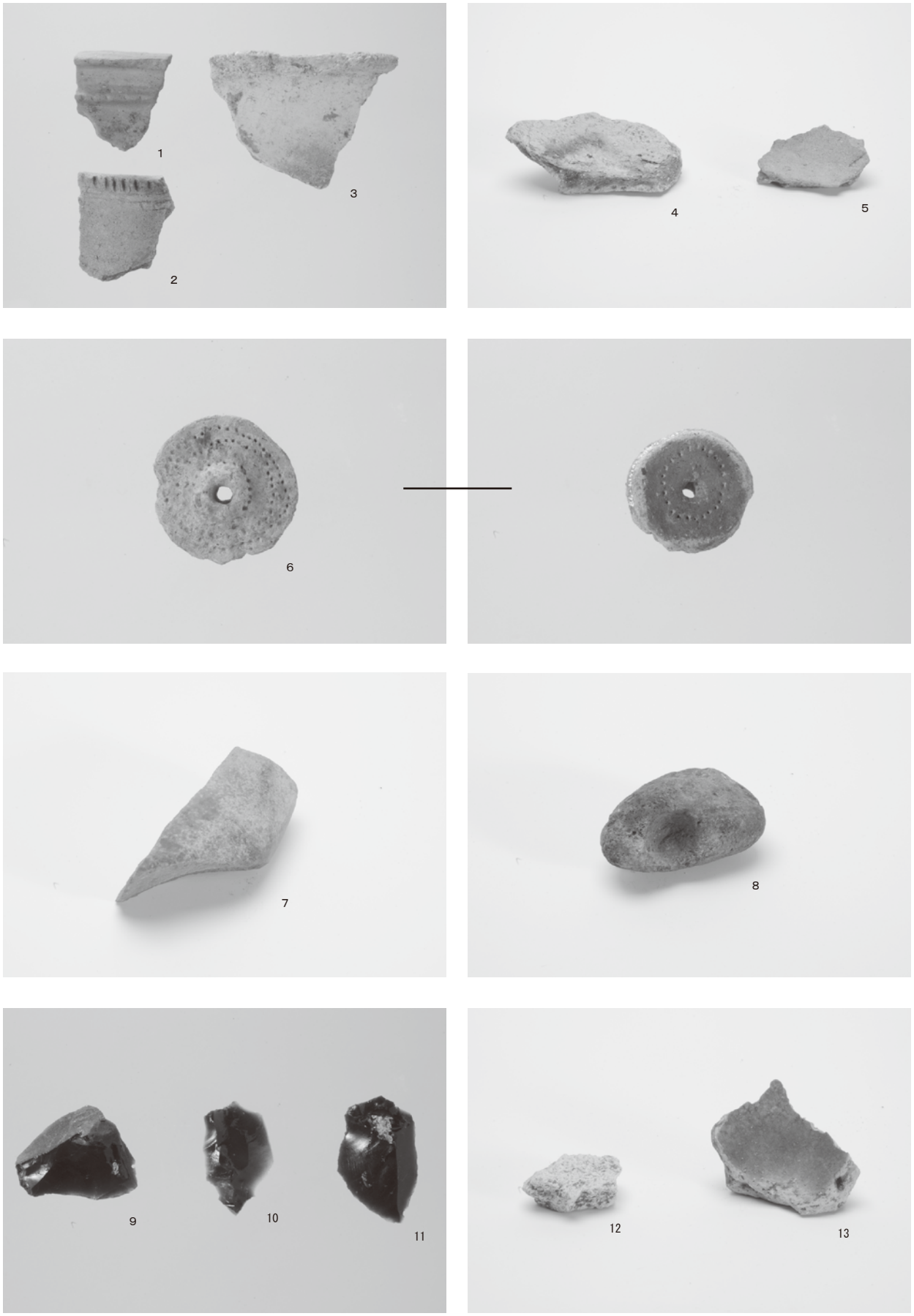
第14図　ＳＤ３獣骨出土状況（南から）

第15図　ＳＤ４柱根検出状況（北東から）

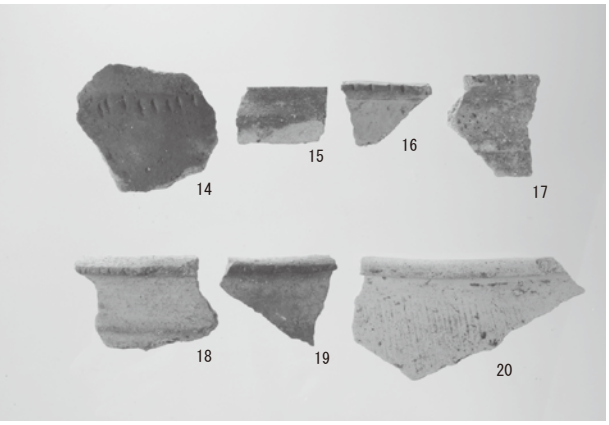
第16図　ＳＰ４・ＳＰ５掘削状況（南西から）

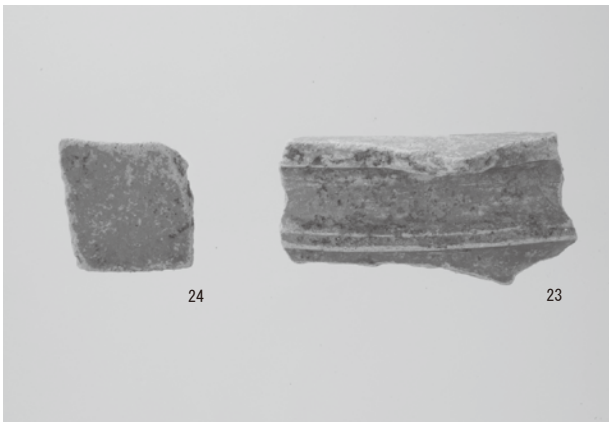
第17図　ＳＰ５柱根検出状況（南西から）

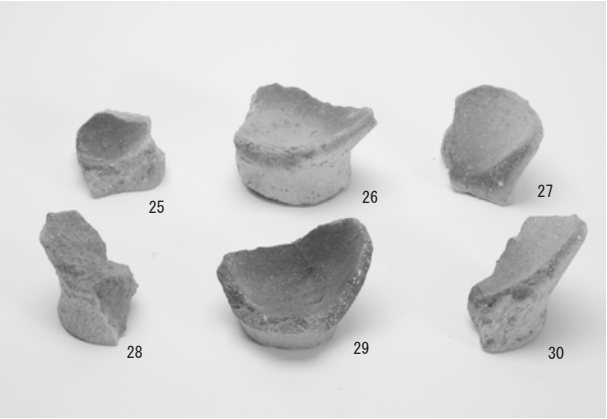
第18図　ＳＰ５掘削状況（南西から）

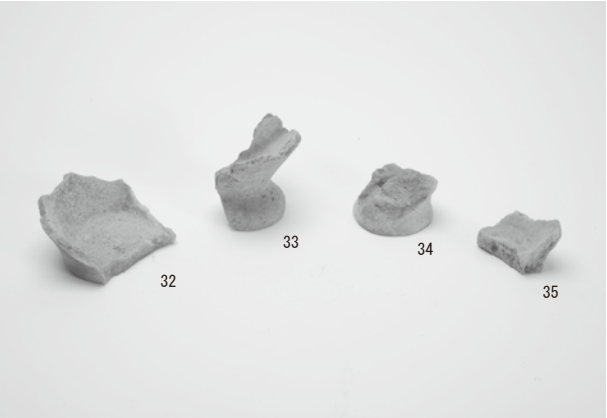


第19図　出土遺物写真①

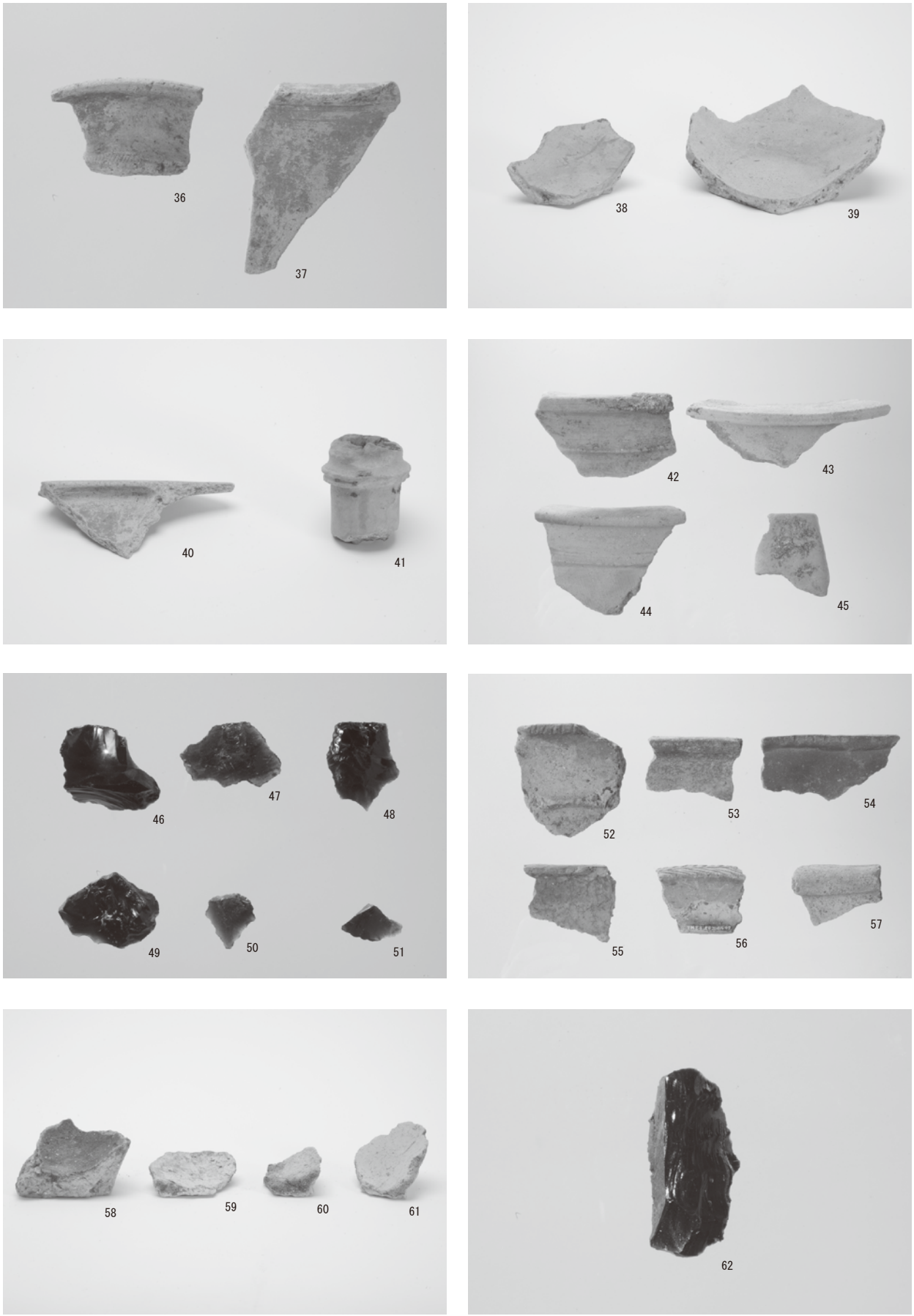




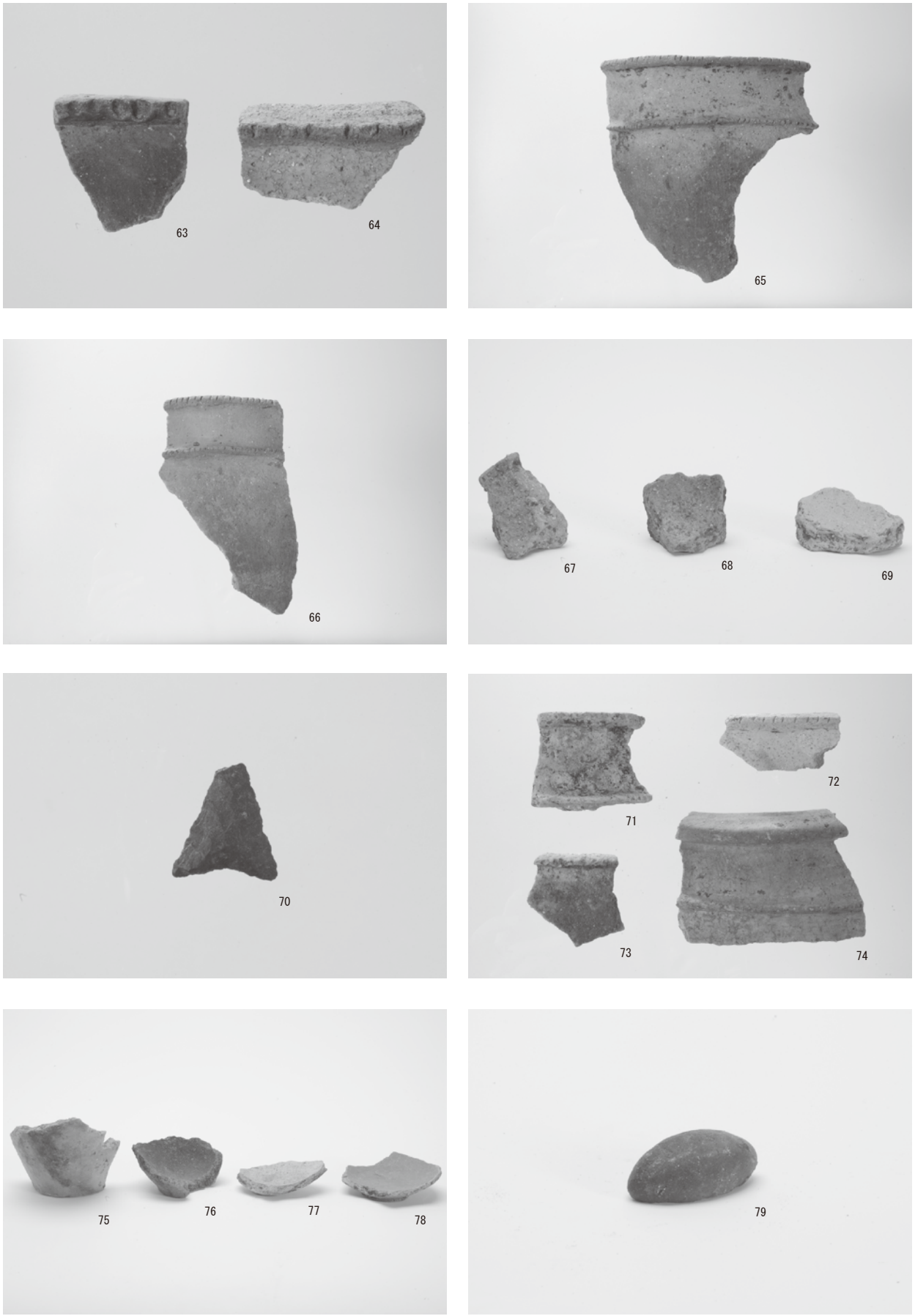




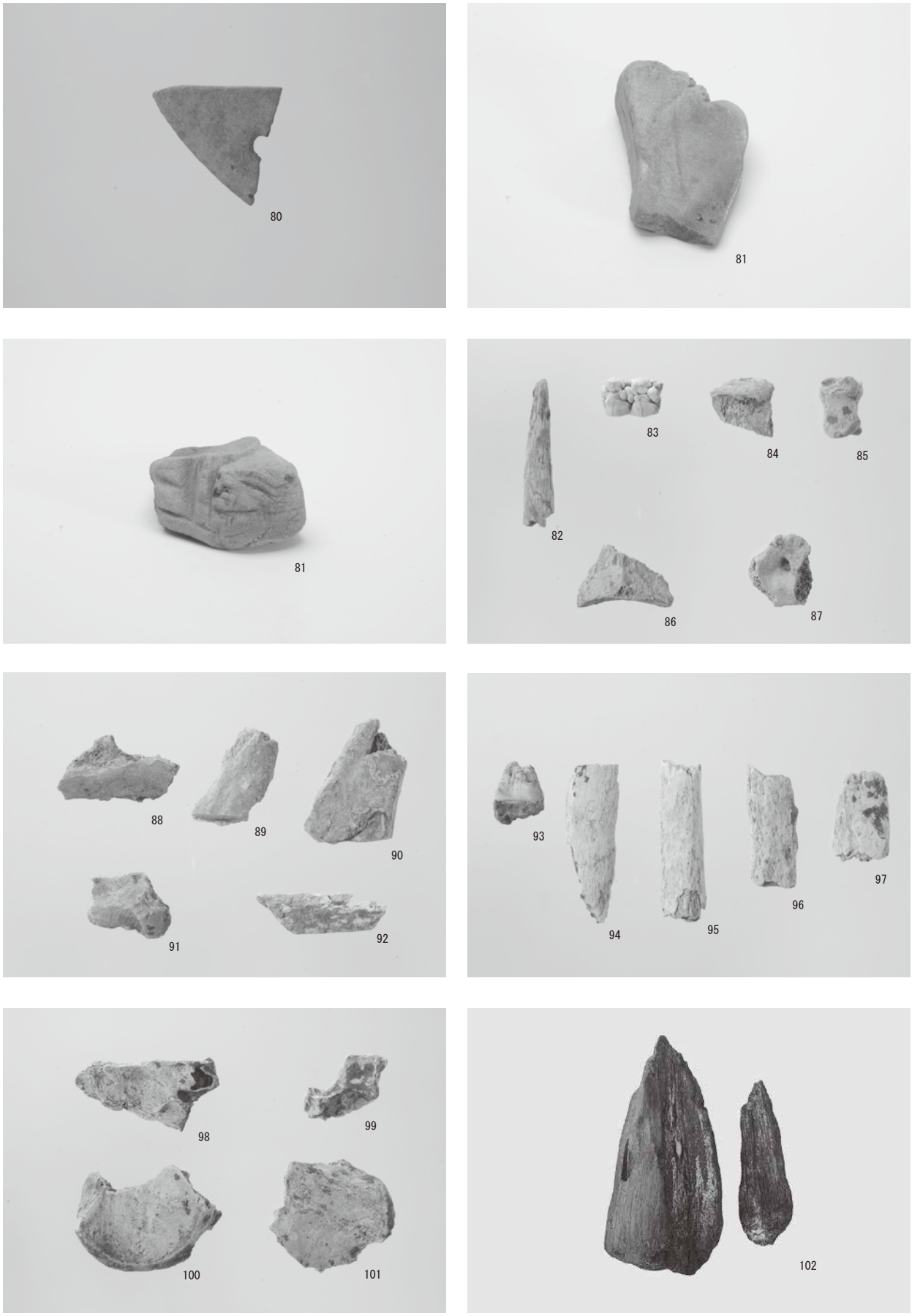
第20図　出土遺物写真②



第21図　出土遺物写真①



第22図　出土遺物写真④



第23図　出土遺物写真⑤

Ⅳ．第７次調査

１．調査に至る経緯

平成29年２月27日、土地所有者より久留米市三潴町高三潴161−５における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である高三潴遺跡の範囲内であり、塚崎御廟塚貝塚の南30ｍに位置する。工事計画では保護層が確保できないため、土地所有者に対して住宅建設部分の発掘調査が必要である旨を回答した。２月27日、土地所有者から発掘調査の依頼が提出されたため、協議の上で住宅建設部分を対象に発掘調査を実施する運びとなった。現地での発掘調査は、平成29年４月17日から開始し、６月15日に完了した。対象面積は299㎡で、調査面積は118㎡である。

２．調査の記録

（１）調査の経過

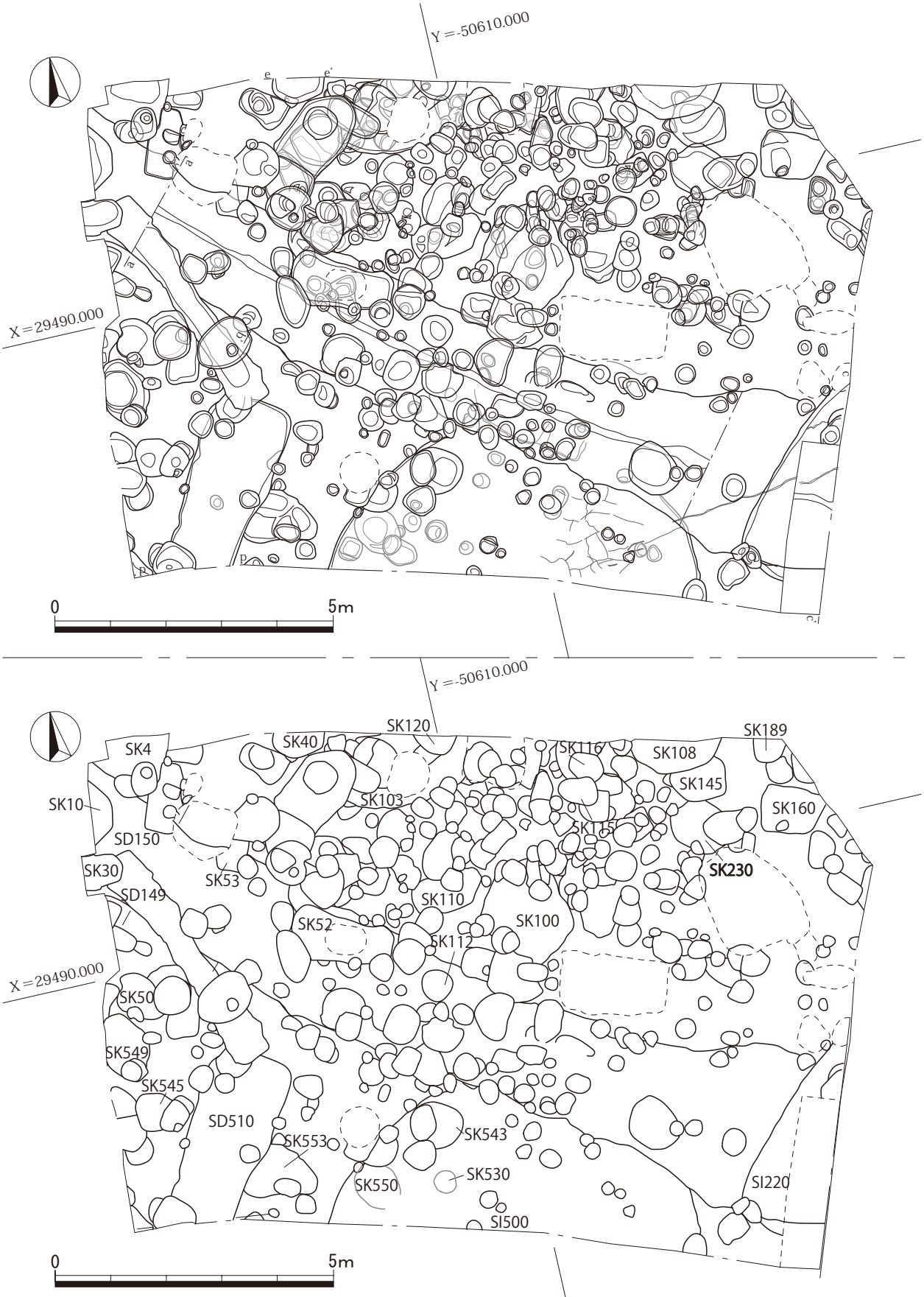
今回の発掘調査は、高三潴遺跡における遺構の位置・範囲確認を主な目的として実施した。なお、排土置き場を確保するため、調査区は北部から中央部にかけてと南部とで二分した。平成29年４月17日に器材を搬入し、18日に調査区北半を重機による表土剥ぎを西部から行った。調査区東部では地表下約0.3ｍで遺構検出面に至ったが、調査区西部では同一標高では遺構が確認できなかったため、東部はさらに0.3ｍ掘削した。19日、表土剥ぎ終了後、遺構の検出、掘削を開始した。測量、撮影などの記録を適宜実施し、６月１日に北部の全景写真を気球によって撮影し、残りの測量や実測、遺物取り上げを完了した。２日に北区を埋め戻し、５日に南区の表土剥ぎを行い、遺構の検出、掘削を開始した。測量、撮影などの記録を行い、13日に南区の全景写真を高所作業車から撮影した。その後、遺構の実測、写真撮影を行い、15日の埋め戻しと撤収を経て、現地での発掘調査を終了した。

（２）基本層序

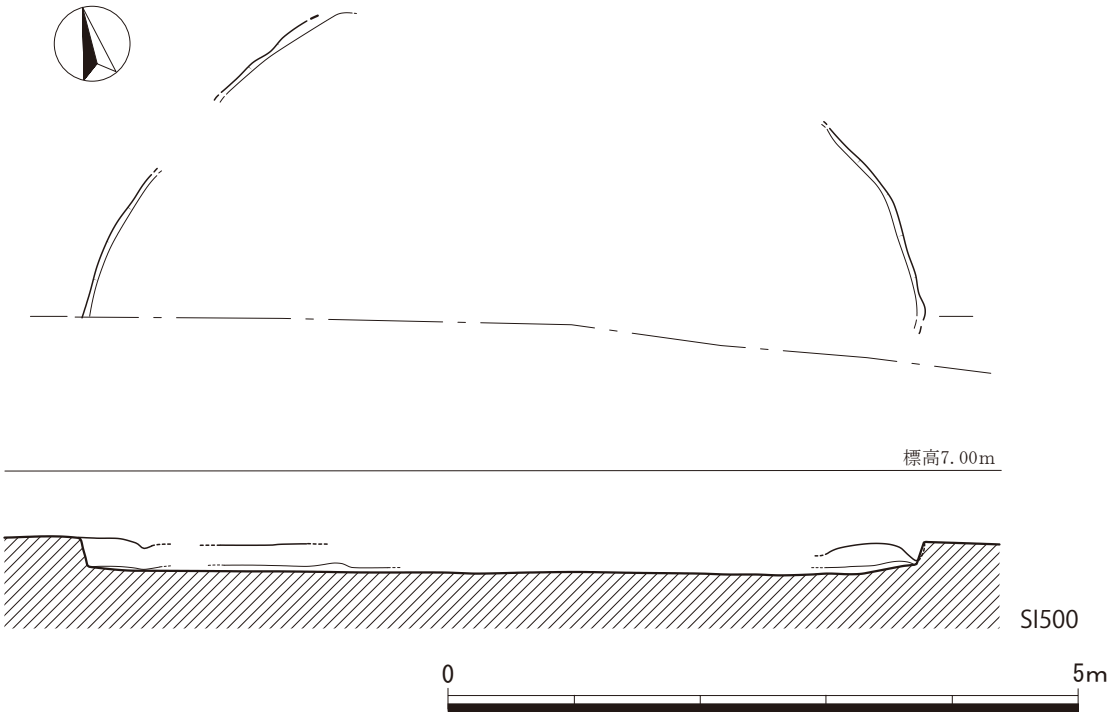
調査区東部では50㎝の褐色粘質土、調査区中央部では30㎝の褐色粘質土、15㎝の暗灰色砂質土、15㎝の暗褐色砂質土の表土が堆積する。調査区西部では調査区東部と同一標高で遺構が確認できず、西部は地山が低くなると考えたが、竪穴建物等大きな遺構が重複していた可能性もある。

（３）遺構の概要

弥生時代の遺構が主体で竪穴建物２棟、溝３条、土坑23基、ピット多数、不明遺構２基を検出した。調査区北部は遺構の密度が高く、ピットや土坑が複雑に重複する。調査区東部、南部は遺構が希薄になる。以下、各遺構について述べる。



第24図　遺構配置図、遺構番号図（1/100）



第25図　ＳＩ500実測図（1/60）

竪穴建物

ＳＩ220（第24・26・50・54図）

調査区の南東隅で検出した。平面形は方形と考えられるが、大部分が調査区外へ延びる。長軸3.6m以上、短軸1.7m以上、深さ0.5mを測る。ＳＤ150に後出する。弥生土器、石器、土製品が出土している。弥生時代中期初頭に属する。

ＳＩ500（第25・51図）

調査区南部で検出した。北部はＳＤ150に先出し、南部は調査区外へ広がるが平面形は円形を呈すると考えられる。長軸6.6m以上、短軸2.6m以上、深さ0.3mを測る。弥生土器、石器、土製品が出土している。弥生時代前期末に属する。

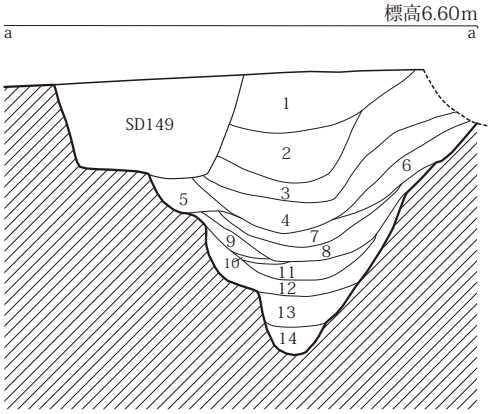
溝

ＳＤ149（第26・59図）

調査区西部で検出した。長さ4.4m、上面幅0.7m、深さ0.7mを測り、直線的に延びる。軸はＮ－27°－Ｗを測り、ＳＤ150・510に後出する。断面形は逆台形を呈する。弥生土器、石器、土製品、貝殻、動物骨が出土している。弥生時代中期初頭に属する。

ＳＤ150（第26・52～60図）

調査区北西部から南西部へ延びる溝である。長さ14.5m以上、上面幅3.1m、深さ1.6mを測り、北東を中心として緩やかに弧を描く。断面形は三角形を呈し環濠である可能性がある。弥生土器、石器、土製品、貝殻、動物骨が出土している。弥生時代前期後半から中期初頭に属する。

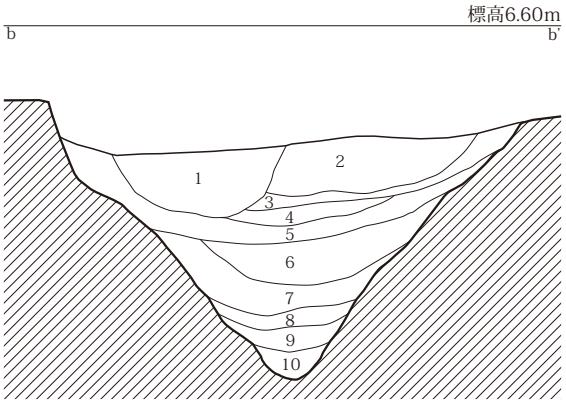


ＳＤ149・150西部

SD149. 暗灰色粘質土。黄褐色粘質土ブロックを含む

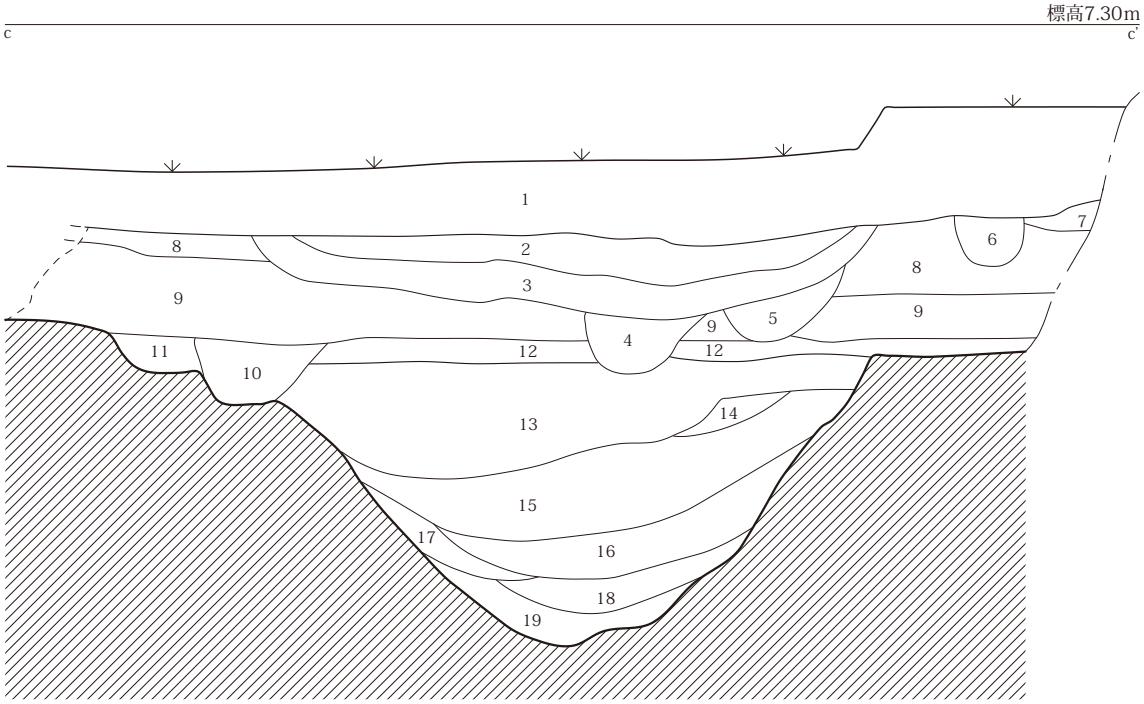
SD150

1．黒褐色粘質土。黄褐色粘質土を含む。
2．明褐色粘質土。黄白色粘質土を多く含む。
3．明褐色粘質土。黄白色粘質土を含む。
4．暗褐色粘質土。少量の黄白色粘質土を含む。
5．黒褐色粘質土。細かい黄白色粘質土を含む。
6．黒褐色粘質土。黄白色・橙色粘質土を含む。
7．橙色粘質土＋白色粘質土。
8．黄褐色粘質土＋白色粘質土＋橙色粘質土。
9．暗灰色粘質土。黄白色粘質土を含む。
10. 橙色粘質土。
11. 暗灰色粘質土。橙色粘質土を含む。
12. 暗灰色粘質土。細かい黄褐色粘質土を含む。
13. 灰白色粘質土。橙色粘質土を含む。
14. 暗灰色粘質土。



ＳＤ150中央部

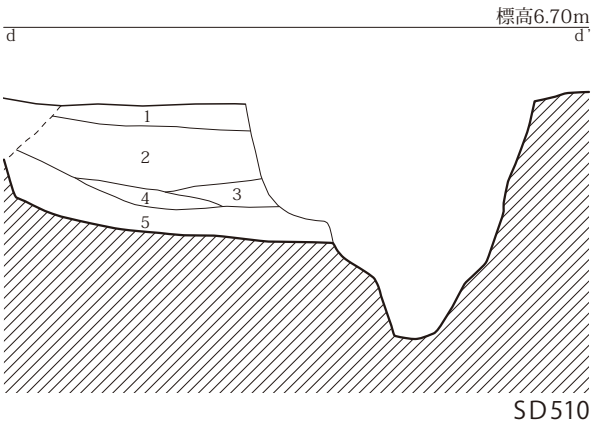
1．黒褐色粘質土。少量の褐色粘質土を含む。
　カキ殻を少量含む。
2．暗褐色粘質土。カキ殻を多量に含む。
3．明褐色粘質土。褐色粘質土ブロックを含む。
4．灰褐色粘質土。カキ殻を多量に含む。
5．暗褐色粘質土。明黄褐色土ブロックを多量に含む。
6．灰褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロックを多量に含む。
7．黄・黄褐・橙色粘質土。
8．暗灰色粘質土。細かい黄褐色粘質土を含む。
9．灰白色粘質土。橙色粘質土を含む。
10. 暗灰色粘質土。



ＳＩ220・ＳＤ150西部

1．暗灰色粘質土。炭化物土器片を多く含む。
2．暗灰色粘質土。貝・土器片をわずかに含む。
3．黒色粘質土。貝を多量に含む。土器片を含む。
4．暗褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロックを含む。
5．暗褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロックを含む。
6．暗灰色粘質土。貝・土器片をわずかに含む。
7．黒色粘質土。
8．暗褐色粘質土。２㎜大の黄褐色粘質土ブロックを含む。
9．褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロックを含む。わずかにカキ殻を含む。
10. 暗褐色・黄褐色粘質土。
11. 黄褐色粘質土。10㎝大の暗褐色粘質土ブロックを含む。
12. 褐色・暗褐色・黄褐色粘質土。
13. 褐色粘質土。10㎝大の黄褐色粘質土ブロックを含む。
14. 暗褐色粘質土。
15. 暗褐色粘質土。10㎝大の黄褐色粘質土ブロックを含む。
16. 黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロックを含む。
17. 暗褐色粘質土。
18. 暗褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロックを含む。
19. 暗褐色粘質土。

第26図　ＳＩ220、ＳＤ149・150土層断面図（1/30）



1．黒色粘質土。炭化物を多量に含む
2．暗褐色シルト質土。
3．褐色粘質土。
4．褐色粘質土カキ殻を多く含む。
5．褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロックを含む。

第27図　ＳＤ510土層断面図（1/20）

ＳＤ510（第27・60・61図）

調査区南西部で検出した。南側は調査区外へ延び、上面幅は北側になるにつれ広くなる。長さは3.3m以上、上面幅の最大は1.5m、深さ0.3m、軸はＮ－32°－Ｅを測る。弥生土器、石器、土製品、貝殻が出土している。弥生時代中期初頭に属する。

土坑

ＳＫ10（第28・62図）

調査区北西部で検出した。東側は調査区外へ延びるが平面形は円形を呈すると考えられる。長軸1.2m以上、短軸0.4m以上、深さ0.6m以上を測り、ＳＤ150に後出する。弥生土器、石器、貝殻が出土している。弥生時代中期初頭に属する。

ＳＫ40（第28・63図）

調査区北部で検出した。北側は調査区外へ延びるが平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。長軸0.9m、短軸0.5m以上、深さ0.95mを測る。弥生土器が出土している。弥生時代前期末から中期初頭に属する。

ＳＫ50（第28図）

調査区西部で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸0.85m、短軸0.5m、深さ0.3mを測る。調査区南半部を調査した際は検出できなかった。製塩に使用した可能性のある甕などの弥生土器、石器が出土している。弥生時代前期に属する。

ＳＫ52（第28図）

調査区北部で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸1.8m、短軸１m、深さ0.15mを測り、ＳＤ150に後出する。弥生土器、貝殻、動物骨が出土している。弥生時代中期初頭に属する。

ＳＫ53（第28図）

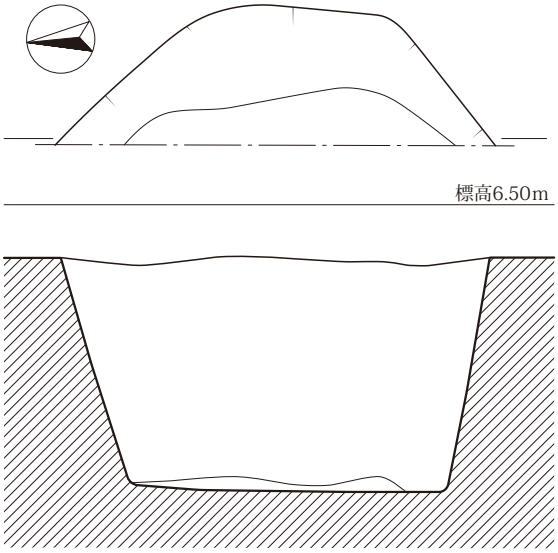
調査区西部で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸0.6m以上、短軸0.5m、深さ0.3mを測り、ＳＤ150に後出する。弥生土器、石器が出土している。弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ100（第29図）

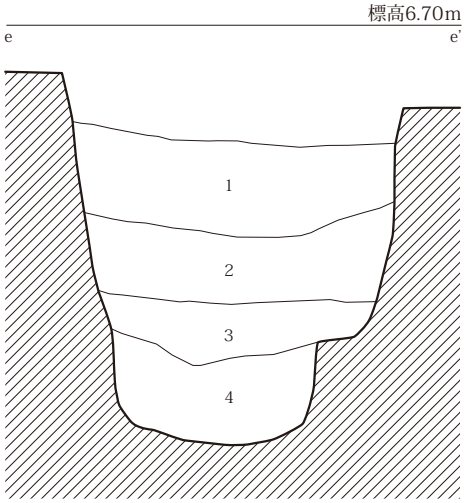
調査区中央部で検出した。平面形は不整形を呈し、東西に段を有する。複数の遺構に削平されているが、長軸1.8m以上、短軸1.5m、深さ1.2mを測る。弥生土器、石器が出土している。弥生時代中期初頭に属する。

ＳＫ103（第29図）

調査区北部で検出した。平面形は円形を呈すると考えられる。長軸2.8m以上、短軸1.4m以上、

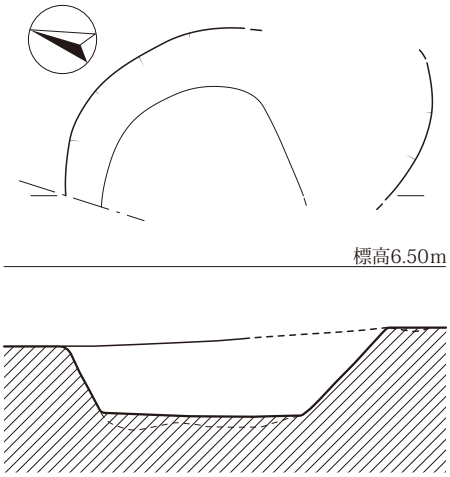


SK10

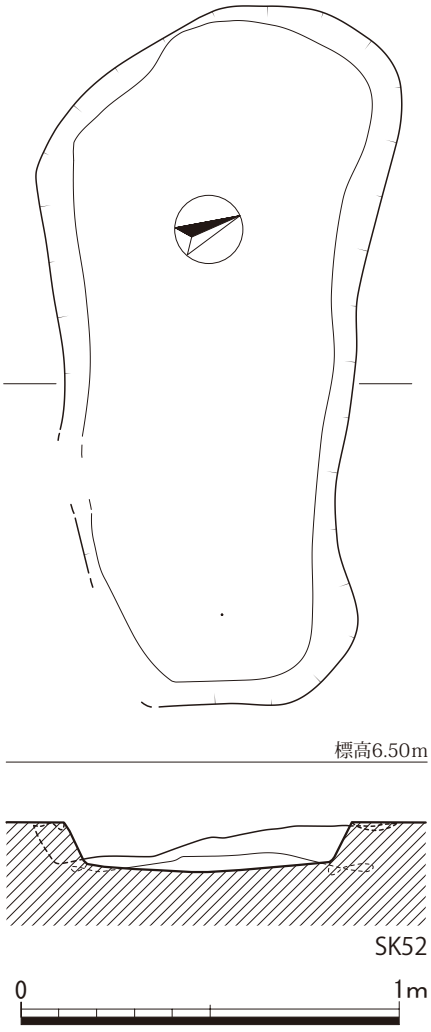


1．暗褐色粘質土。赤褐色粘質土。
2．明褐色粘質土＋暗黄褐色粘質土。
3．暗褐色粘質土＋黄褐色粘質土。
4．暗褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロックを含む。

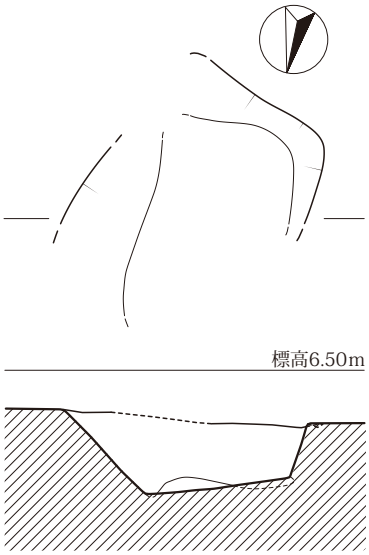
SK40



SK50

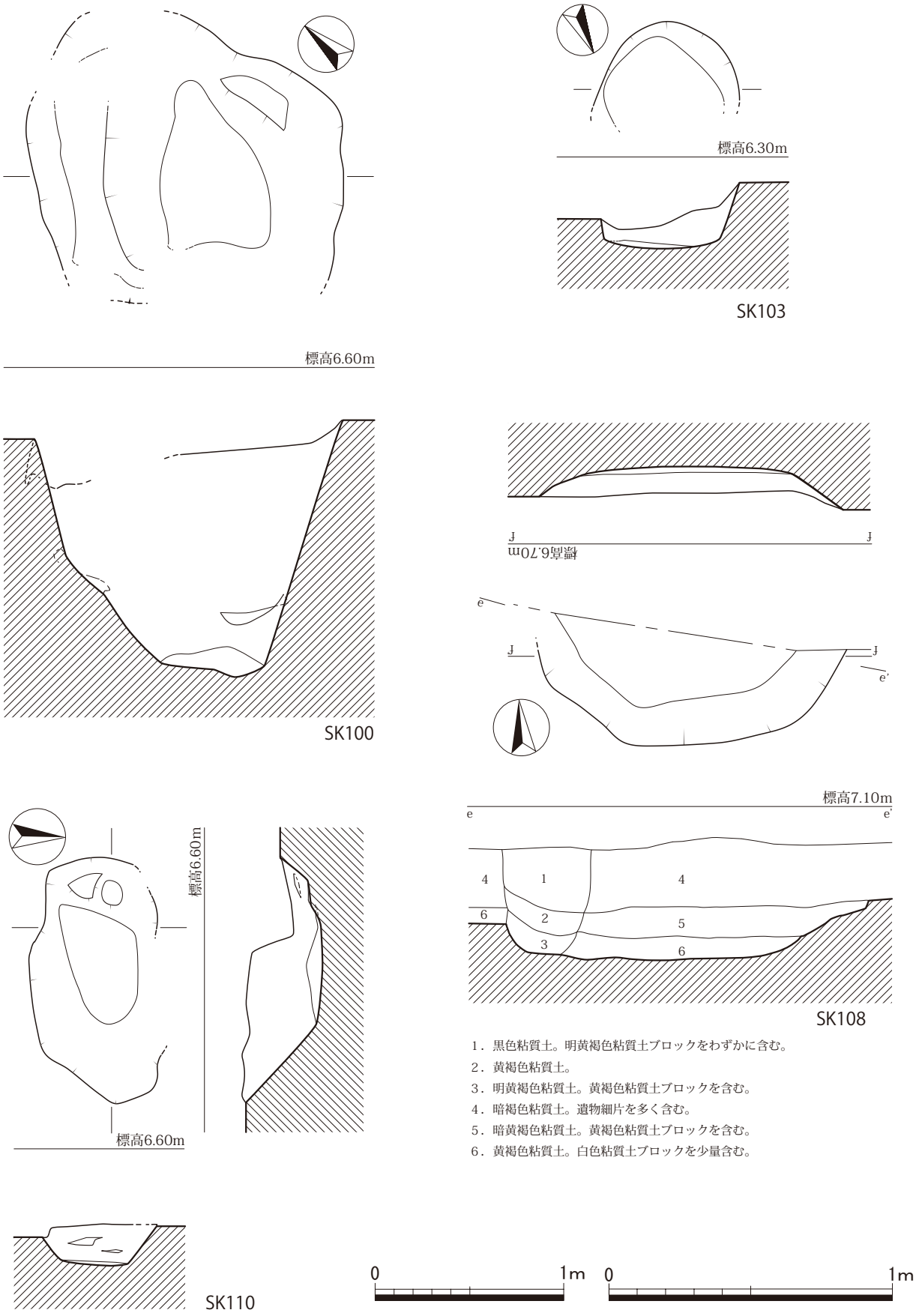


SK52



SK53

第28図　ＳＫ10・40・50・52・53実測図（1/20）



1．黒色粘質土。明黄褐色粘質土ブロックをわずかに含む。
2．黄褐色粘質土。
3．明黄褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロックを含む。
4．暗褐色粘質土。遺物細片を多く含む。
5．暗黄褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロックを含む。
6．黄褐色粘質土。白色粘質土ブロックを少量含む。

第29図　ＳＫ100、103・108・110実測図（1/20、1/30）

深さ0.3mを測り、ＳＫ120に先出する。弥生土器、石器が出土している。弥生時代中期初頭に属する。

ＳＫ108（第29図）

調査区北東部で検出した。北部は調査区外へ延びるが平面形は円形を呈すると考えられる。長軸1.7m以上、短軸0.7m以上、深さ0.3mを測り、ＳＫ145に後出する。弥生土器が出土している。弥生時代中期初頭に属する。

ＳＫ110（第29図）

調査区中央部で検出した。平面形は楕円形を呈し、西部に２つの段を有する。複数の遺構が重複している可能性もある。長軸1.3m、短軸0.7m、深さ0.4mを測る。弥生土器、貝殻が出土している。弥生時代中期初頭に属する。

ＳＫ112（第30図）

調査区中央部で検出した。平面形は不整形を呈し、南北に段を有する。長軸1.1m以上、短軸0.9m、深さ0.7mを測り、ＳＤ150に先出する。弥生土器や石器、動物骨が出土している。弥生時代前期後半に属する。

ＳＫ115（第30図）

調査区北部で検出した。平面形は楕円形を呈し、西部に段を有する。長軸0.8m、短軸0.5m、深さ、0.3mを測り、ＳＫ116に後出する。弥生土器や石器が出土している。弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ116（第30図）

調査区北部で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸0.6m、短軸0.5m、深さ0.4mを測る。弥生土器や石器、動物骨が出土している。弥生時代中期前葉以降に属する。

ＳＫ120（第30図）

調査区北部で検出した。北側が調査区外へ延びるが、円形を呈すると考えられる。長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.4mを測る。弥生土器や石器、動物骨が出土している。弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ145（第30図）

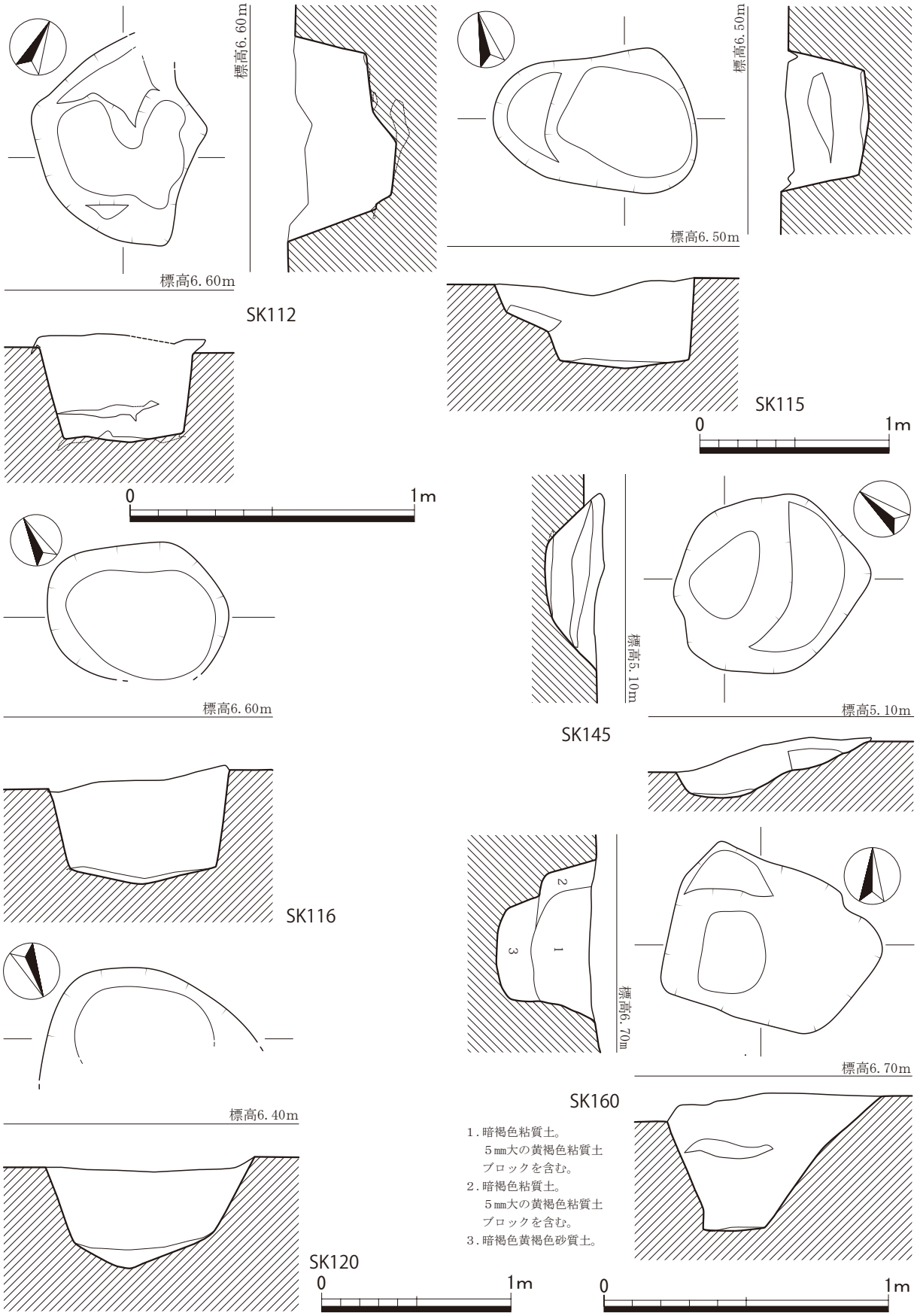
調査区北東部で検出した。平面形は円形を呈し、南側に段を有する。直径１m、深さ0.3mを測る。弥生土器や石器が出土している。弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ160（第30図）

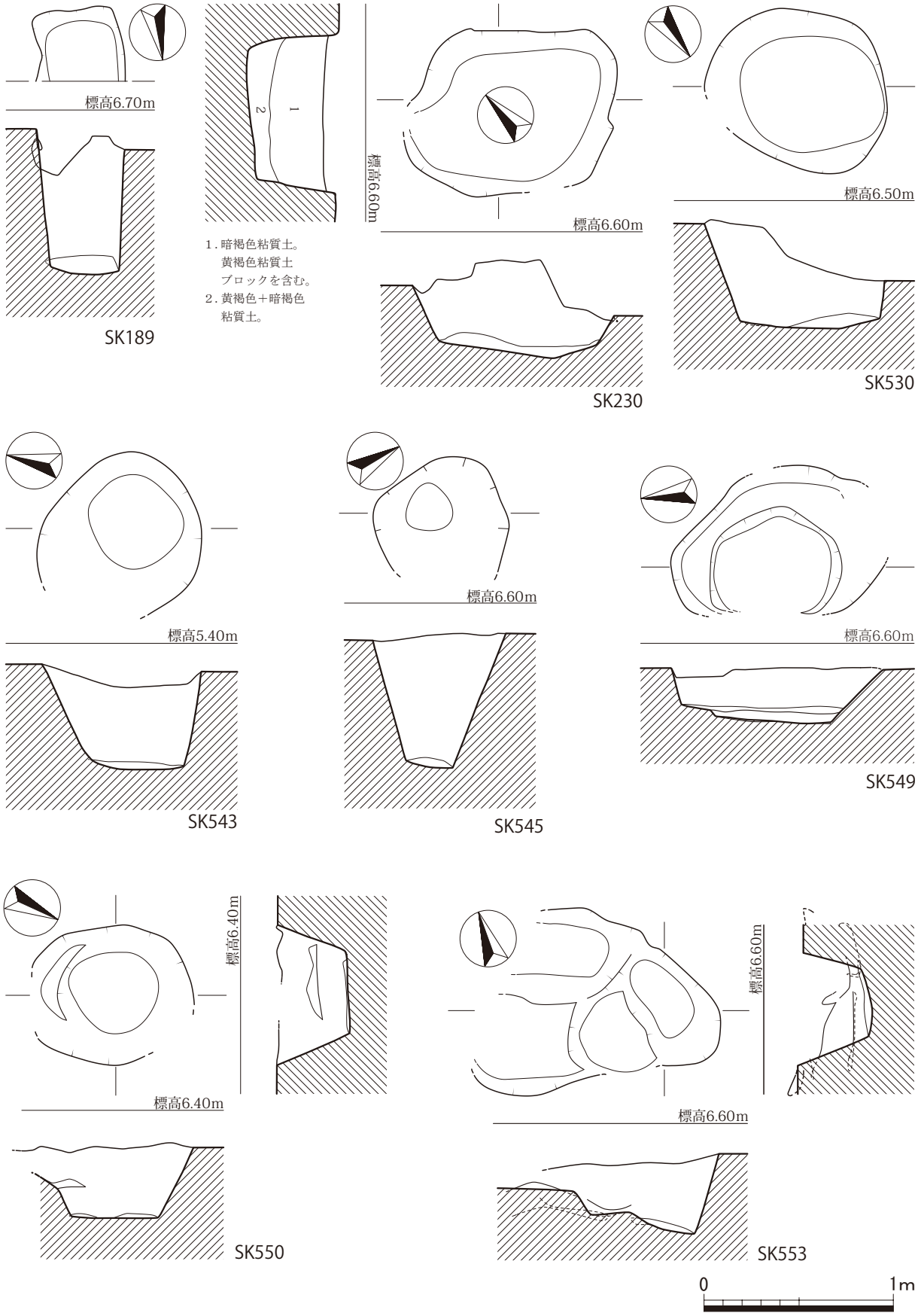
調査区北東部で検出した。西側は調査区外へ延びるが、平面形は隅丸方形を呈すると考えられ、北側には段を有する。長軸1.1m以上、短軸0.8m、深さ0.7mを測る。弥生土器や動物骨が出土している。弥生時代中期後葉に属する。

ＳＫ189（第31図）

調査区北東部で検出した。北側は調査区外へ延びるが、平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。長軸0.6m、短軸0.4m、深さ0.8mを呈する。弥生土器や石器が出土している。弥生時代中期中葉



第30図　ＳＫ112・115・116・120・145・160実測図（1/20、1/30）



第31図　ＳＫ189・230・530・543・545・549・550・553実測図（1/30）

に属する。

ＳＫ230（第31図）

調査区西部で検出した。平面形は隅丸方形を呈する。長軸１ｍ、短軸0.9ｍ、深さ0.5ｍを呈する。弥生土器や石器が出土している。弥生時代中期後葉に属する。

ＳＫ530（第31図）

調査区南東部で検出した。平面形は円形を呈する。直径0.9ｍ、深さ0.6ｍを測り、ＳＤ150に後出する。弥生土器が出土している。弥生時代中期初頭以降に属する。

ＳＫ543（第31図）

調査区南部で検出した。平面形は円形を呈する。直径0.8ｍ、深さ0.6ｍを測り、ＳＩ500に後出する。弥生土器が出土している。弥生時代中期初頭以降に属する。

ＳＫ545（第31図）

調査区南西部で検出した。平面形は円形を呈する。直径約0.7ｍ、深さ0.7ｍを測る。弥生土器や石器、動物骨が出土している。弥生時代前期から中期に属する。

ＳＫ549（第31図）

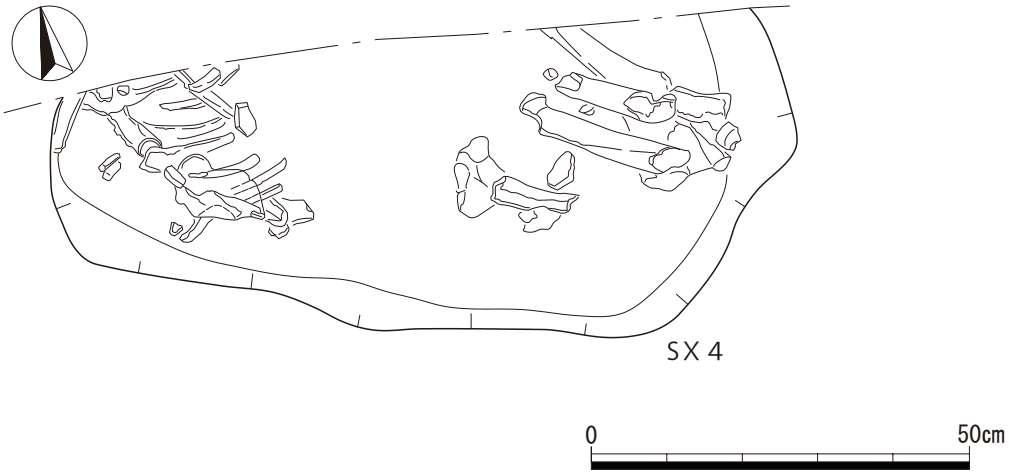
調査区南西部で検出した。平面形は楕円形を呈し、中央部に段を有する。長軸1.1ｍ、短軸0.8ｍ以上、深さ0.3ｍを測る。弥生土器や石器が出土している。弥生時代中期に属する。

ＳＫ550（第31図）

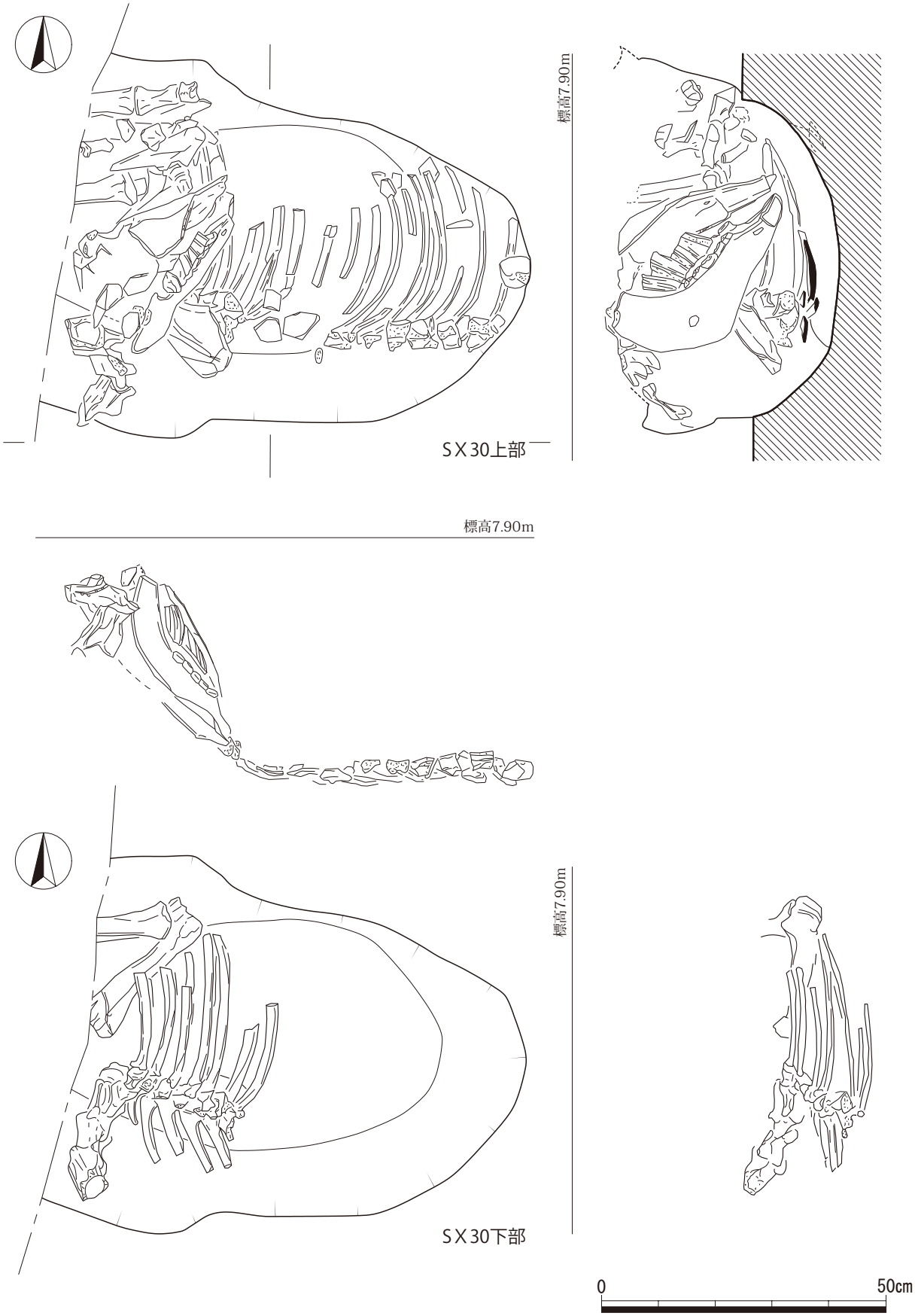
調査区の南部で検出した。平面形は楕円形を呈し、南側に段を有する。長軸0.9ｍ、短軸0.7ｍ、深さ0.4ｍを測り、ＳＩ500に先出する。弥生土器が出土している。弥生時代前期後半に属する。

ＳＫ553（第31図）

調査区南西部で検出した。平面形は不整形を呈し、西部に３つの段を有する。長軸1.2ｍ以上、短軸１ｍ、深さ0.5ｍを測り、ＳＤ510に先出する。弥生土器や石器が出土している。弥生時代前期末から中期初頭に属する。



第32図　ＳＸ４実測図（1/10）



第33図　ＳＸ30実測図（1/10）

不明遺構

ＳＸ４（第32・45・65図）

調査区北西部で検出した。北部は調査区外へ延びるため、調査区を可能な限り北側に拡張した。上位を一部重機で削平してしまっている。平面形は隅丸方形を呈し、動物骨を検出した。長軸１ｍ、短軸0.4ｍ以上、深さ0.15ｍを測る。失われている。出土遺物は弥生土器の破片のみであるため弥生時代以降に属すること推定されるが、詳細は不明である。

ＳＸ30（第33・66・67図）

調査区北西部で検出した。西部は調査区外へ延びるため、可能な限り調査区を拡張した。平面形は楕円形を呈し、動物骨を検出した。長軸0.7ｍ以上、短軸0.6ｍ、深さ0.15ｍを測り、ＳＤ150に後出する。ＳＸ４と同様に上部を重機で削平してしまっている。頭部の上方は近代の遺構に削平されている。出土遺物は弥生土器や石器、須恵器などがあり、古墳時代以降近代以前に属する。

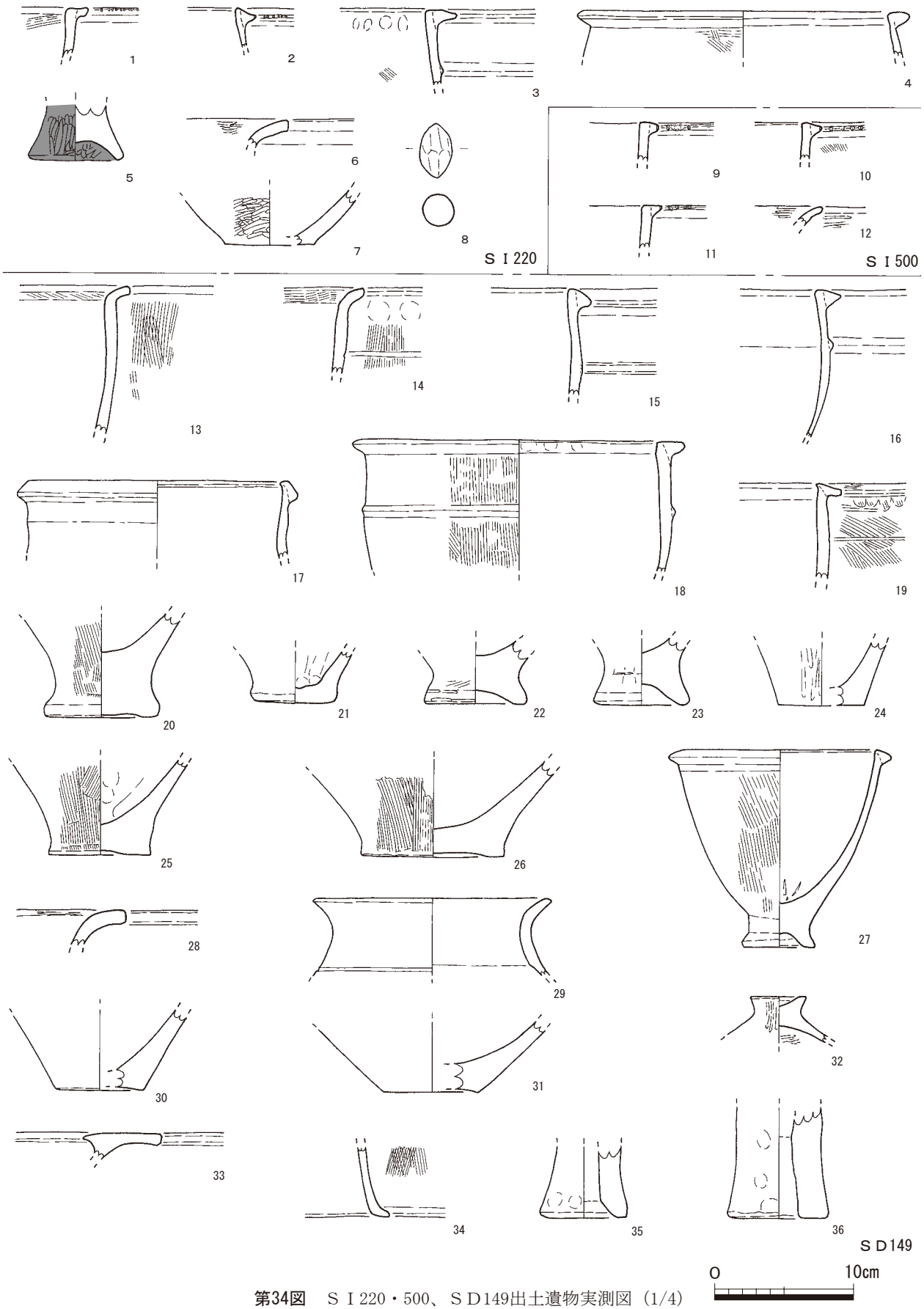
（３）遺物の概要（第34～44・70～73図、第４～９表）

遺物の総量は、パンコンテナー25箱である。弥生土器が大半を占め、土師器、須恵器、石器、土製品、炭化物を含む。法量や色調などの詳細は、遺物観察表を参照願いたい。以下、各遺物の特徴について弥生土器、須恵器、土製品については遺構毎、石器については器種毎に簡単に補足する。

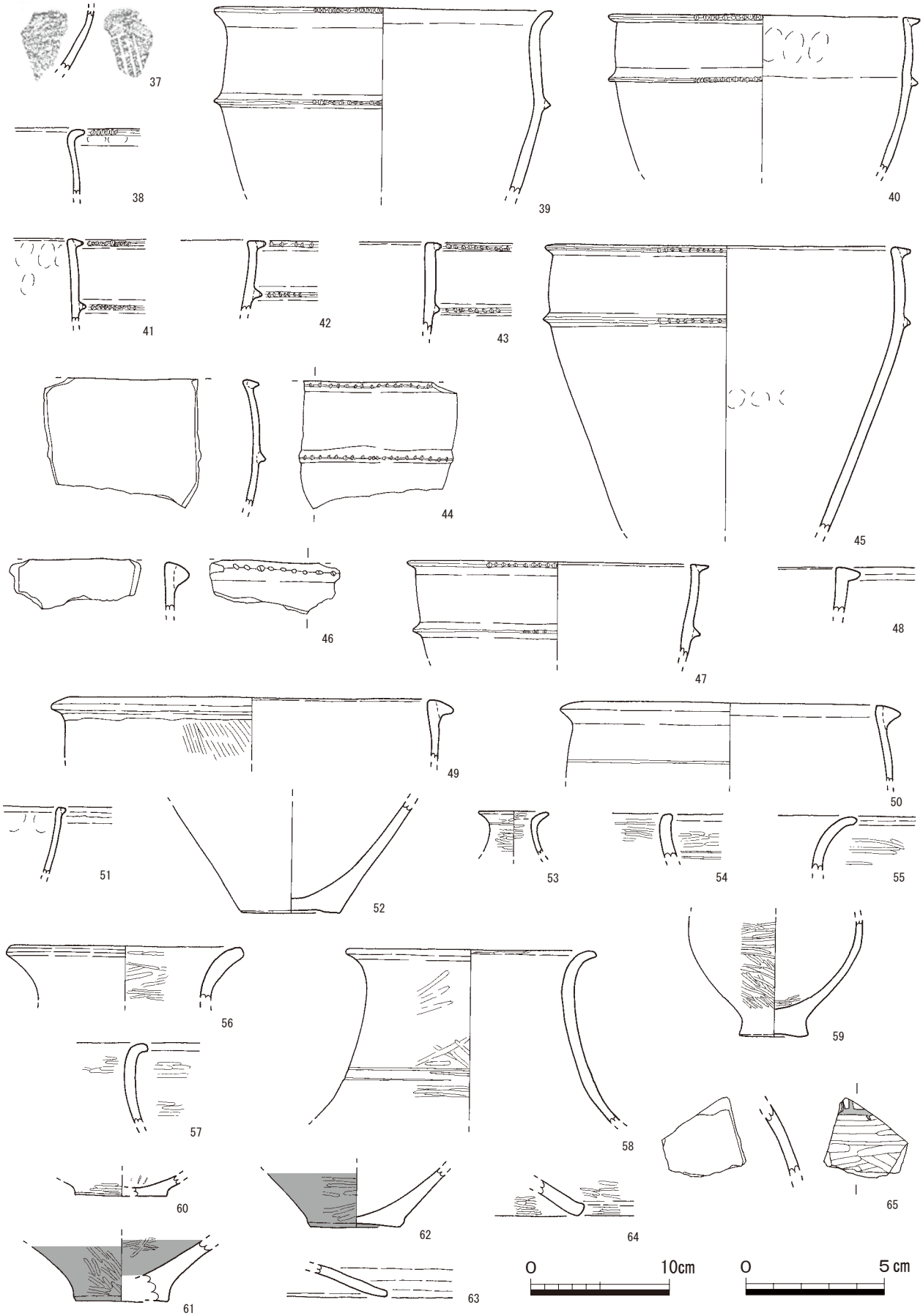
１～８はＳＩ200出土の弥生土器、土製品である。１～５は甕で、１は逆Ｌ字状口縁で、口縁端部が斜めに外反し、上端に刻目を施す。２は断面三角形の口縁で、口縁端部に刻目を施す。３は断面逆Ｌ字状に近い三角形の口縁である。胴部に突帯を有し、内面に一部ハケメが残る。４は丸みを帯びた口縁で口唇下にナデを施し窪む。５は張り出した上げ底の黒色磨研土器である。内外面にミガキを施し、内外面とも黒色化している。６・７は壷であり、６の内面はハケ後ミガキを施している。８は投弾で、一部ミガキが施される。

９～12はＳＩ500出土の弥生土器である。９～11は断面三角形の口縁を有する甕である。口縁端部に刻目を施す。12は壷の口縁で内外面にミガキを施す。

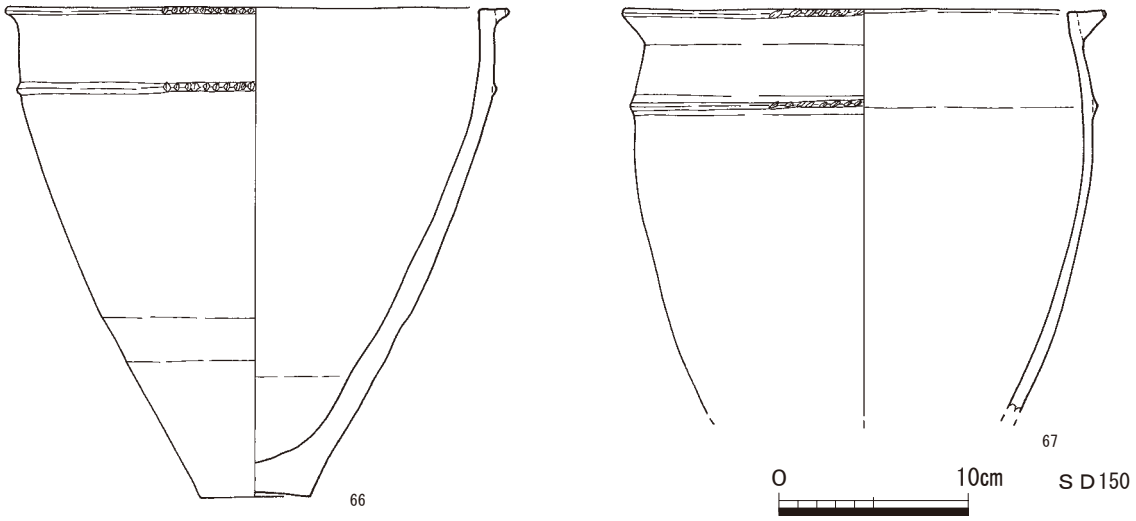
13～36はＳＤ149出土の弥生土器、土製品である。13～27は甕で、13・14は如意形口縁で、口縁から頸部にかけて内面にハケメが残る。14は胴部に沈線を施す。15～18は断面三角形の口縁であり、15・16・18は胴部に低い突帯を有する。15は口縁端部が下がる。17は口唇部が内側へ発達し、口縁端部が下がり、胴部が膨らむと予想される。19は口縁が内側に突出し、口縁上面にハケメが残る。外面口縁下に強いオサエを施し、胴部に１条の沈線を施す。20は底部が張り出し、わずかに底が上がる。底面は白色化し、ミガキ状の光沢がみられる。21は底部がわずかに膨らみ気味で、内面がナデ、オサエによって凹凸が著しく蓋の可能性もあるが、胴部の膨らみ具合から甕とした。22・23は底部が張り出し、上げ底である。22は外面底部付近にミガキを施す。24は平底で外面にミガキを施しにぶい褐色を呈し、胴部が直線的に立ち上がる。25・26はわずかに底が上がり、26は底部に多量の礫が付着する。27は小型の甕で、断面三角形の口縁を有する。胴部下半は器表面の剥離が著しく、底部は張り出し、上げ底である。28～31は壷で、28は内面にミガキを施すが不明瞭である。29は



第34図　ＳＩ220・500、ＳＤ149出土遺物実測図（1/4）



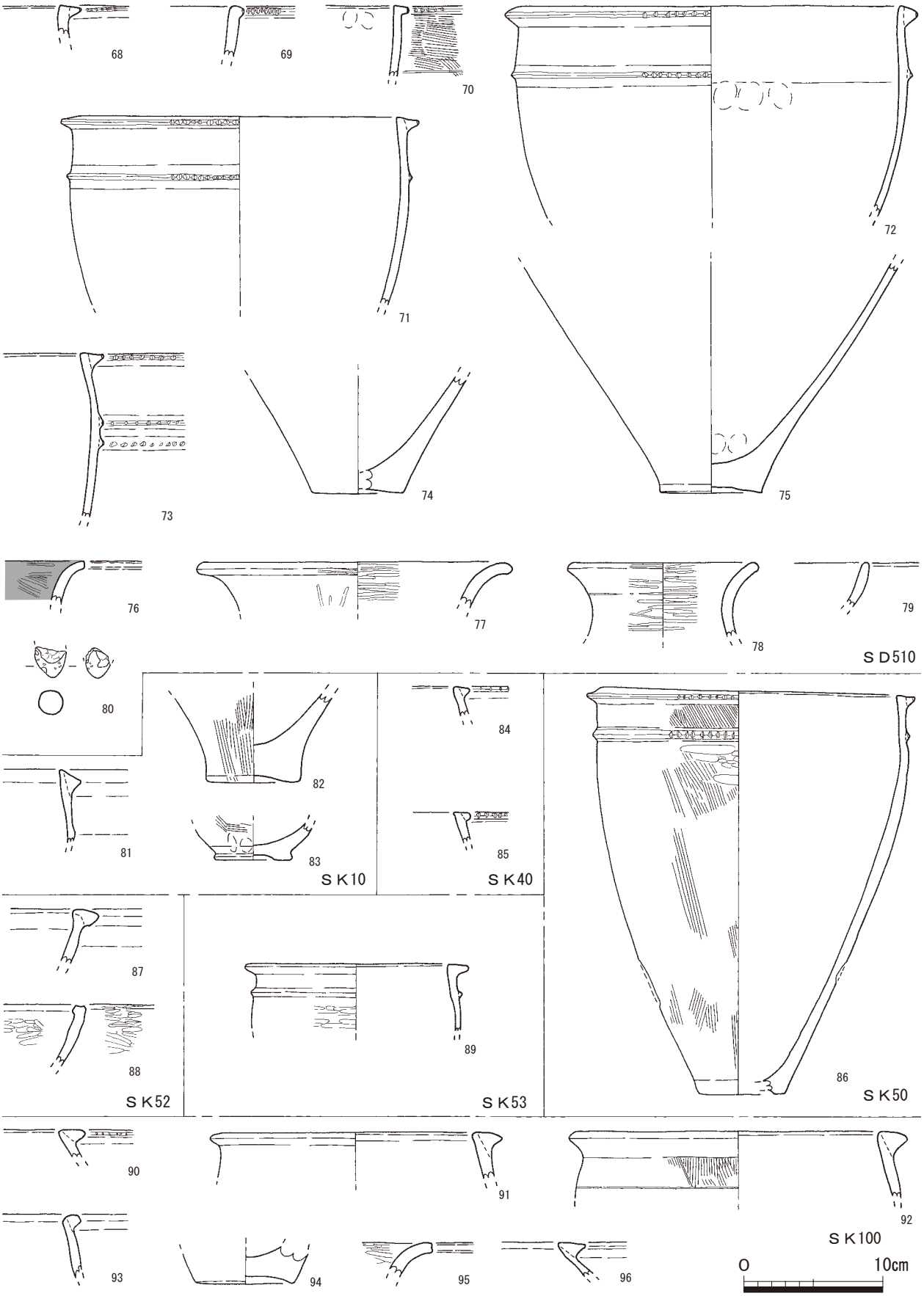
第35図　ＳＤ150出土遺物実測図①（1/2、1/4）



第36図　ＳＤ150出土遺物実測図②（1/4）

内外面を丁寧にナデ、褐灰色を呈し、頸部に沈線を施す。30は単位が不明瞭であるが外面にミガキを施し、胴部の立ち上がりが急である。31は内外面とも摩耗が著しく調整が不明瞭である。32は蓋で、内外面にミガキを施す。33は高坏の鋤先口縁で口縁上面と内面に丹塗りを施す。34は立ち上がりが急なため高坏の脚部としたが、破片であるが底径が大きくなることが想定されることから蓋の可能性もある。35・36は器台で、35は底面にミガキ状の光沢が一部みられる。

37～67はＳＤ150出土の縄文土器、弥生土器である。37は縄文土器で、外面に３条の凹線文が施される。胎土に滑石細片が混ざった曽畑式土器で、内外面が平滑になっている。曽畑式土器は久留米市西部では初出土である。38～52・66・67は甕で、胴部はあまり張らない。38・39は如意形口縁で口縁端部に刻目を施す。38は頸部外面にオサエが残る。39は胴部に刻目を有した１条の突帯を有し、突帯から上位はわずかに内傾する。40～51・66・67は断面三角形の口縁を有し、40～45・47・66・67は胴部に刻目を施した突帯を１条有する。66は外面胴部下部の摩耗が著しい。67は口縁の突帯が厚く、口縁端部、胴部の突帯の刻目を斜め方向に施す。46は口縁の突帯が厚く、浅い刻目を施す。48～50は断面三角形の口縁を有し、49は外面口縁部下のナデ調整が不十分で、粘土の塊が薄く残る。50は胴部に１条の沈線を施し、内面口唇下がナデによって凹む。51は胴が広がらず鉢の可能性もある。52はほぼ直線的に胴部がたちあがり、外面に一部不明瞭なミガキが残る。外面の底面付近は被熱により赤色化している。53～62・65は壷である。53は小型壷の口縁で、頸部に沈線を有し、内外面にミガキを施し、灰褐色を呈する。54は内傾する口縁で、内面口縁下に１条、外面頸部に２条の沈線を有する。55は内外面にミガキを施すが、内面のミガキ痕跡は不明瞭である。56は口縁が厚く、内面口唇下がナデ調整によって面取り状になっている。57はわずかに内傾しながら立ち上がり、口縁は外反する。内面が被熱により赤色化し、一部器表面が剥離している。58は内外面にミガキを施すが、内面のミガキは不明瞭である。頸部に２条の沈線を施す。59は厚底でわずかに上げ底である。内面は底部にミガキが残る。60は底面にもミガキを施す。61・62は黒色磨研土器であり、底面にも



第37図　ＳＤ510、ＳＫ10・40・50・52・53・100出土遺物実測図（1/4）

ミガキを施す。62は外面のみ黒褐色を呈する。65は彩文土器片で、赤色顔料で線を描いている。63・64は蓋で、63は外面にミガキがわずかに残る。64は内外面にミガキを施し、壺の口縁の可能性もあるが、外面がわずかに膨らむため蓋とした。

68～80はＳＤ510出土の弥生土器、土製品である。68～75は甕で口縁に刻目を有する。68、70は断面三角形の口縁で、70は胴部外面をハケメ調整し、沈線を施す。69は薄い突帯を貼り付けた口縁で、刻目の幅が広い。71、72は胴部に１条の突帯、73は２条の突帯を有し、ともに刻目を施す。72の口縁は厚く、口縁端部の刻目は浅い。74は胴部がほぼ直線的に広がり、外面底部付近や底面にわずかにミガキの痕跡が残る。75は投棄後に貝などが外面器表面に付着しているため、調整は確認しづらいがナデ、工具ナデを施す。76～78は壷である。76は黒色磨研土器で、76は頸部から口縁部にかけての破片であるため詳細は不明であるが、内面は口縁部から頸部にかけて、外面は頸部より下部にミガキを施す。78は頸部に沈線を施した後、全面にミガキを施し、内外面が灰褐色を呈する。口縁端部にはわずかに赤色顔料が付着する。79は鉢の口縁である。80は投弾で、大きく破損している。

81～83はＳＫ10出土の弥生土器である。81、82は甕で、81は断面三角形の口縁を有し、胴部に低い突帯を貼り付ける。82は底面が白みを帯び、硬質化している。83はナデやオサエで調整しており、形が歪で、底部は粘土の塊が張り出す。

84・85はＳＫ40出土の弥生土器の甕で、断面三角形の口縁端部に刻目を施し、胴が張る。

86はＳＫ50出土の甕である。被熱により内外面は赤みを帯び、胴部下位の剥離が著しい。内面に黒色、灰白色の焦げが広い範囲に広がる。内面口唇部付近は赤褐色を呈し、特に痕が残る。内面はナデ調整、外面は一部ミガキを施した後ハケメ調整を行う。断面三角形の口縁で口縁下に突帯を有し、口縁と突帯に刻目を施す。土器の被熱痕が著しいことや付着物から製塩を行ったと考えられる。

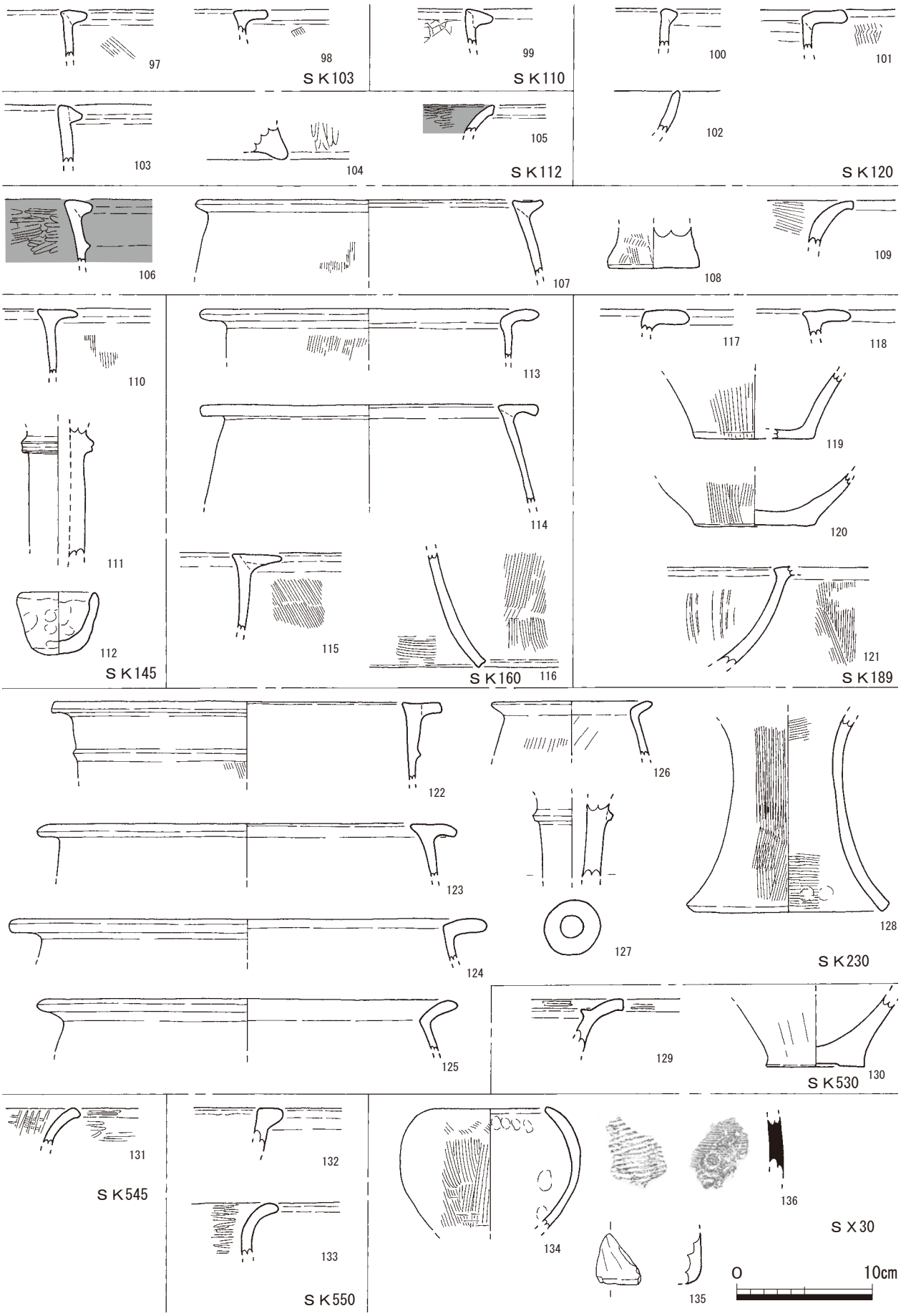
87、88はＳＫ52出土の弥生土器の鉢である。87は丸みのある断面三角形の口縁で、内面口唇下にナデを施し窪む。胴部外面は剥離が著しく調整不明である。88は内外面にミガキを施し、内面が黒色化した黒色磨研土器である。口唇部上に粘土帯を張りつけ内側に突出する。

89はＳＫ53出土の弥生土器の甕である。逆Ｌ字状口縁で胴部に１条の突帯を有し、突帯より下にミガキを施す。

90～96はＳＫ100出土の弥生土器である。90～94は甕で90～92は断面三角形の口縁である。90は口縁端部に刻目を施す。92は胴部に沈線を施す。93は丸みを帯びた口縁を有する。94は立ち上がりが急であるため甕としたが、壺の可能性もある。外面に単位は不明瞭であるがミガキを施す。95、96は壷で95は内外面にミガキを施すが、外面は摩耗が著しく調整が不明瞭である。96は広口の壷である。断面三角形で口縁端部が一部ミガキ状になっている。

97、98はＳＫ103出土の弥生土器の甕で、逆Ｌ字状口縁を有する。口唇部下をナデ調整を施し、口唇部が内側にわずかに突出する。

99はＳＫ110出土の弥生土器の甕で、断面三角形の口縁を有する。



第38図　ＳＫ103・110・112・115・120・145・160・189・・230・530・545・550、ＳＸ30出土遺物実測図（1/4）

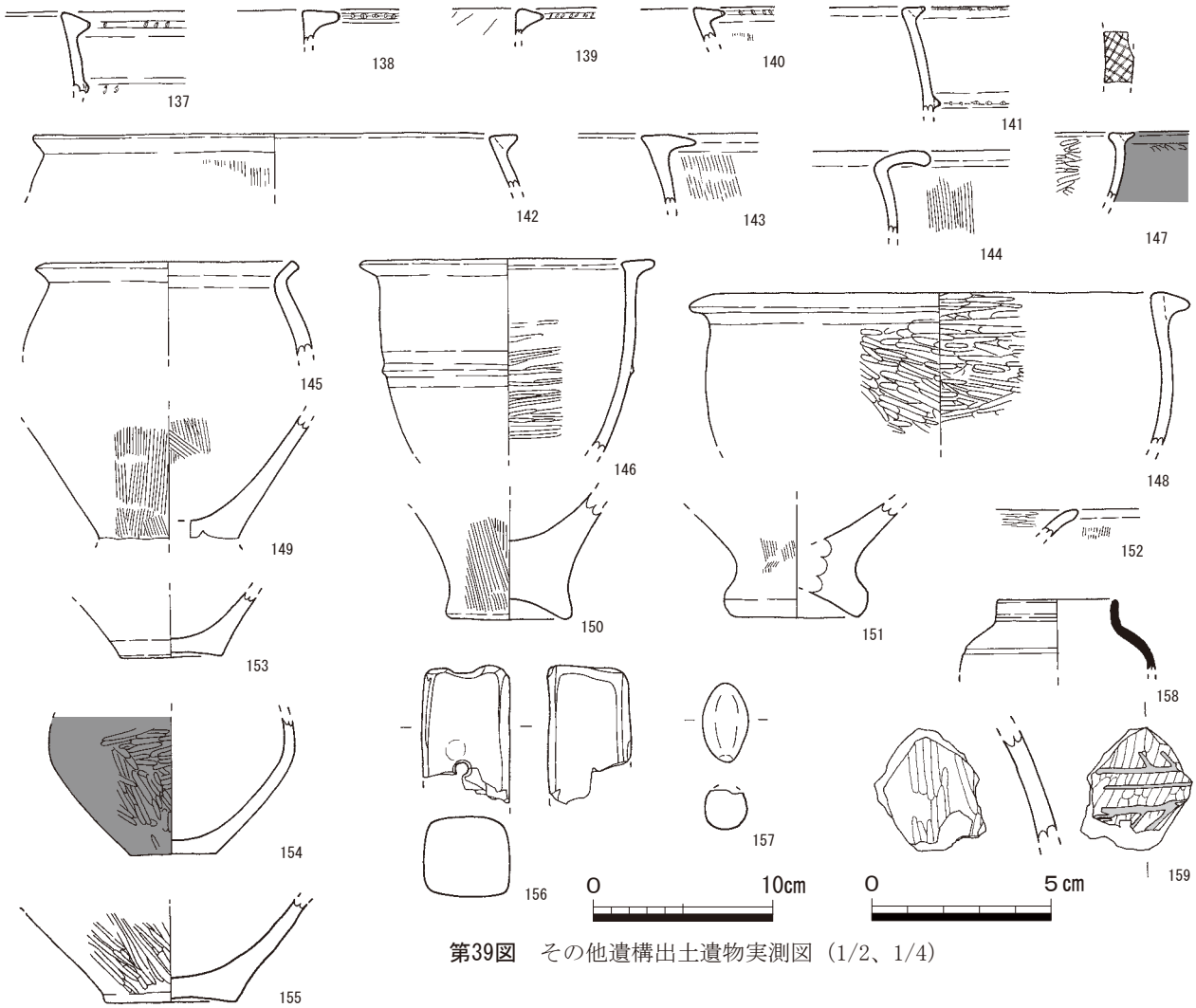
103～105はＳＫ112出土の弥生土器である。103、104は甕で103は断面三角形を有する。104は上げ底の甕の底部と考えられる。外面にミガキを施す。105は壷で口縁部と内面にミガキを施し、内面が黒褐色を呈する黒色磨研土器である。

106～109はＳＫ120出土の弥生土器である。106～108は甕で、106は黒色磨研土器である。丸みを帯びた口縁を有し、胴部に突帯を有する。内面上部と外面突帯下にミガキを施し黒色を呈する。107は逆Ｌ字状口縁で、内側にわずかに突出する。108は底部がわずかに張り出し、底面は白みを帯び、硬質化する。109は壷で内面にハケメ、外面にミガキを施す。

110～112はＳＫ145出土の弥生土器である。110は断面逆Ｌ字状の口縁部で口縁が内側に突出する。111は高坏の脚部で断面M字状の突帯を有し、一部に丹塗り痕跡が残る。112はミニチュア土器の鉢である。

113～116はＳＫ160出土の弥生土器である。113～115が断面逆Ｌ字状口縁で113は口縁部上面が内傾する。頸部内部のナデが不十分なためか段ができている。114は胴が張り、内外面に丹塗りを施す。115は口縁が内側に突出する。116は器台で内外面にハケメを施す。

117～121はＳＫ189出土の弥生土器である。117～119は甕で、117、118は断面逆Ｌ字状口縁である。117の外面口縁部下に灰白色の物質が付着する。118は口縁が内側に突出する。119は内面も胴部が



第39図　その他遺構出土遺物実測図（1/2、1/4）

ほぼ直線的に立ち上がり、底面にミガキ状の調整を施す。120は胴部の立ち上がりが緩やかなため壷とした。外面にハケメを施す。121は鉢で、鋤先状口縁であると想定される。外面にハケメ、内面にナデ調整を施す。内面に放射状にハケを施す。122～128はＳＫ230出土弥生土器である。122～126は甕で、122、123は断面逆Ｌ字状の口縁を有する。122は胴部に1条の突帯を有し、123は口縁が大きく内側に突出する。124はややく字状に頸部が屈折する。125、126はく字状の口縁を有し、126は小型の甕である。127は高坏の頸部で、端部が少し下がる突帯を有する。一部に赤色顔料が残り、突帯から下は頸部の直径が狭くなる。128は器台で内外面にハケメを施す。

129～130はＳＫ530出土の弥生土器である。129は壷で、内面口縁部に突帯を有し、突帯より上位、外面にミガキを施す。130は甕の底部で、内外面に工具ナデ、ナデ調整を行う。

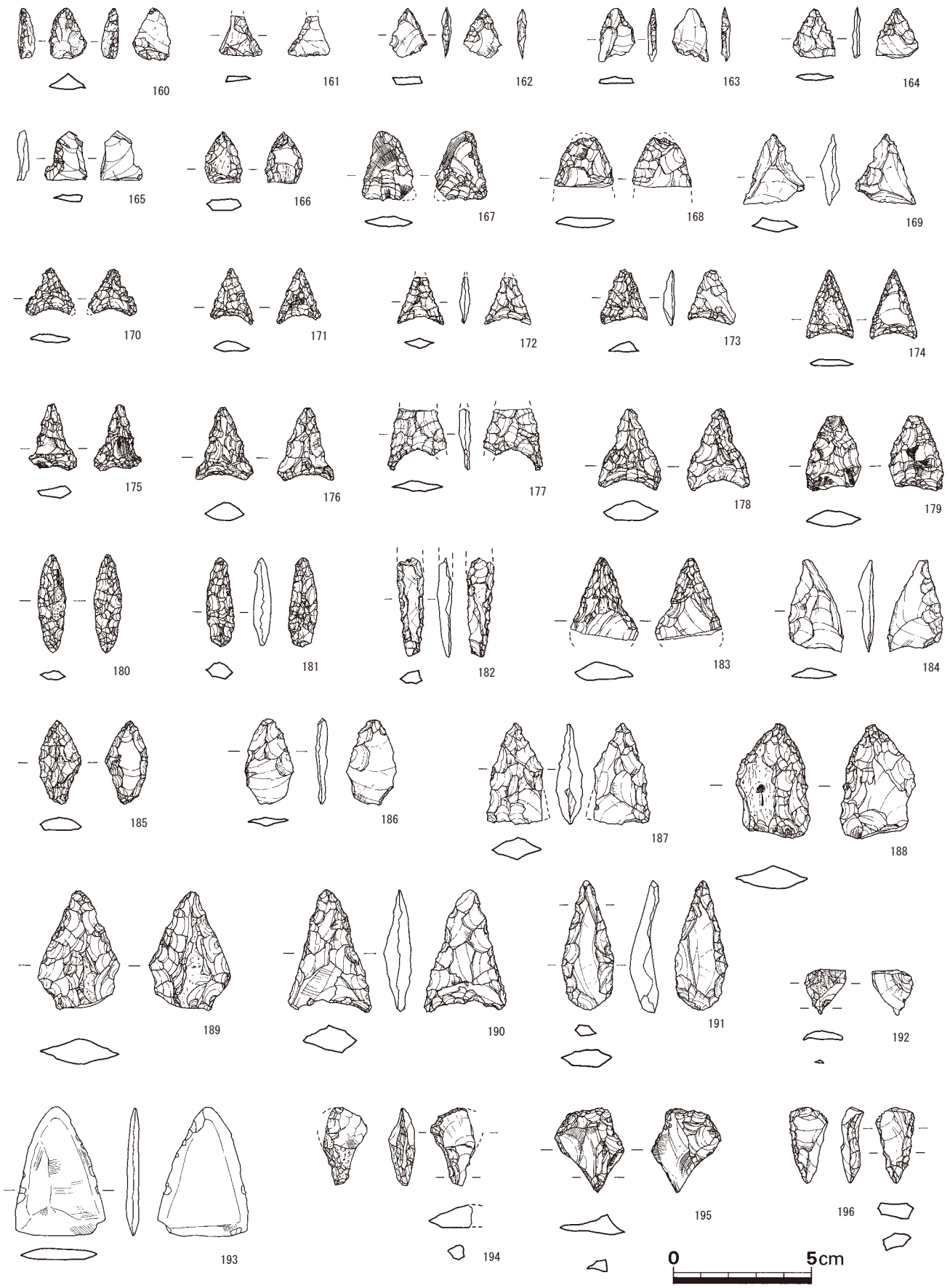
131はＳＫ545出土の壷であり、内外面に丁寧にミガキを施す。

132、133はＳＫ550出土の弥生土器である。132は丸みを帯びた口縁の甕で摩耗が著しく調整は不明瞭である。133は内外面にミガキを施すが、外面は摩耗が著しく調整は不明瞭である。

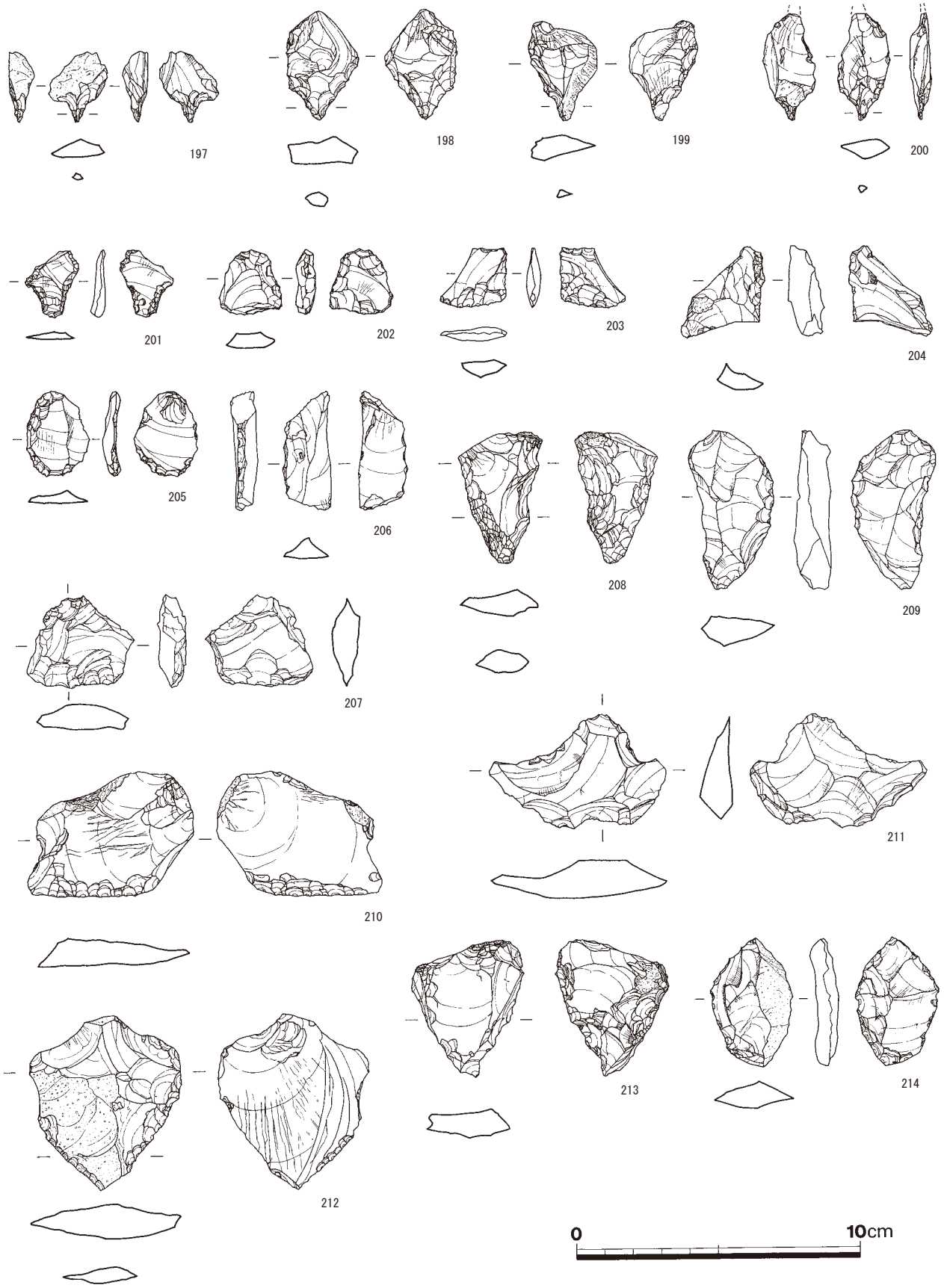
134～136はＳＸ30出土土器である。134は弥生土器の鉢で口縁が狭まり、橙色を呈し硬質である。135は支脚の破片であると考えられ、丁寧にナデ調整を行う。136は須恵器の甕の破片で、内面はハケメ後青海波のタタキ、外面は平行タタキが残る。

137～159は上記以外の遺構や検出面出土の弥生土器、土製品である。137～151は甕で、137～142は断面三角形の口縁である。137～141は口縁端部に刻目を施し、137、141は胴部に刻目を施した突帯を有する。143は逆Ｌ字状口縁でわずかに口縁が内側に突出する。144は口縁がややく字状を呈し、口縁端部がやや垂れる。145は口縁がく字状を呈し、胴が張る。146は逆Ｌ字状の口縁で、口唇部に粘土帯をのせ口縁は内側に少し突出する。内外面にミガキを施し、胎土が層状に剥離する。147は断面逆Ｌ字状口縁を呈し、口縁は内側に突出する。口縁上面はミガキ後格子状の沈線を施す。内外面にミガキを施し、外面は黒色を呈す黒色磨研土器である。148は丸みを帯びた口縁で、内外面にミガキを施し、被熱により外面が一部赤褐色を呈する。149は内外面にハケメを施し、底面に円形の溝状の窪みを有する。150、151は上げ底で、151は底部が張り出し、内外面にナデ調整を施し、黒色を呈する。152～155は壷である。152は内面にミガキを施し、黒色を呈する黒色磨研土器である。153は甕の可能性もある。外面は強い被熱により、大半が暗赤色を呈し器表面が剥離する。内面には灰白色のコゲが付着する。154は外面、底面にミガキを施し、黒色を呈する黒色磨研土器である。155は強い被熱によって内外面が赤みを帯びる。残存する胴部上位の内面には灰白色のコゲが付着する。156は支脚で全体をナデ調整し硬質であり、体部に穿孔を有する。上面には窪みを有し、窪み部は黒色を呈する。157は投弾で丁寧にナデを施し、滑らかに調整している。158は須恵器の壷で口縁は垂直に立ち上がり、肩部に沈線を施す。159は壷の胴部に赤色顔料で有軸羽状文を描く。

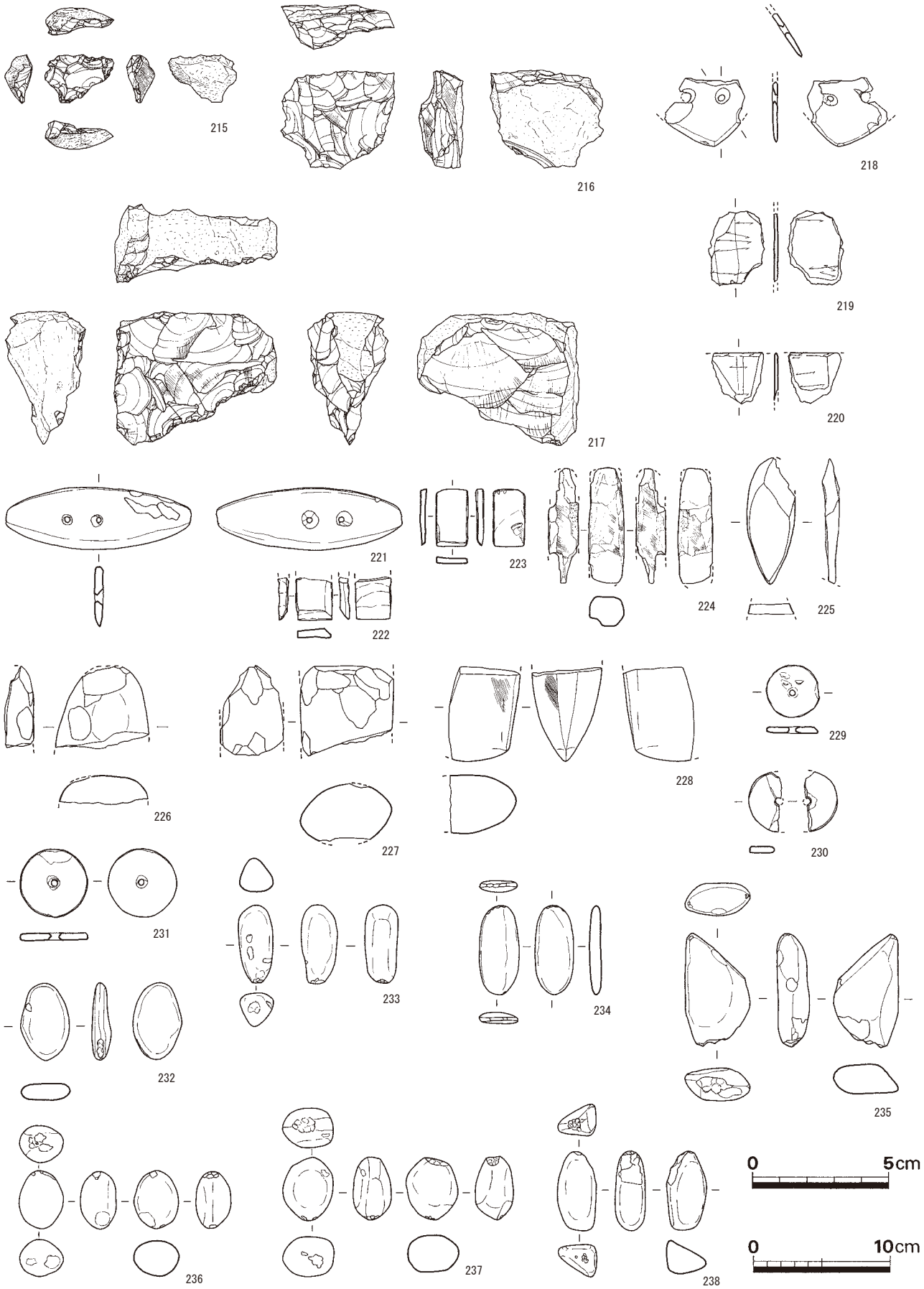
160～266は石製品である。160～191は打製石鏃で161、164～167、169、187、188は平基式、163、170～179、184、190は凹基式、162、180～182、185は尖基式、160、186、191は円基式である。162、163、165、169は未成品の可能性があり、178はわずかに肩が張る。193は平基式の安山岩製磨製石



第40図　出土石製品実測図①（1/2）

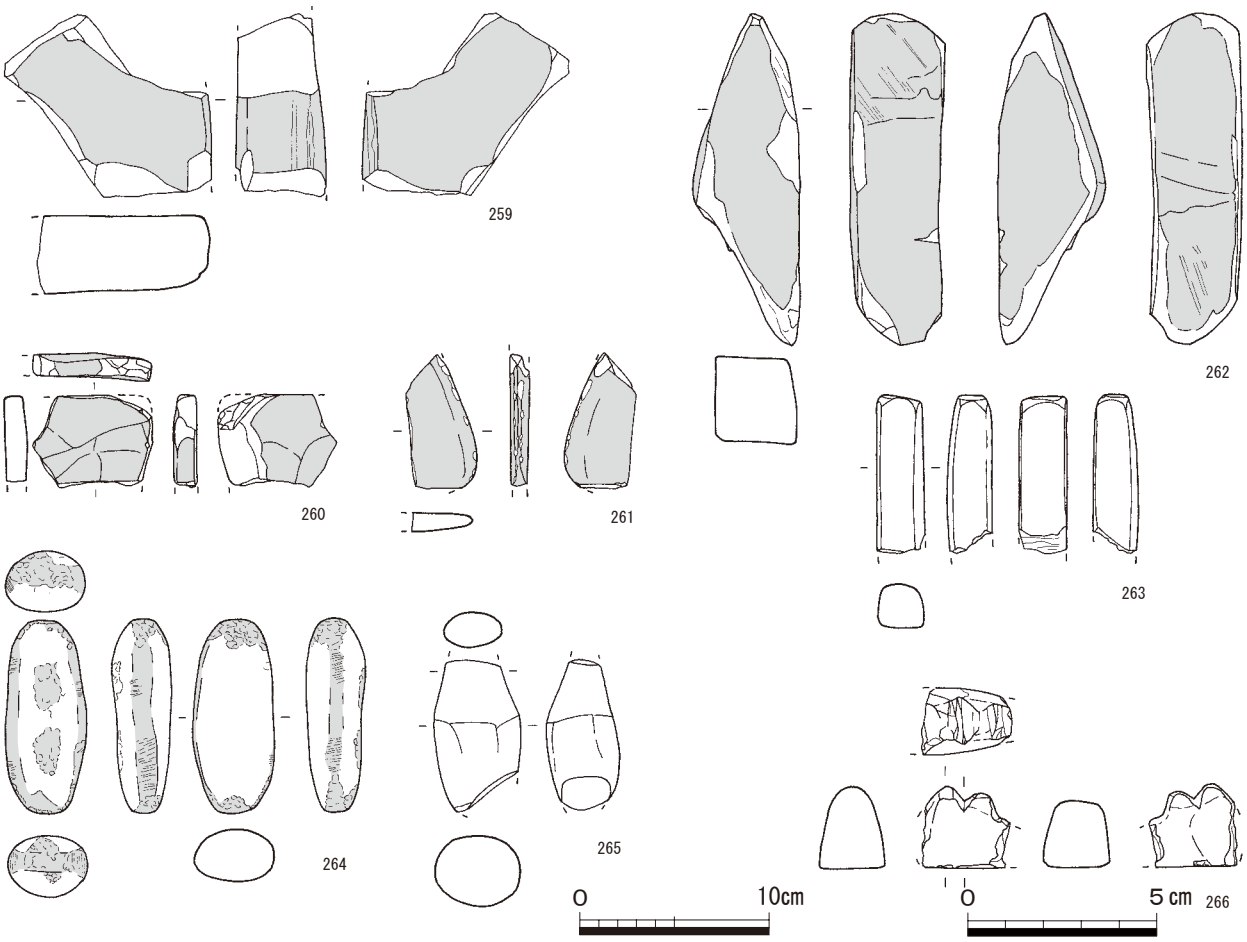


第41図　出土石製品実測図②（1/2）



第42図　出土石製品実測図③（1/2、1/4）

第43図　出土石製品実測図④（1/4）



第44図　出土石製品実測図⑤（1/2、1/4）

鏃である。192・194～200は石錐であり、196は石英製である。201～214はスクレイパーである。215～217は石核である。215、216は円盤状の残核である。217は自然面を打面とする。石鏃、石錐、スクレイパー、石核は196以外黒曜石製、安山岩製である。218～221は石庖丁である。218は背部が欠損し、摩耗が著しい。刃部平面形は三角形状を呈し、刃部は鋭い。219、220は安山岩製の破片で、ともに厚さ３㎜で両面に擦痕が残るため石庖丁である。221は輝緑凝灰岩製で、平面形は楕円形を呈する。刃部両端は鋭いが、中央部は刃こぼれや摩耗が著しい。222、223は泥岩製の扁平片刃石斧である。222は基部が欠損する。224は柱状片刃石斧で刃部、基部を欠損する。225～228は玄武岩製の太型蛤刃石斧である。229～231は紡錘車であり、それぞれ大きさが異なる。232～238、241は敲石である。232、234は扁平で敲打面以外は滑らかである。239、240,242～246は磨石である。表面が磨かれ平坦面を有する。247～249は凹石である。248は敲打面の周辺部と裏面を磨き滑らかになっている。249は少なくとも４面が敲打されている。250～253は台石で平坦面を有する。250は被熱によって表面が剥離し、一部赤色化する。252は底部を磨き、平滑になっている。254～258は軽石製品であり、用途は不明である。254は灰色を呈し平坦面を有する。255は上面に溝が掘られ、下面は窪ませている。256は平端面を有し、一部被熱し赤色化している。257、258は部分的に平坦面を作りだしている。259～261は砥石である。259は砂岩製で砥面も底面もほぼ平坦である。260は

第４表　出土遺物観察表①

遺物No.	図番号	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整		備考	登録番号
					口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	外面	内面		
1	第 34 図	SI220	弥生土器	甕	—	—	(3.5)	橙にぶい赤褐	にぶい橙褐灰	ナデ	ナデ、ハケメ	砂粒を含む	201704000117
2	第 34 図	SI220	弥生土器	甕	—	—	(2.3)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	砂粒を含む	201704000116
3	第 34 図	SI220	弥生土器	甕	—	—	(5.5)	にぶい黄橙褐灰	褐灰～灰黄褐	ナデ、ハケメ	ナデ、オサエ、ハケメ	雲母を少量含む	201704000128
4	第 34 図	SI220	弥生土器	甕	(24.3)	—	(3.3)	褐灰、にぶい橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を含む	201704000115
5	第 34 図	SI220	弥生土器	甕	—	(7.0)	(4.0)	黒灰、褐	黒	ミガキ	—	砂粒を含む	201704000118
6	第 34 図	SI220	弥生土器	壷	—	—	(1.5)	にぶい赤褐、にぶい橙	灰褐	ナデ、ハケメ	ハケメ、ミガキ	細砂粒を含む	201704000119
7	第 34 図	SI220	弥生土器	壷	—	(6.5)	(3.9)	褐灰黒	にぶい黄橙	ミガキ、ナデ	ナデ	砂粒を含む	201704000121
8	第 34 図	SI220	土製品	投弾	4.0	2.4	2.3	黒橙	—	ナデ	—	精良	201704000129
9	第 34 図	SI500	弥生土器	甕	—	—	2.8	灰褐	浅黄橙	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	砂粒を少量含む	201704000164
10	第 34 図	SI500	弥生土器	甕	—	—	2.6	褐灰	にぶい橙～褐灰			砂粒を少量含む	201704000161
11	第 34 図	SI500	弥生土器	甕	—	—	3.1	褐灰	灰黄褐	ナデ、工具ナデ	ナデ	砂粒をやや多量に含む角閃石	201704000163
12	第 34 図	SI500	弥生土器	甕	—	—	1.4	褐灰	褐灰	ミガキ	ミガキ	細砂粒を微量含む	201704000162
13	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	—	10.7	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、工具ナデ	砂粒、赤色粒子を多量に含む	201704000211
14	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	—	6.2	灰褐	灰褐	ナデ、オサエ、ハケメ	ナデ、ハケメ工具ナデ	砂粒を多量に含む	201704000216
15	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	—	7.7	にぶい橙	明褐灰	ナデ	ナデ、工具ナデ	細砂粒を多量に含む金雲母	201704000213
16	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	—	10.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	砂粒、赤色粒子を少量含む	201704000214
17	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	(18.8)	—	5.7	橙	にぶい褐～褐灰	ナデ	ナデ、工具ナデ	砂粒を多量に含む	201704000217
18	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	(22.0)	—	9.4	にぶい橙	橙	ナデ、ハケメ	オサエ、工具ナデ	赤色粒子をやや多量に含む	201704000215
19	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	—	6.9	明褐灰	浅黄橙	ハケメ、ナデ、オサエ	ナデ、工具ナデ	礫を含む石英	201704000212
20	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	8.2	7.5	にぶい橙	褐灰	ハケメ、ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む	201704000224
21	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	5.7	3.8	灰褐	褐灰	工具ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む	201704000227
22	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	(7.0)	4.6	橙	にぶい褐	工具ナデ、ミガキ、ナデ	ナデ	微砂粒を多量に含む角閃石	201704000226
23	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	(7.0)	4.9	にぶい橙	褐灰	工具ナデ、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201704000228
24	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	(6.4)	4.6	にぶい褐	黒褐	ミガキ、工具ナデ	工具ナデ	細砂粒を少量含む。	201704000229
25	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	7.3	6.9	灰褐	にぶい褐	ハケメ、ナデ、工具ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む長石、石英、角閃石、雲母	201704000225
26	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	—	(10.3)	7.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ、工具ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む	201704000223
27	第 34 図	SD149	弥生土器	甕	(13.8)	5.2	14.3	灰褐	橙	ナデ、ハケメ	ナデ、工具ナデ	砂粒、赤色粒子を多量に含む	201704000210
28	第 34 図	SD149	弥生土器	壷	—	—	2.6	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	ミガキ、工具ナデ	細砂粒を少量含む	201704000218
29	第 34 図	SD149	弥生土器	壷	(16.8)	—	5.6	褐灰	褐灰	ナデ	ナデ、工具ナデ	砂粒を多量に含む	201704000219
30	第 34 図	SD149	弥生土器	壷	—	(6.0)	5.8	にぶい橙	灰白	工具ナデ、ナデ	工具ナデ	礫をやや多量に含む	201704000231
31	第 34 図	SD149	弥生土器	壷	—	(6.7)	5.1	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒を少量含む	201704000230
32	第 34 図	SD149	弥生土器	蓋	3.9	—	3.4	にぶい褐	灰褐	ナデ、ミガキ	ミガキ	微砂粒を含む	201704000234
33	第 34 図	SD149	弥生土器	高杯	—	—	2.0	灰褐	灰褐	ナデ	ミガキ	砂粒を多量に含む　長石、角閃石、雲母内面に丹塗り	201704000220
34	第 34 図	SD149	弥生土器	高杯	—	—	5.1	にぶい黄橙	にぶい橙	ハケメ、ナデ	工具ナデ	細砂粒を少量含む	201704000221
35	第 34 図	SD149	弥生土器	器台	—	5.9	5.2	にぶい橙	褐灰	ナデ、オサエ	工具ナデ	砂粒を多量に含む	201704000233
36	第 34 図	SD149	弥生土器	器台	—	(7.1)	8.1	にぶい褐	にぶい褐	オサエ、ナデ	ナデ	細砂粒を多量に含む長石、黒曜石	201704000232
37	第 35 図	SD150	縄文土器	深鉢	—	—	(4.7)	にぶい橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	曽畑式細砂粒を含む　滑石	201704000267
38	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	—	—	4.8	灰黄褐	褐灰	ナデ、オサエ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	精良	201704000250
39	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	(23.6)	—	13.3	灰黄褐	にぶい黄橙	ナデ、工具ナデ	ナデ	礫を多量に含む	201704000296
40	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	(21.0)	—	11.2	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、工具ナデ	ナデ、オサエ、工具ナデ	礫を少量含む	201704000297
41	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	—	—	6.0	橙	橙	ナデ	ナデ、オサエ、工具ナデ	砂粒を含む金雲母、長石	201704000241
42	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	—	—	5.1	灰褐	明褐灰	ナデ	工具ナデ	砂粒を少量含む	201704000235
43	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	—	—	6.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	工具ナデ	砂粒を少量含む	201704000242
44	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	—	—	(9.25)	灰褐	にぶい橙	ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む	201704000251
45	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	(24.8)	—	20.5	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ、工具ナデ	ナデ、オサエ	微砂粒を多量に含む	201704000295
46	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	—	—	(3.5)	淡赤橙	淡赤橙	ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を少量含む	201704000281
47	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	(19.4)	—	7.0	にぶい褐	にぶい褐	ナデ	ナデ、工具ナデ	砂粒を少量含む	201704000285
48	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	—	—	3.4	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒を微量含む	201704000282
49	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	(27.0)	—	4.5	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ、工具ナデ	砂粒を少量含む	201704000244
50	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	(21.3)	—	5.5	灰褐	にぶい褐	ナデ	ナデ、工具ナデ	砂粒を少量含む外面に沈線	201704000236
51	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	—	—	4.8	褐灰	黒褐	ナデ	ナデ、オサエ	細砂粒を少量含む金雲母	201704000286
52	第 35 図	SD150	弥生土器	甕	—	7.0	8.1	にぶい橙	にぶい黄橙	工具ナデ	不明	赤色粒子を多量に含む	201704000298
53	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	(5.2)	—	3.2	灰褐	灰褐	ミガキ	ミガキ	微砂粒を含む	201704000287
54	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	—	—	3.2	灰褐	灰黄褐	ミガキ	ミガキ	細砂粒を微量含む	201704000268
55	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	—	—	4.0	橙	にぶい橙	ナデ、ミガキ	ナデ、工具ナデ	微砂粒を含む	201704000238
56	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	(16.0)	—	4.0	灰褐	灰褐	ナデ工具、ナデ	ナデ、ミガキ	赤色粒子をやや多量に含む	201704000239
57	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	—	—	5.8	橙	橙	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	砂粒を多量に含む長石、金雲母	201704000237
58	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	(17.4)	—	12.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ工具、ナデ	微砂粒を含む金雲母	201704000299
59	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	—	(5.0)	8.7	灰褐	にぶい橙	ミガキ、ナデ	工具ナデ、ミガキ	細砂粒を少量含む	201704000301
60	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	—	(6.4)	1.5	灰褐	橙	ミガキ	工具ナデ、オサエ	砂粒を含む金雲母、長石	201704000269
61	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	—	(6.8)	4.5	黒	黒	ミガキ	ミガキ、工具ナデ	砂粒を少量含む	201704000245
62	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	—	(6.4)	4.3	黒褐	灰褐	ミガキ	工具ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201704000243
63	第 35 図	SD150	弥生土器	蓋	—	—	2.3	灰褐	灰褐	工具ナデ、ナデ	ナデ	細砂粒を含む金雲母	201704000255
64	第 35 図	SD150	弥生土器	蓋	—	—	2.5	にぶい橙	浅黄橙	ミガキ	ミガキ	砂粒、赤色粒子を多量に含む金雲母	201704000254
65	第 35 図	SD150	弥生土器	壷	—	—	(2.4)	明黄褐	橙	ミガキ	ナデ	彩文土器精良	201704000252
66	第 36 図	SD510	弥生土器	甕	(26.2)	5.8	26.0	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ工具ナデ	砂粒を多量に含む	201704000171
67	第 36 図	SD510	弥生土器	甕	(25.1)	—	21.6	にぶい黄橙～褐灰	にぶい黄橙	ナデ工具、ナデ	ナデ工具ナデ	砂粒を多量に含む	201704000175
68	第 37 図	SD510	弥生土器	甕	—	—	2.4	灰黄褐	灰黄褐	ナデ	ナデ	砂粒を含む赤色粒子	201704000174
69	第 37 図	SD510	弥生土器	甕	—	—	3.7	黒	にぶい橙	ナデ工具、ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む	201704000172
70	第 37 図	SD510	弥生土器	甕	—	—	5.1	にぶい黄橙	灰褐	ナデ、ハケメ	オサエ工具ナデ	細砂粒を少量含む	201704000173
71	第 37 図	SD510	弥生土器	甕	(23.4)	—	13.6	褐灰	褐灰	ナデ工具、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201704000178
72	第 37 図	SD510	弥生土器	甕	(27.4)	—	15.2	にぶい黄橙～黒	にぶい黄橙	ナデ	ナデ、工具ナデオサエ	砂粒を少量含む	201704000177
73	第 37 図	SD510	弥生土器	甕	—	—	11.9	浅黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ工具ナデ	細砂粒を多量に含む金雲母	201704000176
74	第 37 図	SD510	弥生土器	甕	—	(6.6)	8.5	褐灰	褐灰	工具ナデ、ナデ	工具ナデ	細砂粒を多量に含む角閃石	201704000179
75	第 37 図	SD510	弥生土器	甕	—	7.3	16.6	灰黄褐	にぶい橙	工具ナデ、ナデ	工具ナデナデ、オサエ	砂粒を多量に含む	201704000180

第５表　出土遺物観察表②

遺物No.	図番号	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整		備考	登録番号
					口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	外面	内面		
76	第 37 図	SD510	弥生土器	壷	—	—	3.3	褐灰	黒	ナデ、工具ナデ	ミガキ	砂粒、赤色粒子を少量含む	201704000181
77	第 37 図	SD510	弥生土器	壷	(21.5)	—	3.5	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ミガキ	礫を微量含む長石	201704000183
78	第 37 図	SD510	弥生土器	壷	(13.2)	—	5.4	灰褐	灰褐	ミガキ	ミガキ	砂粒を多量に含む金雲母	201704000182
79	第 37 図	SD510	弥生土器	鉢	—	—	3.3	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	細砂粒を少量含む	201704000184
80	第 37 図	SD510	土製品	投弾	(2.3)	(2.3)	(2.3)	橙	—	ナデ	ナデ	重量８ｇ	201704000185
81	第 37 図	SK10	弥生土器	甕	—	—	(5.2)	灰褐橙	褐灰	ナデ	ナデ	赤色粒子を含む	201704000002
82	第 37 図	SK10	弥生土器	甕	—	(6.6)	(6.1)	褐灰、にぶい橙	褐灰、橙	ハケメ、ナデ	ナデ	精良	201704000005
83	第 37 図	SK10	弥生土器	甕	—	(6.0)	(2.3)	褐灰、にぶい橙	褐灰	工具ナデ、オサエ	ナデ	礫、赤色粒子を含む長石	201704000003
84	第 37 図	SK40	弥生土器	甕	—	—	(2.1)	にぶい橙、褐灰	にぶい橙	ナデ	ナデ	雲母を含む	201704000014
85	第 37 図	SK40	弥生土器	甕	—	—	(2.0)	褐灰	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	精良	201704000013
86	第 37 図	SK50	弥生土器	甕	21.0	(6.2)	28.8	赤にぶい橙、黒	赤褐、黒	ナデ、ミガキ、ハケメ	ナデ	精良	201704000016
87	第 37 図	SK52	弥生土器	鉢	—	—	(4.0)	にぶい橙橙	褐灰、橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む雲母、角閃石、長石	201704000017
88	第 37 図	SK52	弥生土器	鉢	—	—	(4.5)	褐灰	黒	ミガキ、ナデ	工具ナデ、ミガキ	輝石を含む	201704000018
89	第 37 図	SK53	弥生土器	甕	(16.1)	—	(4.8)	にぶい橙、にぶい褐	にぶい褐			少量の雲母を含む	201704000019
90	第 37 図	SP193	弥生土器	甕	—	—	(2.0)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒を含む	201704000108
91	第 37 図	SK158	弥生土器	甕	(21.2)	—	(3.3)	褐灰	橙	ナデ	ナデ	砂粒を含む長石	201704000085
92	第 37 図	SP194	弥生土器	甕	(24.5)	—	(4.8)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を含む長石、雲母、角閃石	201704000111
93	第 37 図	SK100	弥生土器	甕	—	—	(4.0)	灰褐	にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒、赤色粒子を含む長石	201704000032
94	第 37 図	SK100	弥生土器	甕	—	(6.8)	(2.2)	にぶい橙	黒	ナデ	ナデ	砂粒を含む長石、雲母	201704000035
95	第 37 図	SK100	弥生土器	壷	—	—	(2.6)	橙、にぶい橙	褐灰、にぶい橙	ナデ	ミガキ	白色砂粒を含む	201704000034
96	第 37 図	SK100	弥生土器	甕	—	—	(2.3)	にぶい橙、褐灰	褐灰	ナデ	ナデ	砂粒、赤色粒子を含む長石	201704000033
97	第 38 図	SK103	弥生土器	甕	—	—	(3.4)	赤灰～にぶい橙	赤灰	ナデ、ハケメ	ナデ	長石を含む	201704000041
98	第 38 図	SK103	弥生土器	甕	—	—	(2.0)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	輝石を含む	201704000040
99	第 38 図	SK110	弥生土器	甕	—	—	(2.5)	にぶい橙、褐灰	橙	ナデ	ナデ	精良	201704000044
100	第 38 図	SK115	弥生土器	甕	—	—	(2.7)	にぶい黄橙	褐灰	ナデ	ナデ	雲母を少量含む	201704000054
101	第 38 図	SK115	弥生土器	甕	—	—	(3.0)	褐灰、にぶい橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ、工具ナデ	精良	201704000053
102	第 38 図	SK115	弥生土器	鉢	—	—	(3.0)	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	精良	201704000055
103	第 38 図	SK112	弥生土器	甕	—	—	(4.3)	にぶい褐	にぶい赤褐、にぶい褐	ナデ	ナデ	砂粒を少量含む雲母	201704000047
104	第 38 図	SK112	弥生土器	甕	—	—	(2.5)	明褐灰、にぶい橙	明褐灰、にぶい橙	ミガキ、ナデ	—	ほぼ精良	201704000048
105	第 38 図	SK112	弥生土器	壷	—	—	(2.6)	褐灰	黒褐	ナデ	ミガキ	砂粒を含む	201704000049
106	第 38 図	SK120	弥生土器	甕	—	—	(4.5)	黒	黒	ミガキ、ナデ	ミガキ	精良	201704000059
107	第 38 図	SK120	弥生土器	甕	(25.2)	—	(5.7)	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	雲母を多量に含む	201704000060
108	第 38 図	SK120	弥生土器	甕	—	6.9	(2.4)	にぶい橙、褐灰	にぶい橙、褐灰	ハケメ、工具ナデ	—	砂粒を含む底部に白色の付着物	201704000061
109	第 38 図	SK120	弥生土器	壷	—	—	(3.5)	にぶい橙、赤褐	橙、褐灰	ナデ	ハケメ	精良	201704000062
110	第 38 図	SK145	弥生土器	甕	—	—	(4.7)	にぶい黄橙	にぶい橙、橙	ナデ、ハケメ	ナデ	輝石を少量含む	201704000072
111	第 38 図	SK145	弥生土器	高杯	—	—	(9.3)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	—	輝石を少量含む	201704000073
112	第 38 図	SK145	弥生土器	ミニチュア土器	(5.3)	—	4.7	褐灰	褐灰	手づくね	手づくね	砂粒を含む	201704000074
113	第 38 図	SK160	弥生土器	甕	(25.2)	—	(3.7)	にぶい橙、橙	にぶい橙橙、褐灰	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を含む	201704000097
114	第 38 図	SK160	弥生土器	甕	(25.2)	—	(7.3)	橙赤	橙赤	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む内外面に丹塗り	201704000095
115	第 38 図	SK160	弥生土器	甕	—	—	(5.7)	にぶい黄橙、橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	ほぼ精良	201704000096
116	第 38 図	SK160	弥生土器	器台	—	—	(8.5)	にぶい橙	にぶい橙、橙	ハケメ、ナデ	ナデ、ハケメ	ほぼ精良	201704000098
117	第 38 図	SP189	弥生土器	甕	—	—	(1.5)	灰白橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒を含む	201704000101
118	第 38 図	SP189	弥生土器	甕	—	—	(1.9)	橙	橙	ナデ	ナデ	精良	201704000102
119	第 38 図	SP189	弥生土器	甕	—	(9.2)	(4.9)	淡橙褐灰	褐灰、にぶい橙	ハケメ、ナデ	ナデ	精良	201704000103
120	第 38 図	SP189	弥生土器	壷	—	(9.1)	(3.8)	にぶい橙、橙	橙	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を含む	201704000104
121	第 38 図	SP189	弥生土器	鉢	—	—	(7.3)	橙	黒	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	砂粒を少量含む雲母	201704000105
122	第 38 図	SK230	弥生土器	甕	(28.7)	—	(5.6)	橙、にぶい橙	橙、灰褐	ナデ	ナデ	ほぼ精良	201704000145
123	第 38 図	SK230	弥生土器	甕	(31.1)	—	(3.9)	にぶい橙、黒	褐灰、にぶい橙、橙	ナデ	ナデ	砂粒を含む	201704000144
124	第 38 図	SK230	弥生土器	甕	(32.0)	—	(2.9)	にぶい橙、黄橙	にぶい橙、黄橙	ナデ	ナデ	砂粒を含む	201704000147
125	第 38 図	SK230	弥生土器	甕	(31.2)	—	(3.9)	にぶい橙、黒	褐灰、にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒を含む	201704000140
126	第 38 図	SK230	弥生土器	甕	(12.0)	—	(4.0)	赤橙	赤橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を含む	201704000143
127	第 38 図	SK230	弥生土器	高杯	(6.9)	—	(6.5)	にぶい橙、赤	褐灰	ナデ	ナデ	ほぼ精良	201704000146
128	第 38 図	SK230	弥生土器	器台	—	(14.0)	14.6	にぶい橙	にぶい橙	ハケメ、ナデ	ハケメ工具、ナデ、オサエ	微砂粒を含む角閃石、金雲母	201704000141
129	第 38 図	SP530	弥生土器	壷	—	—	3.9	橙～黒	橙～灰	ミガキ、工具ナデ	ミガキ、ナデ	礫を少量含む	201704000195
130	第 38 図	SP530	弥生土器	甕	—	(7.2)	5.4	にぶい橙	灰褐	工具、ナデナデ	工具ナデ	砂粒を少量含む	201704000194
131	第 38 図	SP545	弥生土器	壷	—	—	2.8	にぶい橙	橙	ミガキ	ミガキ	微砂粒	201704000200
132	第 38 図	SP550	弥生土器	甕	—	—	3.3	にぶい黄、橙	褐灰	ナデ	ナデ	礫を多量に含む	201704000202
133	第 38 図	SP550	弥生土器	壷	—	—	3.9	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ、ミガキ	砂粒を少量含む	201704000203
134	第 38 図	SK30	弥生土器	無頸壷	(8.2)	—	(9.0)	橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ、オサエ	礫を含む	201704000010
135	第 38 図	SK30	土製品	支脚	—	—	(3.8)	褐灰	明褐灰	ナデ、ケズリ	—	雲母を少量含む	201704000011
136	第 38 図	SK30	須恵器	甕	—	—	(4.7)	灰	灰	タタキ(平行)	ハケメ、タタキ(青海波)	砂粒を含む石英	201704000381
137	第 39 図	SP99	弥生土器	甕	—	—	(4.6)	褐灰～灰褐	灰褐、褐灰	ナデ	ナデ	砂粒を少量含む雲母	201704000029
138	第 39 図	SP239	弥生土器	甕	—	—	1.9	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	精良	201704000154
139	第 39 図	SP131	弥生土器	甕	—	—	(1.5)	褐灰	にぶい橙、灰	ナデ	工具ナデ	精良	201704000069
140	第 39 図	SK157	弥生土器	甕	—	—	(1.9)	褐灰	褐灰	ナデ、ハケメ	ナデ	精良	201704000080
141	第 39 図	SP190	弥生土器	甕	—	—	(5.9)	黒褐、にぶい橙	橙、灰褐	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む角閃石、雲母	201704000106
142	第 39 図	SP225	弥生土器	甕	(27.2)	—	(2.8)	黒	褐灰、にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ	ほぼ精良	201704000136
143	第 39 図	SP237	弥生土器	甕	—	—	3.9	灰褐	灰褐	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を少量含む角閃石	201704000152
144	第 39 図	SP503	弥生土器	甕	—	—	4.7	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	細砂粒を含む角閃石	201704000170
145	第 39 図	SP503	弥生土器	壷	(13.7)	—	5.3	にぶい橙	褐灰	ナデ工具、ナデ	ナデ工具、ナデ	砂粒を少量含む角閃石	201704000169
146	第 39 図	SP569	弥生土器	甕	(16.0)	—	10.9	灰褐	灰褐	ミガキ、ナデ	ミガキ	精良	201704000206
147	第 39 図	SP129	弥生土器	甕	—	—	(4.0)	黒	橙	ミガキ	ナデ、ミガキ	精良	201704000067
148	第 39 図	SP91	弥生土器	甕	(28.0)	—	(8.6)	赤褐橙、黒	にぶい橙	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	砂粒を含む長石、赤色粒子	201704000026
149	第 39 図	SP582	弥生土器	甕	—	(7.8)	6.9	にぶい橙	にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ、工具ナデ	細砂粒を少量含む角閃石	201704000209
150	第 39 図	SP236	弥生土器	甕	—	6.0	6.7	灰黄褐	灰黄褐	ハケメ、ナデ	不明	砂粒を多量に含む角閃石	201704000151

第６表　出土遺物観察表③

遺物No.	図番号	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整		備考	登録番号
					口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	外面	内面		
151	第 39 図	SP131	弥生土器	甕	—	(6.8)	(6.4)	黒	黒	ハケメ工具、ナデ	工具ナデ	礫を多量に含む	201704000068
152	第 39 図	SP512	弥生土器	壺	—	—	1.6	にぶい橙	黒	ナデ、ハケメ	ミガキ	細砂粒、赤色粒子を少量含む 角閃石	201704000187
153	第 39 図	SP228	弥生土器	壺	—	5.6	(3.2)	褐灰、にぶい橙	にぶい橙、にぶい赤、褐灰	ナデ	ナデ	砂粒を含む 器面被熱	201704000138
154	第 39 図	SP191	弥生土器	壺	—	4.8	(7.7)	黒褐灰、橙	にぶい黄橙	ミガキ、ナデ	ナデ	砂粒を含む	201704000107
155	第 39 図	SP57	弥生土器	壺	—	7.5	(5.7)	橙、にぶい橙、暗灰	赤、灰赤	ミガキ、ナデ	ナデ	礫を多量に含む	201704000590
156	第 39 図	SP232	弥生土器	支脚	7.7	4.9	4.5	にぶい橙	—	ナデ	—	中央部付近に穿孔	201704000149
157	第 39 図	SP228	土製品	投弾	4.5	2.5	—	橙	黒褐	ナデ	—	ほぼ精良	201704000139
158	第 39 図	SP538	須恵器	壺	6.6	—	4.0	灰	灰			微砂粒を含む	201704000198
159	第 39 図	SK112	弥生土器	壺	—	—	(3.4)	灰黄褐	橙	ミガキ	ミガキ	彩文土器 微細粒を含む 長石	201704000050
160	第 40 図	SD150	石製品	石鏃	1.8	1.9	0.6	黒				安山岩製 重量1.4g	201704000273
161	第 40 図	SD150	石製品	石鏃	(1.4)	1.5	0.2	暗灰				安山岩製 重量0.5g	201704000290
162	第 40 図	SP91	石製品	石鏃	1.8	1.3	0.4	黒				黒曜石製 重量0.5g	201704000027
163	第 40 図	SP92	石製品	石鏃	1.9	1.3	0.3	黒				黒曜石製 重量0.7g	201704000028
164	第 40 図	SP239	石製品	石鏃	1.8	1.5	0.3	黒				安山岩製 重量0.7g	201704000155
165	第 40 図	SK103	石製品	スクレイパー	1.8	1.5	0.4	黒				黒曜石製 重量1g	201704000043
166	第 40 図	検出面	石製品	石鏃	1.9	1.3	0.4	暗灰				安山岩製 重量1.1g	201704000304
167	第 40 図	検出面	石製品	石鏃	2.5	1.8	0.4	黒				黒曜石製 重量1.7g	201704000307
168	第 40 図	SI220	石製品	石鏃	(1.8)	(2.2)	0.4	暗灰				安山岩製 重量1.9g	201704000126
169	第 40 図	SK100	石製品	石鏃	2.6	2.2	1.2	黒				安山岩製 重量2.2g	201704000036
170	第 40 図	SI220	石製品	石鏃	1.7	1.7	0.3	黒				黒曜石製 重量0.6g	201704000132
171	第 40 図	検出面	石製品	石鏃	2.0	1.6	0.4	黒				黒曜石製 重量0.8g	201704000305
172	第 40 図	検出面	石製品	石鏃	(1.7)	1.7	0.4	黒				安山岩製 重量0.7g	201704000303
173	第 40 図	SK110	石製品	石鏃	2.0	1.7	0.4	黒				黒曜石製 重量0.9g	201704000046
174	第 40 図	SD150	石製品	石鏃	2.5	1.7	0.3	暗灰				安山岩製 重量1.0g	201704000256
175	第 40 図	SP516	石製品	石鏃	2.5	1.7	0.4	黒				黒曜石製 重量1.2g	201704000190
176	第 40 図	SI500	石製品	石鏃	2.6	2.1	0.7	暗灰				重量２．２ｇ	201704000167
177	第 40 図	SD150	石製品	石鏃	(2.2)	(2.1)	0.4	黒				安山岩製 重量1.4g	201704000150
178	第 40 図	SK157	石製品	石鏃	3.0	2.3	0.7	暗灰				安山岩製 重量3.0g	201704000081
179	第 40 図	SP534	石製品	石鏃	2.7	2.0	0.6	黒				黒曜石製 重量2.7g	201704000197
180	第 40 図	検出面	石製品	石鏃	3.6	1.0	0.4	暗灰				安山岩製 重量1.4g	201704000306
181	第 40 図	SK40	石製品	石鏃	3.3	1.0	0.6	黒				黒曜石製 重量2g	201704000015
182	第 40 図	SK158	石製品	石鏃	3.6	1.0	5.0	黒				安山岩製 重量1.9g	201704000087
183	第 40 図	SD150	石製品	石鏃	(3.0)	(2.4)	0.7	暗灰				安山岩製 重量4.1g	201704000248
184	第 40 図	SK103	石製品	石鏃	3.4	2.0	0.6	黒				安山岩製 重量2.7g	201704000042
185	第 40 図	SP193	石製品	石鏃	3.0	1.5	0.5	暗灰				安山岩製 重量2.4g	201704000110
186	第 40 図	SP81	石製品	石鏃	3.1	1.8	0.4	黒				安山岩製 重量1.9g	201704000021
187	第 40 図	SP8	石製品	石鏃	3.7	(2.0)	0.9	黒				安山岩製 重量5.8g	201704000001
188	第 40 図	SI220	石製品	石鏃	4.2	2.7	0.9	暗灰				黒曜石製 重量8.8g	201704000133
189	第 40 図	SP231	石製品	石鏃	4.3	3.0	1.0	暗灰				安山岩製 重量8.7g	201704000148
190	第 40 図	SP17	石製品	石鏃	4.4	3.0	1.0	黒				安山岩製 重量8.9g	201704000006
191	第 40 図	SP123	石製品	石鏃	4.8	1.9	1.0	黒				安山岩製 重量7.2g	201704000065
192	第 40 図	SP156	石製品	石錐	1.7	1.5	0.4	暗灰				安山岩製 重量0.8g	201704000078
193	第 40 図	SP154	石製品	磨製石鏃	4.7	3.3	0.5	黒				安山岩製か 重量7.4g	201704000077
194	第 40 図	SD150	石製品	石錐	2.8	(1.6)	(0.9)	暗灰				安山岩製 重量2.9g	201704000293
195	第 40 図	検出面	石製品	石錐	3.1	2.5	0.7	黒				黒曜石製 重量3.7g	201704000311
196	第 40 図	SK158	石製品	石錐	2.8	1.4	0.8	灰白				石英製 重量2.5g	201704000088
197	第 41 図	SP156	石製品	石錐	2.5	2.1	0.9	黒				安山岩製 重量3.1g	201704000079
198	第 41 図	検出面	石製品	石錐	3.9	2.6	1.0	暗灰				安山岩製 重量8.8g	201704000310
199	第 41 図	SI220	石製品	石錐	3.5	2.4	0.8	暗灰				安山岩製 重量4.7g	201704000125
200	第 41 図	SD150	石製品	石錐	(3.8)	(1.8)	0.7	暗灰				安山岩製 重量3.6g	201704000272
201	第 41 図	SK112	石製品	スクレイパー	2.4	1.9	0.5	黒				黒曜石製 重量1.2g	201704000051
202	第 41 図	SP119	石製品	スクレイパー	2.3	2.2	0.7	黒				安山岩製　石鏃未製品 重量3g	201704000058
203	第 41 図	SP90	石製品	スクレイパー	2.1	2.2	0.5	黒				安山岩製 重量2.1g	201704000025
204	第 41 図	SP99	石製品	スクレイパー	3.2	3.0	1.2	黒				黒曜石製 重量6.9g	201704000030
205	第 41 図	SK100	石製品	スクレイパー	3.0	2.2	0.6	黒				黒曜石製 重量3.0g	201704000039
206	第 41 図	SK160	石製品	スクレイパー	4.2	1.7	0.8	暗灰				安山岩製 重量6.2g	201704000099
207	第 41 図	SK100	石製品	スクレイパー	3.3	3.8	1.0	黒				安山岩製 重量11.5g	201704000038
208	第 41 図	SI220	石製品	スクレイパー	4.6	2.9	0.8	暗灰				安山岩製 重量11.5g	201704000124
209	第 41 図	SP85	石製品	スクレイパー	5.6	3.0	1.3	黒				安山岩製 重量19.6g	201704000024
210	第 41 図	SK157	石製品	スクレイパー	5.9	4.4	1.0	暗灰				安山岩製 重量30.3g	201704000082
211	第 41 図	カクラン	石製品	スクレイパー	6.2	4.1	1.2	黒				安山岩製 重量22.4g	201704000314
212	第 41 図	SI220	石製品	スクレイパー	6.2	5.3	1.2	暗灰				安山岩製 重量32.8g	201704000123
213	第 41 図	SP255	石製品	スクレイパー	4.8	4.0	1.1	暗灰				安山岩製 重量18.2g	201704000160
214	第 41 図	SP131	石製品	スクレイパー	4.5	2.9	1.0	暗灰				安山岩製 重量10.4g	201704000070
215	第 42 図	SP83	石製品	石鏃	2.5	1.7	1.0	黒				黒曜石製 重量2.9g	201704000022
216	第 42 図	SP72	石製品	石核	4.2	3.6	1.6	黒				黒曜石製 重量21.7g	201704000020
217	第 42 図	SK112	石製品	石核	5.9	4.9	2.9	黒				黒曜石製 重量55.9g	201704000052
218	第 42 図	SD150	石製品	石包丁	(5.0)	(6.0)	(0.4)	灰				重量１６．９ｇ	201704000302
219	第 42 図	検出面	石製品	石包丁？	4.0	5.4	0.3	黒				安山岩製 重量12.6g	201704000009
220	第 42 図	検出面	石製品	石包丁	(3.8)	(3.7)	0.3	黒				安山岩製 重量7.5g	201704000008
221	第 42 図	SP550	石製品	石包丁	4.6	(13.6)	0.6	赤灰				重量６２．７ｇ	201704000205
222	第 42 図	SP225	石製品	扁平片刃石斧	3.1	2.7	0.8	黒				重量１２．７ｇ	201704000137
223	第 42 図	SP83	石製品	扁平片刃石斧	4.2	2.3	0.6	暗青灰				重量１２．２ｇ	201704000023
224	第 42 図	SP239	石製品	磨製石斧	(8.5)	(2.5)	(2.1)	黒				重量６８ｇ	201704000157
225	第 42 図	SD150	石製品	石斧	9.3	3.5	0.8	黄灰				重量３６ｇ	201704000292

第７表　出土遺物観察表④

遺物No.	図番号	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整		備考	登録番号
					口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	外面	内面		
226	第 42 図	SD150	石製品	不明	6.1	6.9	2.1	黄灰				重量１１４ｇ	201704000289
227	第 42 図	SK100	石製品	石斧	(6.6)	6.8	(4.0)	灰				重量２９６ｇ	201704000037
228	第 42 図	SD510	石製品	磨製石斧	(6.9)	(5.2)	(4.3)	灰				重量２７０ｇ	201704000186
229	第 42 図	SP125	石製品	紡錘車	3.9	(3.8)	0.6	灰オリーブ				片岩製重量11.7g	201704000066
230	第 42 図	SK158	石製品	紡錘車	(4.4)	(2.4)	0.5	灰				重量８ｇ	201704000091
231	第 42 図	SD150	石製品	紡錘車	5.0	5.0	0.5	灰黄褐				重量２３．５ｇ	201704000247
232	第 42 図	SP118	石製品	叩石	5.7	3.6	1.3	黄灰				重量４０ｇ	201704000057
233	第 42 図	SK110	石製品	叩石	5.8	2.5	2.5	灰				重量５４ｇ	201704000045
234	第 42 図	SD150	石製品	叩石	6.5	2.9	0.9	褐灰				重量３１．７ｇ	201704000246
235	第 42 図	SD150	石製品	叩石	(8.3)	4.8	2.2	にぶい褐				重量１１２ｇ	201704000261
236	第 42 図	検出面	石製品	叩石	4.3	3.3	2.7	灰褐				重量５０ｇ	201704000313
237	第 42 図	SD150	石製品	叩石	(4.6)	3.8	2.7	灰白				重量６４ｇ	201704000262
238	第 42 図	SD150	石製品	叩石	(5.9)	2.9	2.4	灰				重量５４ｇ	201704000263
239	第 43 図	SK30	石製品	磨石	4.3	1.9	1.6	褐灰				重量１４．３ｇ	201704000012
240	第 43 図	SK158	石製品	磨石	2.9	2.9	0.8	灰白				重量８ｇ	201704000090
241	第 43 図	SD150	石製品	磨石	(3.9)	2.8	1.4	暗灰黄				重量２２ｇ	201704000280
242	第 43 図	SD150	石製品	磨石	3.6	2.5	2.6	黄灰				重量３６ｇ	201704000277
243	第 43 図	SK160	石製品	磨石	3.8	3.1	1.9	褐灰、にぶい黄橙				重量３０ｇ	201704000094
244	第 43 図	SK160	石製品	磨石	4.4	3.1	1.6	褐灰、にぶい灰赤				重量３６．６ｇ	201704000093
245	第 43 図	SP545	石製品	磨石	(3.3)	2.6	(1.4)	灰				重量１９．４ｇ	201704000201
246	第 43 図	SD150	石製品	磨石	3.7	3.7	2.3	にぶい橙				重量３８ｇ	201704000276
247	第 43 図	SP99	石製品	凹石	(7.1)	(5.1)	(3.7)	褐灰				重量１３６ｇ	201704000031
248	第 43 図	SP530	石製品	凹石	(9.1)	(6.0)	(5.5)	黄灰				重量４３０ｇ	201704000196
249	第 43 図	SP576	石製品	凹石	(9.4)	5.1	(6.5)	にぶい橙				重量３９２ｇ	201704000208
250	第 43 図	SD150	石製品	磨石	(10.7)	(6.2)	(3.9)	にぶい橙				被熱か重量438g	201704000264
251	第 43 図	SD150	石製品	磨石	(13.5)	(4.6)	(4.8)	黄灰				重量２６０ｇ	201704000266
252	第 43 図	SP26	石製品	台石	13.5	12.2	7.4	灰				重量1900g	201704000007
253	第 43 図	SD150	石製品	磨石	(10.4)	(7.4)	(2.9)	灰白				重量２３４ｇ	201704000265
254	第 43 図	SD150	石製品	軽石製品	3.5	3.0	1.9	灰				重量１８ｇ	201704000279
255	第 43 図	SP550	石製品	軽石製品	12.4	7.6	4.5	褐灰				重量１１８．４ｇ	201704000204
256	第 43 図	SD150	石製品	不明	(16.2)	(11.0)	(8.4)	黄灰灰白、橙				重量２９２ｇ	201704000542
257	第 43 図	SP237	石製品	軽石製品	10.5	9.8	6.5	にぶい黄橙				重量１４６ｇ	201704000153
258	第 43 図	SP521	石製品	軽石製品	11.1	9.0	7.2	にぶい褐				重量１８６ｇ	201704000192
259	第 43 図	SD149	石製品	砥石	(10.9)	(5.3)	(4.2)	褐灰				砂岩製重量510g	201704000222
260	第 43 図	SI220	石製品	砥石	(4.9)	(6.3)	(1.3)	にぶい黄～灰黄				砂岩製重量55.1g	201704000122
261	第 43 図	SD150	石製品	砥石	(7.1)	(3.8)	(1.0)	灰				重量３８ｇ	201704000278
262	第 43 図	SK120	石製品	砥石	(17.6)	5.7	(4.5)	灰白				重量５４０ｇ	201704000064
263	第 43 図	SP116	石製品	不明	(8.3)	2.5	2.3	にぶい黄、橙				重量９４ｇ	201704000056
264	第 43 図	SP575	石製品	叩石	10.2	4.3	2.9	暗灰				重量２０６ｇ	201704000207
265	第 43 図	SD150	石製品	不明	(8.0)	4.7	3.8	黄灰				重量１５６ｇ	201704000284
266	第 43 図	SP512	石製品	不明	(2.4)	(1.8)	2.2	灰黄				砂岩製重量10.5g	201704000189

砂岩製で側面も使用している。261は白色の凝灰岩製で、６面の砥面を有する。262～266は用途不明石製品である。262は玄武岩製で全面を磨き、縁部が細かく欠ける。263は片岩製で４面の平坦面を作りだす。264は全面を磨き、上下と表面に敲打痕を有し、側面には擦痕が強く残る。265は砂岩製で全面を磨いて成形し、中央から上部が狭まる。266は白色の凝灰岩製で、両端が欠損しており、高まりが２カ所残る。上面は狭まり、底面は平坦に加工している。

４．小　結

本調査では、狭い調査範囲ながら多くの遺構、遺物を検出した。特に調査区北部、ＳＤ150の北側は遺構が密集している。狭い調査範囲であるため溝の走行方向の詳細は不明であるが、北東を中心に緩やかに曲がっているため、弥生時代前期末から中期初頭の集落の中心が北東方向にあった可能性がある。埋土に貝殻を含んだ遺構が多いためか、動物骨などが多く出土し、ＳＸ４・30ではまとまった状態で検出している。今回は紙面の都合上報告できないが、動物遺存体については来年度以降に改めて報告する。

（小川原）

第45図　北区全景と塚崎御廟塚（北上空から）

第46図　北区全景（北東上空から）

第47図　北区東部完掘状況（東から）

第48図　北区西部完掘状況（西から）

第49図　南区全景（東上空から）

第50図　ＳＩ220完掘状況（南東から）

第51図　ＳＩ500完掘状況（北東から）

第52図　ＳＤ149・150土層（南東から）

第53図　ＳＰ150土層（北西から）

第54図　ＳＩ220、ＳＤ150土層（北西から）

第55図　ＳＤ150東部掘削状況（南東から）

第56図　ＳＤ150西部掘削状況（北西から）

第57図　ＳＤ150貝検出状況（北西から）

第58図　ＳＤ150貝検出状況（北西から）

第59図　ＳＤ150遺物出土状況（北から）

第60図　ＳＤ510土層（北から）

第61図　ＳＤ510完掘状況（北から）

第62図　ＳＫ10完掘状況（西から）

第63図　ＳＫ40土層（南から）

第64図　ＳＸ４動物骨検出状況①（南から）

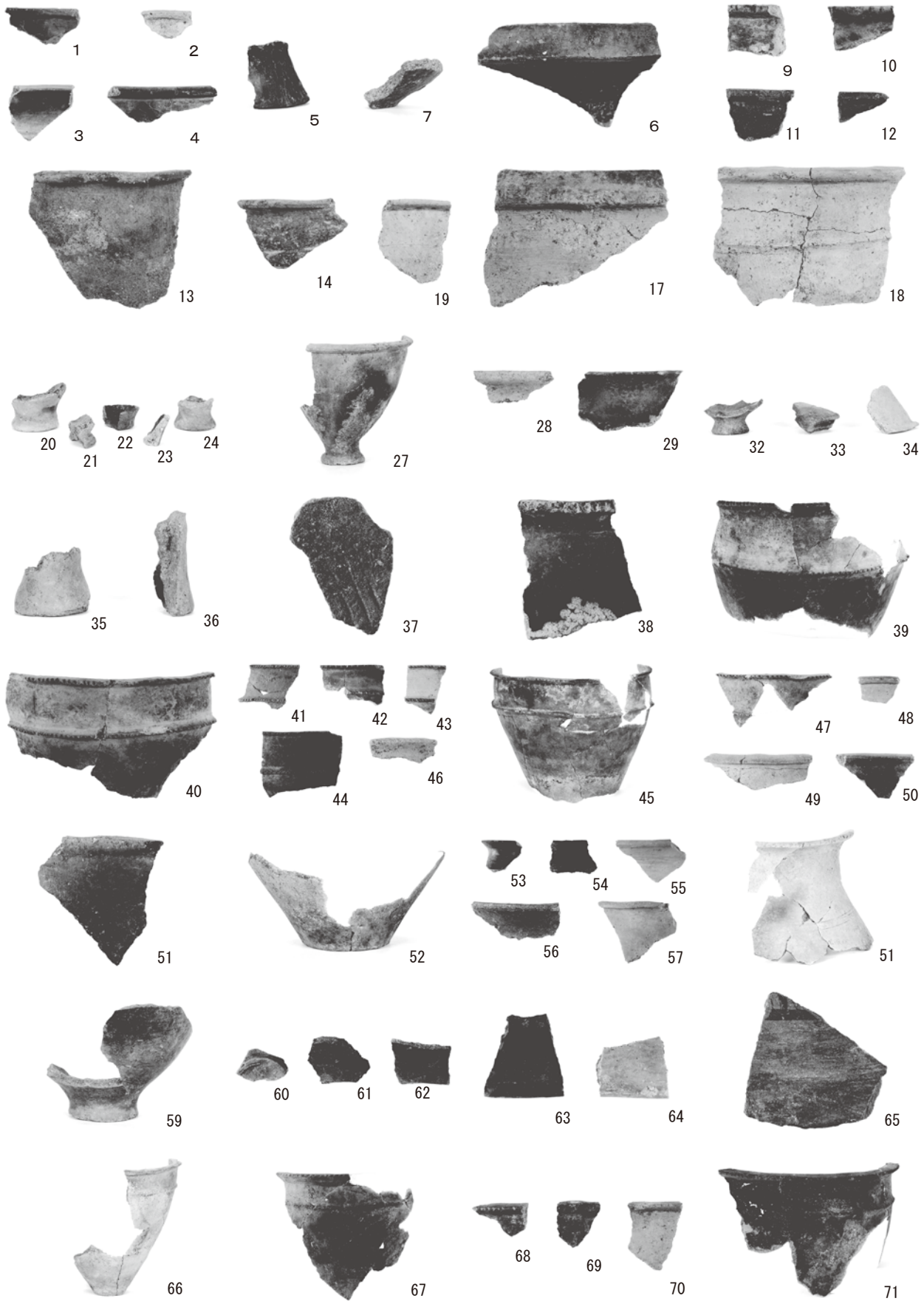
第65図　ＳＸ４馬骨検出状況②（東から）

第66図　ＳＸ30馬骨検出状況①（東から）

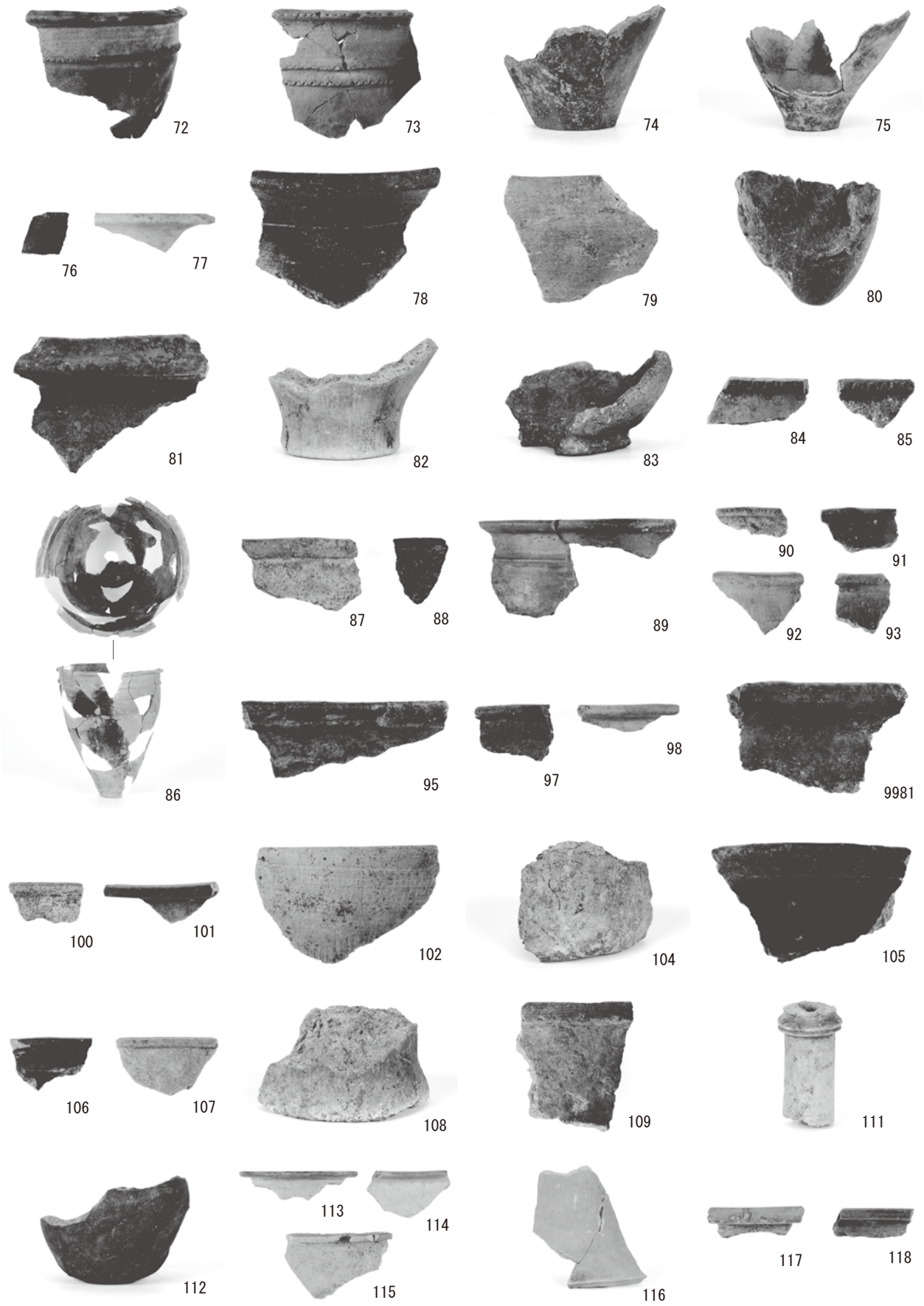
第67図　ＳＸ30馬骨検出状況②（西から）

第68図　調査区東壁噴砂検出状況（西から）

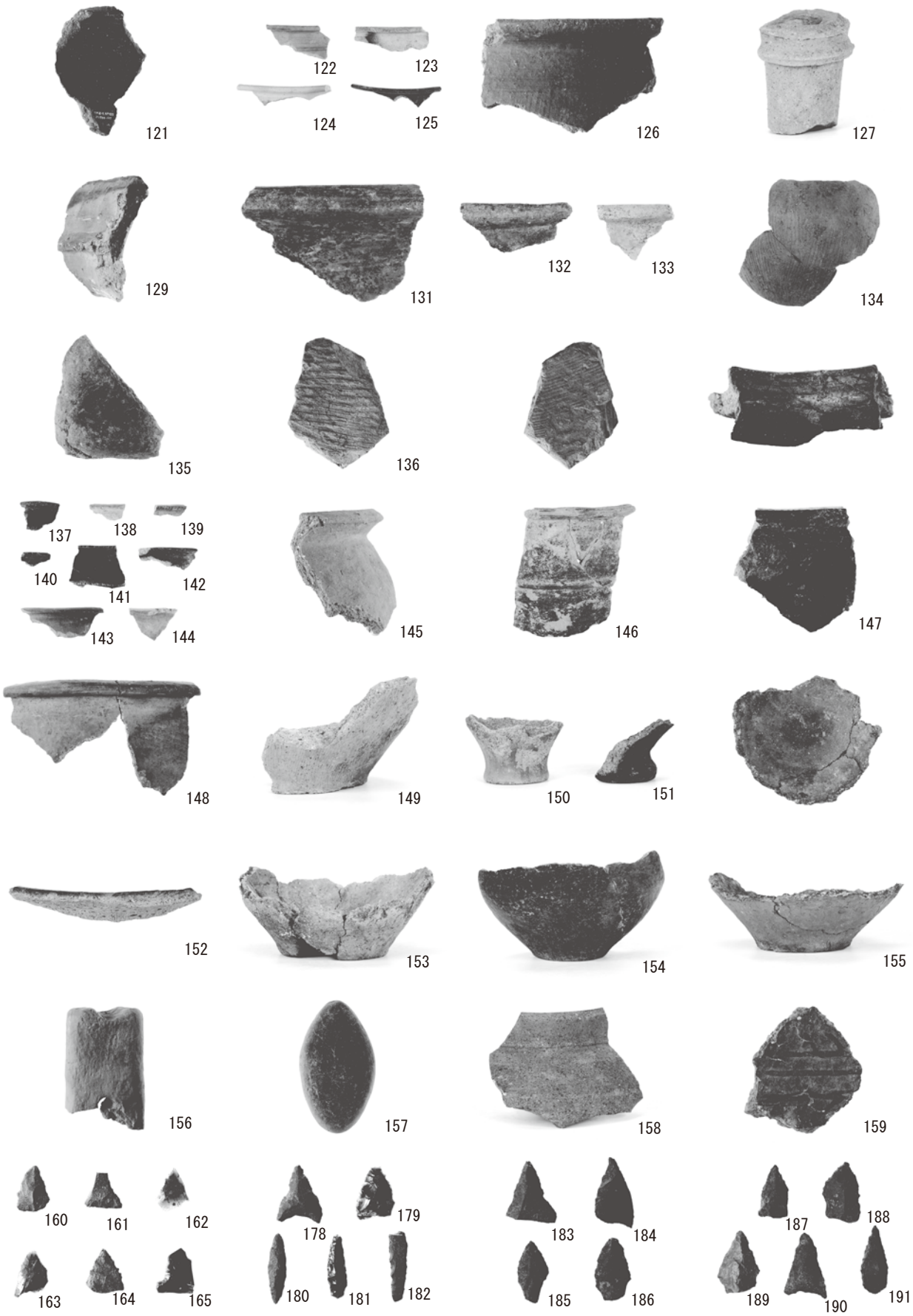
第69図　調査区南部噴砂検出状況（西から）



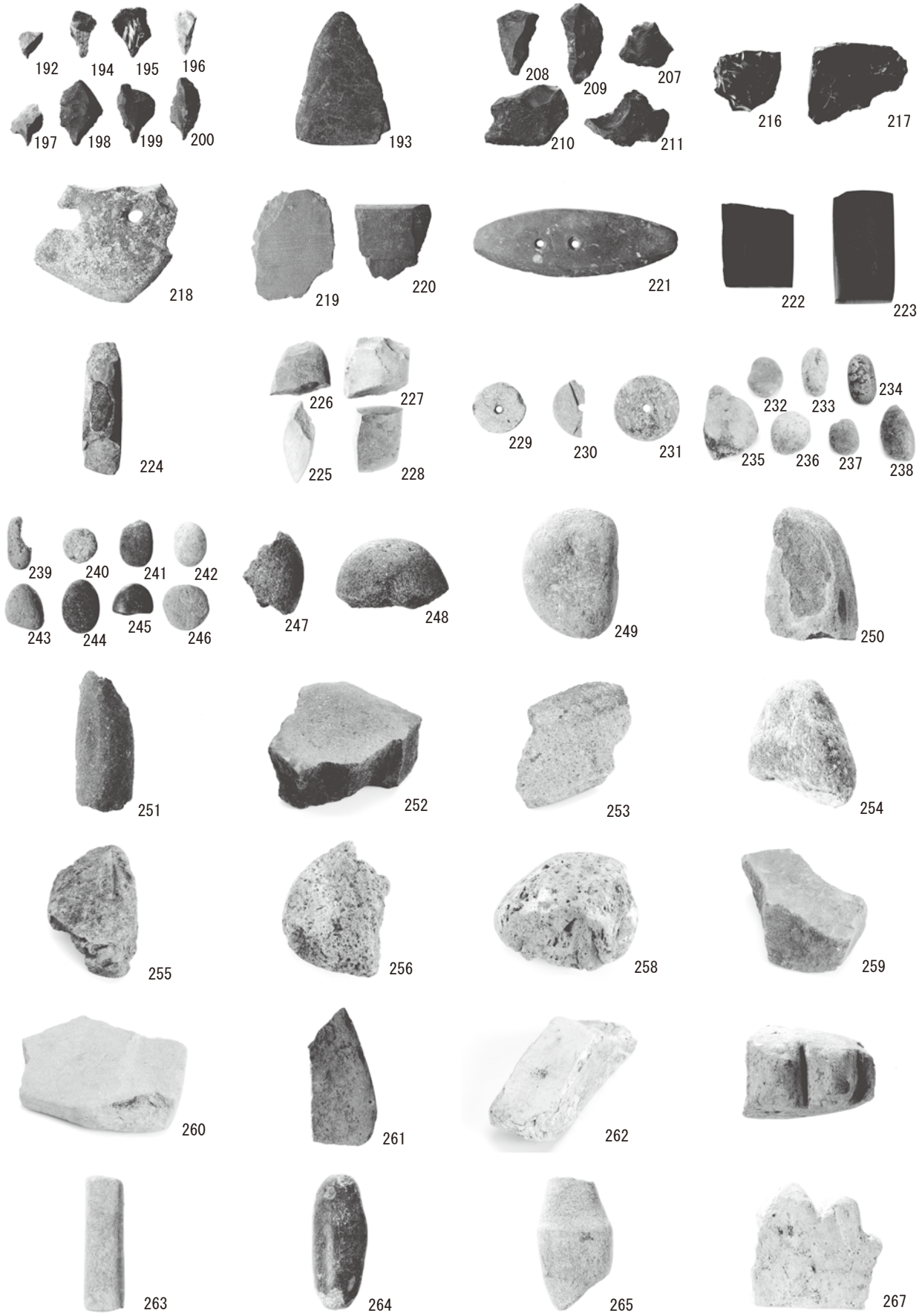
第70図　出土遺物写真①



第71図　出土遺物写真②



第72図　出土遺物写真③



第73図　出土遺物写真④

Ⅴ．第８次調査

１．調査に至る経緯

平成29年７月25日、土地所有者より久留米市三潴町高三潴72-１における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内であり、高三潴遺跡第６次調査の西50ｍ、第７次調査の南東100ｍに位置する。西隣に位置する塚崎東畑遺跡では甕棺墓や竪穴建物跡が検出されており、本調査地でも同様の状況であることが想定された。今回の開発では遺跡への影響が低く、保存調整を図ったが、遺跡の内容を鑑み一部確認調査を実施することで所有者と協議を行い、８月16日にその旨を回答した。９月26日、土地所有者から発掘調査の依頼が提出され確認調査を実施する運びとなった。現地での発掘調査は、平成29年10月10日から開始し、12月15日に完了した。対象面積は220㎡で、調査面積は158㎡である。

２．調査の記録

（１）調査の経過

今回の発掘調査は、高三潴遺跡における遺構の位置・範囲確認を主な目的として実施した。なお、排土置き場を確保するため、調査区は道路部分の北区と遺跡が破壊される南区の２箇所を設定した。平成29年10月10日に器材を搬入し、重機による表土剥ぎを行った。南区から作業を行い、遺構の検出や遺構掘削、個別遺構の実測、測量、写真撮影を順次実施した。11月28日に調査区の清掃を行い、気球により全景写真を撮影した。その後、遺物の取り上げや、残りの個別遺構の実測や測量、写真撮影を行い、12月15日に埋め戻して、器材の撤収を行い、現地での発掘調査を終了した。

（２）基本層序

北区では0.2～0.5ｍの暗灰色砂質土の表土が堆積し、東部では撹乱による削平が著しい。南区では0.2～0.6ｍの暗灰色砂質土、0.2ｍの暗褐色粘質土、0.2ｍの暗灰色粘質土が堆積する。削平を受けているが、南区の検出面は低く、弥生時代も北から南に標高が下っていたと考えられる。

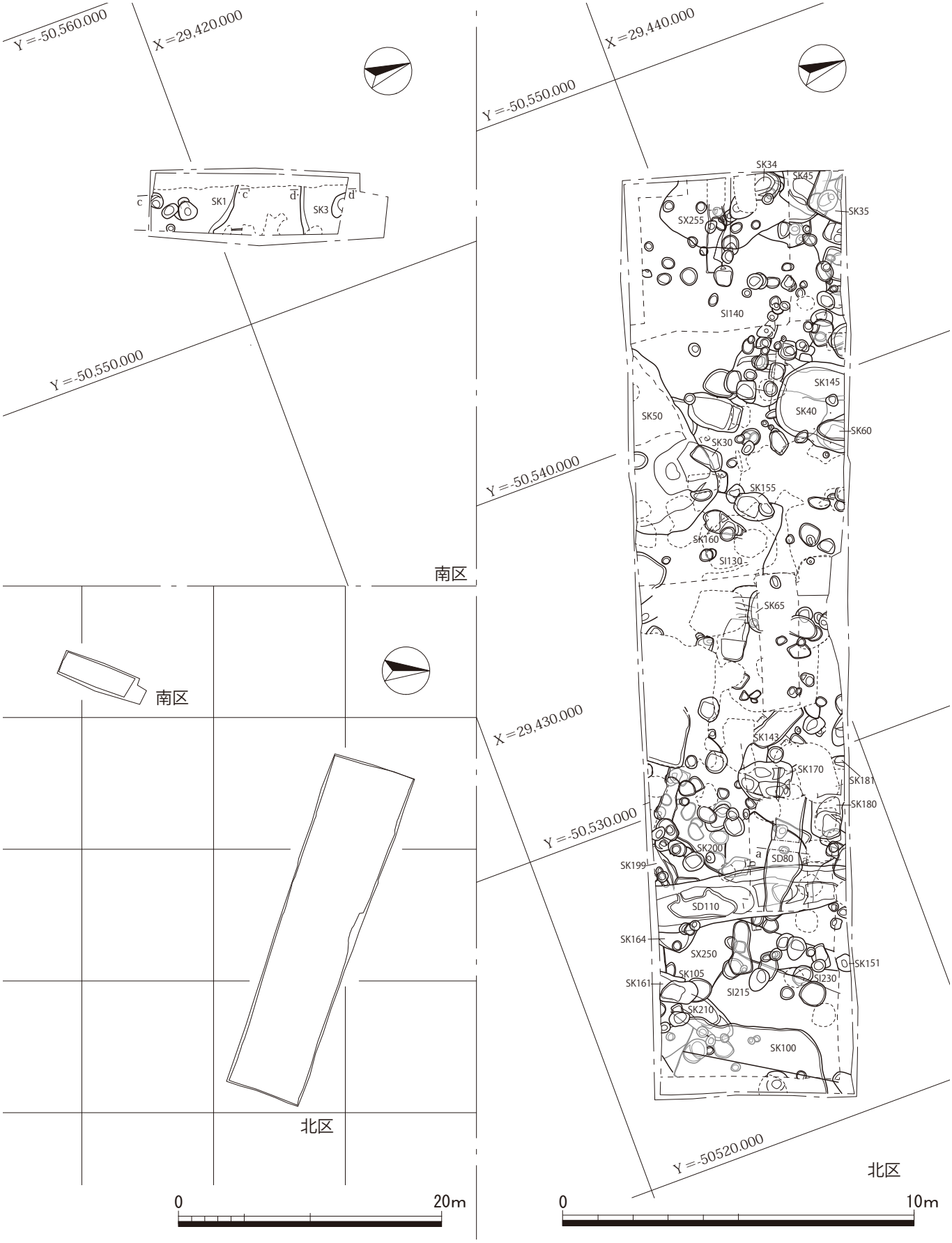
（３）遺構の概要

遺構は、竪穴建物４棟、溝２条、土坑26基、不明遺構２基、その他ピットを検出した。以下、各遺構について述べる。なお、確認調査のため一部の遺構は上面確認に留めている。

竪穴建物

ＳＩ130（第74図）

北区中央部で検出した。１段掘削したのみで完掘はしていない。東側は撹乱によって削平され、南側は調査区外へ延びるが、平面形は方形を呈すると考えられる。他遺構の掘削後確認された断面



第74図　遺構配置図（1/150）

から、底面が平坦であることが確認されたため竪穴建物とした。長軸3.9m以上、短軸2.7m以上を測る。弥生時代中期初頭以前に属する。

ＳＩ140（第74・108図）

北区西部で検出した。複数の遺構が重複しているが、平面形は円形を呈すると考えられる。直径5.4m以上、西部の深さ0.2mを測り、ＳＫ50に先出する。弥生時代中期中葉以前に属する。

ＳＩ215（第74・109図）

北区東部で検出した。北側は調査区外へ延びるが、平面形は方形を呈する。長軸4.5m以上、短軸3.9m以上、深さ0.15mを測る。底面は平坦である。弥生土器や石器、土製品が出土している。弥生時代中期前葉に属する。

ＳＩ230（第74・110図）

北区東部で検出した。他遺構に重複しているため平面形は不明であるが、床面が平坦面であること、平面形の辺が直線的であるため竪穴建物とした。長軸1.6m、短軸0.6m、深さ0.2mを測り、ＳＩ215に先出する。弥生土器が出土している。弥生時代前期末から中期初頭に属する。

溝

ＳＤ80（第75・111・112図）

北区東部で検出した。長さ4.1m以上、上面幅1.1m、深さ0.3m、軸はＮ－61°－Ｗを測り、ＳＤ110に後出する。底面はほぼ平坦である。弥生土器、土師器、土製品、須恵器が出土する。古墳時代以降に属する。

ＳＤ110（第75・113図）

北区東部で検出した。長さ5.4m、上面幅1.4m、深さ0.9m、軸はＮ－13°－Ｅを測る。南側が最も深く、北側に４つの段を有する。弥生土器、土師器、土製品、須恵器が出土する。古墳時代前期に属する。

土坑

ＳＫ１（第75・114図）

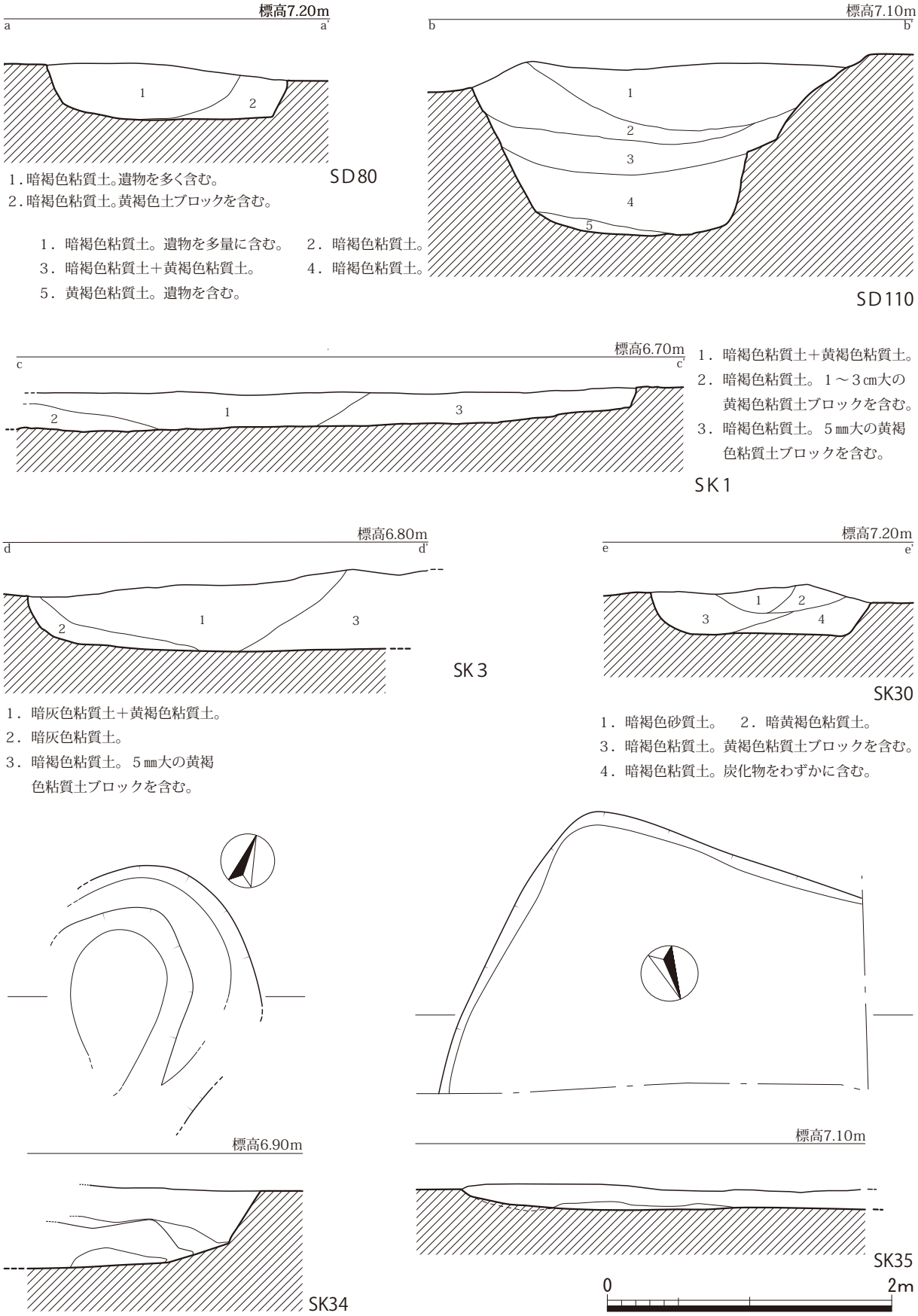
南区南部で検出した。平面形は円形に近いが、東部で外側に反れる。竪穴建物の可能性もあるが、平面形が歪であるため土坑とした。底面は平坦である。長軸2.2m以上、短軸1.5m以上、深さ0.3mを測る。弥生土器や石器、土製品が出土している。弥生時代前期末から中期初頭に属する。

ＳＫ３（第75・115図）

南区北部で検出した。確認できた範囲が狭いため、平面形が円形になるか方形になるか不明である。底面は平坦であり竪穴建物の可能性があるが、一部のみの検出であるため土坑とした。長軸２m以上、短軸1.8m以上、深さ0.3mを測る。弥生土器、貝殻が出土している。弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ30（第75図）

北区中央部で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸0.9m、短軸0.5m、深さ0.2mを測り、



第75図　ＳＤ80・110、ＳＫ１・３・30・土層図ＳＫ34・35遺構実測図（1/40）

ＳＫ50に後出するように検出した。弥生土器が出土している。遺物は弥生時代中期初頭でＳＫ50の時期より古くなるため、遺構の前後関係が逆の可能性もある。

ＳＫ34（第75図）

北区西部で検出した。南部は撹乱により削平されているが、平面形は円形を呈すると考えられ、北部に段を有する。直径は１ｍ、深さ0.3ｍを測る。弥生土器が出土しており、弥生時代前期に属する。

ＳＫ35（第75図）

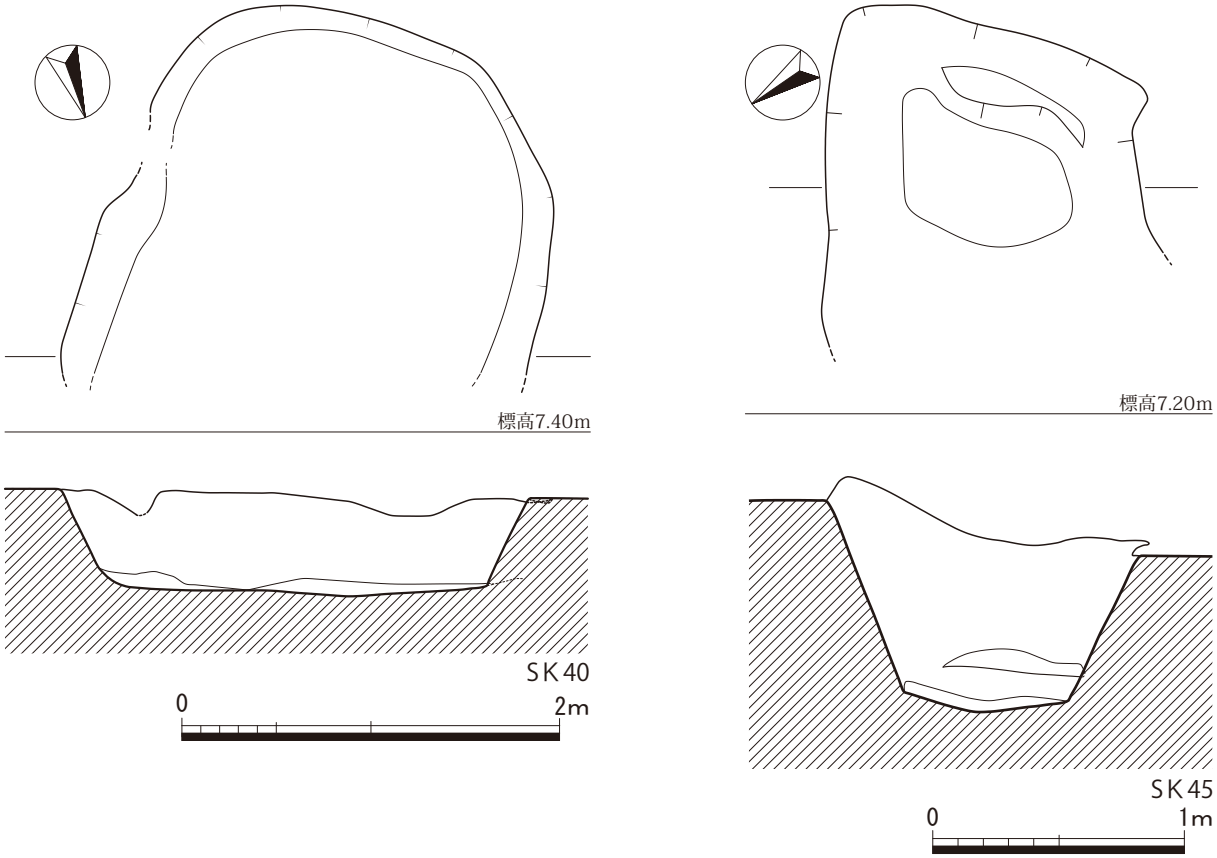
北区北西部に属する。大部分が調査区外へ延びるが、平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。長軸1.4ｍ以上、短軸1.1ｍ、深さ0.1ｍを測る。弥生土器や石器、土製品が出土しており、弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ40（第76・116図）

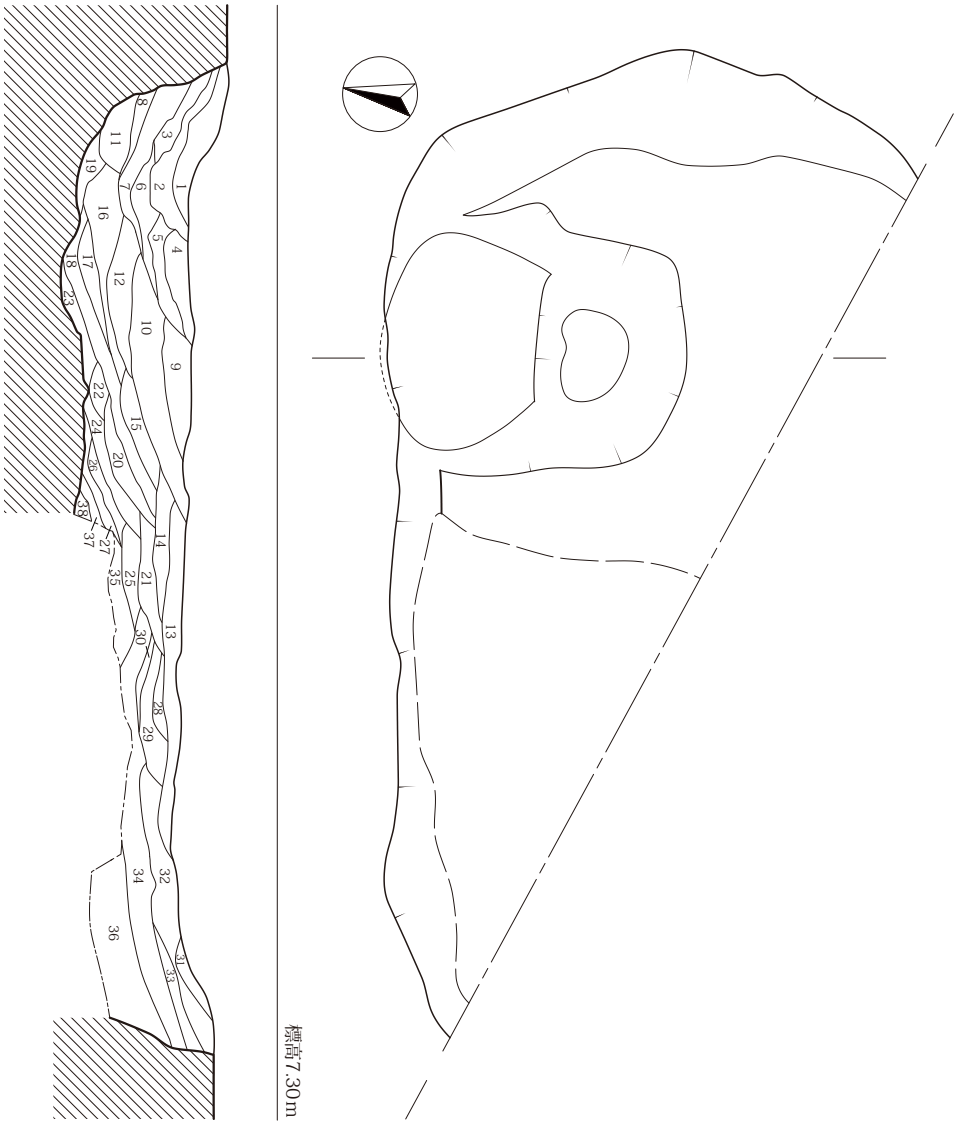
北区西部で検出した。北部が調査区外へ延びるが、平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。長軸2.4ｍ以上、短軸２ｍ以上、深さ0.6ｍを測り、複数の遺構が重複している可能性もある。弥生土器や石器、土製品が出土しており、弥生時代中期前葉に属する。

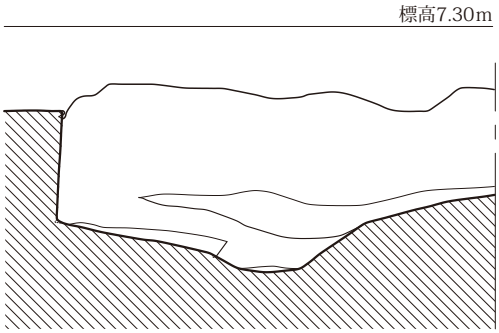
ＳＫ45（第76・117図）

北区北西部で検出した。西部が調査区外へ延びるが、隅丸方形を呈すと考えられ、北部に段を有



第76図　ＳＫ40・45実測図（1/30、1/40）





1．暗褐色粘質土。貝殻を含む。
2．暗褐色粘質土。褐色粘質土ブロックを含む。貝殻を多量に含む。
3．黒色粘質土。わずかに貝殻を含む。
4．褐色粘質土。貝殻を含む。
5．黒色粘質土。貝殻を含む。
6．暗褐色粘質土。貝殻を多量に含む。
7．暗褐色＋黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
8．黒色粘質土。貝殻を含む。
9．暗褐色粘質土。貝殻をわずかに含む。
10. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
11. 黒色粘質土。貝殻を含む。
12. 黒色粘質土。貝殻を含む。
13. 暗褐色粘質土。貝殻を含む。
14. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
15. 黒色粘質土。貝殻を含む。
16. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
17. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
18. 黒色粘質土。貝殻をわずかに含む。
19. 黒色粘質土。貝殻をわずかに含む。
20. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
21. 黒色粘質土。貝殻をわずかに含む。
22. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
23. 黒色粘質土。貝殻をわずかに含む。
24. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
25. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
26. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
27. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
28. 黒色粘質土。貝殻を含む。
29. 黒色粘質土。貝殻をわずかに含む。
30. 黒色粘質土。貝殻を含む。
31. 暗褐色粘質土。貝殻を多量に含む。
32. 暗褐色＋黒色粘質土。貝殻を含む。
33. 暗褐色粘質土。貝殻を多量に含む。
34. 黒色粘質土。貝殻をわずかに含む。
35. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
36. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
37. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。
38. 黒色粘質土。貝殻を多量に含む。

SK50
0　2m

第77図　ＳＫ50実測図（1/20）

する。長軸、短軸ともに1.3m以上、深さ0.9mを測る。弥生土器や石器、動物骨が出土しており、弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ50（第77・118～122図）

北区中央部で検出した。西半は完掘していない。南側が調査区外へ延びるが、隅丸方形を呈すと考えられ、中央部付近で１段下がる。北側の壁は抉るように掘削している。長軸5.1m以上、短軸2.8m以上、深さ１mを測り、ＳＩ130に後出する。多量の貝殻が廃棄されており、それに伴い動物骨も多量に出土した。弥生時代前期から中期前葉に属する。

ＳＫ55（第78・123図）

北区中央部で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、北側に段を有する。長軸1.5m、短軸0.9m、深さ0.3mを測り、ＳＩ140に後出する。弥生土器や石器、動物骨が出土しており、弥生時代前期末から中期初頭に属する。

ＳＫ60（第78図）

北区北西部で検出した。北部は調査区外へ延びるが、平面形は楕円形を呈すと考えられる。長軸0.8m以上、短軸0.7m以上、深さ0.1mを測り、ＳＫ40に先出する。弥生土器がまとまって出土しており、弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ65（第78・124図）

北区中央部で検出した。北部は削平を受けているが、平面形は楕円形を呈すると考えられる。長軸1.2m以上、短軸0.4m以上、深さ0.3mを測る。弥生土器や貝殻が出土しており、弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ100（第78図）

北区東部で検出した。東部は調査区外へ延びるが、隅丸方形を呈すと考えられる。長軸は4.7m以上、短軸は２m以上、深さ0.15mを測る。埋土に多量の弥生土器の破片を含んでいた。弥生土器や石器が出土しており、弥生時代中期後葉から後期に属する。

ＳＫ105（第78・125図）

北区東部で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸１m、短軸0.7m、0.7mを測り、ＳＫ161・210、ＳＸ250に後出する。弥生土器や石器が出土しており、弥生時代中期前葉に属する。

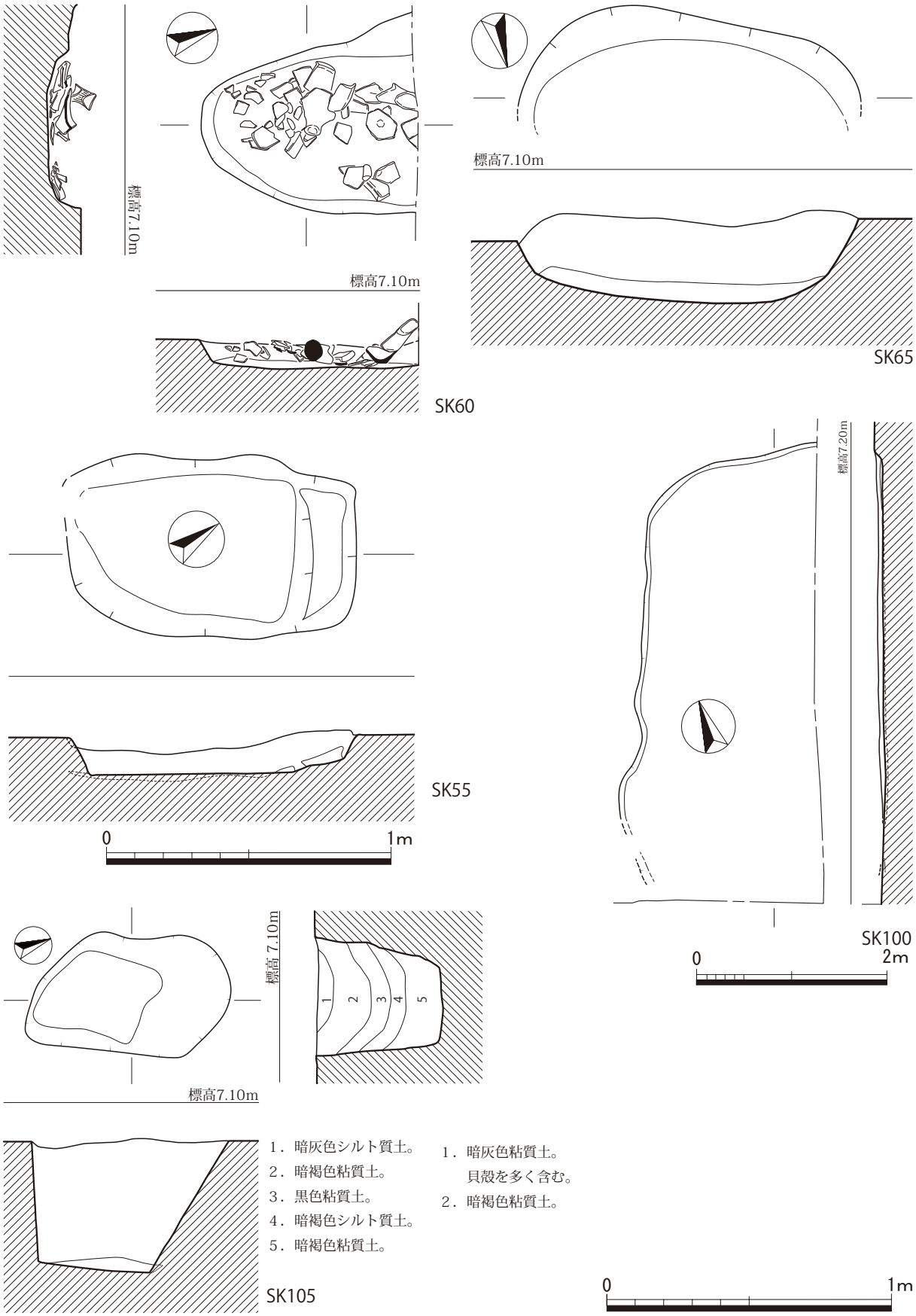
ＳＫ143（第79図）

北区中央部で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸1.7m、短軸0.7m、深さ0.3mを測る。弥生土器や動物骨が出土しており、弥生時代中期前葉に属する。

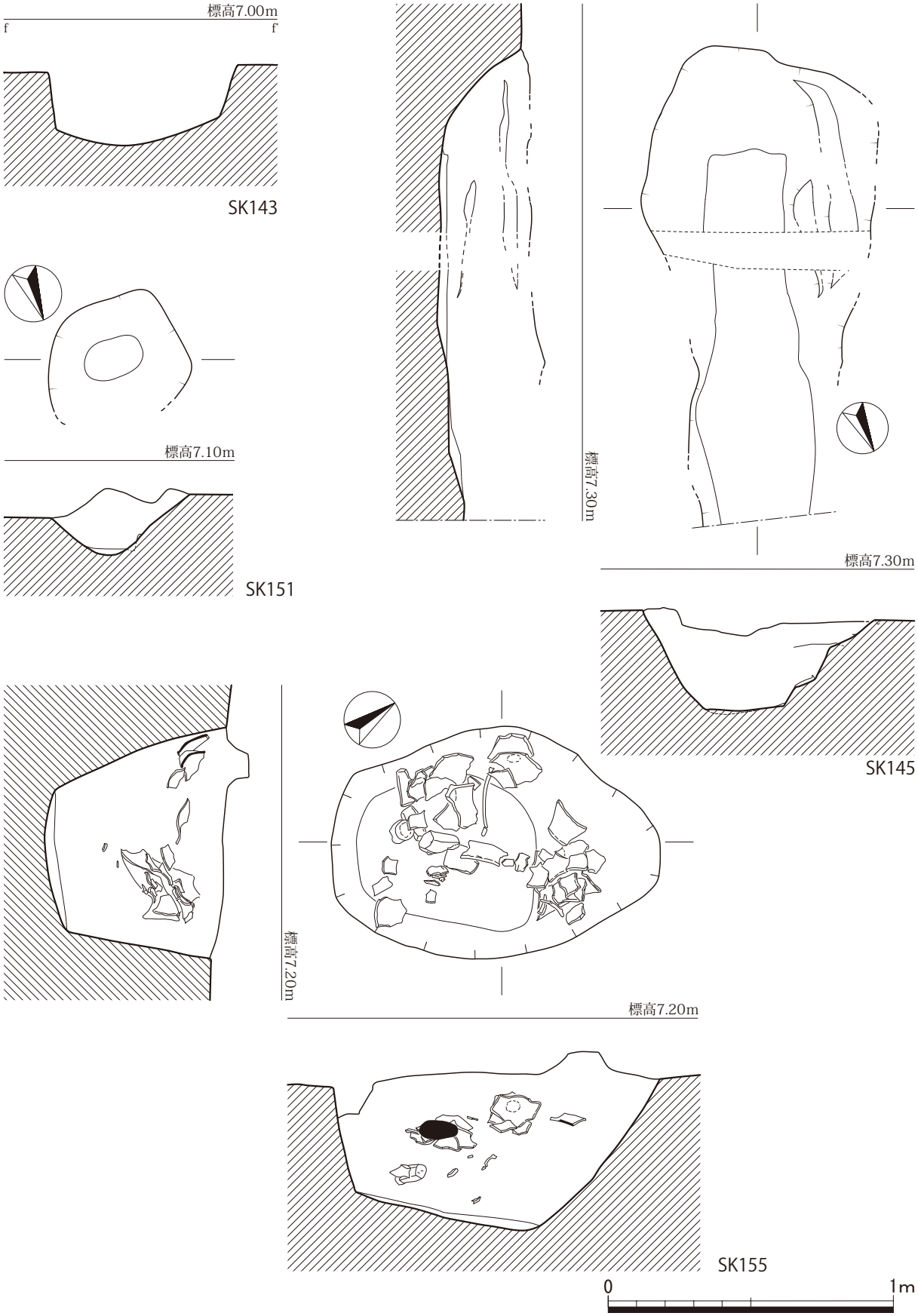
ＳＫ145（第79図）

北区西部で検出した。平面形は隅丸方形を呈し南西側に２つの段を有する。長軸3.2m以上、短軸1.6m、深さ0.8mを測り、ＳＩ140に後出し、ＳＫ40に先出する。弥生土器や石器、土製品が出土しており、弥生時代前期末から中期初頭に属する。

ＳＫ151（第79図）



第78図　ＳＫ55・60・65・100・105・120実測図（1/20、1/30）



第79図　ＳＫ143・145・151・155実測図（1/20）

北区東部で検出した。平面形は円形を呈する。直径0.5m、深さ0.2mを測る。弥生土器や土製品が出土しており、弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ155（第79・126図）

北区中央部で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸1.2m、短軸0.8m、深さ0.6mを測り、ＳＩ130に後出する。多量の弥生土器や石器、土製品がまとまって出土しており、弥生時代中期初頭に属する。

ＳＫ160（第80・126図）

北区中央部で検出した。平面形は楕円形を呈し、北部と南部にそれぞれ２つの段を有する。長軸1.3m以上、短軸0.6m、深さ0.2mを測り、ＳＩ130に後出する。多量の弥生土器や石器、土製品がまとまって出土しており、弥生時代前期末から中期初頭に属する。

ＳＫ161（第80図）

北区東部で検出した。ＳＫ105と大部分が重複しているため、平面形は不明である。長軸0.9m以上、短軸0.8m、深さ0.7mを測り、ＳＸ250に後出する。弥生土器や石器が出土しており、弥生時代中期に属する。

ＳＫ164（第80図）

北区東部で検出した。平面形は不明である。長軸1.1m以上、短軸0.5m以上、深さ0.5mを測り、ＳＤ110、先出しＳＸ250に後出する。弥生土器や石器、土製品が出土しており、弥生時代中期前葉に属する。

ＳＫ170（第80・127図）

北区中央部で検出した。平面形は楕円形を呈し、断面形が歪であることから複数遺構が重複している可能性がある。長軸1.5m、短軸1.2m、深さ0.5mを測り、ＳＤ80に後出する。多量の弥生土器や石器、土製品がまとまって出土しており、弥生時代前葉から中期中葉に属する。

ＳＫ180（第81図）

北区西部で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、西部に３つの段を有する。長軸1.6m、短軸0.9m、深さ0.6mを測る。弥生土器や石器、動物骨が出土しており、弥生時代中期前葉に属する。

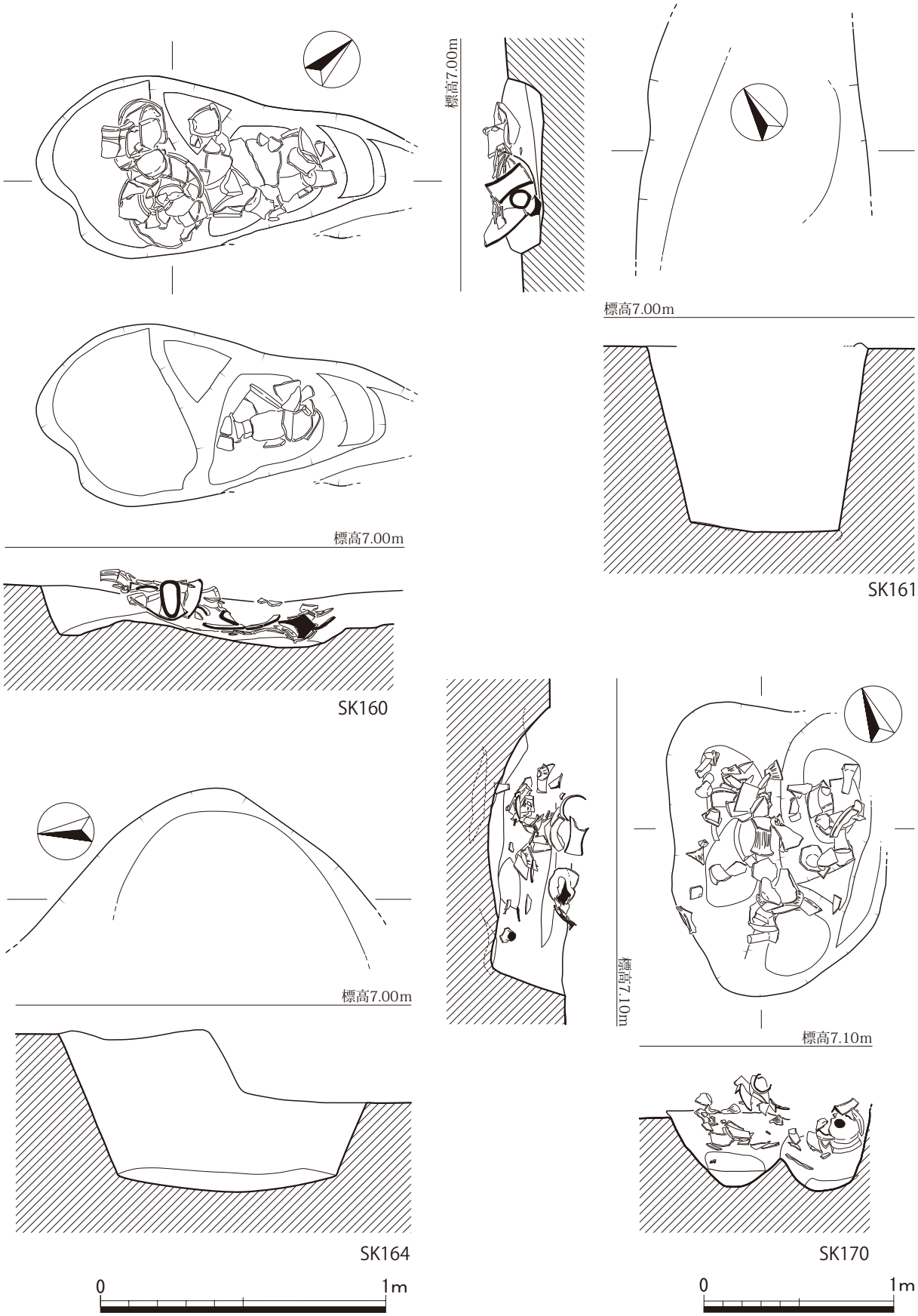
ＳＫ181（第81図）

北区中央部で検出した。大きく削平を受けているため平面形は不明である。長軸0.4m以上、短軸0.3m以上、深さ0.3mを測る。弥生土器や石器、動物骨が出土しており、弥生時代中期初頭から前葉に属する。

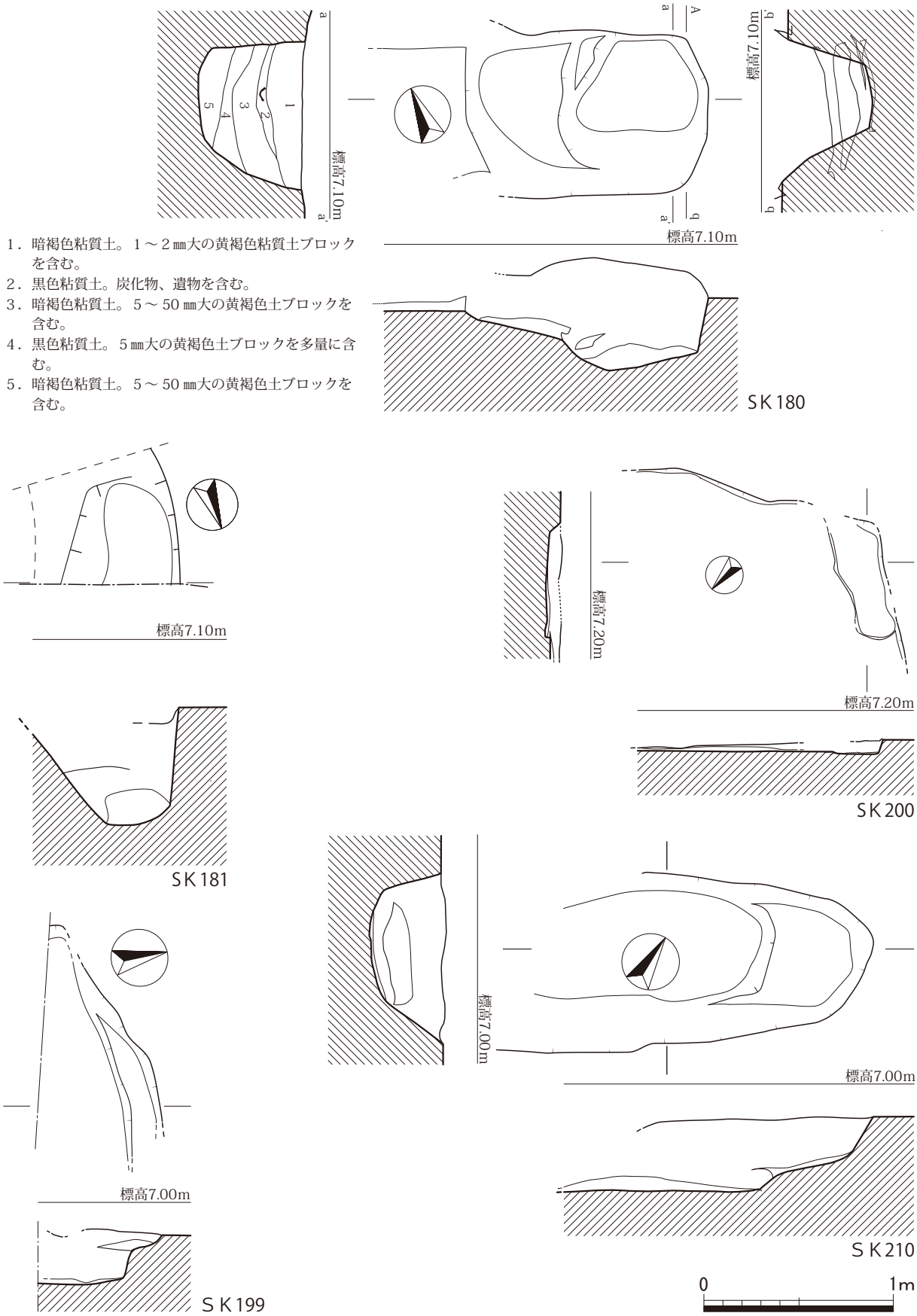
ＳＫ199（第81図）

北区東部で検出した。南側の大部分が調査区外に延びるため平面形は不明であり、北側に段を有する。長軸1.2m以上、短軸0.6m以上、深さ0.3m以上を測り、ＳＤ110に先出する。弥生土器や石器の破片が出土しており、弥生時代中期に属する。

ＳＫ200（第81図）



第80図　ＳＫ160・161・164・170実測図（1/20、1/30）



1．暗褐色粘質土。１～２㎜大の黄褐色粘質土ブロックを含む。
2．黒色粘質土。炭化物、遺物を含む。
3．暗褐色粘質土。５～50㎜大の黄褐色土ブロックを含む。
4．黒色粘質土。５㎜大の黄褐色土ブロックを多量に含む。
5．暗褐色粘質土。５～50㎜大の黄褐色土ブロックを含む。

第81図　ＳＫ180・181・199・200・210実測図（1/30）

北区東部で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、南西部がわずかに１段下がるが底面はほぼ平坦である。長軸2.5m以上、短軸２m以上、深さ0.2mを測り、ＳＤ110に後出する。弥生土器や石器が出土しており、弥生時代中期初頭に属する。

ＳＫ210（第81・128図）

北区東部で検出した。平面形は楕円形を呈し、東部に段を有する。長軸２m以上、短軸１m以上、深さ0.4mを測り、ＳＫ100に先出し、ＳＩ215に後出する。弥生土器や石器、土製品、動物骨が出土しており、弥生時代中期前葉に属する。ＳＫ105・161と底面がほぼ平坦になるため同一遺構である可能性もある。

不明遺構

ＳＸ250（第74図）

北区東部で検出した。平面形は不明であるが北東から南西にかけての辺は直線的である。長軸は5.3m以上、短軸2.4m以上、深さは0.2mを測る。掘削はしておらず、複数の遺構が重複している可能性もある。

ＳＸ255（第74・129図）

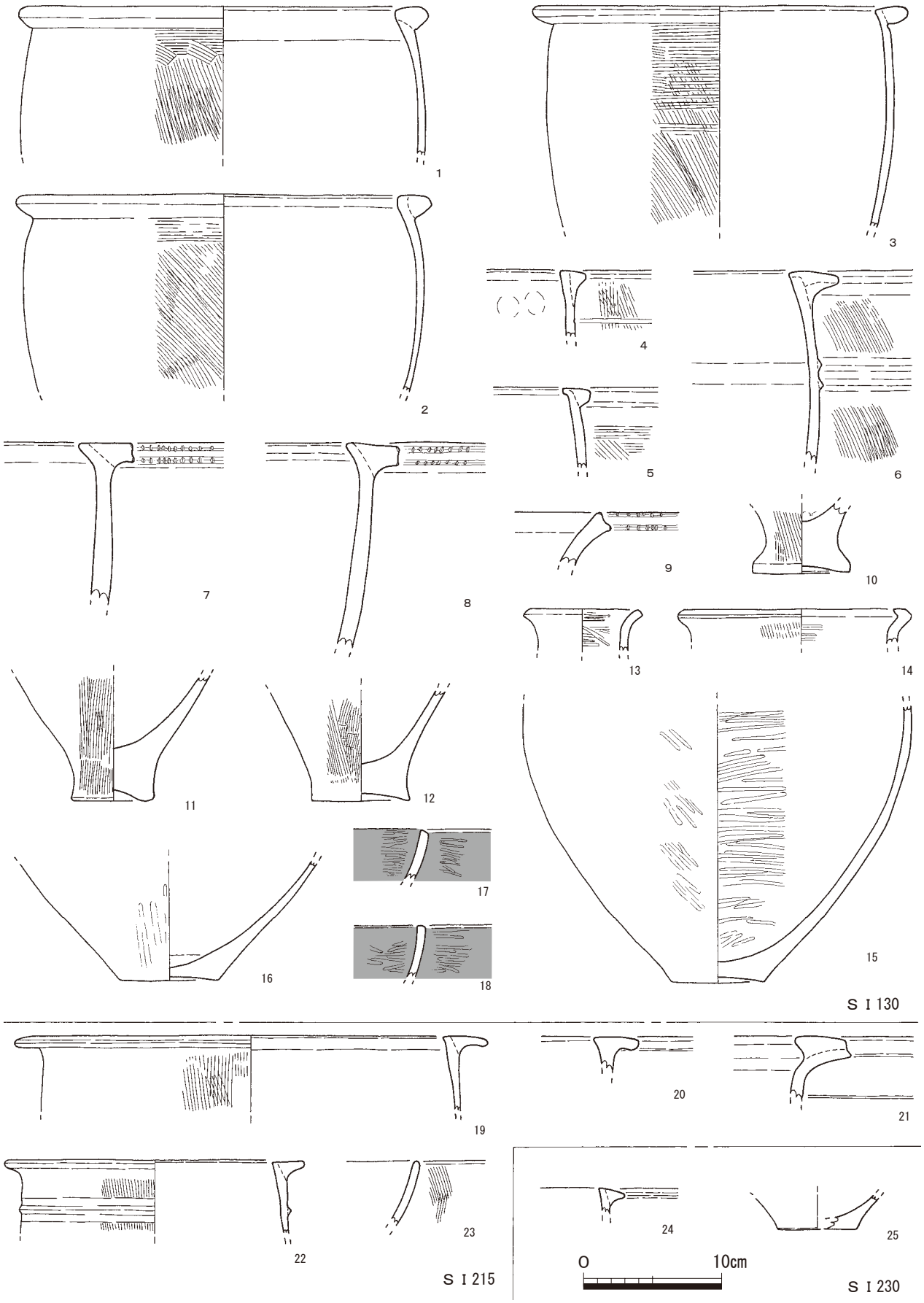
北区西部で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸４m以上、短軸２m以上、深さ0.15mを測り、ＳＫ34・45に先出する。埋土は橙色、黒色の焼土が大部分を占める。弥生時代前期以前に属する。

（３）遺物の概要（第82～101・130～136図、第８～12表）

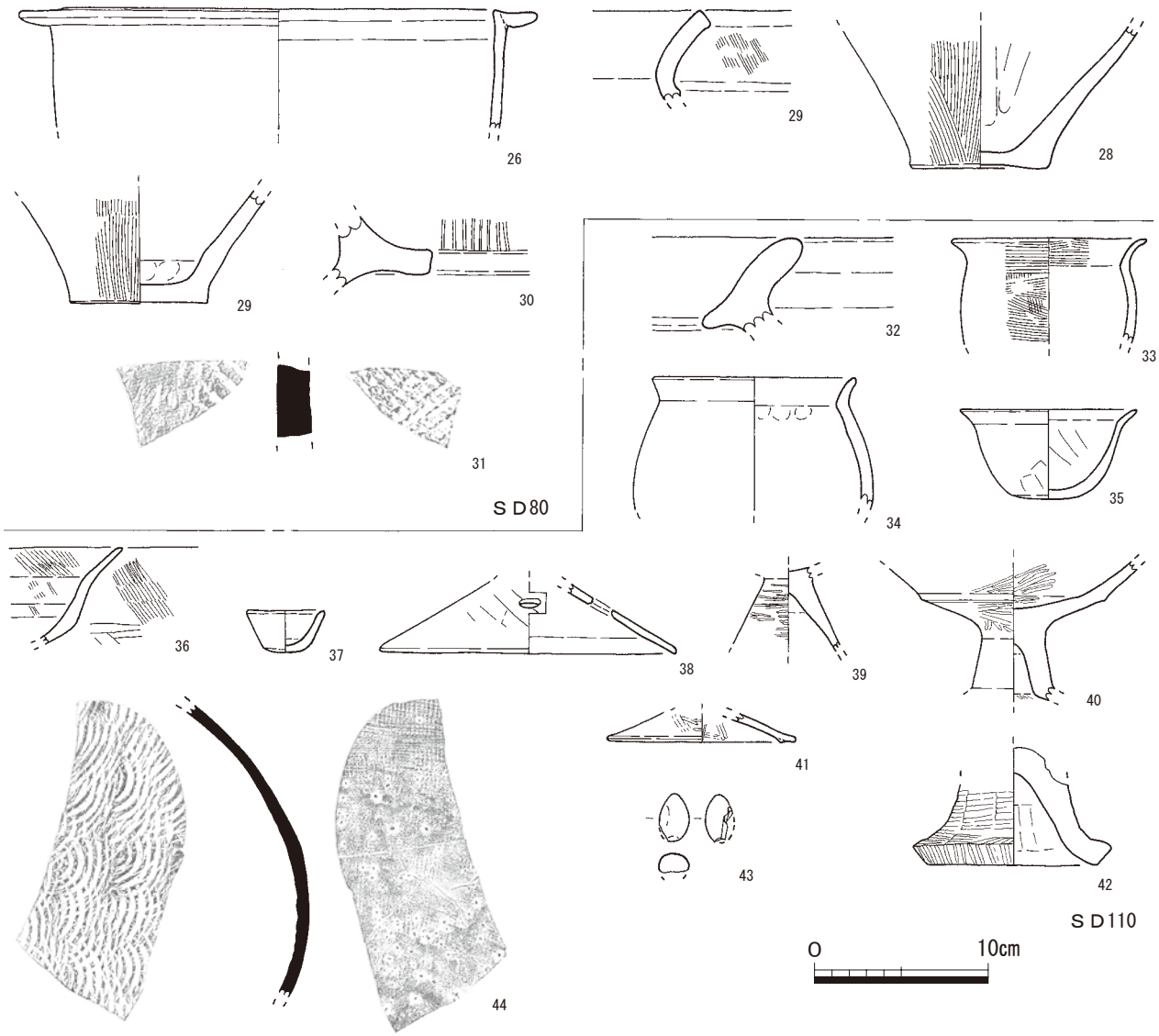
遺物の総量は、パンコンテナー47箱である。弥生土器が大半を占め、土師器、須恵器、石器、土製品、炭化物を含む。法量や色調などの詳細は、遺物観察表を参照願いたい。以下、各遺物の特徴について弥生土器、土師器、須恵器、土製品については遺構毎、石器については器種毎に簡単に補足する。

１～15はＳＩ130出土の弥生土器である。1～12は甕で、1～３は端部が丸みを帯び、肥厚した口縁を有する。４は口縁部が断面三角形を呈し、口縁から胴部にかけて緩やかに器壁が薄くなる。胴部に１条の沈線を有する。５は口縁部外面が断面台形を呈し、口唇は内面に張り出す。６は逆Ｌ字状の口縁をもち胴部に２条の突帯を有する。７～９は大型甕の口縁部である。７と８は口縁部外面が断面方形を呈し、口唇は内面に張り出す。口縁端部の上下に刻み目を施し、同一個体の可能性がある。９は如意型口縁で、口縁端部上・下部に刻目を施す。10～12は甕の底部で、全て上げ底である。10は底部が張りだす。13～16は壷である。13は口縁部が外反し内外面ともミガキを施す。14は袋状の口縁を有し、上部は面取り状にナデを施す。15は急に立ち上がるため胴部の最大径は上部に位置すると推測される。17・18は両面にミガキを施した黒色磨研の鉢口縁部である。特に17は光沢を有する。

19～23はＳＩ215出土の弥生土器である。19～22は甕で19・20・22は逆Ｌ字状の口縁を呈す。22は胴部に１条の突帯を有する。21は外反する口縁上面に厚い粘土帯が平坦面を形成する大型甕の口



第82図　ＳＩ130・215・230出土遺物実測図（1/4）

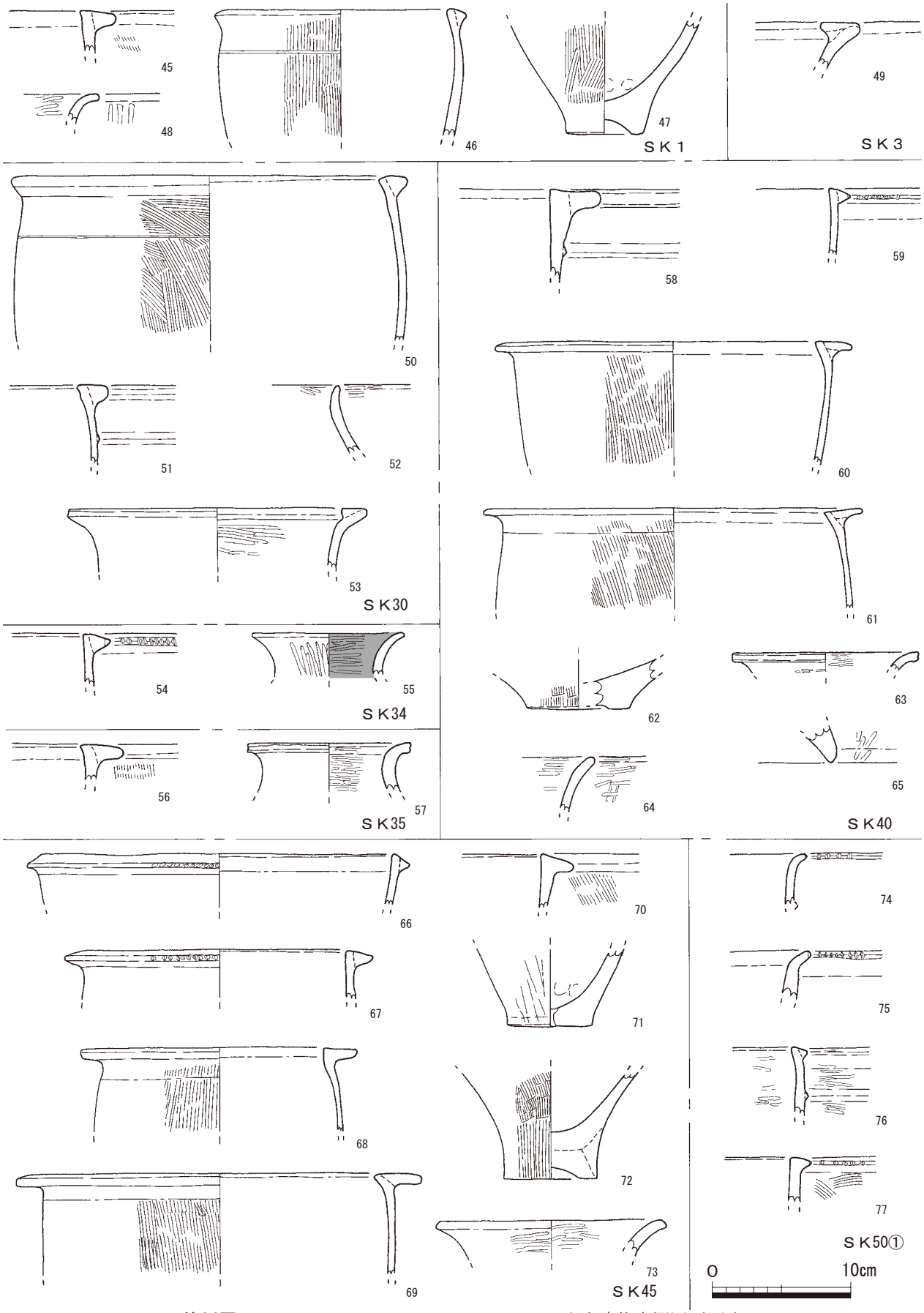


第83図　ＳＤ80・110出土遺物実測図（1/4）

縁部である。23は鉢の口縁部である。24・25はＳＩ220出土の弥生土器である。24は口縁が断面三角形で端部がやや下がる甕である。25は破片であるが胴部の立ち上がりが緩やかであることから小型壷の底部であると考えられる。

26～31はＳＤ80出土の弥生土器・須恵器である。26～29は甕で、26は口縁上面が窪む断面逆Ｌ字状の口縁を有し、内面の口唇下がナデによって窪む。外面は口縁部と胴部の境の凸凹をナデ消していない。27は大型の甕で口縁はく字状に外反し、口縁下部に突帯を有する。28・29は底部で、29はオサエによって器壁の厚さが不均一になっている。30は筒形器台である。内外面ともに丹塗りで、外面上部には暗文を施す。31は須恵器の甕の胴部である。

32～42は、ＳＤ110出土の弥生土器・土師器・須恵器・土製品である。32は弥生土器の大型甕で口縁部は内側に突出し、内傾する。33・34は土師器の甕である。34は外面をハケメ調整した後にナデで調整している。35は土師器の鉢で、内面に線状の工具ナデ痕が残る。36・38～41は土師器の高坏である。36は胴部が２度屈曲し、口縁部はやや外反する。38・39・41は脚部で、38は穿孔が施され、



第84図　ＳＫ１・３・30・34・35・40・45・50出土遺物実測図（1/4）

内面では穿孔部周辺が剥落している。39は小型の高坏脚部で外面にミガキを施し、胎土は硬く明赤褐色を呈す。40は胴部が屈曲し、坏部は内外面ともミガキを施す。脚部も屈曲し底部は広がる。41は底部内面のナデ調整が不十分なため帯状に粘土が残る。37はミニチュアの鉢である。42は支脚で外面と底面にタタキを施す。43は投弾で、1部を欠き、摩耗している。44は須恵器の甕胴部で、外面に自然釉がかかる。

45～48はＳＫ１出土の弥生土器である。45～47は甕で、45は口縁が断面Ｌ字形を呈し、内面上部を強くナデを施しているため、端部はわずかに内側に張り出す。46は口縁が断面三角形を呈し、胴部外面はハケメ調整後に沈線を１条巡らす。沈線より上部はその後ナデを施す。47は上げ底の底部である。底部から急な角度で立ち上がったのち胴部が広がる。48は壷の口縁である。口縁は外反し、内外面にミガキを施しており、外面は縦方向のミガキが暗文状に等間隔にみられる。

49はＳＫ３出土の弥生土器である。鋤先口縁を有する壷で、口縁部に粘土帯を貼付し厚肥させる。口縁部上面に極暗赤褐色の付着物があり、丹塗りの可能性もある。

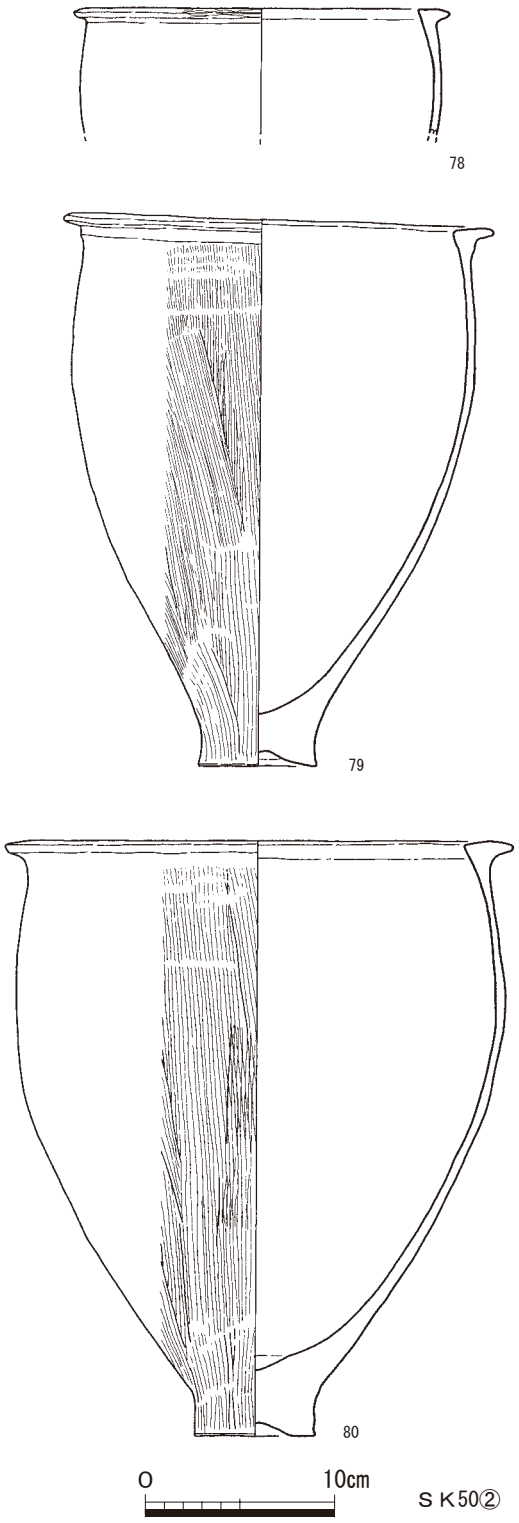
50～53はＳＫ30出土の弥生土器である。50・51は弥生土器の甕で、50は端部が丸みを帯び、肥厚した口縁を有し、胴部に１条の沈線を施す。51は口縁部外面が断面台形を呈し、口唇は内面に張り出す。胴部には低い突帯を有す。52・53は壷の口縁部である。52は口縁部がわずかに外反する。摩耗が著しく、外面下部は器表が剥落しており、調整不明である。53は鋤先口縁で、口縁部に粘土帯を貼付し厚肥させる。内面と口縁上面は横方向のミガキを施し、外面はナデ調整後不定方向にミガキを施している。

54・55はＳＫ34出土の弥生土器である。54は断面三角形を呈す口縁の甕で、口縁端部下に刻目を施し、口唇はわずかに内面に張り出す。55は外反する口縁の壷で、内面は横方向、外面は縦方向のミガキを施し、内面は黒色を呈する。

56・57はＳＫ35出土の弥生土器である。56は断面逆Ｌ字状の口縁を呈す甕で、口唇は内面に張り出す。57は外反する口縁の壷で、口縁端部は窪む。内面はミガキを施し、白みを帯びた色調である。

58～65はＳＫ40出土の弥生土器である。58～62は弥生土器の甕である58は断面逆Ｌ字状を呈す口縁の甕であり、胴部に１条の低い突帯を有す。口縁の器壁は厚く、口縁上面はわずかに窪む。59は断面三角形を呈す口縁の甕で、口縁端部に刻目を施し、口唇はわずかに内面に張り出す。60・61は逆Ｌ字状を呈す口縁の甕であり、60は口縁部端部がやや垂れ、61は口縁部が内傾し、端部は垂れる。62は底部外面にハケメ調整を施すことから甕としたが、胴部の立ち上がりが緩く、胴部が広がることから甕の可能性がある。底部は上げ底である。63・64は壷の口縁部である。63は内外面にわずかにミガキが残り、口縁が大きく外反し、端部がわずかに窪む。64は外面と内面上部が赤色化し、緩く外反する。65は破片であるため器種の断定はできないが支脚とした。外面にミガキを施しており、硬質で白みを帯びた色調である。

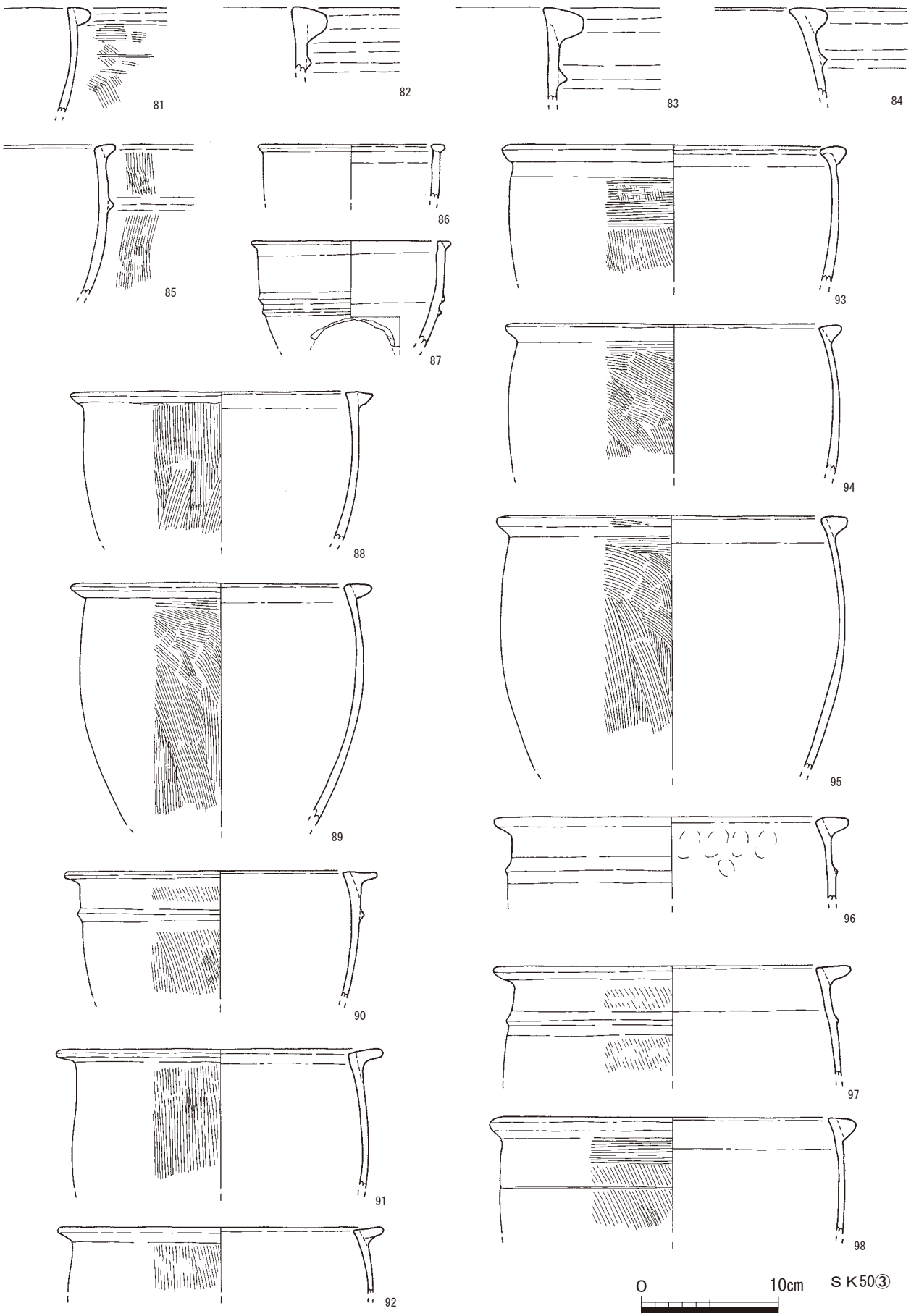
66～73はＳＫ45出土の弥生土器である。66～72は甕で、66・67は断面三角形の口縁を有し、端部は垂れ、刻目を施す。68～70はＬ字状口縁で、口縁上面は68・69がほぼ水平、70がやや垂れる。



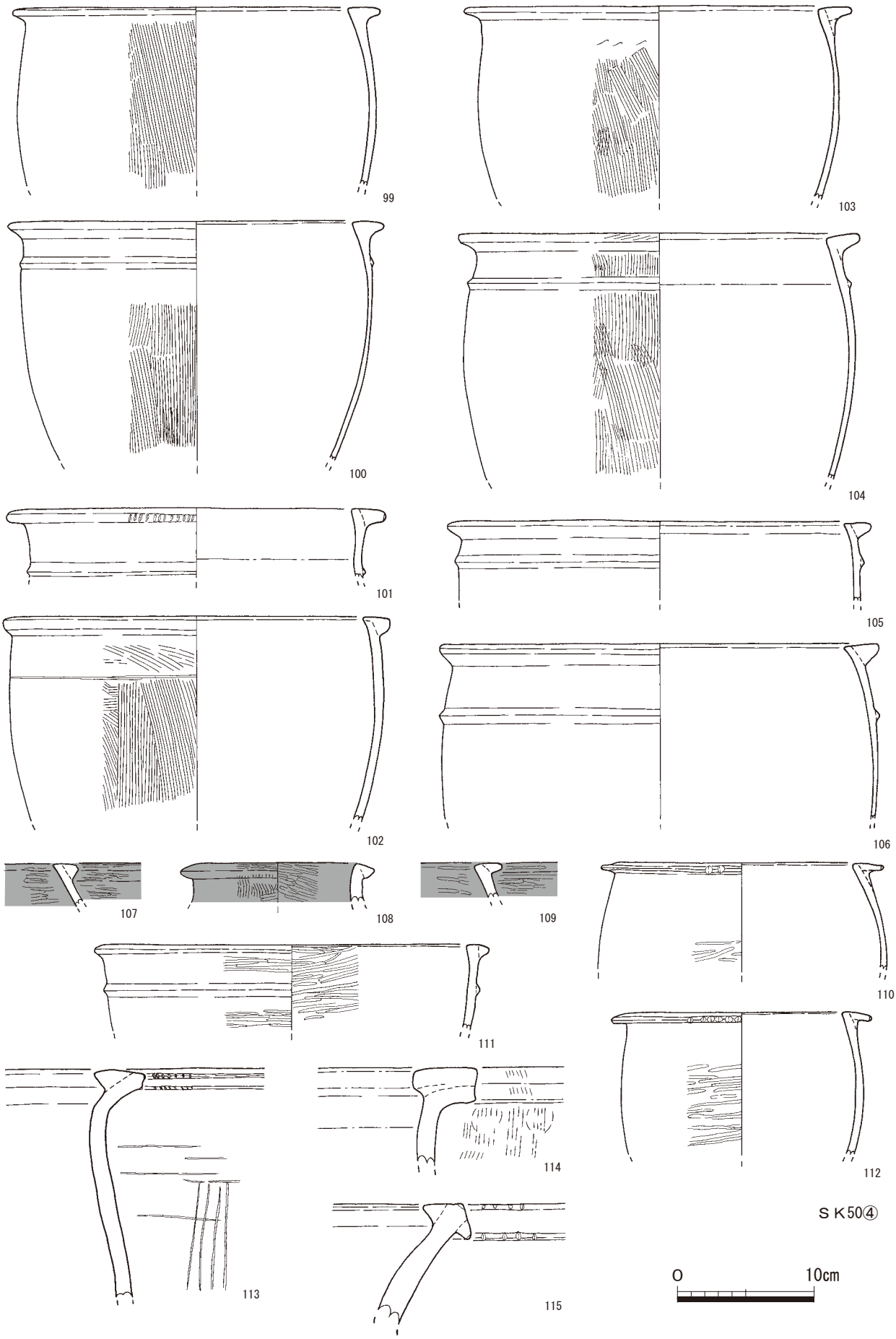
第85図　ＳＫ50出土遺物実測図（1/4）

68は内面の口唇下がナデによって凹み、69は口縁が内面に突出する。70の口縁端部は垂れる。71は外面に丁寧な工具ナデを施し器表面が滑らかで、色調は赤褐色を呈する。底面には一部ミガキを施す。煤が広い範囲に付着し、底部は内外面から穿孔されている。72は上げ底で底部にわずかにミガキが施される。73は内外面にミガキを施し、内面は特に白みを帯びる。

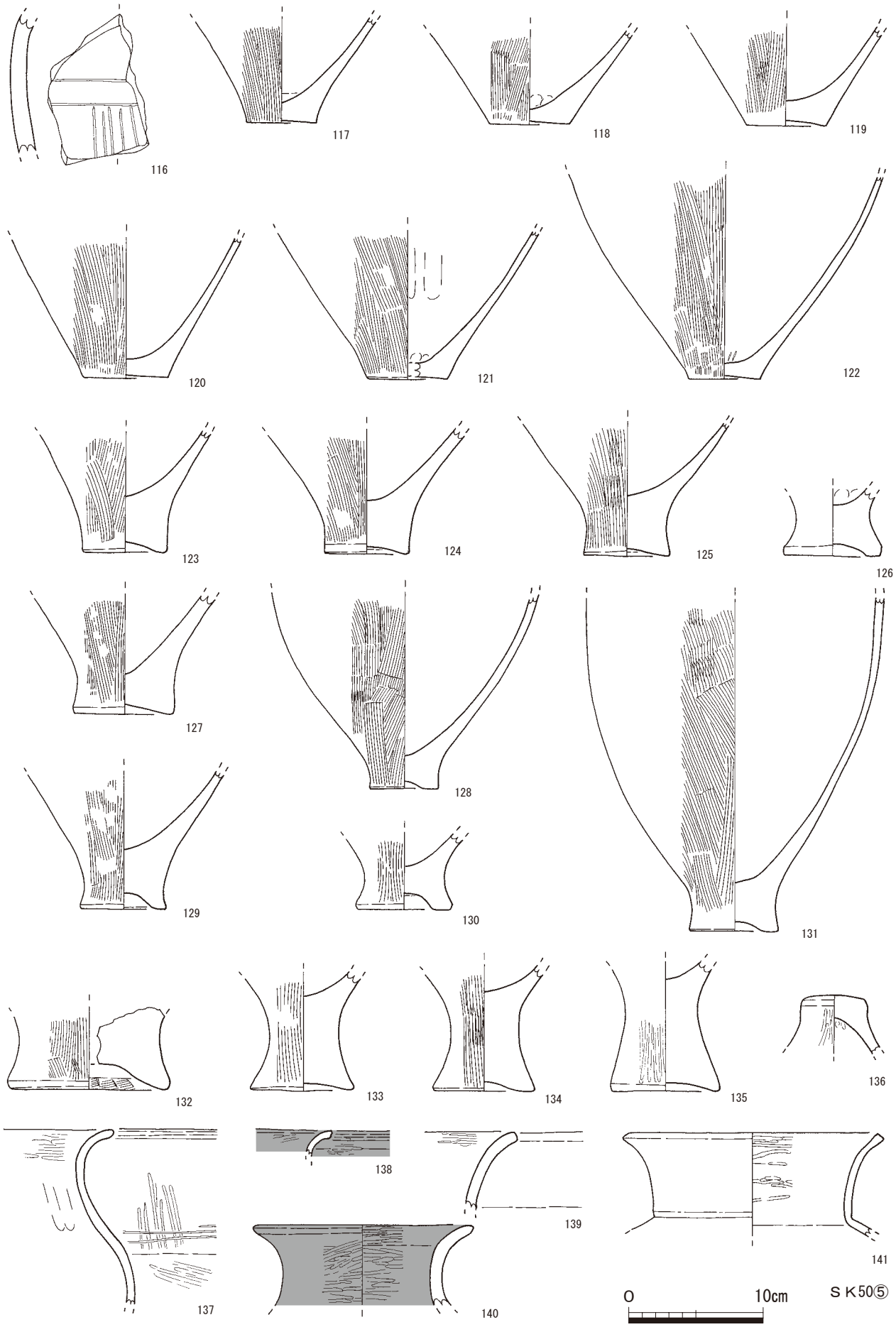
74～175はＳＫ50出土の弥生土器である。74～135は甕である。74・75は如意形口縁の甕で、74は口縁端部全面に刻目を施し、胴部にわずかに突帯を有す。75は器壁が厚く、口縁下部に刻目を施す。76・77は断面三角形の口縁で、76は胴部に突帯を有す。内外面にミガキを施し、外面は突帯から下が黒色化している。77は口縁端部に刻目を施す。78～80は逆Ｌ字状の口縁で、78は内外面とも器表面の大部分が剥落しているが、わずかにミガキが両面に残る。特に口縁上面は丁寧にミガキが施され、赤色化している。79はわずかに胴が張る。底部はわずかに上げ底で灰白色を呈する。モミ圧痕が確認される。80は胴が張り、底部は上げ底で、部分的に灰白色を呈する。81～84は断面台形の口縁で、81は器壁が薄く外面に不定方向のハケメが施され、最大径部付近に１条の浅い沈線が施される。82～84は胴部に１条の突帯を有し、83は内面口唇下がナデによって凹み、84は口縁が内側に突出する。85～92は逆Ｌ字状口縁で、85は胴部に１条の突帯を有する。外面は被熱により、赤みを帯びている。86・87は小型の甕または鉢であり、同一個体の可能性もある。口縁上部にミガキを施し、外面は丁寧にナデ調整を行い、一部ミガキ状の光沢がみられる。87は胴部に２条の突帯を有し、突帯の下を外面から打欠いて円形に穿孔したと考えられる。88は口縁部がやや断面三角形を呈し、口縁部下のナデが不十分なため凹凸が著しい。89は口縁が厚く丸みを帯び、口縁上部にもハケメを施す。90は胴が張り、外面の口縁部下が被熱により赤みを帯び、胴部に１条の突帯を有する。91・92は胴部が張り、わずかに内傾する。93・94・98は丸みを帯びた口縁端部を有し、内面口唇下がナデによっ



第86図　ＳＫ50出土遺物実測図（1/4）

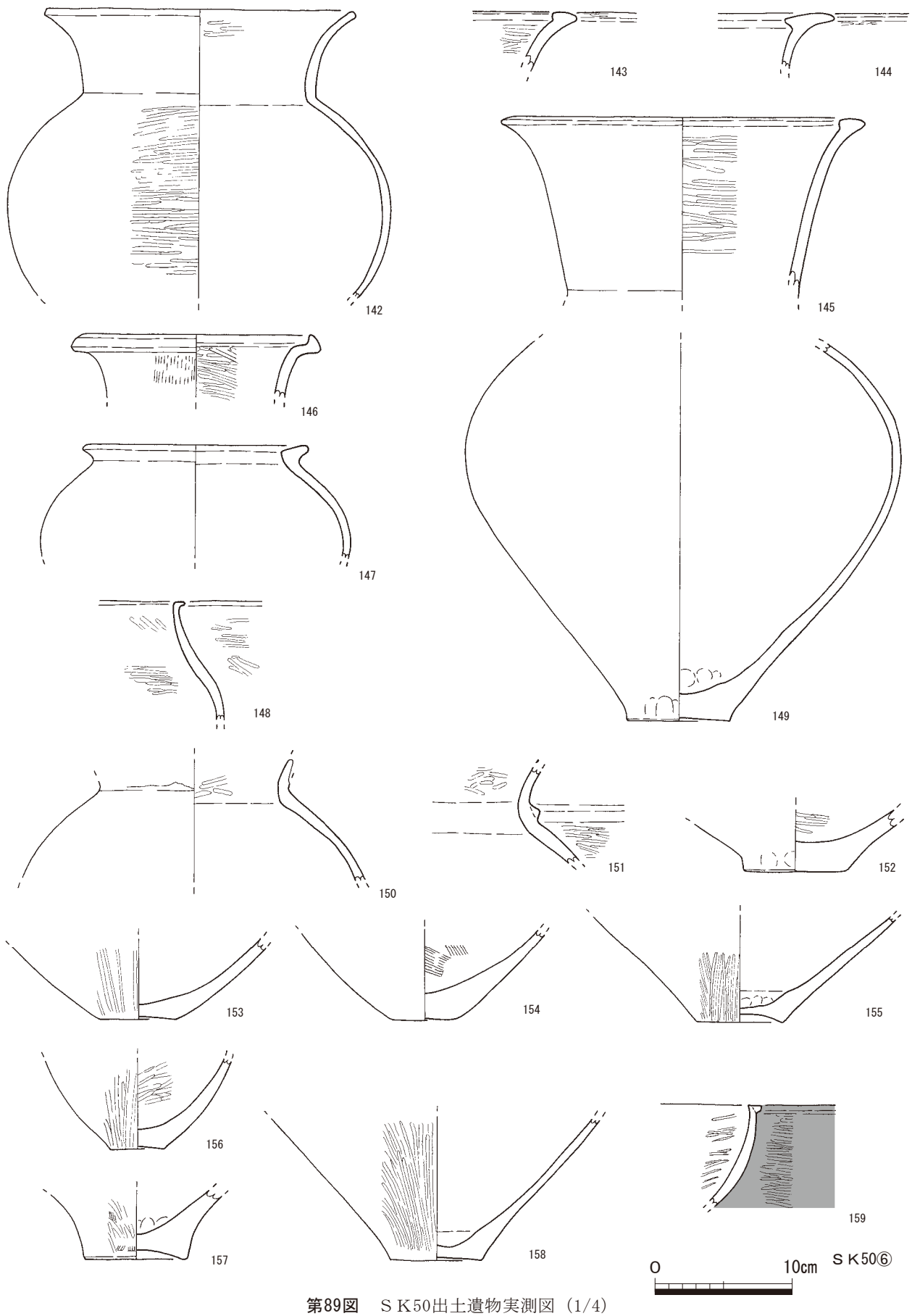


第87図　ＳＫ50出土遺物実測図（1/4）

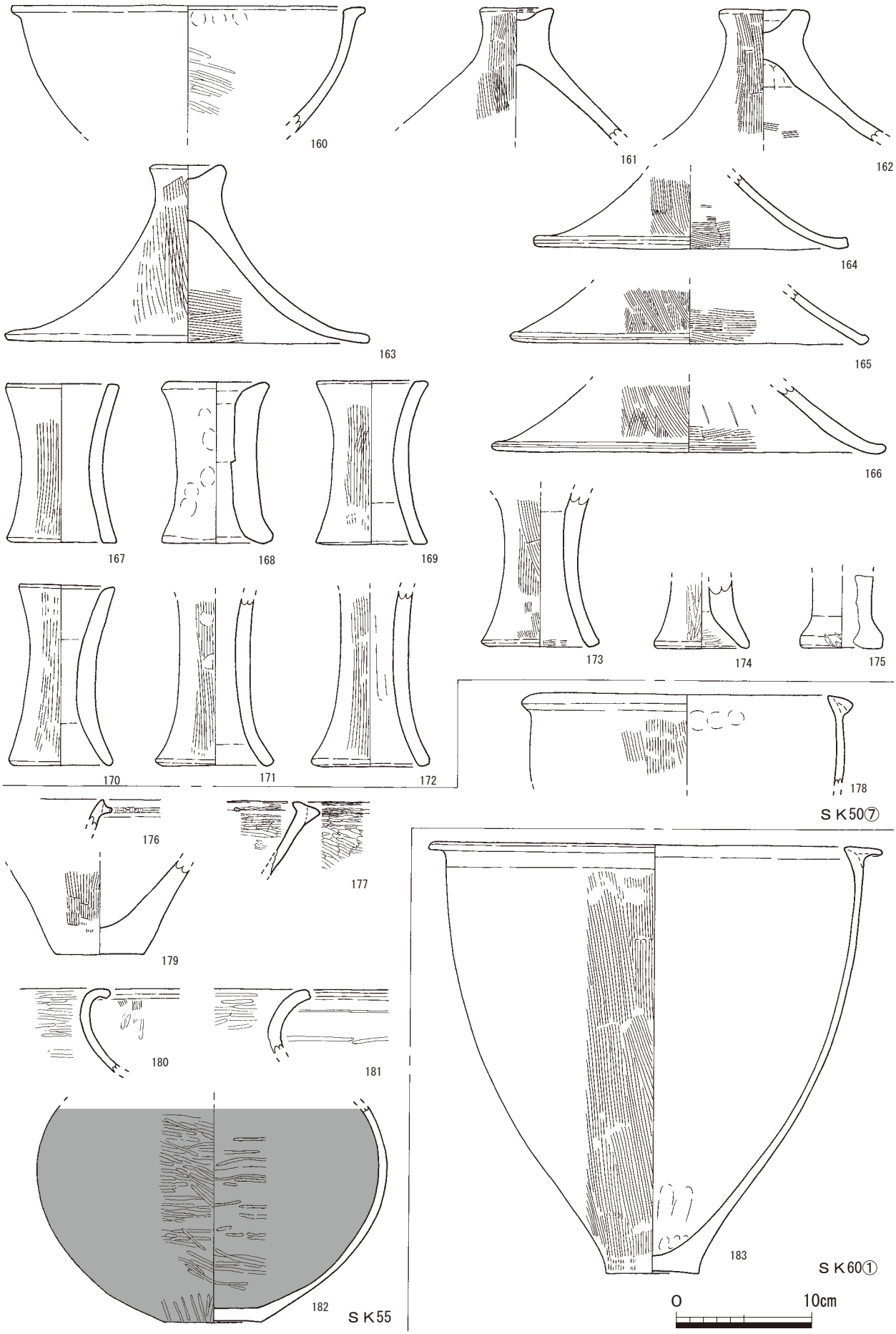


第88図　ＳＫ50出土遺物実測図（1/4）

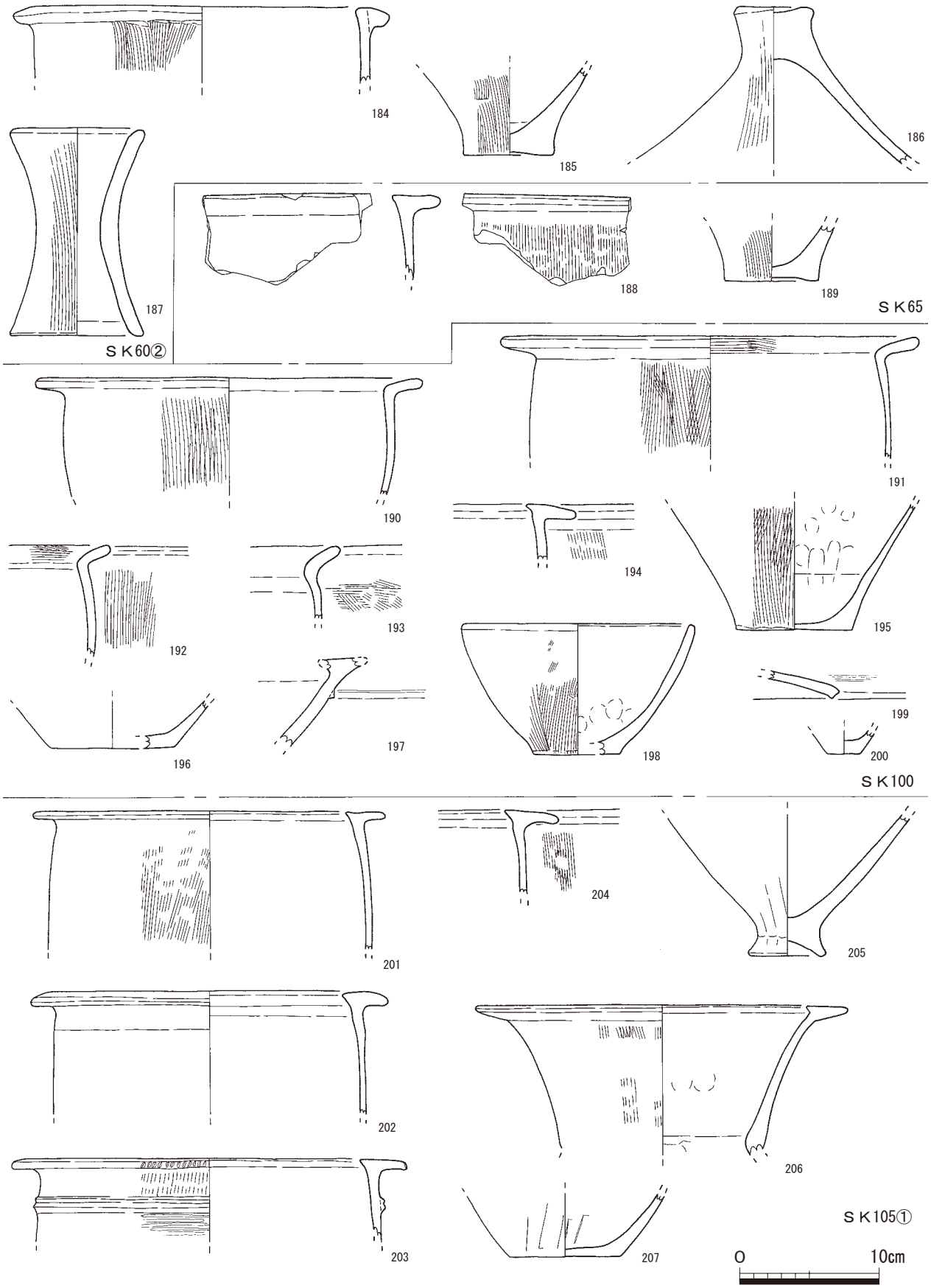
て凹み口唇部が内面に突出する。95は断面台形の口縁で内面口唇下がナデによってわずかに窪む。96・97は逆Ｌ字状口縁で胴部に１条の突帯を有する。96は口縁上面が膨らむ。99～101は逆Ｌ字状口縁であり、100・101は胴部に突帯を１条有する。101は口縁端部に刻目を施す。102の口縁端部は丸みを帯び、内面口唇下がナデによって窪む。胴部には沈線を１条施し、沈線より上はハケメ後ナデを施す。103・104は逆Ｌ字状口縁であり、104は口縁上面にもハケメを施し、胴部に１条の低い突帯を有する。105・106は口縁端部が丸みを帯び、胴部に１条の突帯を有する。106は外面の摩耗が著しく、調整が不明瞭である。107～109は黒色磨研土器である。107は口縁端部に沈線を施し、胴部が膨らむ。内外面とも丁寧にミガキを施す。鉢である可能性もある。108は断面三角形の口縁で、口縁上面から内面にかけてミガキ、外面胴部はハケメ後ミガキを施す。胴部が膨らむと予想され、壺の可能性もある。109は口縁上面が平坦で、胴部が膨らみ内外面にミガキを施す。鉢である可能性もある。110・112は逆Ｌ字状口縁で口縁端部に刻目を施し、外面にミガキを施し胴部が張る。ともに褐色を呈し胴部の張り具合は異なるものの、同一個体の可能性もある。111は断面三角形の口縁で、胴部に１条の突帯を有する。内外面に丁寧にミガキを施し外面は明赤褐色、内面は暗褐色を呈する。113・114・116は甕棺片と考えられ、城ノ越式段階甕棺と呼称される甕棺で、113は口縁下に３条の沈線を施し、その下に４条の縦沈線を施す。口縁端部の上部、下部に刻目を施す。114は口縁上面に厚い粘土帯を貼り付ける。116は胴部片で２条の沈線と５条の縦沈線を施す。115は大型の甕の口縁と考えられる。断面三角形の口縁で、内面と外面に同程度突出し、頂部と外面側端部に刻目を施す。破片であるため実測図の傾きは推測で示した。117～135は底である。117～122底面がほぼ平坦で、123～125・127はわずかに底が上がり、126・128～132は上げ底である。115・121・124・125・129は底面が白みを帯び、硬質化している。123は底部に一部ハケメ調整が残る。130は底面端部を丁寧にナデを施し光沢を有する。128の底面はミガキが施され、平滑で光沢がある。131は胴があまり張らない。132は底面にハケメを施す。133～135は厚底甕の脚部である。135は被熱により、赤みを帯びている。136は蓋であり、外面にミガキを施す。137～155は壷である。137は胴部に２条の沈線を施し、肩部より上に縦方向、下に横方向のミガキを施す。138・140は黒色磨研土器であり、138は胎土も黒色である。141・142は頸部がく字状を呈し、口縁は外反する。143～145は鋤先口縁であり、144は口縁部上部が黒色を呈すが、外面は灰黄褐色、内面は褐灰色を呈する。145は頸部から急な角度で立ち上がり口縁部は外反する。146は袋状の口縁を有し、上部を面取り状にナデを施す。147は広口の壷であり、内外面の摩耗が著しい。148は口縁上面が水平で、緩やかに胴が張る。149は胴部上位が最大径となる。150・151は頸部が緩やかに外反し立ち上がり、151は頸部に１条の突帯を有する。152～158は底部で152の底面は楕円形で底が厚い。153～155・158は胴部が緩い角度で立ち上り、156は急な角度で立ち上がる。157は急な角度で立ち上がったのち、緩やかな角度に広がり胴が張る。159・160は鉢または高坏で逆Ｌ字状口縁である。159は内外面ともミガキを施し、外面は黒色化しているが、内面は黒色化していない。160は外面が著しく摩耗している。161～166は蓋であり、内外面に細かくハケメを施す。161～163の天井部は窪ませ、161は天井



第89図　ＳＫ50出土遺物実測図（1/4）



第90図　ＳＫ50・55・60出土遺物実測図（1/4）



第91図　ＳＫ60・65・100・105出土遺物実測図（1/4）

部にもハケメを施す。167から174は器台であり、167・169～173は外面にハケメを施し、168はナデ、オサエのみで製作している。167～170・173は外面が白みを帯び、胎土が明赤褐色を呈す。174は底面、中央の孔の直径が他の器台に比べ小さく、内外面にミガキを施しており、通常の煮炊き用の器台とは異なる。175は破片であるが支脚と想定され、意図的か不明だが底部に斜め方向の刻みが入る。

176～182はＳＫ55出土の弥生土器である。176・179は甕である。176は断面三角形の口縁部で、端部に刻目を有する。178は底面隅が丸みを帯び、底面の一部や外面下部がミガキ、ナデにより平滑になる。177・180～182は壷である。177は口縁上面が外傾し、内面に種子圧痕がみられる。内外面にミガキを施し、黒褐色を呈し黒色磨研の可能性もある。178は口縁端部が丸みを帯び、内面口唇下がナデによって窪む。180は口縁が大きく外反し口縁端部は垂れる。181は口唇下、頸部に沈線が施される。182は黒色磨研土器で外面は黒色、内面は黒褐色を呈する。

183～187はＳＫ60出土の遺物である。183～185は甕である。183は逆Ｌ字状口縁であり、底部は白みを帯び、硬質化している。184は丸みを帯びた断面三角形の口縁で口縁下を指でオサエを施す。185は底部で、底面は白みを帯びて硬質化している。186は蓋で天井部がわずかに窪む。187は器台である。

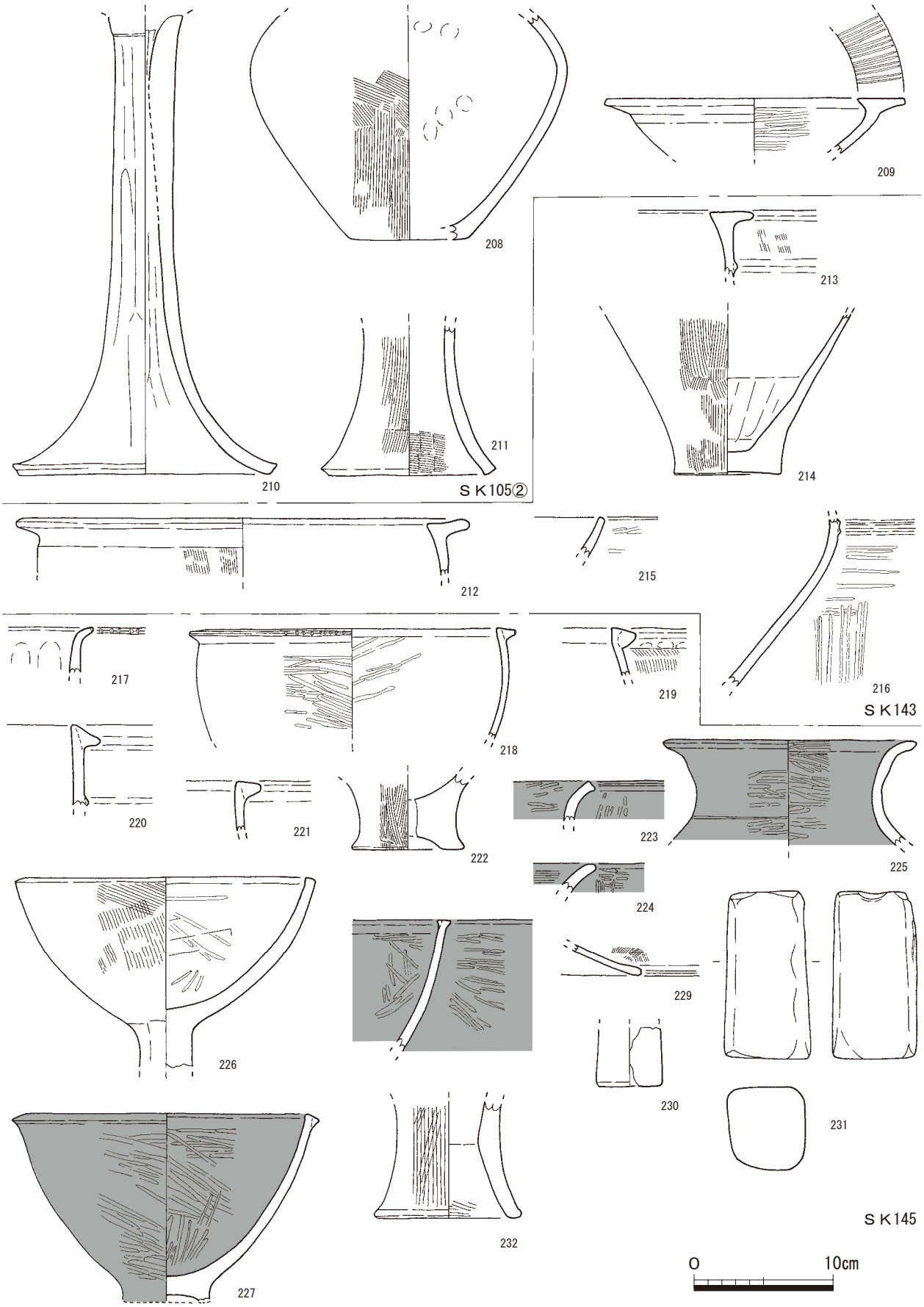
188・189はＳＫ65出土の弥生土器の甕である。188は逆Ｌ字状の口縁で内面口唇下がナデによって凹み、口唇は内面に突出する。189は底部で底がわずかに上がる。

190～200はＳＫ100出土の弥生土器である。190～195は甕で、190～193はく字状の口縁で192は口縁部内面にもハケメを施す。193は頸部内外面がナデやオサエによって窪む。194は逆Ｌ字状の口縁で口縁端部は垂れる。内面口唇下がナデによって凹み、口唇は内面に突出する。195は底部で、底の厚みが薄い。196は弥生土器壷の底部であり、内外面の摩耗が著しい。197は高坏で、内外面とも丹塗りを施し、口縁下に突帯を有す。198は鉢で、外面にハケメを施した後、口縁下にナデを施す。199は蓋で、外面に横方向のハケメを施す。200はミニチュア土器である。

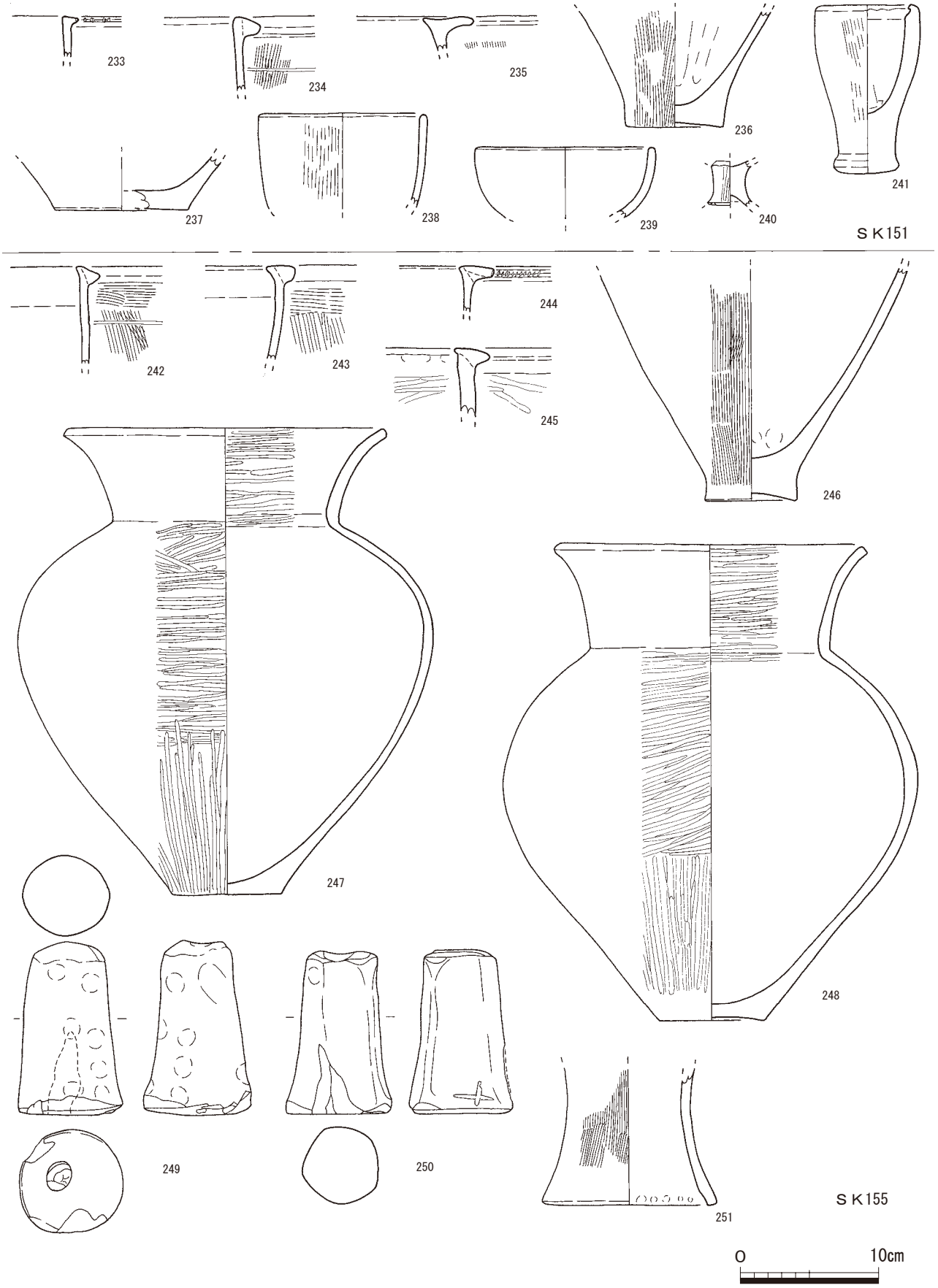
201～211はＳＫ105出土の弥生土器である。201～205は甕で、201～204は逆Ｌ字状の口縁を有し、口唇部は内面に突出する。203は口縁端部に刻み目を施し、胴部にM字状の突帯を有する。204は口縁端部がわずかに垂れる。205は上底の底部である。206～208は壷で、206は鋤先口縁を有する。207は胴部の立ち上がりが急で樽形甕である可能性もある。208は胴部上位が最大径となり、胴部上位はナデ、下位はハケメを施す。209は摩耗が著しいが口縁上面と内面にわずかにミガキが残る。210は高坏の脚部で、摩耗が著しい。211は器台である。

212～216はＳＫ143出土の弥生土器である。212・213逆Ｌ字状の口縁で212は口縁が内傾する。213は口縁下に１条の突帯を有する。214は甕の底部で外面は摩耗が著しいがハケメ調整が残る。215は鉢の口縁部であり、外面にミガキ、内面にナデ調整を施す。216は壷の胴部で胴部中位は横方向、下位には縦方向のミガキを施す。

217～232はＳＫ145出土の弥生土器、土製品である。217～222は甕で217は如意形口縁の端部



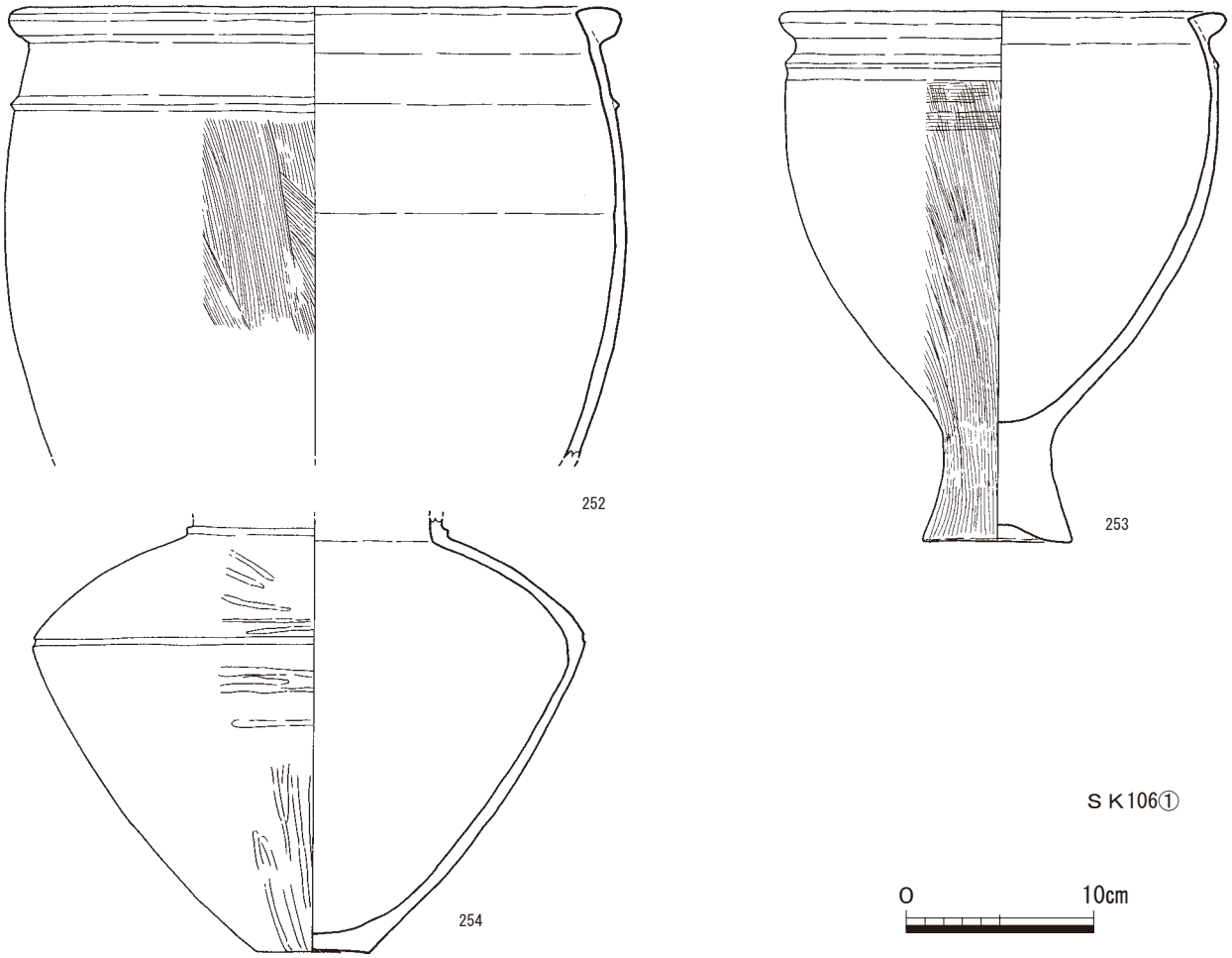
第92図　ＳＫ105・143・145出土遺物実測図（1/4）



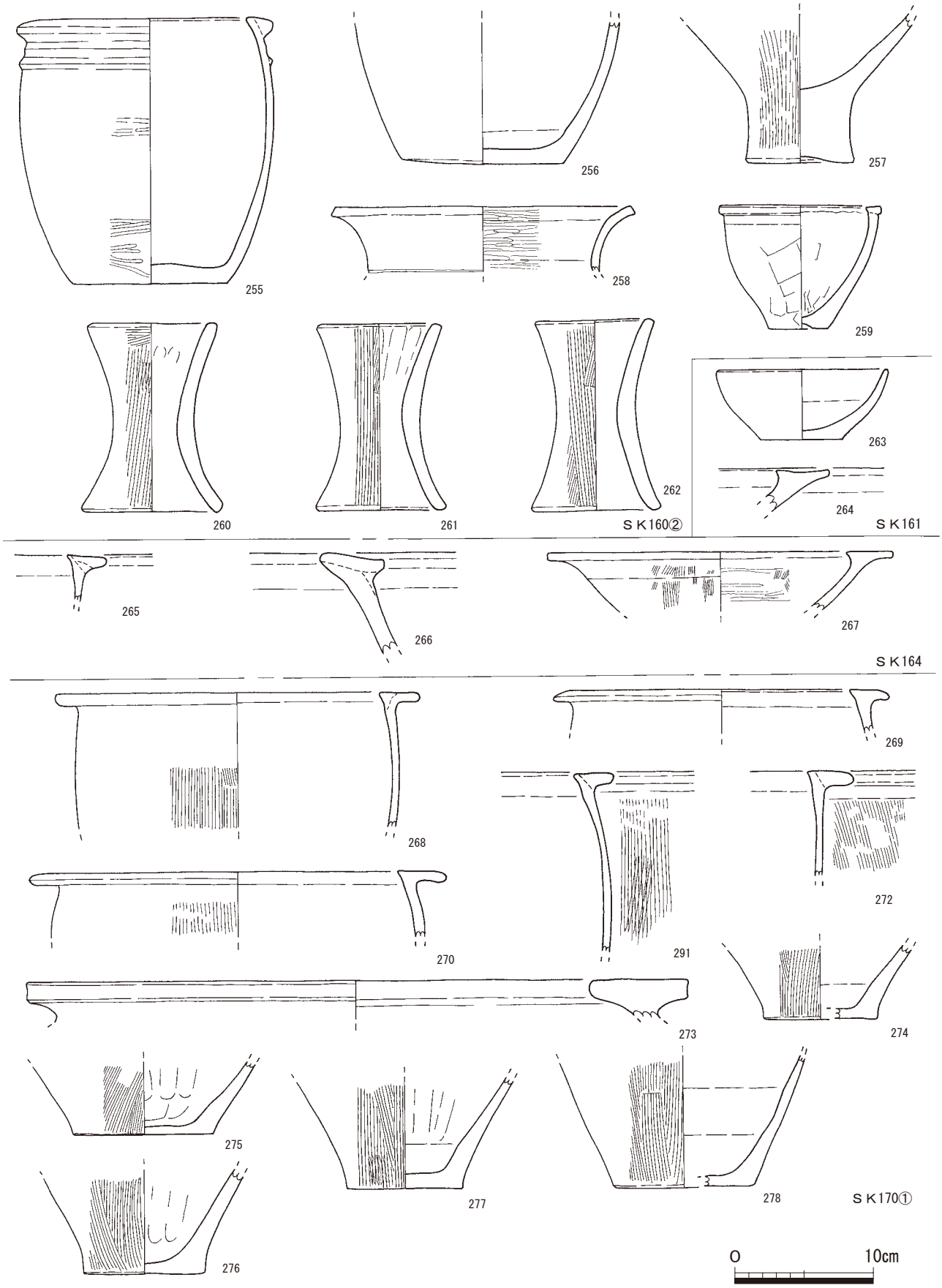
第93図　ＳＫ151・155出土遺物実測図（1/4）

に刻目を施す。218～221は丸みを帯びた断面三角形の口縁で、218は口縁端部に刻み目を施し、内外面にミガキを施す。219は口唇部が突帯を覆うように接合している。内面口唇部下はナデによってわずかに窪む。220は口縁端部が垂れ、胴部に１条の突帯を有する。221は口縁上面から内面上部にかけて白みを帯びて硬質化している。222は底部がわずかに張り出し、上げ底である。223～225は黒色磨研土器の壷で、224は内面にハケメが残り、225は頸部に沈線を施す。226は高坏であり、口径に比べて脚部の直径は小さい。内部はミガキを施し、外面はハケメ後ミガキを施している。227・228は黒色磨研土器の鉢で、断面三角形の口縁を有し、口唇が内面に突出する。同一個体の可能性もある。227はわずかに底が上がり、底部に貼りついた粘土帯が剥離している。229は蓋であり口縁端部がわずかに窪む。230・231は支脚で、230は隅丸の四角柱の角部分の破片と考えられる。231は隅丸の四角柱状で、上面が凹み、凹んだ部分が黒色になっている。器表面が白みを帯び、胎土は赤褐色を呈し硬質化している。232は器台で外面がやや白みを帯びる。

233～241はＳＫ151出土の弥生土器である。233～236は甕で233は断面三角形の口縁で口縁端部に刻目を施す。234は丸みを帯びた口縁で胴部に1条沈線を施す。235は逆Ｌ字状の口縁で摩耗が著しく調整が不鮮明である。口唇は内面に突出する。236は底部で、内面にオサエの痕跡が強く残る。237は壷の底部で内外面とも摩耗が著しく調整は不鮮明である。238・239は鉢で、238は円筒状で、



第94図　ＳＫ160出土遺物実測図（1/4）



第95図　ＳＫ160・161・164・170出土遺物実測図（1/4）

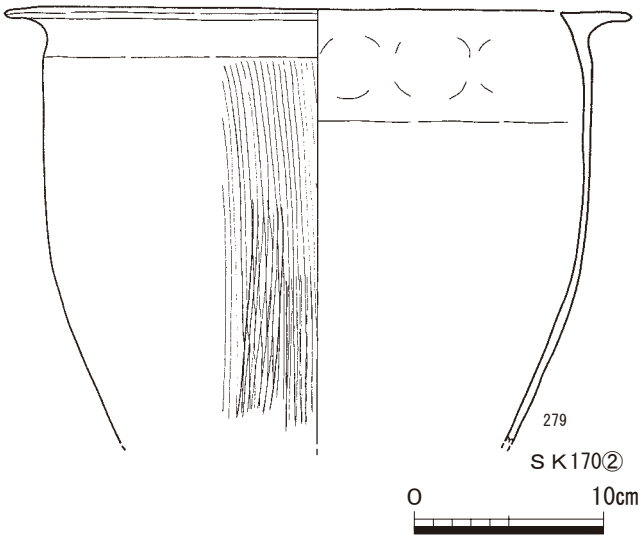
橙色を呈し、摩耗が著しいが外面にわずかにハケメが施される。239は灰白色を呈し、調整は摩耗のため不明である。240はミニチュアの高坏と考えられる。外面にミガキの痕跡がわずかに残る241は不明土器で、グラスのような形状である。底部はやや丸みを帯び、口唇下にナデを施し細くした後、口唇を内面に折曲げている。外面はハケメを施した後ナデを行っている。242～251はＳＫ155出土の弥生土器である。242～246は甕で、242は断面三角形の口縁で内面口唇下がナデによって凹み、胴部に１条の沈線を施す。243は断面台形の口縁で口唇が内面に突出する。244・245は逆Ｌ字状口縁で、244は口縁端部に刻目を施し、わずかに内面口唇下がナデによって窪む。245は口縁部を内面に突出する。246は底部で底がわずかに上がる。247・248は壷で胴中央部よりやや上が最大径である。口縁から頸部にかけて外面はナデを施す。249・250は円柱状の支脚で上面は窪む。249は底面から穴が開いている。251は器台である。

252～262はＳＫ160出土の弥生土器である。252・253・255～257は甕である。252・253・255は丸みを帯びた口縁で、252は２次被熱を受けて一部赤色化しており、口縁下の一部に煤がついている。胴部に１条の突帯を有する。253・257は厚底である。255・256は樽形の甕であり、255は外面、底面にミガキを施している。256は摩耗が著しいが、外面・底面にミガキがわずかに残る。254・258は壷で、254は最大径が胴部上位に位置し、沈線が施され、頸部に突帯を有する。258は頸部に沈線を施す。259は小型の甕である。内外面をナデ調整の痕が目立ち、粘土の塊が残る。底部がわずかに上がり、口縁は口唇部を上から覆い、雑に接合している。260～262は器台で、被熱を受け部分的に赤色、暗赤色を呈す。

263・264はＳＫ161出土の弥生土器である。263は鉢で、外面下部にはハケメが残る。258は高坏の口縁で、摩耗により調整は不明瞭である。

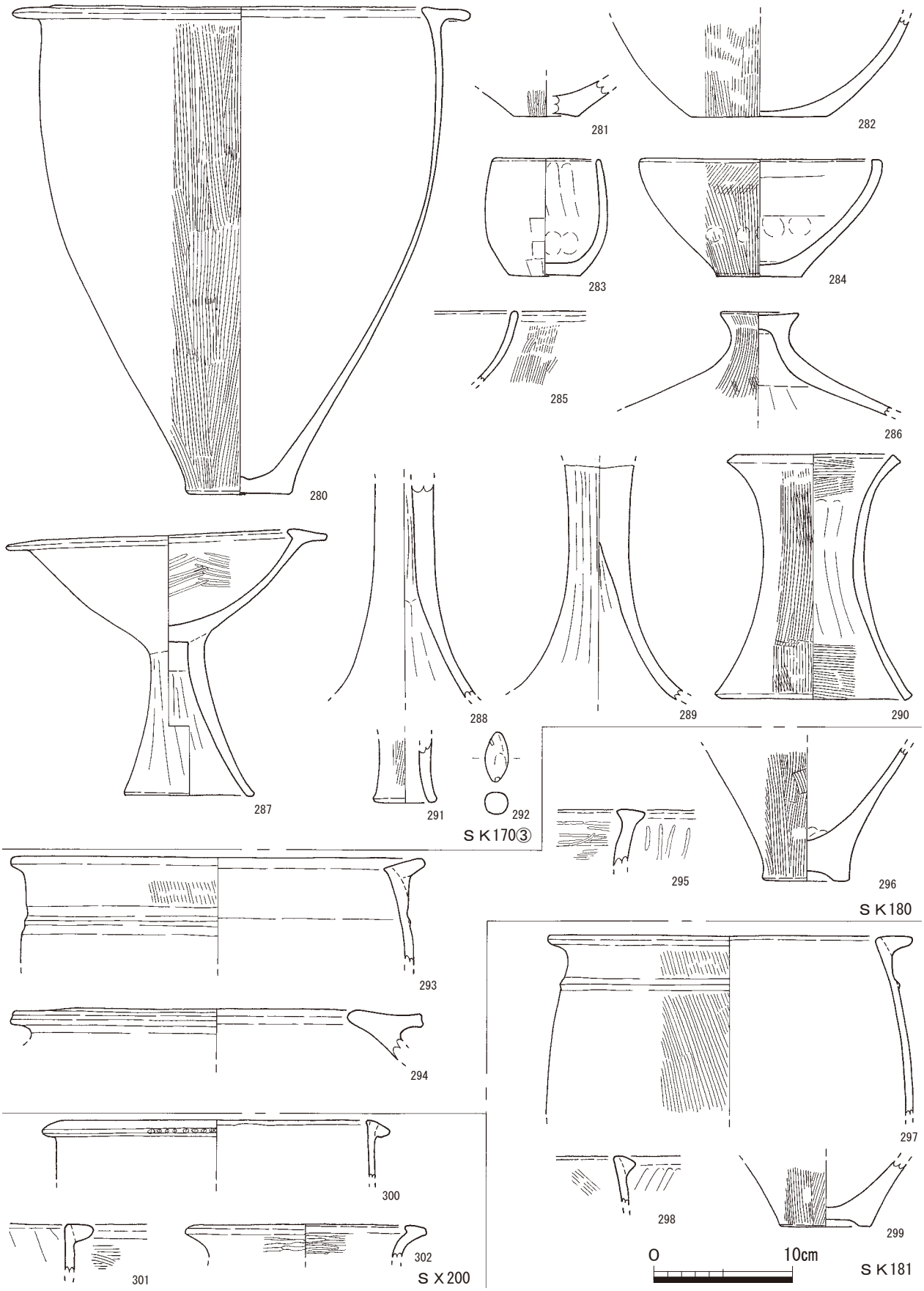
265～267はＳＫ164出土の弥生土器である。265・267は甕で、265は逆Ｌ字状の口縁である。266は大型の甕で口縁は内側に突出している。267は高坏で外面にハケメ、内面にミガキが残る。

268～292はＳＫ170出土の弥生土器、土製品である。268～274は甕で、268～272・280・281は逆Ｌ字状の口縁である。口縁は内面に突出している。269・270は口縁端部が垂れる。280は平底である。273は大型甕の口縁部で、口縁は内側へ突出し、胴部が張ると想定される。274～278は底部で、全て平底である。281・282は壷の底部であ281は内外面にミガキを施し、内外面、胎土が黒色化している。282の底部の厚さは薄い。

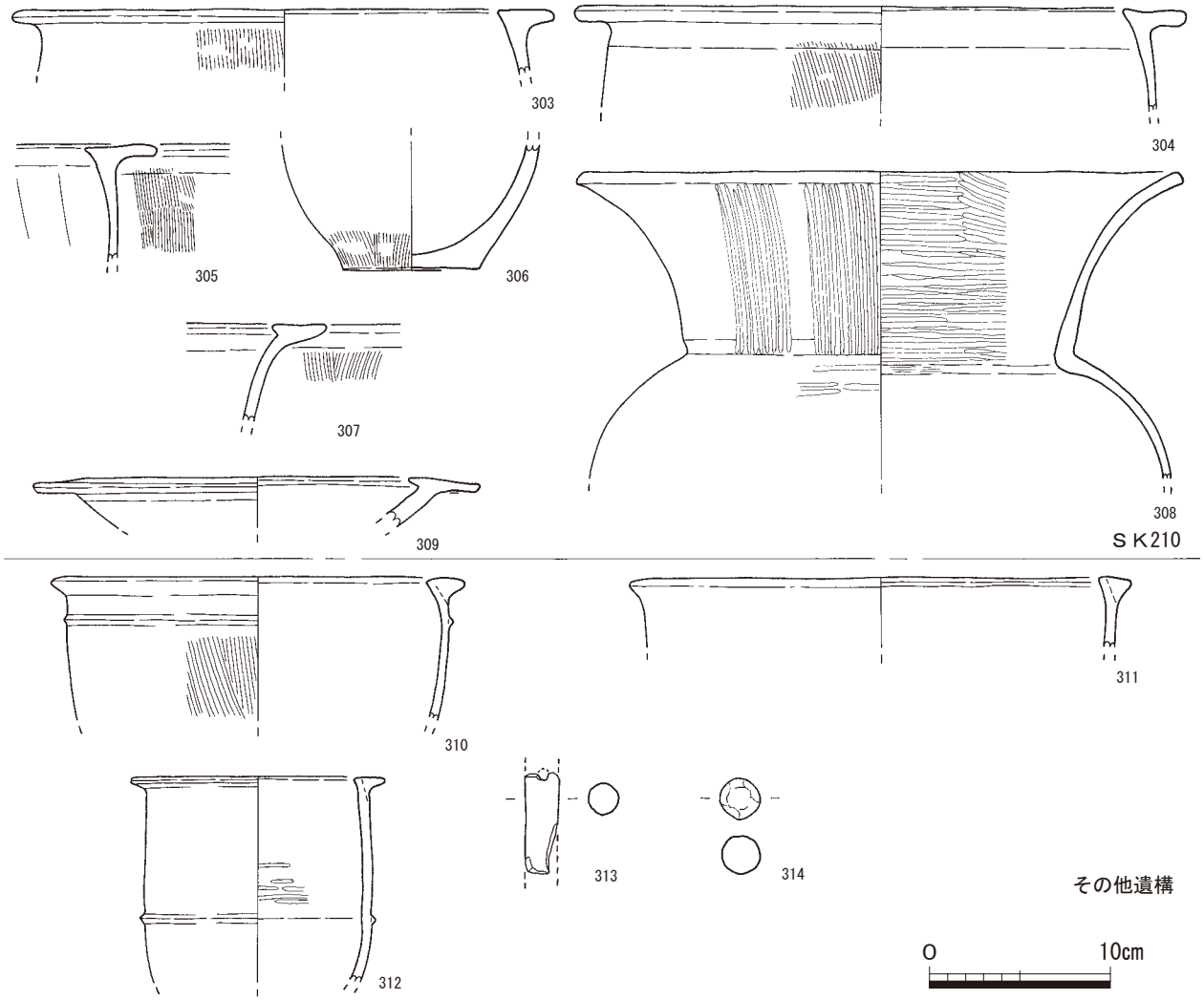


第96図　ＳＫ170出土遺物実測図（1/4）

283～285は鉢で、283は内外面とも丁寧にナデを施している。286は蓋で、天井部は平坦である。287～289は高坏で、287は鋤先口縁



第97図　ＳＫ170・180・181・200出土遺物実測図（1/4）



第98図　ＳＫ210・その他遺構出土遺物実測図（1/2、1/4）

で摩耗が著しいが内外面に丹塗りの痕がわずかに残る。脚部は大きく広がらない。289は脚部が広がることが推測され、外面に丹塗りの跡がわずかに残る。290・291は器台で、290は内面の上下に横方向のハケメを施す。291は小型の器台である。292は投弾で、ナデ調整を施す。

293～296はＳＫ180出土の弥生土器である。293・294・296は甕で、293は口縁が外傾し、胴部に１条の低い突帯を有する。突帯下の胴部が膨らむ。294は口縁が内側に突出し、胴が張る。296は底が上がる。295は壷の口縁部で頸部外面には暗文状に縦方向のミガキを施す。

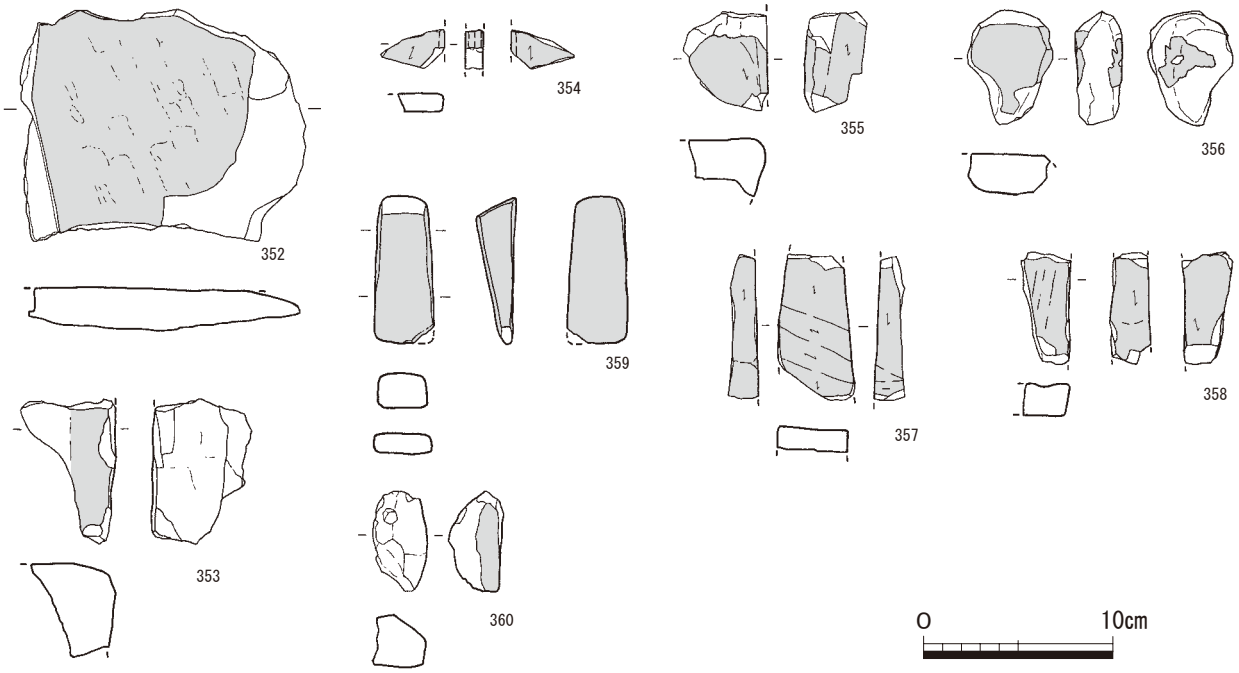
297～299はＳＫ181出土の弥生土器甕である。297は逆Ｌ字状の口縁で口縁部下に１条の低い突帯を有し、胴が張る。298は断面三角形の口縁で、299はわずかに底が上がる。

300～302はＳＫ200出土の弥生土器である。300・301は断面三角形の口縁で、300は口縁が内側に突出し、口縁端部が垂れ、刻目を施す。302は壷の口縁部で、口縁上部に粘土帯を貼り付ける。

303～309はＳＫ210から出土した弥生土器である。303～305は逆Ｌ字状の口縁で内側に突出する。306～308は壷で、306は胴が大きく膨らみ、外面にハケメを施す。308は口縁から頸部にかけて、10～20本程度の縦方向のミガキを1単位として暗文状にしている。309は鋤先口縁の高坏である。

第99図　石製品実測図①（1/2、1/4）

第100図　石製品実測図②（1/4）



第101図　石製品実測図（1/4）

310～314は上記以外の遺構から出土した弥生土器・土製品である。310～312は甕で、310は丸みを帯びた口縁を有し、口縁下に突帯を有する。311は断面三角形の口縁で、内面口唇部下はナデによってわずかに窪む。312は逆Ｌ字状口縁で口径が小さく、胴部に１条の突帯を有する。内外面に化粧土を塗っている。313は円柱状の土製品で焼成前に穿孔している。314は粘土の玉である。

315～360は石製品である。315～325は石鏃で、315～318・322は凹基式、319・321・323～325は平基式、320は凸基式である。320は、刃部は剥片剥離面を利用し、基部は加工により作りだす。321・323は未成品の可能性がある。326・327は石錐である。328は二次加工のある剥片である。先端部を利用した石錐の可能性もある。329～331はスクレイパーで、331は半円形の掻器である。332は石核であり、自然面を打面とする。石鏃、石錐、スクレイパー、剥片は安山岩製と黒曜石製のみが出土している。333・334は太型蛤刃石斧の基部で、333は厚さが薄い。335は鋏入柱状片刃石斧の基部で、抉りを有し、断面形は半円形を呈する。336は片岩製の紡錘車の未成品である。上部が欠け、中央の孔は貫通していない。337～339は敲石である。340～344は加工による平坦面を有す磨石である。345～349は凹石で、346～349は両面に凹みを有し、側面も敲打により平坦面や凹面を作りだす。350・351・352は台石であり、350は平坦面を有する。351は両面がわずかに凹み、353は研磨面を有する。352は板状の製品で平坦面が残る。354～358は砥石で、354は厚さ約１㎝で両面と側面がほぼ平坦である。354・356～358は砂岩製、355は白色の凝灰岩製である。359は４面に平坦面を有する用途不明製品である。360は軽石製品で平坦面を有し、一部被熱を受ける。

第８表　出土遺物観察表①

遺物No.	図番号	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整		胎土	登録番号
					口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	外面	内面		
1	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	(28.0)	—	10.8	灰黄褐	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	工具ナデ	砂粒を少量含む	201715000450
2	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	(29.0)	—	14.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	工具ナデ	細砂粒を少量含む	201715000337
3	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	(26.8)	—	16.0	にぶい橙	橙	ナデ、ハケメ	工具ナデ	砂粒を多量に含む	201715000336
4	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	—	—	4.9	灰黄褐	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ、オサエ	砂粒を少量含む	201715000344
5	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	—	—	5.9	にぶい黄橙～褐灰	褐灰	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を少量含む	201715000343
6	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	—	—	14.1	橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	微砂粒を多量に含む金雲母	201715000332
7	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	—	—	11.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ工具、ナデ	ナデ工具、ナデ	細砂粒を少量含む金雲母	201715000334
8	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	—	—	15.0	浅黄橙	にぶい黄橙	ナデ工具、ナデ	ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000333
9	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	—	—	4.0	灰黄	灰白	ナデ工具、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000342
10	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	—	7.1	5.2	にぶい橙	にぶい橙	ハケメナデ、オサエ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む	201715000345
11	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	—	5.9	9.1	にぶい橙	にぶい橙	ハケメナデ、オサエ	工具ナデ	細砂粒を多量に含む	201715000339
12	第 82 図	SI130	弥生土器	甕	—	7.0	8.1	にぶい黄橙	黒	ハケメ、ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000338
13	第 82 図	SI130	弥生土器	壷	(8.0)	—	3.1	褐灰	灰黄褐	ナデ、ミガキ	ミガキ	精良	201715000346
14	第 82 図	SI130	弥生土器	壷	(16.0)	—	2.6	褐灰	褐灰	ナデ、ハケメ	ナデ、ミガキ	精良	201715000347
15	第 82 図	SI130	弥生土器	壷	—	6.8	20.1	にぶい赤褐	にぶい褐	ミガキ	ミガキ	微砂粒を少量含む	201715000341
16	第 82 図	SI130	弥生土器	壷	—	(7.0)	8.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ、工具ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000335
17	第 82 図	SI130	弥生土器	鉢	—	—	3.6	黒	黒	ミガキ	ミガキ	黒色磨研精良	201715000348
18	第 82 図	SI130	弥生土器	鉢	—	—	3.8	黄灰	黄灰	ミガキ	ミガキ	黒色磨研精良	201715000354
19	第 82 図	SI215	弥生土器	甕	(31.0)	—	5.5	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	工具ナデ	細砂粒を多量に含む雲母、角閃石	201715000489
20	第 82 図	SI215	弥生土器	甕	—	—	2.7	橙	橙	ナデ	工具ナデ	砂粒を少量含む	201715000488
21	第 82 図	SI215	弥生土器	甕	—	—	4.8	橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000487
22	第 82 図	SI215	弥生土器	甕	(21.5)	—	5.2	にぶい褐	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000490
23	第 82 図	SI215	弥生土器	甕	—	—	4.8	浅黄橙	浅黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	細砂粒を含む角閃石	201715000492
24	第 82 図	SI230	弥生土器	甕	—	—	1.9	にぶい褐	にぶい黄橙	ナデ	工具ナデ	砂粒を含む	201715000496
25	第 82 図	SI230	弥生土器	壷	—	5.6	2.5	にぶい橙	にぶい橙	工具ナデ、未調整	ナデ	砂粒を含む	201715000497
26	第 83 図	SD80	弥生土器	甕	(29.8)	—	6.9	灰黄褐	灰白	ナデ工具、ナデ	工具ナデ	微砂粒を多量に含む角閃石	201715000258
27	第 83 図	SD80	弥生土器	甕	—	—	5.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を少量含む角閃石	201715000257
28	第 83 図	SD80	弥生土器	甕	—	7.8	8.3	にぶい褐	橙	ハケメ、未調整	ナデ	砂粒を少量含む角閃石	201715000259
29	第 83 図	SD80	弥生土器	甕	—	7.9	6.7	にぶい橙	にぶい橙	ハケメ、未調整	ナデ、オサエ	砂粒を含む角閃石	201715000260
30	第 83 図	SD80	弥生土器	器台	—	—	4.1	にぶい赤褐	にぶい橙	ミガキ、ナデ	ナデ	細砂粒を多量に含む外面に暗文、内外面に丹塗り	201715000254
31	第 83 図	SD80	須恵器	甕	—	—	2.1	灰	灰	タタキ(格子)	タタキ(同心円)	精良	201715000253
32	第 83 図	SD110	弥生土器	甕	—	—	5.4	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000326
33	第 83 図	SD110	土師器	壷	(11.0)	—	6.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ、ケズリ	細砂粒を含む	201715000319
34	第 83 図	SD110	土師器	壷	(11.5)	—	7.7	浅黄橙～橙	浅黄橙	ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む	201715000318
35	第 83 図	SD110	土師器	鉢	(10.2)	(4.1)	5.2	にぶい橙	にぶい橙	手づくね、ナデ	手づくねナデ	砂粒を少量含む角閃石	201715000324
36	第 83 図	SD110	土師器	鉢	—	—	5.6	橙	橙	ナデ、ハケメケズリ	ハケメ、ナデ	微砂粒を少量含む	201715000321
37	第 83 図	SD110	弥生土器	ミニチュア土器	(4.4)	2.5	2.5	にぶい黄橙	褐灰	手づくね工具、ナデ	手づくね	微砂粒を多量に含む角閃石	201715000327
38	第 83 図	SD110	土師器	高杯	—	16.9	4.1	浅黄橙	浅黄橙	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	精良 脚部に穿孔	201715000315
39	第 83 図	SD110	土師器	高杯	—	—	4.8	明赤褐	明赤褐	ミガキ、ナデ	ナデ	細砂粒を少量含む	201715000311
40	第 83 図	SD110	土師器	高杯	—	—	8.1	浅黄橙	にぶい橙	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	微砂粒を少量含む	201715000317
41	第 83 図	SD110	土師器	高杯	—	(10.7)	1.6	にぶい橙	にぶい橙	ハケメ、ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	微砂粒を多量に含む角閃石、雲母	201715000316
42	第 83 図	SD110	土師器	支脚	—	9.8	6.8	橙	橙	タタキ、ナデ	—	砂粒を多量に含む	201715000310
43	第 83 図	SD110	土製品	投弾	2.8	1.7	1.2	灰黄褐		ナデ		重量6.20g	201715000314
44	第 83 図	SD110	須恵器	甕	—	—	16.8	灰	灰	タタキ(正格子)	タタキ(同心円)	精良 外面に自然釉	201715000312
45	第 84 図	SI1	弥生土器	甕	—	—	3.2	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を少量含む角閃石、赤色粒子	201715000002
46	第 84 図	SI1	弥生土器	甕	(16.6)	—	9.2	にぶい褐	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を少量含む金雲母	201715000001
47	第 84 図	SI1	弥生土器	甕	—	5.6	8.2	にぶい黄褐	にぶい橙	ハケメ、ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む角閃石、赤色粒子	201715000005
48	第 84 図	SI1	弥生土器	壺	—	—	2.5	にぶい橙	橙	ナデ、ミガキ	ミガキ	砂粒を含む　金雲母外面に暗文	201715000003
49	第 84 図	SI3	弥生土器	壷	—	—	3.4	極暗赤褐	極暗赤褐	ナデ	ナデ	細砂粒を含む　金雲母内外面に丹塗り	201715000009
50	第 84 図	SK30	弥生土器	甕	(28.4)	—	11.9	にぶい赤褐	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を粒多く含む	201715000014
51	第 84 図	SK30	弥生土器	甕	—	—	5.9	にぶい黄褐	褐灰	ナデ	ナデ	砂粒を少量含む	201715000015
52	第 84 図	SK30	弥生土器	壺	—	—	4.9	黄灰	にぶい褐～黄灰	ミガキ	ミガキ、ナデ	砂粒を少量含む角閃石	201715000018
53	第 84 図	SK30	弥生土器	壺	(21.6)	—	4.6	にぶい橙	橙	ナデ	ナデ	砂粒を少量含む角閃石	201715000017
54	第 84 図	SK34	弥生土器	甕	—	—	3.9	褐灰	灰黄褐	ナデ	ナデ	砂粒を少量含む	201715000020
55	第 84 図	SK34	弥生土器	壺	10.8	—	3.2	灰黄褐	黒	ミガキ	ミガキ	黒色磨研細砂粒を少量含む　金雲母	201715000022
56	第 84 図	SK35	弥生土器	甕	—	—	2.6	にぶい橙	にぶい褐	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を含む金雲母	201715000023
57	第 84 図	SK35	弥生土器	壺	(11.4)	—	3.6	橙	灰黄褐	ナデ	ミガキ	黒色磨研砂粒を含む　角閃石	201715000024
58	第 84 図	SK40	弥生土器	甕	—	—	6.8	灰黄褐	にぶい橙～灰黄褐	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000031
59	第 84 図	SK40	弥生土器	甕	—	—	4.7	灰黄褐	灰白	ナデ	ナデ工具、ナデ	砂粒を少量含む金雲母	201715000034
60	第 84 図	SK40	弥生土器	甕	(25.7)	—	8.9	橙～にぶい褐	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000029
61	第 84 図	SK40	弥生土器	甕	(27.2)	—	7.3	橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を多量に含む金雲母	201715000032
62	第 84 図	SK40	弥生土器	甕	—	(7.4)	3.7	にぶい橙	にぶい橙	ハケメ、ナデ	工具ナデ	砂粒を少量含む	201715000035
63	第 84 図	SK40	弥生土器	壺	(13.4)	—	1.4	褐灰	灰黄褐	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	細砂粒を少量含む赤色粒子	201715000039
64	第 84 図	SK40	弥生土器	壺	—	—	4.0	にぶい赤褐	にぶい赤褐～褐灰	ナデ、ミガキ	ミガキ、工具ナデ	砂粒を含む赤色粒子	201715000038
65	第 84 図	SK40	弥生土器	支脚	—	—	2.8	灰褐	にぶい褐	ミガキ	ナデ工具、ナデ	砂粒を少量含む	201715000037
66	第 84 図	SK39	弥生土器	甕	(25.6)	—	3.7	灰褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	細砂粒を含む金雲母多い	201715000026
67	第 84 図	SK45	弥生土器	甕	(19.2)	—	3.5	にぶい褐～褐灰	にぶい褐～褐灰	ナデ	ナデ	砂粒を少量含む赤色粒子	201715000047
68	第 84 図	SK45	弥生土器	甕	(19.9)	—	6.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を少量含む角閃石	201715000045
69	第 84 図	SK45	弥生土器	甕	(29.4)	—	7.3	橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を含む金雲母、角閃石	201715000046
70	第 84 図	SK39	弥生土器	甕	—	—	3.9	灰褐	灰褐	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を多く含む金雲母	201715000027
71	第 84 図	SK45	弥生土器	甕	—	(6.2)	5.7	にぶい赤褐	にぶい橙	工具ナデ、ミガキ	工具ナデ、オサエ、ナデ	礫を含む	201715000053
72	第 84 図	SK45	弥生土器	甕	—	(6.7)	7.8	褐灰～黒	にぶい黄橙	ハケメナデ、ミガキ	工具ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000052
73	第 84 図	SK45	弥生土器	壺	(15.9)	—	2.8	灰褐	明褐灰	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	砂粒を少量含む角閃石	201715000049
74	第 84 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	3.7	にぶい赤褐	にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000078
75	第 84 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	3.6	にぶい橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	精良	201715000077

第９表　出土遺物観察表②

遺物No.	図番号	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整		胎土	登録番号
					口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	外面	内面		
76	第 84 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	5.0	橙黒	にぶい褐	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	砂粒を微量含む赤色粒子	201715000076
77	第 84 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	3.3	黄灰	黒褐	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒含む	201715000161
78	第 85 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	6.8	にぶい橙～にぶい黄橙	褐灰	ミガキ、ナデ不明	ナデ工具、ナデ	細砂粒、赤色粒子を多量に含む角閃石	201715000094
79	第 85 図	SK50	弥生土器	甕	22.6	6.2	29.1	暗褐	橙	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む底部接地面被熱か	201715000124
80	第 85 図	SK50	弥生土器	甕	26.6	6.2	31.7	橙～黒褐	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を含む	201715000123
81	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	7.6	黒褐	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ	ほぼ精良	201715000169
82	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	4.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000084
83	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	6.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	工具ナデ	砂粒を含む	201715000095
84	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	6.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	砂粒を少量含む	201715000174
85	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	10.9	にぶい赤褐	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む角閃石、赤色粒子	201715000170
86	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(13.4)	—	4.0	褐灰	褐灰	ミガキ、ナデ	ナデ工具、ナデ	細砂粒を少量含む雲母、角閃石	201715000079
87	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(14.3)	—	7.8	にぶい黄橙	灰黄褐	ミガキ、ナデ工具、ナデ	ナデ	砂粒を少量含む角閃石	201715000085
88	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(21.8)	—	11.1	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む	201715000063
89	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(22.0)	—	17.7	黒褐	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を少量含む角閃石	201715000182
90	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(22.4)	—	9.4	にぶい橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を少量含む金雲母	201715000165
91	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(23.6)	—	10.1	にぶい赤褐	にぶい褐	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を含む金雲母	201715000166
92	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(23.8)	—	4.8	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を少量含む金雲母	201715000167
93	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(24.6)	—	9.9	灰褐	橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を少量含む金雲母	201715000206
94	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(23.7)	—	10.9	黒	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000181
95	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(25.6)	—	18.6	灰黄褐	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ	微砂粒を含む角閃石	201715000183
96	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	25.8	—	6.0	灰褐	にぶい褐	ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000082
97	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	(26.2)	—	8.1	にぶい褐	にぶい褐	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000175
98	第 86 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	8.5	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	細砂粒を少量含む金雲母	201715000090
99	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(26.8)	—	13.0	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を多量に含む金雲母	201715000099
100	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(27.2)	—	17.5	にぶい橙	にぶい褐	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000100
101	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(27.8)	—	5.1	橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000057
102	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(28.4)	—	14.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む赤色粒子	201715000092
103	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(28.0)	—	14.0	橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000102
104	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(29.4)	—	17.9	橙	橙～灰褐	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000101
105	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(29.6)	—	5.8	にぶい橙	にぶい褐	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む赤色粒子	201715000103
106	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(31.8)	—	12.8	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000179
107	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	3.2	黒	黒	ミガキ	ミガキ	黒色磨研細砂粒を微量含む	201715000075
108	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(11.4)	—	2.9	黄灰	黒	ミガキ、ハケメ	ミガキ	黒色磨研細砂粒を微量含む	201715000074
109	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	2.5	黒	黒	ミガキ	ミガキ	黒色磨研砂粒を少量含む　赤色粒子	201715000073
110	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(20.6)	—	7.9	にぶい褐	褐灰	ミガキ、ハケメ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000176
111	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(28.0)	—	6.3	明赤褐	暗褐	ミガキ	ミガキ	砂粒を少量含む角閃石	201715000178
112	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	(18.8)	—	10.4	灰褐	灰褐	ナデ、ミガキ	ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000162
113	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	16.6	褐灰	にぶい橙	ナデ	ナデ工具、ナデ	砂粒を微量に含む金雲母	201715000097
114	第 87 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	7.3	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ、オサエ	ナデ	砂粒を少量含む金雲母	201715000096
115	第 87 図	SK50	弥生土器	不明	—	—	8.8	にぶい黄褐	浅黄橙	ナデ	ナデ	砂粒を少量含む金雲母	201715000214
116	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	—	10.4	にぶい橙～褐灰	にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000104
117	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	5.2	7.9	灰褐	褐灰	ハケメ、ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む	201715000207
118	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	6.0	7.1	にぶい褐	にぶい橙	ハケメ、ナデ	工具ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000245
119	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	5.8	7.6	にぶい黄橙～灰黄褐	浅黄橙～褐灰	ハケメ、ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000121
120	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	6.3	10.5	灰黄褐	にぶい黄橙	ハケメ、ナデ	ナデ	礫を多量に含む	201715000106
121	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	(6.0)	11.1	灰褐	にぶい黄橙～黒	ハケメ、工具ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000244
122	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	(5.4)	15.3	にぶい橙	にぶい褐	ハケメ、ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000105
123	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	6.2	9.1	にぶい褐	にぶい橙	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒、赤色粒子を多量に含む	201715000188
124	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	6.2	9.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む石英	201715000120
125	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	6.4	10.1	にぶい褐	橙	ハケメ、ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む	201715000119
126	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	7.2	5.1	にぶい褐	黒褐	ナデ	オサエ	砂粒を多量に含む	201715000109
127	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	7.4	8.9	にぶい黄橙	浅黄橙	ハケメ、ナデ、オサエ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000065
128	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	4.9	14.7	にぶい褐	にぶい黄橙	ハケメ、ミガキ、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む石英、雲母	201715000192
129	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	6.4	10.3	にぶい橙	にぶい橙	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000189
130	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	6.8	5.7	灰褐	褐灰	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を含む赤色粒子	201715000114
131	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	6.4	24.9	黒褐～灰褐	褐灰	ハケメ、ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000191
132	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	(11.2)	6.2	橙	灰褐	ハケメ、ナデ	—	砂粒を多量に含む	201715000122
133	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	7.8	8.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ、ナデ工具、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000115
134	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	7.7	9.5	にぶい黄橙	灰黄褐	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000116
135	第 88 図	SK50	弥生土器	甕	—	7.9	9.8	にぶい橙	浅黄橙	ナデ、ミガキ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000186
136	第 88 図	SK50	弥生土器	蓋	—	—	4.3	橙	灰褐	ナデ、ミガキ	工具ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000184
137	第 88 図	SK50	弥生土器	壺	—	—	13.0	橙	浅黄橙	ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	砂粒を多量に含む	201715000136
138	第 88 図	SK50	弥生土器	壺	—	—	2.1	黒	黒	ミガキ	ミガキ	黒色磨研微砂粒を含む	201715000127
139	第 88 図	SK50	弥生土器	壺	—	—	5.9	にぶい橙	浅黄橙～にぶい褐	ナデ	ミガキ	砂粒を多量に含む	201715000135
140	第 88 図	SK50	弥生土器	壺	(16.0)	—	6.0	黒褐	褐灰	ナデ、ミガキ	ミガキ	黒色磨研微砂粒を含む　角閃石	201715000128
141	第 88 図	SK50	弥生土器	壺	(18.4)	—	7.7	橙	にぶい褐	ナデ	ミガキ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000209
142	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	(22.4)	—	20.9	橙	にぶい黄橙	ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000125
143	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	—	4.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000130
144	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	—	4.2	灰黄褐	褐灰	ナデ、ミガキ	ナデ	ほぼ精良	201715000131
145	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	(24.7)	—	12.6	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ、ミガキ	砂粒を少量含む金雲母	201715000210
146	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	(16.5)	—	4.6	灰黄褐	褐灰	ナデハケメ	ナデ、ミガキ	微砂粒を含む角閃石	201715000129
147	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	(16.0)	—	8.3	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000195
148	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	—	8.8	にぶい橙	にぶい褐	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	砂粒を少量含む	201715000194
149	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	7.5	27.6	にぶい黄褐	にぶい黄褐	工具ナデ、オサエ、ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000146
150	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	—	8.9	にぶい橙	にぶい黄橙	不明	ミガキ、ナデ	砂粒を多量に含む石英、雲母、角閃石	201715000196

第10表　出土遺物観察表③

遺物No.	図番号	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整		胎土	登録番号
					口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	外面	内面		
151	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	—	7.1	灰黄褐	褐灰	ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む	201715000138
152	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	7.6	4.6	灰褐	明赤褐	ナデ、オサエ	ミガキ、オサエ	砂粒を含む角閃石、石英	201715000248
153	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	5.6	5.9	にぶい褐	にぶい橙	ミガキ、工具ナデ	ミガキ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000197
154	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	4.3	6.7	灰褐	褐灰	ナデ	ハケメ	砂粒を多量に含む雲母	201715000198
155	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	6.3	7.9	灰褐	にぶい橙	ミガキ、ナデ	工具ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000145
156	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	4.0	6.6	にぶい黄橙	にぶい橙	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	砂粒を少量含む金雲母	201715000246
157	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	(7.2)	5.0	にぶい黄橙	にぶい橙	ハケメ、ミガキ、ナデ	工具ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む	201715000247
158	第 89 図	SK50	弥生土器	壺	—	(6.6)	10.4	にぶい橙	にぶい黄橙	ミガキ、ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000249
159	第 89 図	SK50	弥生土器	鉢	—	—	7.4	褐灰	灰褐	ナデ、ミガキ	ミガキ	外面黒色砂粒を含む	201715000147
160	第 90 図	SK50	弥生土器	鉢	(26.3)	—	9.3	橙	橙	ナデ不明	オサエ、ミガキ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000200
161	第 90 図	SK50	弥生土器	壺	5.2	—	9.6	灰褐	にぶい褐	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒含む角閃石	201715000193
162	第 90 図	SK50	弥生土器	蓋	6.5	—	9.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	オサエ、ナデ、ハケメ	砂粒、赤色粒子を少量含む	201715000250
163	第 90 図	SK50	弥生土器	蓋	26.8	5.0	—	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	砂粒を少量含む	201715000219
164	第 90 図	SK50	弥生土器	蓋	(23.3)	—	5.5	橙	にぶい黄橙	ハケメ、ナデ	ハケメ	細砂粒を少量含む角閃石	201715000216
165	第 90 図	SK50	弥生土器	蓋	(25.4)	—	4.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	細砂粒を少量含む	201715000202
166	第 90 図	SK50	弥生土器	壺	(29.4)	—	5.0	黒褐	暗灰黄～黒褐	ハケメ、ナデ	工具ナデ、ハケメ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000149
167	第 90 図	SK50	弥生土器	器台	(8.2)	8.1	11.8	灰黄褐	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	微砂粒、赤色粒子を含む	201715000158
168	第 90 図	SK50	弥生土器	器台	7.1	8.2	12.0	にぶい褐	にぶい橙	オサエ、ナデ	ナデ工具、ナデ	砂粒を少量含む金雲母	201715000160
169	第 90 図	SK50	弥生土器	器台	(8.0)	8.0	12.2	灰褐	にぶい橙	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を少量含む赤色粒子	201715000154
170	第 90 図	SK50	弥生土器	器台	6.8	7.1	13.4	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を少量含む	201715000217
171	第 90 図	SK50	弥生土器	器台	—	8.8	12.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	オサエ、ハケメ、ナデ	ナデ	細砂粒を少量含む	201715000157
172	第 90 図	SK50	弥生土器	器台	—	8.7	13.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ、ナデ	ナデ	細砂粒を少量含む	201715000153
173	第 90 図	SK50	弥生土器	器台	—	8.7	11.5	にぶい褐	にぶい橙	ハケメ、ナデ	ナデ、ハケメ	砂粒を含む	201715000155
174	第 90 図	SK50	弥生土器	器台	—	(6.6)	5.1	明赤褐	明赤褐	ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	砂粒を少量含む	201715000150
175	第 90 図	SK50	弥生土器	支脚	—	5.9	5.4	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	—	砂粒を少量含む角閃石、赤色粒子	201715000215
176	第 90 図	SK55	弥生土器	甕	—	—		橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒を微量含む	201715000222
177	第 90 図	SK55	弥生土器	壺	—	—	6.0	褐灰	褐灰	ミガキ	ミガキ	砂粒を少量含む	201715000225
178	第 90 図	SK55	弥生土器	甕	(21.1)	—	6.7	褐灰	褐灰	ナデ、ハケメ	ナデ、オサエ、工具ナデ	砂粒を少量含む赤色粒子	201715000229
179	第 90 図	SK55	弥生土器	甕	—	(6.6)	7.0	にぶい褐～黒	にぶい橙	ハケメ、ナデ、ミガキ	ナデ	礫を多量に含む石英	201715000224
180	第 90 図	SK55	弥生土器	壺	—	—	6.2	灰褐	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ、ミガキ	ミガキ	砂粒を少量含む	201715000230
181	第 90 図	SK55	弥生土器	壺	—	—	4.8	灰黄褐	褐灰	ナデ	ナデ、ミガキ	細砂粒を多量に含む金雲母	201715000231
182	第 90 図	SK55	弥生土器	壺	—	—	(7.2)	黒	黒褐	ミガキ	ミガキ	黒色磨研微砂粒を含む	201715000232
183	第 90 図	SK60	弥生土器	甕	(33.8)	6.9	31.5	黒褐	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000237
184	第 91 図	SK60	弥生土器	甕	27.0	—	5.5	明褐灰	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を含む角閃石、雲母、石英	201715000234
185	第 91 図	SK60	弥生土器	甕	—	6.4	6.4	灰褐	にぶい橙	ハケメ、ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む金雲母	201715000236
186	第 91 図	SK60	弥生土器	蓋	—	5.7	11.3	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	工具ナデ	細砂粒を少量含む角閃石	201715000238
187	第 91 図	SK60	弥生土器	器台	(9.1)	9.3	14.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を少量含む	201715000239
188	第 91 図	SK65	弥生土器	甕	—	—	(6.4)	橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を少量含む	201715000241
189	第 91 図	SK65	弥生土器	甕	—	(6.8)	4.0	にぶい黄橙	灰黄橙	ハケメ、ナデ	ナデ	微砂粒を含む金雲母	201715000242
190	第 91 図	SK100	弥生土器	甕	(27.4)	—	8.4	浅黄橙	浅黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000285
191	第 91 図	SK100	弥生土器	甕	(29.0)	—	8.8	浅黄橙	浅黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を少量含む角閃石	201715000288
192	第 91 図	SK100	弥生土器	甕	—	—	8.0	浅黄橙	浅黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	微砂粒を多量に含む角閃石	201715000286
193	第 91 図	SK100	弥生土器	甕	—	—	5.4	浅黄橙	灰白	ナデ、ハケメ	ナデ、オサエ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000287
194	第 91 図	SK100	弥生土器	甕	—	—	4.0	にぶい橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	微砂粒を多量に含む角閃石	201715000284
195	第 91 図	SK100	弥生土器	甕	—	(8.4)	9.2	にぶい橙	浅黄橙～黒	ハケメ、ナデ	オサエ、ナデ	細砂粒を含む	201715000289
196	第 91 図	SK100	弥生土器	甕	—	(9.0)	3.4	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む	201715000290
197	第 91 図	SK100	弥生土器	高杯	—	—	6.4	明赤褐	明赤褐	ナデ、ミガキ	ミガキ	微砂粒を多量に含む、角閃石内外面に丹塗り	201715000292
198	第 91 図	SK100	弥生土器	鉢	(16.5)	(6.2)	9.4	浅黄橙	灰黄褐～黒褐	ナデ、ハケメ	工具ナデ、オサエ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000291
199	第 91 図	SK100	弥生土器	蓋	—	—	2.0	灰褐	灰褐	ナデ、カキメ	ナデ	微砂粒を多量に含む角閃石	201715000298
200	第 91 図	SK100	弥生土器	ミニチュア土	—	(2.4)	1.8	黄灰	灰黄褐	ナデ	ナデ	精良	201715000295
201	第 91 図	SK105	弥生土器	甕	(25.0)	—	9.9	橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を含む角閃石	201715000299
202	第 91 図	SK105	弥生土器	甕	(22.0)	—	8.8	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、工具ナデ	ナデ	細砂粒を多量に含む	201715000301
203	第 91 図	SK105	弥生土器	甕	(25.6)	—	6.0	橙	橙	ナデ、ハケメ、ミガキ	ナデ	精良内外面に丹塗り	201715000302
204	第 91 図	SK105	弥生土器	甕	—	—	6.1	橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	微砂粒を少量含む角閃石	201715000303
205	第 91 図	SK105	弥生土器	甕	—	5.0	10.3	灰黄褐	灰黄褐	ナデ、工具ナデ	ナデ	細砂粒を多量に含む角閃石、金雲母	201715000304
206	第 91 図	SK105	弥生土器	壺	(26.6)	—	10.7	にぶい橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む角閃石、金雲母	201715000305
207	第 91 図	SK105	弥生土器	壺	—	(7.9)	4.6	褐灰	灰黄褐	工具ナデ	工具ナデ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000309
208	第 92 図	SK105	弥生土器	壺	—	(8.4)	16.1	にぶい橙	橙	ナデ、ハケメ	オサエ、ナデ	砂粒を少量含む角閃石、金雲母	201715000306
209	第 92 図	SK105	弥生土器	高杯	(21.5)	—	4.1	橙	橙	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	精良	201715000308
210	第 92 図	SK105	弥生土器	高杯	—	18.2	33.1	橙	橙	工具ナデ、ナデ	未調整ナデ	精良	201715000300
211	第 92 図	SK105	弥生土器	器台	—	(11.5)	10.8	橙	にぶい橙	ハケ、メナデ	ナデ、ハケメ	細砂粒を多量に含む角閃石、金雲母	201715000307
212	第 92 図	SK143	弥生土器	甕	(31.6)	—	4.2	浅黄橙	浅黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	ほぼ精良	201715000355
213	第 92 図	SK143	弥生土器	甕	—	—	4.8	橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を多量に含む金雲母	201715000356
214	第 92 図	SK143	弥生土器	甕	—	7.6	11.6	灰褐	にぶい橙	ハケメ、工具ナデ	ナデ	砂粒を含む	201715000357
215	第 92 図	SK143	弥生土器	鉢	—	—	3.0	にぶい橙	にぶい橙	ミガキ	ナデ	微砂粒を多量に含む金雲母	201715000360
216	第 92 図	SK143	弥生土器	壺	—	—	12.3	橙	橙	ナデ、ミガキ	工具ナデ	少量の砂粒を含む金雲母	201715000358
217	第 92 図	SK165	弥生土器	甕	—	—	3.4	橙	橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000428
218	第 92 図	SK165	弥生土器	甕	(21.5)	—	8.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	砂粒を少量含む金雲母	201715000426
219	第 92 図	SK165	弥生土器	甕	—	—	3.6	にぶい赤褐	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を少量含む	201715000427
220	第 92 図	SK145	弥生土器	甕	—	—	5.9	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ	砂粒を少量含む	201715000367
221	第 92 図	SK145	弥生土器	甕	—	—	3.7	橙	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000361
222	第 92 図	SK145	弥生土器	甕	—	8.0	5.5	灰黄褐	にぶい黄橙	ハケメ工具、ナデ	ナデ	砂粒、赤色粒子を多量に含む	201715000362
223	第 92 図	SK145	弥生土器	壺	—	—	3.0	黒	黒	ミガキ	ミガキ	黒色磨研微砂粒を含む	201715000368
224	第 92 図	SK165	弥生土器	甕	—	—	2.2	黒	灰	ナデ、ミガキ	ナデ、ハケメ	黒色磨研砂粒を微量含む	201715000429
225	第 92 図	SK145	弥生土器	壺	(17.2)	—	7.7	黒	黒	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	黒色磨研微砂粒を多量に含む　金雲母	201715000369

第11表　出土遺物観察表④

遺物No.	図番号	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整		胎土	登録番号
					口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	外面	内面		
226	第 92 図	SK165	弥生土器	高杯	(20.3)	—	13.7	にぶい橙	にぶい橙	ミガキ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、ミガキ	赤色粒子を多量に含む	201715000430
227	第 92 図	SK145	弥生土器	鉢	(20.4)	—	13.5	黒	黒	ミガキ	ナデ、ミガキ	黒色磨研細砂粒を多量に含む　角閃石	201715000370
228	第 92 図	SK145	弥生土器	鉢	—	—	9.6	灰黄褐	黒	ナデ、ミガキ	ミガキ	黒色磨研微砂粒を含む	201715000366
229	第 92 図	SK145	弥生土器	蓋	—	—	2.2	灰黄褐	黒	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を含む	201715000363
230	第 92 図	SK145	土製品	支脚	—	(4.4)	4.3	にぶい褐		ナデ	—	砂粒を少量含む	201715000371
231	第 92 図	SK145	土製品	支脚	12.1	5.6	6/0	灰黄褐		ナデ、オサエ	—		201715000365
232	第 92 図	SK145	弥生土器	器台	—	(10.3)	8.5	にぶい橙	にぶい橙	ハケメ、ナデ	工具ナデ、ナデ、ハケメ	砂粒、赤色粒子を少量含む	201715000372
233	第 93 図	SK151	弥生土器	甕	—	—	3.0	にぶい橙	浅黄橙	ナデ	ナデ、工具ナデ	赤色粒子を多量に含む	201715000377
234	第 93 図	SK151	弥生土器	甕	—	—	5.4	にぶい褐	橙	ナデ、ハケメ	ナデ、工具ナデ	砂粒を多量に含む	201715000375
235	第 93 図	SK151	弥生土器	甕	—	—	2.6	灰白	浅黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ、工具ナデ	微砂粒を含む	201715000376
236	第 93 図	SK151	弥生土器	甕	—	(7.1)	8.4	にぶい黄橙	褐灰	ハケメ、ナデ	ナデ	細砂粒を多量に含む金雲母	201715000378
237	第 93 図	SK151	弥生土器	壷	—	(9.6)	3.9	灰褐	橙	工具ナデ、ナデ	ナデ	細砂粒を多量に含む金雲母	201715000380
238	第 93 図	SK151	弥生土器	鉢	(11.6)	—	6.9	橙	橙	ハケメ	ナデ	細砂粒、赤色粒子を少量含む	201715000382
239	第 93 図	SK151	弥生土器	鉢	(12.4)	—	5.2	灰白	灰白	不明	不明	砂粒を少量含む	201715000381
240	第 93 図	SK151	弥生土器	ミニチュア土器	—	—	3.4	橙	橙	ミガキ、ナデ	ナデ	微砂粒を含む	201715000385
241	第 93 図	SK151	弥生土器	ミニチュア土器	(7.4)	4.0	12.2	にぶい橙～褐灰	褐灰	ナデ、ハケメ	ナデ、工具ナデ	砂粒を少量含む	201715000384
242	第 93 図	SK155	弥生土器	甕	—	—	7.1	灰褐	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ、工具ナデ	砂粒を少量含む	201715000399
243	第 93 図	SK155	弥生土器	甕	—	—	6.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ、工具ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000401
244	第 93 図	SK155	弥生土器	甕	—	—	3.4	橙	灰褐	ナデ、工具ナデ	工具ナデ	砂粒を多量に含む	201715000400
245	第 93 図	SK155	弥生土器	甕	—	—	5.1	橙	にぶい黄橙	ナデ、ミガキ	ナデ、オサエ、ミガキ	砂粒を少量含む	201715000398
246	第 93 図	SK155	弥生土器	甕	—	6.5	16.8	にぶい黄橙	黒	ハケメ、ナデ	工具ナデ、オ サエ、ナデ	砂粒を多量に含む	201715000402
247	第 93 図	SK155	弥生土器	壺	23.0	7.9	33.7	橙	橙	ナデ、ミガキ	ミガキ、工具ナデ	細砂粒を少量含む金雲母	201715000403
248	第 93 図	SK155	弥生土器	壺	(22.0)	7.8	34.3	浅黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	砂粒を少量含む金雲母	201715000404
249	第 93 図	SK155	土製品	支脚	—	7.6	12.6	にぶい橙		ナデ、オサエ	—	細砂粒を少量含む	201715000405
250	第 93 図	SK155	土製品	支脚	11.9	7.7	5.6	にぶい橙		ナデ、オサエ	—		201715000406
251	第 93 図	SK155	弥生土器	器台	—	[11.7]	(9.9)	橙赤	橙	ハケメ、ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を含む金雲母	201715000407
252	第 94 図	SK160	弥生土器	甕	(30.1)	—	24.0	橙	褐灰	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を含む	201715000411
253	第 94 図	SK160	弥生土器	甕	(23.4)	8.0	28.4	にぶい橙	黄灰	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000409
254	第 94 図	SK160	弥生土器	壺	—	6.0	23.3	にぶい橙	にぶい褐	ミガキ、ナデ	工具ナデ、ナデ	砂粒を少量含む	201715000413
255	第 95 図	SK160	弥生土器	甕	18.5	11.0	19.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ミガキ	ナデ	細砂粒を含む角閃石	201715000410
256	第 95 図	SK160	弥生土器	甕	11.6	4.3	9.0	灰黄褐	にぶい褐	ミガキ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000418
257	第 95 図	SK160	弥生土器	甕	—	7.6	10.8	橙	黒	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000412
258	第 95 図	SK160	弥生土器	壷	(21.4)	—	4.7	にぶい橙	にぶい黄褐	ナデ	ミガキ	砂粒を含む金雲母	201715000451
259	第 95 図	SK160	弥生土器	甕	—	11.6	10.3	にぶい黄橙	橙	ナデ工具、ナデ	ナデ工具、ナデ	砂粒を含む	201715000417
260	第 95 図	SK160	弥生土器	器台	8.7	9.7	13.7	橙	橙	ハケメ、ナデ	ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む	201715000416
261	第 95 図	SK160	弥生土器	器台	8.4	9.2	13.6	橙	橙	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む	201715000414
262	第 95 図	SK160	弥生土器	器台	8.0	9.1	13.9	橙	橙	ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を含む	201715000415
263	第 95 図	SK161	弥生土器	鉢	(12.2)	(5.9)	5.1	橙	橙	ナデ工具、ナデ	ナデ工具、ナデ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000421
264	第 95 図	SK161	弥生土器	高杯	—	—	3.2	橙	橙	ナデ	ナデ	微砂粒を多量に含む角閃石	201715000420
265	第 95 図	SK164	弥生土器	甕	—	—	3.4	浅黄橙	褐灰	ナデ	ナデ	微砂粒を多量に含む金雲母	201715000422
266	第 95 図	SK164	弥生土器	甕	—	—	7.5	にぶい橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	細砂粒を少量含む角閃石	201715000423
267	第 95 図	SK164	弥生土器	高杯	(25.2)	—	4.3	橙	橙	ナデ、ミガキ、ハケメ	ナデ、ミガキ、ハケメ	赤色粒子を少量含む	201715000425
268	第 95 図	SK170	弥生土器	甕	(20.6)	—	(9.8)	にぶい赤褐	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を含む黒雲母	201715000435
269	第 95 図	SK152	弥生土器	甕	(22.2)	—	3.2	橙	橙	ナデ	ナデ工具、ナデ	精良	201715000387
270	第 95 図	SK170	弥生土器	甕	(27.5)	—	4.8	灰白	灰白	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	赤色粒子を多量に含む	201715000434
271	第 95 図	SK170	弥生土器	甕	—	—	13.1	灰褐	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000433
272	第 95 図	SK152	弥生土器	甕	—	—	7.6	にぶい黄橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ	砂粒を少量含む	201715000388
273	第 95 図	SK170	弥生土器	甕	—	—	2.8	浅黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000440
274	第 95 図	SK152	弥生土器	甕	—	8.3	5.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ、未調整	ナデ	細砂粒を少量含む	201715000389
275	第 95 図	SK170	弥生土器	壷	—	10.2	5.3	にぶい黄橙	にぶい褐	ハケメ、未調整	ナデ工具、ナデ	細砂粒を含む	201715000442
276	第 95 図	SK170	弥生土器	甕	—	8.8	7.5	橙	橙	ハケメ、工具ナデ	ナデ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000438
277	第 95 図	SK170	弥生土器	甕	—	8.4	8.1	灰褐	灰黄褐	ハケメ、工具ナデ	ナデ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000439
278	第 95 図	SK170	弥生土器	甕	—	(9.8)	9.4	橙	橙	ハケメ、工具ナデ	工具ナデ	細砂粒を含む角閃石	201715000437
279	第 96 図	SK170	弥生土器	甕	(29.8)	—	22.9	灰褐	浅黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ、オサエ、工具ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000436
280	第 97 図	SK170	弥生土器	甕	(31.8)	7.3	35.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	細砂粒を含む角閃石	201715000432
281	第 97 図	SK152	弥生土器	壷	—	(4.6)	2.6	黒褐	黒褐	ハケメ、ミガキ、工具ナデ	ナデ、ミガキ	砂粒を少量含む	201715000390
282	第 97 図	SK170	弥生土器	壷	—	9.8	7.3	橙	橙	ハケメ工具、ナデ	工具ナデ、ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000441
283	第 97 図	SK170	弥生土器	鉢	(7.6)	5.2	8.4	橙	橙	ナデ工具、ナデ	ナデ、オサエ	精良	201715000449
284	第 97 図	SK170	弥生土器	鉢	(17.4)	(6.2)	8.5	浅黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケメ、オサエ、工具ナデ	ナデ、オサエ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000448
285	第 97 図	SK152	弥生土器	鉢	—	—	5.2	橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	精良	201715000391
286	第 97 図	SK170	弥生土器	蓋	5.7	—	7.4	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	工具ナデ、ナデ	細砂粒を多量に含む金雲母、角閃石	201715000447
287	第 97 図	SK170	弥生土器	高杯	23.3	9.3	18.8	橙	橙	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	精良内外面に丹塗り	201715000444
288	第 97 図	SK170	弥生土器	高杯	—	—	15.5	橙	橙	ナデ	ナデ	赤色粒子を少量含む	201715000446
289	第 97 図	SK170	弥生土器	高杯	—	—	16.9	橙	橙	ナデ	ナデ	赤色粒子を少量含む外面に丹塗り	201715000445
290	第 97 図	SK170	弥生土器	器台	11.3	13.3	17.7	にぶい橙	浅黄橙	ナデ、ハケメ	ハケメ、ナデ	細砂粒を多量に含む角閃石	201715000443
291	第 97 図	SK152	弥生土器	器台	—	(4.4)	4.7	灰黄褐	灰黄褐	ハケメ、ナデ	工具ナデ、ナデ	細砂粒を多量に含む	201715000392
292	第 97 図	SK152	土製品	投弾	3.7	1.8	1.7	明赤褐		ナデ	—	重量9.80g	201715000396
293	第 97 図	SK180	弥生土器	甕	(29.2)	—	7.7	浅黄橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ	微砂粒を多量に含む金雲母	201715000452
294	第 97 図	SK180	弥生土器	甕	(20.4)	—	3.6	橙	橙	ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000453
295	第 97 図	SK180	弥生土器	壷	—	—	4.1	灰黄褐	灰黄褐	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	砂粒を少量含む	201715000455
296	第 97 図	SK180	弥生土器	甕	—	6.4	9.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ、ナデ	ナデ、オサエ	砂粒を多量に含む	201715000454
297	第 97 図	SK181	弥生土器	甕	(26.2)	—	13.0	にぶい橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む	201715000459
298	第 97 図	SK181	弥生土器	甕	—	—	3.6	橙	にぶい橙	ナデ工具、ナデ	ナデ、ハケメ	砂粒を微量含む	201715000458
299	第 97 図	SK181	弥生土器	甕	—	6.6	4.8	橙	橙～灰褐	ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000460
300	第 97 図	SX200	弥生土器	甕	(22.8)	—	4.3	にぶい橙	橙	ナデ	ナデ工具、ナデ	細砂粒を含む金雲母	201715000471

第12表　出土遺物観察表⑤

遺物No.	図番号	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整		胎土	登録番号
					口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	外面	内面		
301	第 97 図	SX200	弥生土器	甕	—	—	3.6	橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	工具ナデ	細砂粒を多量に含む	201715000470
302	第 97 図	SX200	弥生土器	壺	(16.2)	—	2.3	灰褐	橙	ミガキ	ミガキ	砂粒を少量含む	201715000472
303	第 98 図	SK210	弥生土器	甕	(28.0)	—	3.7	橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	細砂粒を少量含む角閃石	201715000481
304	第 98 図	SK210	弥生土器	甕	(32.2)	—	5.7	灰褐	浅黄橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を少量含む角閃石	201715000480
305	第 98 図	SK210	弥生土器	甕	—	—	6.6	浅黄橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	微砂粒を多量に含む角閃石	201715000479
306	第 98 図	SK210	弥生土器	壺	—	7.6	7.1	橙	橙	ハケメ、未調整	ナデ	赤色粒子を含む	201715000484
307	第 98 図	SK210	弥生土器	壺	—	—	5.4	にぶい橙	橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000483
308	第 98 図	SK210	弥生土器	壺	(32.4)	—	17.0	橙	にぶい橙	ナデ、ハケメ	ナデ工具、ナデ	砂粒を多量に含む角閃石	201715000482
309	第 98 図	SK210	弥生土器	高坏	(19.0)	—	2.8	橙	橙	ナデ工具、ナデ	ナデ工具、ナデ	赤色粒子を少量含む	201715000486
310	第 98 図	SK120	弥生土器	甕	(21.0)	—	8.0	浅黄橙	にぶい褐	ナデ、ハケメ	ナデ	細砂粒を多量に含む	201715000330
311	第 98 図	SK25	弥生土器	甕	(25.6)	—	3.9	黒褐	灰黄褐	ナデ	ナデ	細砂粒を少量含む	201715000010
312	第 98 図	SP106	弥生土器	甕	(14.0)	—	11.4	浅黄橙	浅黄橙	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	砂粒を少量含む	201715000331
313	第 99 図	検出面	土製品	不明	2.8	1.0	0.9	明赤褐		ナデ	—	重量2.9g	201715000279
314	第 99 図	検出面	土製品	粘土玉	1.1	1.1	1.1	にぶい橙		ナデ		重量1.3g	201715000395
315	第 99 図	検出面	石製品	石鏃	1.4	(0.9)	0.3	黒				黒曜石製重量0.2g	201715000462
316	第 99 図	SK100	石製品	石鏃	(1.7)	(1.3)	0.4	黒				黒曜石製重量0.5g	201715000297
317	第 99 図	SK152	石製品	石鏃	(1.8)	1.7	0.3	黒				黒曜石製重量0.7g	201715000397
318	第 99 図	SI130	石製品	石鏃	2.4	(1.8)	0.4	黒				黒曜石製重量1g	201715000353
319	第 99 図	SP53	石製品	石鏃	2.5	2.2	0.2	黒				黒曜石製重量1.4g	201715000220
320	第 99 図	検出面	石製品	石鏃	2.9	1.4	0.3	黒				黒曜石製重量1.1g	201715000463
321	第 99 図	検出面	石製品	石鏃未製品	2.1	1.8	0.5	暗灰				安山岩製重量1.5g	201715000464
322	第 99 図	SK50	石製品	石鏃未製品	2.6	2.0	0.4	暗灰				安山岩製重量2.0g	201715000270
323	第 99 図	C区サブトレ	石製品	石鏃未製品	2.5	2.2	0.6	黒				黒曜石製重量2.4g	201715000610
324	第 99 図	SD110	石製品	石鏃	3.3	1.9	0.6	暗灰				安山岩製重量3.5g	201715000322
325	第 99 図	SK180	石製品	石鏃	3.9	(2.4)	0.5	暗灰				安山岩製重量4.7g	201715000456
326	第 99 図	SK50	石製品	石錐未製品	2.1	1.7	0.2	暗灰				安山岩製重量1g	201715000271
327	第 99 図	SP74	石製品	石錐	2.4	1.9	0.5	暗灰				安山岩製重量1.7g	201715000251
328	第 99 図	SK199	石製品	スクレイパー	2.5	1.5	0.7	黒				黒曜石製重量1.2g	201715000469
329	第 99 図	東トレンチ	石製品	スクレイパー	(2.5)	2.4	0.5	暗灰				黒曜石製重量3.6g	201715000466
330	第 99 図	SK50	石製品	スクレイパー	4.5	2.7	1.1	暗灰				安山岩製重量11g	201715000269
331	第 99 図	SK45	石製品	スクレイパー	7.0	5.6	2.5	暗灰				安山岩製重量89.7g	201715000051
332	第 99 図	SI1	石製品	スクレイパー	8.0	3.0	1.7	暗灰				安山岩製重量39.3g	201715000006
333	第 99 図	検出面	石製品	磨製石斧	7.6	5.7	2.9	灰				重量186g	201715000461
334	第 99 図	SK35	石製品	磨製石斧	(8.5)	6.7	4.6	褐灰				重量426g	201715000025
335	第 99 図	SK60	石器	石斧	(14.1)	(3.4)	3.4	黒				重量252g	201715000240
336	第 99 図	SK152	石製品	錘車未製	(5.6)	5.6	0.5	灰黄				孔部未穿孔　片岩製重量24.9g	201715000393
337	第 99 図	SI130	石製品	叩石	(3.7)	(3.9)	2.4	褐灰				重量36g	201715000350
338	第 99 図	SK50	石製品	叩石	4.2	3.0	2.2	灰黄褐				重量40g	201715000275
339	第 99 図	SI130	石製品	叩石	(6.4)	5.2	2.7	黄灰				重量98g	201715000349
340	第 99 図	検出面	石製品	磨石	(5.5)	(2.8)	(2.8)	にぶい黄橙				重量98g	201715000281
341	第 99 図	SK50	石製品	磨石	(8.2)	(6.4)	(2.4)	褐灰				重量146g	201715000218
342	第 99 図	SK40	石製品	磨石	(5.7)	(4.7)	(1.8)	黄灰				重量58g	201715000043
343	第 99 図	SX200	石製品	磨石	(6.5)	(6.2)	(2.9)	灰黄褐				重量104g	201715000478
344	第100図	SP220	石製品	磨石	(7.8)	(7.3)	8.6	黄灰				重量674g	201715000494
345	第100図	SP75	石製品	凹石	(8.7)	(8.6)	(2.8)	にぶい赤褐				重量214g	201715000252
346	第100図	SK50	石製品	凹石	(9.4)	8.8	5.5	黄灰				重量656g	201715000203
347	第100図	SP220	石製品	凹石	9.5	7.6	5.0	灰黄褐				重量578g	201715000495
348	第100図	SK50	石製品	凹石	(8.5)	8.3	4.3	褐灰				重量532g	201715000263
349	第100図	東トレンチ	石製品	凹石	8.4	7.7	5.4	灰				重量560g	201715000465
350	第100図	SI240	石製品	台石	(12.4)	(12.9)	(12.0)	灰黄褐				重量1965g	201715000498
351	第100図	SK50	石製品	凹石	20.1	16.4	9.7	灰				重量○○g	201715000204
352	第101図	SK151	石製品	板石	(5.4)	(4.2)	(3.1)	灰白				重量82g	201715000386
353	第101図	SK50	石製品	台石	(7.7)	(5.1)	(5.1)	灰				重量158g	201715000268
354	第101図	SX200	石製品	砥石	(3.4)	(2.1)	(1.0)	灰黄褐				砂岩製重量1.0g	201715000473
355	第101図	SK145	石製品	砥石	5.4	4.2	3.1	灰白				凝灰岩製重量82g	201715000374
356	第101図	SK50	石製品	砥石	(6.1)	(4.5)	2.2	にぶい褐				砂岩製重量74g	201715000261
357	第101図	SP113	石製品	砥石	7.8	4.1	1.2	にぶい褐				砂岩製重量68g	201715000329
358	第101図	SP99	石製品	砥石	(5.9)	(2.7)	1.8	灰褐				砂岩製重量46g	201715000283
359	第101図	SK50	石製品	不明	7.8	(3.2)	1.9	灰白				重量68g	201715000262
360	第101図	SK65	石製品	軽石製品	(5.3)	(2.9)	2.8	灰褐				重量11.8g	201715000243

４．小　結

調査地全体で弥生時代前期末から中期にかけての遺構が広がり、弥生時代後期の土坑や古墳時代の溝が東部に位置する。竪穴建物は北区全体で確認され、南区で検出した土坑も竪穴建物の可能性もあり、弥生時代前期末から中期初頭の集落の広がりが明らかになった。ＳＫ50は貝殻の廃棄土坑で、当時の食生活や環境を知ることができる良好な資料である。第７次調査と同様に動物骨については来年度以降報告する。

（小川原）

第102図　北区全景（北上空から）

第103図　北区西部掘削状況（北上空から）

第104図　北区東部掘削状況（北上空から）

第105図　南区全景（北から）

第106図　調査地上空から南西方向を望む（北東上空から）

第107図　ＳＩ130、ＳＫ155、160掘削状況

第108図　ＳＩ１４０検出状況　（北東から）

第109図　ＳＩ215掘削状況（北から）

第110図　ＳＩ215、230、ＳＸ250（南東から）

第111図　ＳＤ80掘削状況（北東から）

第112図　ＳＤ80土層堆積状況（南西から）

第113図　ＳＤ110土層（南西から）

第114図　ＳＫ１完掘状況（南東から）

第115図　ＳＫ３完掘状況（北西から）

第116図　ＳＫ40完掘状況（南西から）

第117図　ＳＫ45完掘状況　（南東から）

第118図　ＳＫ50掘削状況①（西から）

第119図　ＳＫ50掘削状況②（南から）

第120図　ＳＫ50掘削状況③（東から）

第121図　ＳＫ50東部土層（北東から）

第122図　ＳＫ50西部土層（北東から）

第123図　ＳＫ55掘削状況（北西から）

第124図　ＳＫ65掘削状況（北東から）

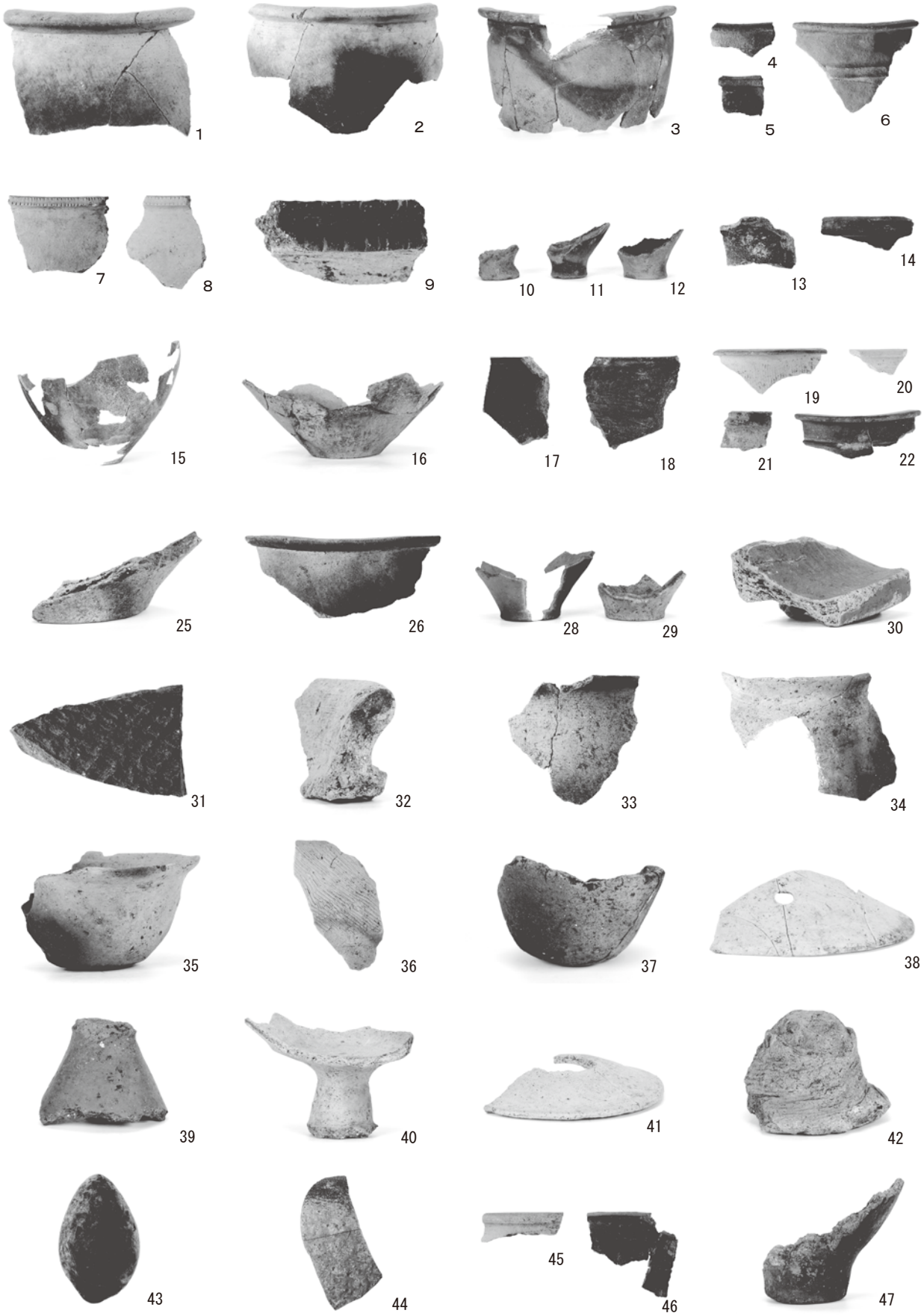
第125図　ＳＫ105掘削状況（北東から）

第126図　ＳＫ155・160遺物出土状況（北から）

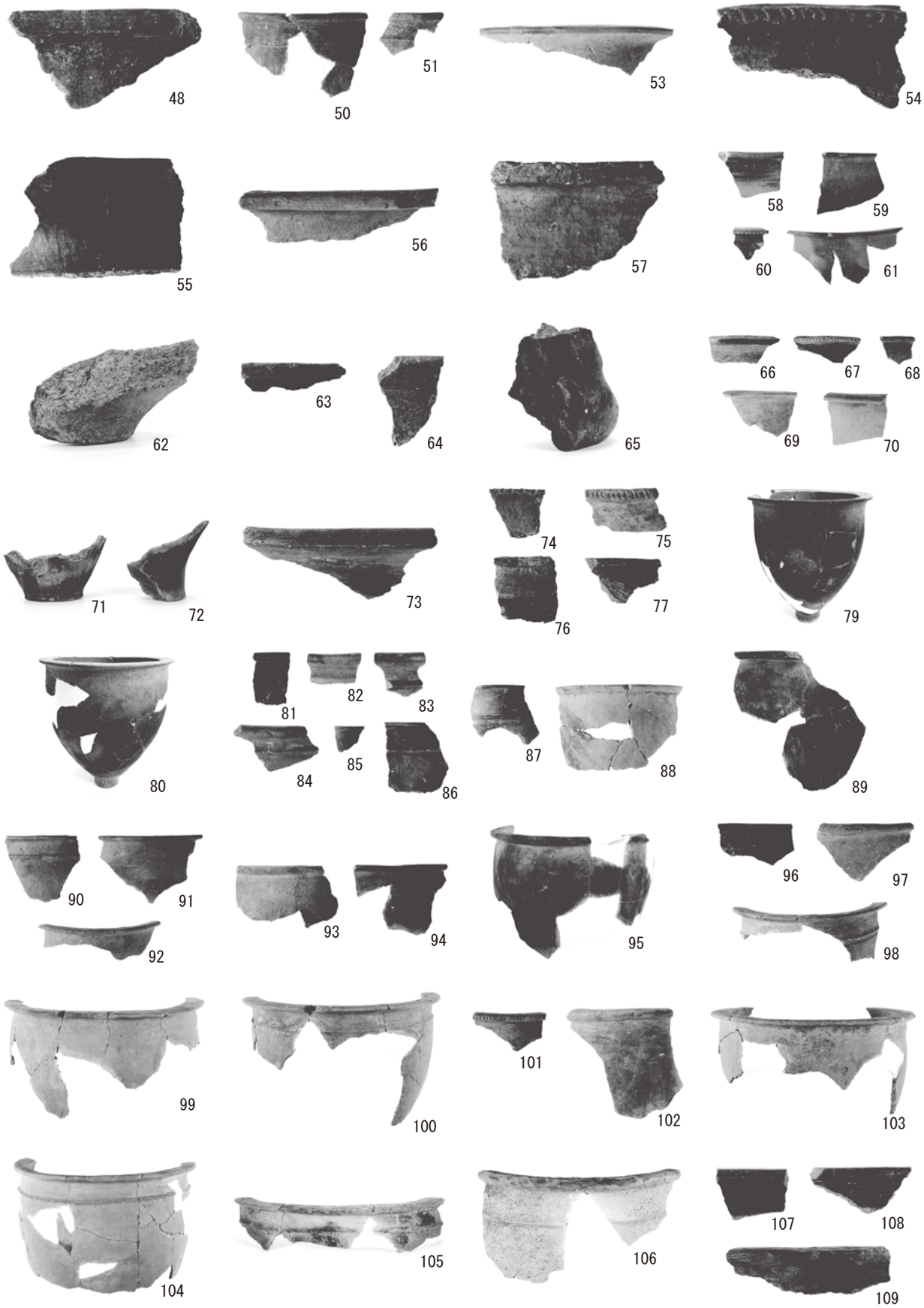
第127図　ＳＫ170遺物出土状況（北西から）

第128図　ＳＫ210完掘状況（南西から）

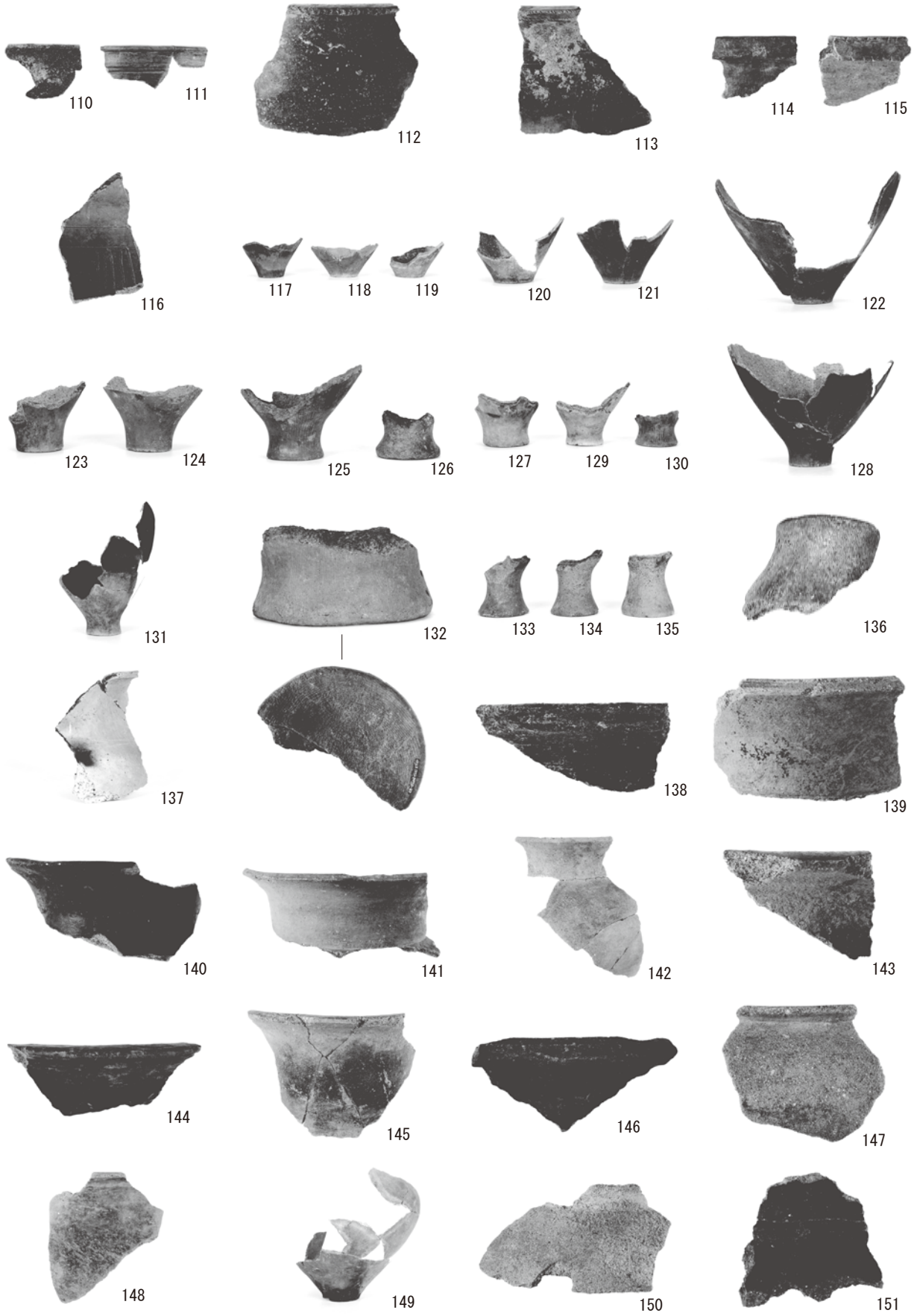
第129図　ＳＸ255検出状況（南西から）



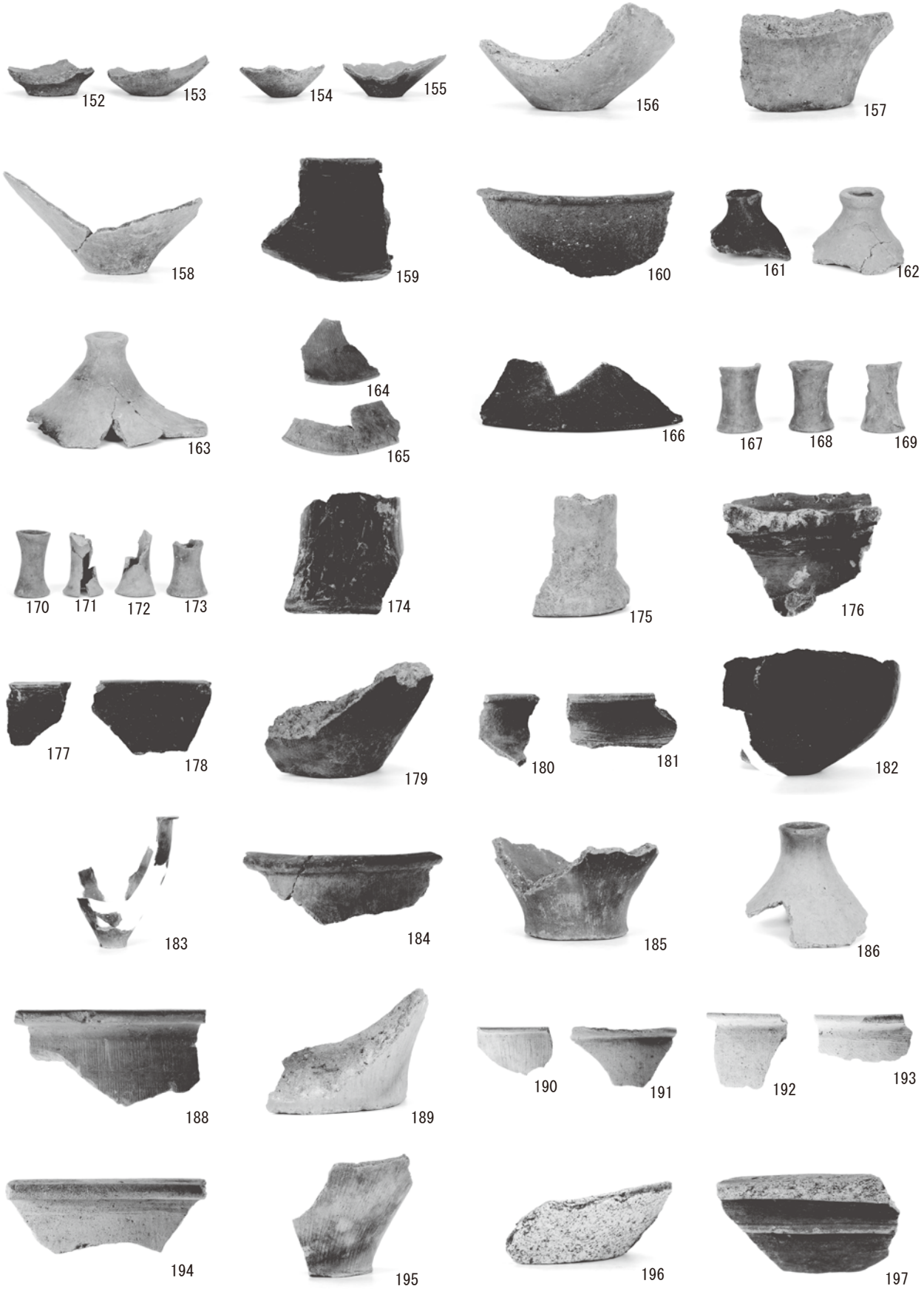
第130図　出土遺物写真①



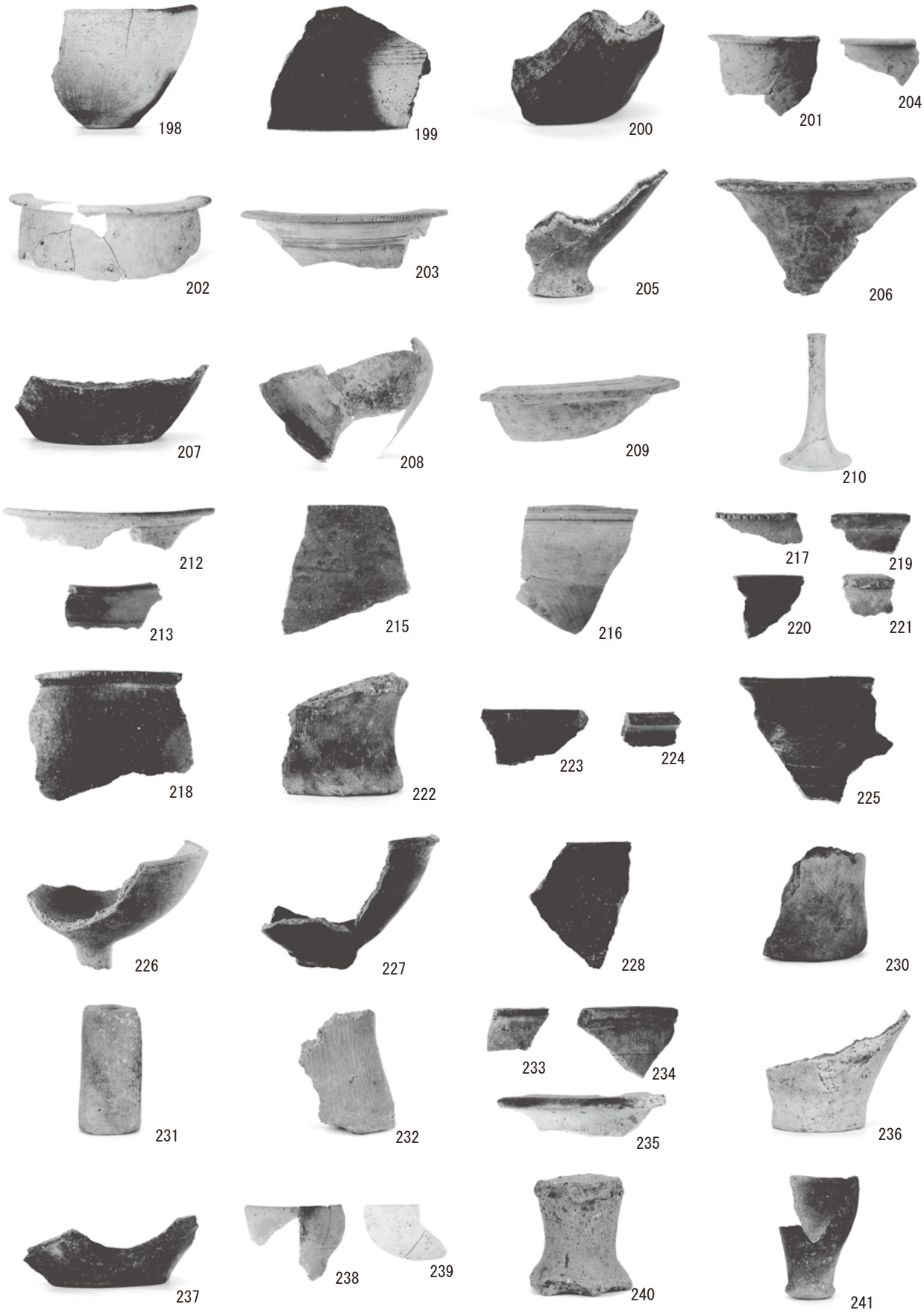
第131図　出土遺物写真②



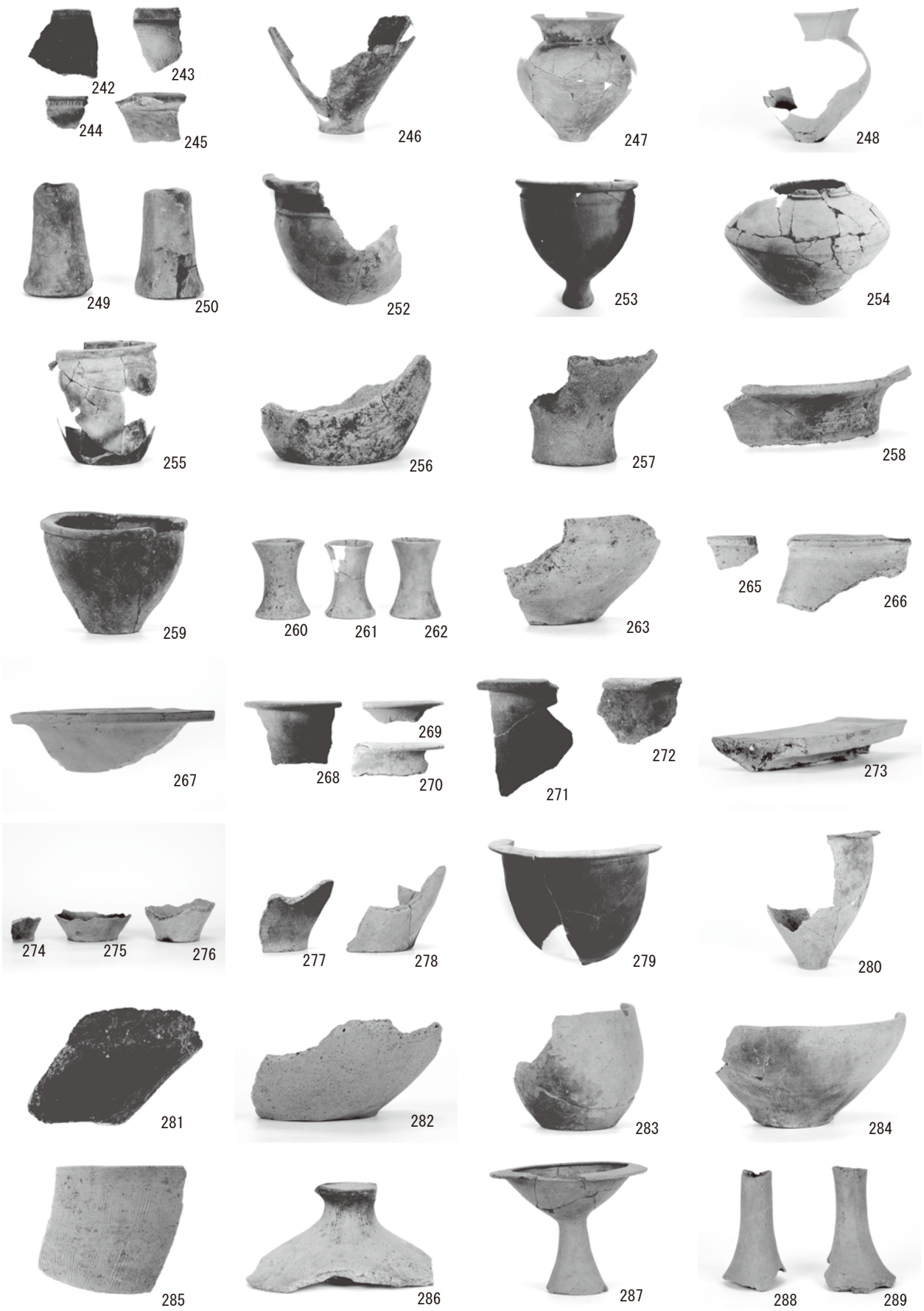
第132図　出土遺物写真③



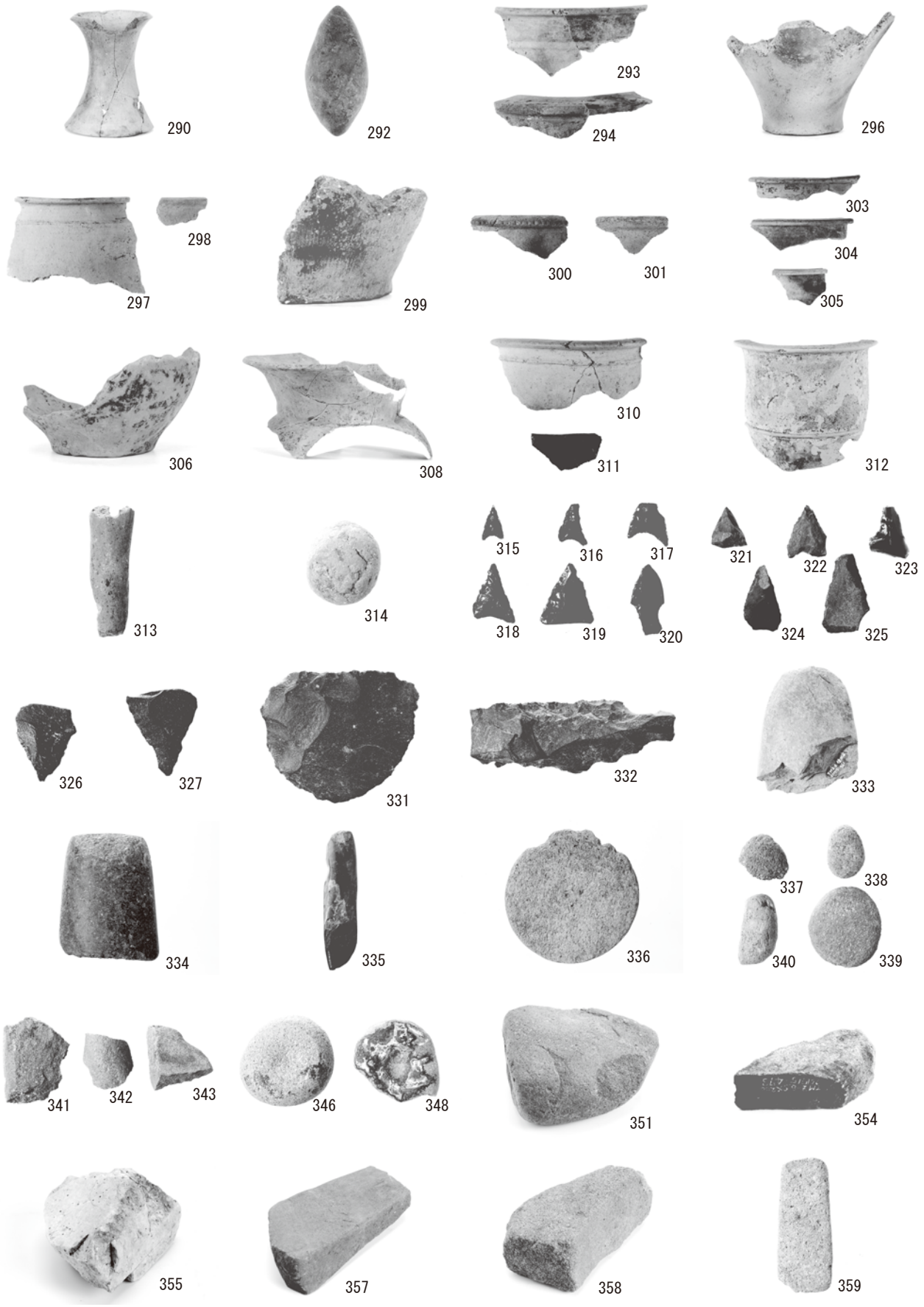
第133図　出土遺物写真④



第134図　出土遺物写真⑤



第135図　出土遺物写真⑥



第136図　出土遺物写真⑦

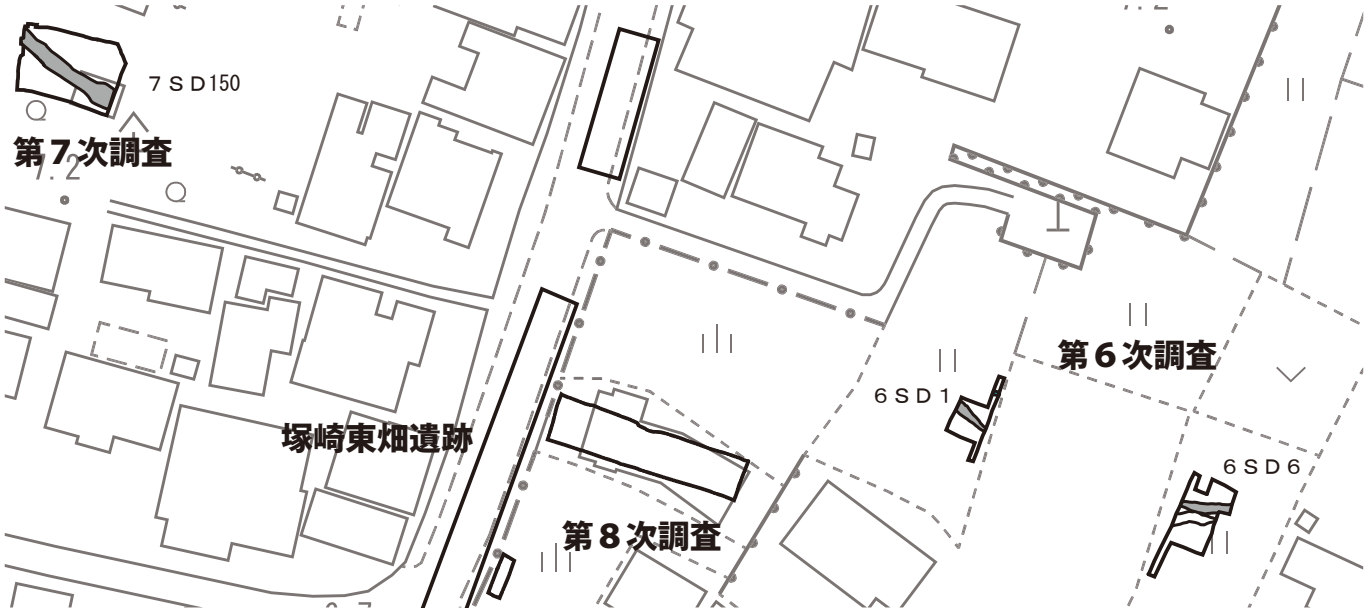
Ⅵ. 総　括

（１）第６・７次調査検出溝について

第６次調査では弥生時代前期の６ＳＤ１、弥生時代前期から中期にかけての６ＳＤ６を、第７次調査では弥生時代前期末から中期初頭の７ＳＤ150を検出した。いずれも溝の断面は逆三角形を呈し、大型の溝であることから環濠である可能性がある。限られた調査区内での検出であったため、それぞれの溝の関係は不明である。しかし、７ＳＤ150は大きな曲線を描かないため、第６次調査地点まで南東側へのび、６ＳＤ１または６ＳＤ６へと続く可能性もある。その場合は第８次調査地点、塚崎東畑遺跡で前期から中期にかけての溝が出土していないため、第８次調査地の北側、塚崎東畑遺跡期の調査区と調査区の間を７ＳＤの延長部が通っていると考えられる。６ＳＤ１の底部の標高は4.3m、７ＳＤ150は西から東に向かって標高が下がり、底部の標高が4.9～5.3mを測り、第６次調査の西側の谷に向かって緩やかに標高が下がることがわかる。

（２）出土遺物について

第７・８次調査では擬朝鮮系無文土器とされる黒色磨研土器が出土している。筑紫平野の遺跡を中心に出土しており、近隣では本市城島町の久保遺跡の井戸などからまとまって出土している。出土した黒色磨研土器は壷や鉢である。黒色磨研土器の影響のためか丁寧に磨いた甕や器台、支脚が出土している。全体的に土器の保存状態は良く、焼成が良く硬質な土器も多い。また２次被熱によって赤色化し、白色の物質が付着している甕や壷が出土している。大川市の下林西田遺跡では製塩に使用した可能性が指摘されており、今回出土した遺物も製塩に使用された可能性がある。



第137図　６ＳＤ１・６、７ＳＤ150模式図（1/1,000）

報　告　書　抄　録

ふりがな	たかみずまいせき　―だい６～８じはっくつちょうさほうこく―
書　　名	高三潴遺跡　―第６～８次発掘調査報告―
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第406集
編著者名	小川原　励(編)、江頭　俊介
編集機関	久留米市　市民文化部　文化財保護課
所　在　地	〒830-8520　福岡県久留米市城南町15-３　℡ 0942-30-9225　FAX 0942-30-9714 E-mail：bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	平成31（2019）年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
たかみずまいせき 高三潴遺跡 だい　じちょうさ 第６次調査	ふくおかけんくるめし 福岡県久留米市 みずままちたかみずま 三潴町高三潴63	40203	690026 〃	33° 15′ 51″	130° 27′ 29″	20161024 ～ 20161104	100㎡	確認調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高三潴遺跡 第６次調査	集落	弥生	溝　２条 柱穴　２基 流路　１条	弥生土器、石器、木器動物遺存体、植物遺存体	弥生時代前期の断面Ｖ字溝を2条検出した。

要　　約

高三潴遺跡は、広川の下流域の左岸に位置する標高5mの自然堤防上に立地する。弥生時代の集落や墓地が周辺で確認されている。これまでの調査や採集によって小銅鐸や銅剣なども発見されており、前期から後期にかけてこの自然堤防上に地域の中核となるような有力な集落があったことが想定されている。今回の調査で前期の環濠と見られる溝が検出された。

土木工事の届出日	平成28年９月21日	遺物の発見通知日	平成28年11月11日 (28文財第1173号)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
たかみずまいせき 高三潴遺跡 だい　じちょうさ 第７次調査	ふくおかけんくるめし 福岡県久留米市 みずままちたかみずま 三潴町高三潴161－５	40203	690026 〃	33° 15′ 54″	130° 27′ 24″	20170417 ～ 20170615	118㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高三潴遺跡 第７次調査	集落	弥生時代	竪穴建物　２棟 溝　３条 土坑　23基 不明遺構　２基	弥生土器、須恵器、石製品、土製品、動物遺存体	弥生時代前期から中期の竪穴建物や弥生時代前期末から中期初頭の断面Ｖ字状の溝を検出した。

要　　約

調査地点は江戸時代に細形銅剣が出土したとされる塚崎御廟塚貝塚の南30ｍの地点に位置する。標高６ｍ程度で高三潴遺跡内でも標高の高い地点である。弥生時代前期から中期の竪穴建物や弥生時代前期末から中期初頭の断面Ｖ字状の溝など多数の遺構を検出した。埋土に貝殻を含んだ遺構があり、動物骨が多数出土している。また擬朝鮮系無文土器の黒色磨研土器も出土している。

土木工事の届出日	平成29年４月３日	遺物の発見通知日	平成29年６月22日 (29文財第451号)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
たかみずまいせき 高三潴遺跡 だい　じちょうさ 第８次調査	ふくおかけんくるめし 福岡県久留米市 たかみずま 高三潴72－1	40203	690026 〃	33° 15′ 51″	130° 27′ 27″	20171010 ～ 20171205	158㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高三潴遺跡 第８次調査	集落	弥生 古墳	竪穴建物　４棟 土坑　26基 不明遺構　２基 溝　２条	弥生土器、土師器、須恵器、石製品、土製品、動物遺存体	弥生時代前期から中期の竪穴建物や貝殻を大量に廃棄した土坑を検出した。

要　約

調査地は第６次調査、第７次調査の中間付近に位置し、標高７m程度で高三潴遺跡内でも標高の高い地点に立地する。弥生時代前期末から中期の遺構が主体となり、調査区全域に竪穴建物が広がる。弥生時代中期の大型土坑の埋土には多量の貝殻が含まれる。第７次調査と同様に、擬朝鮮系無文土器や動物骨が出土している。

土木工事の届出日	平成29年10月5日	遺物の発見通知日	平成29年12月12日 (29文財第1285号)

高　三　潴　遺　跡

－第６～８次発掘調査報告－

久留米市文化財調査報告書 第 406 集
平成 31 年（2019）３月 31 日　発行
発　行：久 留 米 市 教 育 委 員 会
編　集：久留米市 市民文化部 文化財保護課
印　刷：中村印刷有限会社
久留米市梅満町972